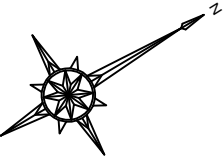




極楽橋ポンプ場



入 り 江

誘導員

搬入・搬出経路

海岸線

駐車場、仮設・資材置き場

駐車場、仮設・資材置き場

沈砂池敷

凡 例	
	今回範囲

原図：A3

極楽橋ポンプ場全体配置図

工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	全体配置図・案内図		
縮 尺	1：700	図面番号	A-1
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

特記仕様書		章 項 目		特記事項		章 項 目		特記事項					
1. 本特記仕様書は、本工事における建築関連工事に適用する。		①章 一般共通事項		6.9 化学物質の濃度測定		③章 防水改修工事		1.4 改修工法の種類及び工程					
2. 本特記仕様書における採用事項								◎シーリング改修工法の種類					
①. 項目欄は番号等に ○印を附したものを適用する。								施工部位		工法の種類	備 考		
②. 項目欄に ○印を附し特記事項欄に○印を附していない場合は標準仕様書による。				8.1 完成時の提出図書				・外壁コンクリート打継目地		シーリング 充填工法			
③. 特記事項は○印を附したものを適用する。但し○印の付かない場合は※印の附した事項を採用する。								・外壁コンクリート誘発目地		シーリング 再充填工法			
○印と※印を附した場合は共に適用する。								・外壁開口部建具廻り目地		シーリング 再充填工法			
3. 本特記仕様書に記載なき事項については下記による。				8.2 完成図									
○国土交通省大臣官房長官官繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成28年版								2. 既存防水層の処理					
・国土交通省大臣官房長官官繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成28年版								2重ドレンの設置： ・行わない ・行う（施工箇所）					
・国土交通省大臣官房長官官繕部監修 建築物解体工事共通仕様書 平成24年版								補修箇所の形状、長さ、数量等： ・下表による ・図示 ・					
・「改正建築基準法に対応した建築物のシックハウス対策マニュアル」（編集：国土交通省住宅局建築指導課他）								施工部位		形状・長さ・数量等	備 考		
4. その他事項				8.3 保全に関する資料				・脆弱部の補修		m			
・各項目欄の番号(例：1.4 ○○○)は標準仕様書の番号（章番号を除く）に照合する								・既存目地の欠損部補修		m			
・各項目欄の番号(例：1.* ○○○)は標準仕様書の番号（章番号を除く）に該当しない項目とする								・欠損部の補修		m			
・各項目欄の番号(例：●公○章***、公***、●公***）は公共建築工事標準仕様書の各項目に相当する								・防水層表面の仕上げ塗装の除去		m			
章 項 目		特記事項						既存防水層表面の仕上げ塗装の除去： ・行わない ・行う					
①章 一般共通事項		1.4 工事実績情報登録		登録： ○適用 ・不適用				設備架台等防水層取り合い部の処置： ・協議による ・図示 ・					
		1.* 建築基準法の風圧		基準風速： ・V ₀ ＝3.4 (m/s) 平成12年建告第1454号第2		②章 仮設工事		立上り防水層の処置：					
		○積雪に関する規定		地表面粗度区分： ・Ⅰ ・Ⅱ ○Ⅲ ・Ⅳ ・		2.1 足場その他		・撤去する ・撤去しない【補修方法： ・標準仕様書3.2.6(d)による） ・図示】					
				積雪区分： ・区域=(32)／α=0.0009／β=0.00／γ=0.21／R=0		内部足場の種別： ・脚立 ・足場板 ・ローリングタワ ・枠組棚足場							
				平成12年建告第1445号 別表		外部足場の設置、種別： ・設置しない ○設置する【○枠組足場 ・単管足場 ・】							
		3.3 電気保安技術者		技術者の適用： ・適用 ○不適要		保護シートの設置： ・設置する ・設置しない							
		3.5 施工条件		施工順序等の制約： ・無し ・有り【・現場説明書による ・図示 ・】		材料等の運搬方法： ・A種 ・B種 ・C種 ○D種 ・E種							
				工事車両の駐車場所： ○図示 ・現場説明書による ・		既存部分養生材料： ○ビニールシート ・その他：施工者にて適材適所を選択する		3.2 材 料		3. アスファルト防水			
				資材、機材置場： ○図示 ・現場説明書による ・		既存家具養生材料： ・ビニールシート ・その他：施工者にて適材適所を選択する				改質アスファルトルーフィングシートの種別・厚さ：			
				発生土仮置場： ・図示 ・現場説明書による ・		既存ブラインド、カーテンの養生方法：				※標準仕様書3.3.2(a)(6)による ・メーカ仕様による			
				その他の施工条件： ・図示 ・現場説明書による ・		・指定場所に保管し再設置 ・指定場所に保管し清掃の上再設置 ・				部分粘着層付改質アスファルトルーフィングの種別・厚さ：			
		3.6 施工条件の明記		・施工現場において他の工事等と競合、輻輳する場合には、必ず本市監旨指示を受け他工事等との協調を図り施工すること。		仮設間仕切り： ・無し ○有り				※標準仕様書3.3.2(c)(7)による ・メーカ仕様による			
				・施設としての運転に支障なきよう十分考慮し、既存施設の機能をできるだけ損なわないように留意し施工すること。		設置箇所： ○図示 ・				保護防水断熱工法の断熱材の材質： ※標準仕様書3.3.2(h)による ・メーカ仕様による			
				・本ポンプ場の維持管理者と協調を図り施工すること。		種 別： ・A種 ・B種 ・C種				保護防水断熱工法の断熱材の厚さ： ・図示 ・			
				・工事期間中、近隣関係者等へ危害を与えないよう注意し、かつ周道路等に資材を落下させたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。		仮設扉： ・不要 ・必要【設置箇所： ・図示 ・任意の場所 ・】				露出防水断熱工法の断熱材の材質： ※標準仕様書3.3.2(i)による ・メーカ仕様による			
				・特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規制法に基づき関係機関への届出・打合せの上、作業に着手する事とし又、周辺住民からの苦情があった時は、工事を一時中断し、誠意をもって地元調整を行い、工事の再開は市監督員の承認を得てから行うこと。		仮設扉の種別： ・鋼製 ・木製 ・図示 ・				露出防水断熱工法の断熱材の厚さ： ・図示 ・			
				・発注者への引渡発生材；		監督員事務所の設置： ・必要 ○不要				絶縁シートの材料の指定： ※標準仕様書3.3.2(j)による ・メーカ仕様による			
				・特別管理産業廃棄物；		◎監督員事務所の規模、設備、備品等				保護コンクリートの設計基準強度： ※18N/mm2 ・21N/mm2 ・			
				○リサイクル発生材；コンクリート		・（ ）号（会議室（ ）m2 を含む）				保護コンクリートのスランプ： ※18cm ・15cm ・			
				ひ素・カドミウム含有せっこうボードの処理：		・（ ）号に会議室（ ）m2 を加えた規模				防水立上がり部の保護： ・湿式 ・乾式 ・			
				・製造業者回収委託処理 ・管理型最終処分場埋立処理		・専用電話 ・兼用FAX ・冷暖房機 ・机 ・椅子 ・書棚 ・検査用具				立上り部の保護レンガの材料： ※標準仕様書3.3.2(o)による ・			
				標準仕様書1.3.8(b)(5)(i)及び(ii)以外のせっこうボードの処理：		・その他；				◎屋根保護防水			
				・管理型最終処分場埋立処理 ・再資源化		受注者事務所の設置： ・必要 ○不要				防水立上りの保護コンクリートの適用： ・適用しない ・適用する			
				P C B含有シーリングの調査方法： ・図示 ・		◎受注者事務所の規模、設備、備品等				防水立上りの保護コンクリートの工法： ・図示 ・			
				P C B含有シーリングの撤去方法： ・図示 ・		・（ ）号（会議室（ ）m2 を含む）				施工部位		工法／種別	備 考
				・仮設材以外の全ての建築材料（仕上材、下地材、副資材）のホルムアルデヒド放散量はJ I S等の材料規格において放散量が規定されている場合は原則としてF☆☆☆☆とする。但し使用予定材料にF☆☆☆☆が存在しない場合は監督員と協議のうえ決定する。		・（ ）号に会議室（ ）m2 を加えた規模				・PHR階屋上		・PIB／・B-1 ※B-2 ・B-3	
				調査範囲： ・図示 ・		・専用電話 ・兼用FAX ・冷暖房機 ・机 ・椅子 ・書棚 ・検査用具				・R階屋上		・PIB1／・BI-1 ※BI-2 ・BI-3	断熱材：t=
		5.2施工数量調査		調査方法： ・非破壊検査 ・破壊検査 ・		・その他；						・TIB1／・BI-1 ※BI-2 ・BI-3	断熱材：t=
				補修方法： ・破壊検査後の復旧に関しては監督員と協議の上決定する		構内既存の用水施設： ○利用できない ・利用できる（・有償 ・無償）						・P2AI／・AI-1 ※AI-2 ・AI-3	断熱材：t=
				・図示 ・		構内既存の電力施設： ○利用できない ・利用できる（・有償 ・無償）						・P2A／・A-1 ※A-2 ・A-3	
		5.3調査のための破壊部分の補修		見本施工の実施： ・実施しない ・実施する【実施箇所等： ・図示 ・】		動力以外利用できる（・有償 ・無償）							
		6.5 施工の検査等		濃度測定： ・未実施 ・実施		1. 一般事項							
		6.9 化学物質の濃度測定		化学物質濃度を下記のとおり測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し報告すること。		防水工事の保証書の提出及び保証年限							
				測定対象物質： ・ホルムアルデヒド ・トルエン ・キシレン ・エチルベンゼン ・スチレン ・図示 ・		・保証年限10年；アスファルト防水 ・合成高分子ルーフィング 防水							
				測定方法： ・簡易法 ・パッシブ型採取機器 ・測定バッチ；		・保証年限5年；塗膜防水 ・その他；							
						<保証書（請負人、材料製造所、防水施工者の連帯保証）は各2通提出する。防水施工者は、防水材料製造所の施工者とし、監督員の承諾を受ける>							
						降雨等による養生方法： ※標準仕様書3.1.3(e)による ・図示 ・							
						◎防水改修工法の種類							
						施工部位		工法の種類	備考(特記工程)				
						・屋上防水押え		PIB工法					
						・ルーフバルコニー防水押え		POS機械工法	*1工程有り				
						・浴室防水押え			*2工程無し				
								M4S1工法					

原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	建築仕様書く1）		
縮 尺	—	図面番号	A-2
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

④章
外壁改修工事

②.2 工法別仕様材料

タイルの種類： ・図示 ・下表による ・

施工箇所	形式・形状寸法 (mm)	用途による 区分	耐凍害性		色		釉薬		備 考
			有	無	標準	特注	施釉	無釉	
			・	・	・	・	・	・	・役物
			・	・	・	・	・	・	・役物

タイルの試験張り： ・行わない ・行う
タイルの見本焼き： ・行わない ・行う
◎塗り仕上げ用材料
薄付仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・
材料の防火指定： ・無 ◎有（

種類（呼び名）	仕上げる形状	工 法
・外装薄塗材 S i	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け
	・ゆず肌状・さざ波状	ローラー塗り
・可とう形外装薄塗材 S i	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け
	・ゆず肌状・さざ波状	ローラー塗り
◎外装薄塗材 E	◎砂壁状・ゆず肌状・着色骨材砂壁状	吹付け
	・平たん状・凹凸状・着色骨材砂壁状	こて塗り
	・ゆず肌状・さざ波状	ローラー塗り
・可とう形外装薄塗材 E	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け
	・平たん状・凹凸状	こて塗り
	・ゆず肌状・さざ波状	ローラー塗り
・防水形外装薄塗材 E	・ゆず肌状・さざ波状	ローラー塗り
	・凹凸状	吹付け

薄付仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・
材料の防火指定： ・無 ・有（

種類（呼び名）	仕上げる形状	工 法
・外装薄塗材 S	・砂壁状	吹付け

厚付仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・
材料の防火指定： ・無 ・有（

種類（呼び名）	仕上げる形状	工 法
・外装厚塗材 C	・吹放し・凸部処理	吹付け
	・平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し	こて塗り
・外装厚塗材 S i	・吹放し・凸部処理	吹付け
・外装厚塗材 E	・平たん状・凹凸状・ひき起し	こて塗り
	・平たん状・凹凸状・ひき起し	ローラー塗り

複層仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・
材料の防火指定： ・無 ・有（不燃認定品

種類（呼び名）	仕上げる形状	工 法
・複層塗材 C E	・凸部処理・凹凸模様	吹付け
・複層塗材 S i	・ゆず肌状	ローラー塗り
・複層塗材 E		
・複層塗材 R E		
・可とう形複層塗材 C E	・凸部処理・凹凸模様	吹付け
	・ゆず肌状	ローラー塗り
・防水形複層塗材 C E	・凸部処理・凹凸模様	吹付け
・防水形複層塗材 E	・ゆず肌状	ローラー塗り
・防水形複層塗材 R S		
・防水形複層塗材 R E		
・可とう形改修塗材 E	・平たん状・さざ波	ローラー塗り
・可とう形改修塗材 R E	・ゆず肌状	吹付け
・可とう形改修塗材 C E		

耐候性： ※耐候形3種 ・
上塗材溶媒： ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系
上塗材樹脂： ※アクリル系 ・シリカ系 ・ B リウレチン系 ・アクリルシリコン系 ・ふっ素系
上塗材外観： ※つやあり ・つやなし ・メタリック ・
防水形の増塗材の適用： ・する ・しない

④章
外壁改修工事

3.4 樹脂注入工法

3. コンクリート打渡し仕上げ外壁の改修
注入工法の種類： ※自動式低圧 E 杉樹脂注入工法 ・手動式 E 杉樹脂注入工法
・機械式 E 杉樹脂注入工法 ・
◎自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
注入間隔： ※200～300mm ・300～400mm ・
注入量： ・約 cc/m
◎手動式エポキシ樹脂注入工法
注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
◎機械式エポキシ樹脂注入工法
注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
コア抜き検査： ・行わない ・行う【個数： ※1個／500m ・ 】
コア抜き取り部の補修方法： ・ E 杉樹脂モルタル充填 ・ B リマセメントモルタル充填 ・
◎充填
充填材： ・シーリング 用材充填 ・シーリング 材の上に B リマセメント充填
・可とう性 E 杉樹脂充填 ・
材料： ・ E 杉樹脂モルタル ・ B リマセメントモルタル ・

3.5 ウォール材充填工法

◎充填
充填材： ・シーリング 用材充填 ・シーリング 材の上に B リマセメント充填
・可とう性 E 杉樹脂充填 ・
材料： ・ E 杉樹脂モルタル ・ B リマセメントモルタル ・

3.7 充填工法

3.8 樹脂注入工法

4. モルタル塗り仕上げ外壁の改修
◎自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
注入間隔： ※200～300mm ・300～400mm ・
注入量： ・約 cc/m
◎手動式エポキシ樹脂注入工法
注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
◎機械式エポキシ樹脂注入工法
注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
コア抜き検査： ・行わない ・行う【個数： ※1個／500m ・ 】
コア抜き取り部の補修方法： ・ E 杉樹脂モルタル充填 ・ B リマセメントモルタル充填 ・
◎充填
充填材： ・シーリング 用材充填 ・シーリング 材の上に B リマセメント充填
・可とう性 E 杉樹脂充填 ・
材料： ・ E 杉樹脂モルタル ・ B リマセメントモルタル ・
塗り厚が25mmを超える場合： ・図示 ・
◎アンカーピンニング工法

工法名称	アンカーピン(本/㎡)		注入孔数(箇所/㎡)		1箇所当り
	一般部分	指定部分	一般部分	指定部分	充填量(cc)
・アンカーピンニング 部分 E 杉樹脂注入工法	16	25	16	25	※25
・アンカーピンニング 全面 E 杉樹脂注入工法	13	20	12	20	※25
・アンカーピンニング 全面 B リマセメントスラリー樹脂注入工法	13	20	12	20	※50
・注入口付アンカーピンニング 部分 E 杉樹脂注入工法	※9	※16	9	16	※25
・注入口付アンカーピンニング 全面 E 杉樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25
・注入口付アンカーピンニング 全面 B リマセメントスラリー樹脂注入工法	9	16	9	16	※50

5.5 樹脂注入工法

5. タイル張り仕上げ外壁の改修
注入工法の種類： ※自動式低圧 E 杉樹脂注入工法 ・手動式 E 杉樹脂注入工法
・機械式 E 杉樹脂注入工法 ・
◎自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
注入間隔： ※200～300mm ・300～400mm ・
注入量： ・約 cc/m
◎手動式エポキシ樹脂注入工法
注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
◎機械式エポキシ樹脂注入工法
注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
コア抜き検査： ・行わない ・行う【個数： ※1個／500m ・ 】
◎充填
充填材： ・シーリング 用材充填 ・シーリング 材の上に B リマセメント充填
・可とう性 E 杉樹脂充填 ・
張付け材料： ・ B リマセメントモルタル ・変成シリコン樹脂 ・ E 杉樹脂 ・ B リウレチン樹脂
・シリコン樹脂 ・

5.6 ウォール材充填工法

◎充填
充填材： ・シーリング 用材充填 ・シーリング 材の上に B リマセメント充填
・可とう性 E 杉樹脂充填 ・

5.7 E 部分張替え工法

⑤章
建具改修工事

5.8 E 張替え工法

伸縮目地の位置： ※標準仕様書表4.5.1による ・図示 ・
誘発目地の位置： ※標準仕様書表4.5.1による ・図示 ・
タイル下地モルタルの接着力試験： ・行う ・行わない
◎タイル張り工法

施工部位	工法	接着力試験
	・密着張り ・改良圧着張り	・行う ・行わない
	・改良積上げ張り	
	・マスク張り ・モザイクタイル張り ・図示	
	・陶磁器タイル接着剤張り	

◎有機系接着剤による陶磁器タイル張り工法
打継ぎ目地・ひび割れ誘発目地： ※ B リウレチン系シーリング 材 ・
伸縮調整目地・その他の目地： ※変成シリコン系シーリング 材 ・
◎アンカーピンニング工法

工法名称	アンカーピン(本/㎡)		注入孔数(箇所/㎡)		1箇所当り
	一般部分	指定部分	一般部分	指定部分	充填量(cc)
・アンカーピンニング 部分 E 杉樹脂注入工法	16	25	16	25	※25
・アンカーピンニング 全面 E 杉樹脂注入工法	13	20	12	20	※25
・アンカーピンニング 全面 B リマセメントスラリー樹脂注入工法	13	20	12	20	※50
・注入口付アンカーピンニング 部分 E 杉樹脂注入工法	※9	※16	9	16	※25
・注入口付アンカーピンニング 全面 E 杉樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25
・注入口付アンカーピンニング 全面 B リマセメントスラリー樹脂注入工法	9	16	9	16	※50
・注入口付アンカーピンニング 全面 E 杉樹脂注入タイル固定工法					

指定部分：見上げ部、庇の鼻先、まぐさ隅部

5.9～5.15
アンカーピンニング 工法

6.2 一般事項

6.3 既存塗膜等の除去
下地処理及び下地調整

施工部位	工法／種別	備 考
	・サンダー工法	
	・高圧水洗工法	
	・塗膜はく離剤工法	
	・水洗い工法	

サンダー工法の処理範囲： ・既存仕上全面 ・図示 ・
高圧水洗工法の処理範囲： ・既存仕上全面 ・図示 ・
塗膜はく離剤工法の処理範囲： ・既存仕上全面 ・図示 ・
水洗い工法の処理範囲： ・既存仕上全面 ・図示 ・

7.2 マスク塗材塗り

① 一般事項

①.3 改修工法

工法： ・かぶせ工法 ◎撤去工法 ・
新規建具用開口部の補強方法： ◎図示 ・
新規建具用開口部の範囲： ◎図示 ・
防火戸の指定： ・図示 ・
・防火戸等の自動閉鎖装置は、日本建築センター評定品とする。
建具見本の制作： ・必要 ◎不要
仮組の実施： ・行う ◎行わない
防犯建物部品の適用： ・図示 ・適用 ◎適用しない

1.4 防火戸

①.5 見本の制作等

②.2 性能及び構造

② アルミニウム製建具

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法（mm）
・A種	S-4	A-3	W-4	70
◎B種	S-5			
・C種	S-6	A-4	W-5	100

防音ドアセット、サッシの適用： ・適用 ◎適用しない ・図示

原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	建築仕様書く3）		
縮 尺	—	図面番号	A-4
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項											
⑤章 建具改修工事	2.2 性能及び構造	遮音性の等級： ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 断熱ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示 断熱性の等級： ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 耐震ドアセットの適用： ・適用 ・適用しない ・図示 面内変形追随性の等級： ・D-1 ・D-2 ・D-3 防虫網の適用： ・適用 ・適用しない ・図示 網の材質： ※合成樹脂製 ・ステンズ製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 形式： ・外面納まり可動式 ・外面納まり固定式 建具枠の見込： ①図示 ・70 ・100 ・ 外部に面する建具の表面処理： ①B-1種 ・B-2種 屋内の建具の表面処理： ・C-1種 ・C-2種 表面色： ①標準色 ・特注色 引違い建具落下防止機構： ・採用する ・採用しない 結露水の処理方法： ・ 水切り板： ①取付ける ・取付けない ぜん板： ・取付ける ・取付けない	⑤章 建具改修工事	7.2 材質、形状及び寸法	ドアクローザのディレードアクション（遅延閉）機能の適用： ・適用 ・適用しない 戸当り： ・あおり止め(フック)付き ①あおり止め(フック)付きなし 樹脂製建具の丁番： ※標準仕様書表5.7.3による ・ 握玉、レバーハンドル等の取付位置： ①FL+900 ・FL+950 ・FL+1,000 ・ クレセント類の取付位置： ・FL+900～FL+1,500迄 ・ マスターキー： ・製作する ・製作しない ・マスターキーの製作については施設管理者及び監督員と協議する。 マスターキーの系統： ・ 系統 指定建物錠の防犯性能の適用： ・する ・しない 指定建物錠とは、建物の外部出入口用にいるリング錠・リング錠-サムターン錠が該当 耐ピッキング性能： ・5分未満 ・5分以上 ※10分以上 耐鍵穴壊し性能： ・5分未満 ・5分以上 ※10分以上 耐サムターン回し性能： ・なし(5分未満) ※あり(5分以上) 耐カム送り解錠性能： ・なし(5分未満) ※あり(5分以上) 耐こじ破り性能： ・なし(5分未満) ※あり(5分以上) 出荷時の子鍵本数： ※3本 ・ 6本 ・ 鍵箱の適用： ・必要 ・不必要	⑤章 建具改修工事	12.3材 料	ガイドレールの材質： ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンズ鋼板											
	2.3 材 料	7.3 取付け施工		13.2材 料	①③. ガラス ガラスの種類： ①建具表による ・ ガラス留め材 <table><tr><th>建具の種類</th><th>種類・材質</th></tr><tr><td>①アルミニウム製</td><td>①シーリング材 ※ガラスカット ・パテ材(・1種 ・2種)</td></tr><tr><td>・鋼 製</td><td>※シーリング材 ・パテ材(・1種 ・2種)</td></tr><tr><td>・ステンズ製</td><td>※シーリング材 ・パテ材(・1種 ・2種)</td></tr><tr><td>・木 製</td><td>※シーリング材 ・パテ材(・木製用 ・)</td></tr></table>		建具の種類	種類・材質	①アルミニウム製	①シーリング材 ※ガラスカット ・パテ材(・1種 ・2種)	・鋼 製	※シーリング材 ・パテ材(・1種 ・2種)	・ステンズ製	※シーリング材 ・パテ材(・1種 ・2種)	・木 製	※シーリング材 ・パテ材(・木製用 ・)			
	建具の種類	種類・材質																	
	①アルミニウム製	①シーリング材 ※ガラスカット ・パテ材(・1種 ・2種)																	
	・鋼 製	※シーリング材 ・パテ材(・1種 ・2種)																	
	・ステンズ製	※シーリング材 ・パテ材(・1種 ・2種)																	
	・木 製	※シーリング材 ・パテ材(・木製用 ・)																	
	2.4 形状及び仕上げ	7.4 鍵		13.3ガラス溝の寸法、形状等	ガラス溝の大きさ： ※標準仕様書表5.13.11による ・ 熱線反射ガラスの映像調整： ・行う ・行わない 表面形状： ・図示 ・ブレン ・梨地 ・ガミ ・ 寸法、厚み： ・図示 ・190x190x95 ・145x145x95 ・ 壁用金属枠： ・図示 ・アルミニウム製 ・スチール製 ・ステンズ製 ・ 補強剤： ・図示 ・ 化粧目地の色： ・白 ・グレー ・黒 ・ シーリング材： ・ポリサルファイド系 ・ウレタン系 ・シリコン系 ・ 金属製化粧カバー： ・図示 ・ 風圧力に対応した工法： ・ 目地幅： ※標準仕様書による ・ 伸縮調整目地の位置： ※標準仕様書による ・ 伸縮調整目地の仕上： ※標準仕様書による ・														
	2.5 工 法	8.2性 能		13.4工 法															
	3.2 性能及び構造	8.3機 構		13.5ガラスの積み															
3.3 材 料	9.3性能等	⑥章 内装改修工事	① 一般事項 既存間仕切り壁撤去に伴う天井、壁及び床の改修範囲： ※壁厚程度 ①図示 天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い天井改修範囲： ※両側600mm程度 ①図示 天井の撤去に伴う取り合い壁の改修範囲： ※既存のまま ・図示 既存部分の撤去工法： ①適用する【・標準仕様書6.2 ・標準仕様書6.3 ・標準仕様書6.4】 ・図示 新設下地の工法： ①適用する【・標準仕様書6.5 ・標準仕様書6.6 ・標準仕様書6.7】 ・図示 仕上げの工法： ※該当項の有無により適用する ・図示																
3.4 形状及び仕上げ	10.2形式及び機構	①.3 他の部位との取合い等	② 既存床の撤去並びに下地補修 合成樹脂塗リ床材の除去： ①機械的除去工法 ・目荒工法 ・ 改装後の床の清掃範囲： ①影響範囲全て ・図示																
3.5 工 法	11.2形式及び機構	①.4工 法	③ 既存壁の撤去並びに下地補修 コンクリート間仕切壁等の撤去に伴う構造体の補修： ※行う ・既存のまま ・モルタル塗り（改修標準仕様書4.4.9による） ①図示 ・																
4.2 性能及び構造	11.3材 料	②.2工 法	5. 木下地等 ①見え掛り面の表面仕上げの適用箇所、種類： ・図示 ・下表による <table><tr><th>適用箇所</th><th>種 類</th></tr><tr><td>・開口部額縁 ・建具枠 ・笠木 ・</td><td>・A種 ・B種 ・C種</td></tr><tr><td>・ブラインドボックス・カーテンボックス</td><td>・A種 ・B種 ・C種</td></tr><tr><td>・飾り柱 ・格子 ・カンター天板 ・衝立</td><td>・A種 ・B種 ・C種</td></tr><tr><td>・棚板 ・</td><td>・A種 ・B種 ・C種</td></tr><tr><td>・梯子 ・</td><td>・A種 ・B種 ・C種</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	適用箇所	種 類	・開口部額縁 ・建具枠 ・笠木 ・	・A種 ・B種 ・C種	・ブラインドボックス・カーテンボックス	・A種 ・B種 ・C種	・飾り柱 ・格子 ・カンター天板 ・衝立	・A種 ・B種 ・C種	・棚板 ・	・A種 ・B種 ・C種	・梯子 ・	・A種 ・B種 ・C種				
適用箇所	種 類																		
・開口部額縁 ・建具枠 ・笠木 ・	・A種 ・B種 ・C種																		
・ブラインドボックス・カーテンボックス	・A種 ・B種 ・C種																		
・飾り柱 ・格子 ・カンター天板 ・衝立	・A種 ・B種 ・C種																		
・棚板 ・	・A種 ・B種 ・C種																		
・梯子 ・	・A種 ・B種 ・C種																		
4.3 材 料	11.4形状及び仕上げ	③.2工 法	⑤.2木 材																
4.4 形状及び仕上げ	12.2形式及び機構		①一般事項 木材の含水率： ※A種 ・B種																
5.2 性能及び構造																			
5.3 材 料																			
5.5 工 法																			
6.3 材 料																			
6.5 工 法																			
7.1 適用範囲																			
7.2 材質、形状及び寸法																			

原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	建築仕様書〈4〉		
縮 尺	—	図面番号	A-5
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

⑥章
内装改修工事

項 目		特記事項					
5.2 木 材		◎製 材					
◇ＪＡＳによる下地用針葉樹製材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
使用部位	樹種	区分等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備 考	
全般	桧	・1級	SD15	サグー	なし		
	杉	※2級	SD20	サグー	なし		
			D15	ブレーナ	なし		
			D20	ブレーナ	なし		
◇ＪＡＳによる造作用針葉樹製材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
使用部位	樹種	化粧等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備 考	
窓枠	材	無節	SD15	サグー	なし		
床仕上げ板	杉	※上小節	SD18	サグー	なし		
カーテンボックス	桧	※小節	D15	ブレーナ	なし		
段板		並	D18	ブレーナ	なし		
巾木							
◇ＪＡＳによる広葉樹製材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
使用部位	樹種	区分等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備 考	
全般	ケヤナギ	特等	D10	サグー	なし		
	材	※1等	D13	ブレーナ	K1		
		2等			なし		
◇ＪＡＳ以外の製材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
使用部位	樹種	材面の品質	含水率	寸法	防腐防蟻処理	備 考	
	桧	※A種	15%	図示			
	杉	B種	18%	図示			
	松		20%				
◎造作用集成材							
接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆☆ ・							
・ＪＡＳによる造作用集成材： 【 ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・ 】							
・ＪＡＳ以外の造作用集成材： 【 ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・ 】							
使用部位	仕上げ	樹種	見付材		区分等級	備 考	
			面	品質			
	仕上有		1面	※1等	1等		
	未仕上			2等	2等		
	塗装		4面				
・ＪＡＳによる化粧ばり造作用集成材： 【 ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・ 】							
・ＪＡＳ以外の化粧ばり造作用集成材： 【 ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・ 】							
使用部位	仕上げ	樹種		見付材		区分等級	備 考
		心材	化粧材/厚さ	面	品質		
	仕上有			1面	※1等	1等	
	未仕上				2等	2等	
	塗装			4面			
・ＪＡＳによる化粧ばり構造用集成柱： 【 ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・ 】							
・ＪＡＳ以外の化粧ばり構造用集成柱： 【 ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・ 】							
使用部位	強度等級	樹種		見付材		区分等級	備 考
		心材	化粧材/厚さ	面	品質		
	E190-F615			1面	1等	1等	
	E105-F345				2等	2等	
	E65-F255			4面			
◎造作用単板積層材							
接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆☆ ・							
・ＪＡＳによる造作用単板積層材： 【 ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・ 】							
・ＪＡＳ以外の造作用単板積層材： 【 ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・ 】							
使用部位	含水率	仕上げ	表面の品質	防腐防蟻処理	備 考		
	※14%	仕上有	1等	なし	天然木化粧加工		
		仕上有	2等		塗装加工		
		未仕上	3等				

項 目		特記事項				
		◎床張り用合板等 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・				
◇ＪＡＳによる普通合板						
使用部位	表板樹種名	厚さ (mm)	接着の程度	板面の品質	等級・処理・寸法等	
	ツツ	※5. 5	※1類	※2等	・ 図示	
	シ	9	2類	1等		
		12		※C-D		
◇ＪＡＳによる構造用合板						
使用部位	表板樹種名	等級	接着の程度	板面の品質	処理・寸法等	
各室床下地捨て張り	針葉樹	1級	特類	A-B	F☆☆☆☆/防虫処理材	
	シ	2級	1類	B-C		
	ナ			D-D		
◇パーティクルボード						
使用部位	厚さ (mm)	曲げの区分	接着の区分	難燃性区分	等級・処理・寸法等	
	※15			※13P/M	・ 図示	
	18					
5.3 接合具等 5.4 木材 5.5 防腐・防蟻 ・防虫処理	◇構造用パネル 曲げ等級： ・1級 ・2級 ・3級 ・4級 厚み： ・図示 ・25mm ・ 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ ◎薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理					
	適用部位		性能区分		備 考	
			・K2 ・K3 ・K4			
			・K2 ・K3 ・K4			
	加圧注入用木材のサイジング： ・適用する ・摘要しない 薬剤の塗布による防腐・防蟻処理の方法： ※標準仕様書による ・ ボード原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理の方法： ・ ◎防虫処理 木材の防虫処理： ・					
	5.6～5.9 樹種： ※下表を標準とし変更する場合は、事前に監督員の承諾を得る事。					
	使用箇所		材 種			
	・RC造等の内部間仕切		・間仕切軸組		※杉 ・	
	軸組及び床組		・床組		※杉又は松 ・	
	・窓、出入口、その他		・吊元枠、水掛かりの下枠及び敷居		・桧 ・	
・床板張り		・縁甲板、上がり框		※桧 ・		
・壁及び天井下地				※杉又は松 ・		
5.* 壁 木	樹種： ・ナ ・ケヤ ・サウ ・クリ ・シジ ・ 使用箇所： ・					
5.* 銘 木	種別： ・真物 ・貼物 樹種： ・ 使用箇所： ・					
6.2 材 料	◎ 軽量鉄骨天井下地 種類： ※標準仕様書表6. 6. 1による ・					
6.3 形式及び寸法	屋外の野縁受け、吊りボルト、インサートの間隔： ◎F=900mm ・ 屋外の野縁の間隔： ※標準仕様書表6. 6. 2による ・					
6.4 工 法	あと施工アンカーの引抜き試験： ・行わない ・行う 試験法： ・標準仕様書6. 6. 4 (a) (3)による ・図示 ・ 屋外の引抜き試験の箇所： ・図示 ・屋内と同等程度 ・ 切断された天井下地の補強方法： ・図示 屋外の軒天井、ビロティー天井の補強： ・図示 ・ ・天井内配管類及びダクト等により、野縁受けを吊れない場合には、野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。 ・吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。					

- ⑥.2 材 料
- ⑥.3 形式及び寸法
- ⑥.4 工 法

項 目		特記事項			
7.3 形式及び寸法	7. 軽量鉄骨壁下地				
	種類： ・50形 ・65形 ・90形 ・100形 ・ スタッドの高さが5mを超える場合： ・図示 ・				
8.2 材 料	⑧ ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り				
	ビニル床シートの材料： ・図示 ◎下表による ・				
	種 類		記号	色柄	厚さ (mm)
	◎発泡層のないビニル床シート		※FS ・NS	※無地 ・マーブル	※2.0 ・2.5 ・
	・発泡層のあるビニル床シート (クッションフロア)		・D0	・	※2.3 ・3.5
	ビニル床タイル、ゴム床タイルの材料： ・図示 ◎下表による ・				
	種 類			厚さ (mm)	
	◎コンポジションビニル床タイル			半硬質 (CT)	※2.0 ・
	・コンポジションビニル床タイル			軟質 (CTS)	※2.0 ・
・ホモニアスビニル床タイル (HT)				※2.0 ・	
・ゴム床タイル			・無地 ・マーブル	・4.0 ・ ・4.0 ・	
接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・					
・帯電防止床シート張り ◎帯電防止床タイル貼り					
種類： ・					
性能： ◎体積抵抗値 (1.0x10 ⁹ Ω) ・					
厚さ： ・2.0mm ・4.0mm ・4.5mm ・					
・視覚障害者用床タイル張り					
種類： ・合成ゴム貼付用 ・合成ゴム埋込用 ・合成ゴム裏面CON ・セッ器質タイル ・コンクリート					
厚み： ・2mm ・15mm ・20mm ・30mm ・					
・耐動荷重性床シート張り： 種類 () 厚さ ()					
◎ビニル幅木の厚み： ※1.5mm以上 ・					
◎ビニル幅木の高さ： ※60mm ・100mm ・					
8.3 工 法	下地の工法： ※珪藻土塗り下地 ※木造下地 ・図示 ・				
	熱溶接工法： ・適用する ・適用しない				
9.3 材 料	9. カーペット敷き				
	◎織じゅうたん				
	種別： ・A種 ・B種 ・C種				
	パイル形状： ・カットパイル ・ループパイル ・カット／ループ併用				
	色柄： ・無地 ・柄物				
	帯電性の適用： ・適用しない ・適用する【人体帯電圧： ※3kV以下 ・ 】				
	◎タフテッドカーペット				
	パイル形状： ・ループ ・カット ・				
	パイル長： ・図示 ・ mm				
	◎ニードルパンチカーペット				
厚さ： ・4mm ・7mm ・					
◎タイルカーペット					
パイル形状		種 類	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	
※第1種ループパイル		※第1種 ・第2種	※500x500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル					
・カット／ループ併用					
◎下敷き材					
下敷き材： ※反毛フェルト第2種2号 (呼厚8mm) ・					
接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・					

章	項 目	特記事項	章	項 目	特記事項	章	項 目	特記事項						
⑥章 内装改修工事	9.4 工 法	タフテッドカーベットの工法： ・グリップ工法 ・全面接着工法 ・ タイルカーベットの敷き方（平場）： ※市松敷き ・ （階段部分）： ※模様流し ・ ⑩ 合成樹脂塗床	⑥章 内装改修工事	13.3 工 法	材 種	樹種など	厚さ (mm)	工法						
	10.2 材 料 10.3 工 法	・弾性ウレタン塗り床材		※平滑 ・防滑 ・つや消し										
		・ウレタン樹脂塗り床材		○薄膜流し展べ ・厚膜流し展べ： ※平滑 ・防滑 ・樹脂モルタル： ・平滑 ・防滑										
	11.2 材 料 11.3～11.5 工 法	材料の総量放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・			14.2 材 料	材料の総量放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ 普通合板の防虫処理： ※行わない ・行う 天然木化粧合板の防虫処理： ※行わない ・行う 特殊加工化粧合板の防虫処理： ※行わない ・行う 接着剤の総量放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ せっこうボードの目地処理： ・継目処理工法 ・目透し工法 ・突付け工法 遮音シール材： ・アクリル系シーリング材 ・ジョイントメント								
		1 1. フローリング張り					1 4. 壁紙張り 防火性能の指定： ・下表による ・図示 ・							
		種 類		材 種		工 法	形式寸法等 (mm) LxWx t	品 質	検定区分	施工箇所				
		・フローリングボード1等		※ナ ・		・釘留め工法 (根太張) ・釘留め工法 (直張り) ・接着工法	・500 (L) x75 (W) x15 (t) 以上	・ウレタン系	・1級 ・2級 ・					
		・フローリングブロック1等		※ナ ・		・釘留め工法 (根太張) ・釘留め工法 (直張り) ・接着工法	・303x303 (L) x15 (t) 以上	・織物系	・1級 ・3級 ・4級 ・					
	11.6 現場塗装仕上げ	・モダンカット1等 ・弾性モダンカット		※ナ ・	・釘留め工法 (根太張) ・釘留め工法 (直張り) ・接着工法	厚さ： ・6 ・7 ・8	・プラスチック系	・1級 ・2級 ・						
		・複合フローリング		※ナ ・サウ ・協議	・釘留め工法 (根太張) ・釘留め工法 (直張り) ・接着工法	・A種 ・B種 ※C種 ・A種 ・B種 ※C種 ・A種 ・B種 ※C種								
材料の総量放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ 接着剤の総量放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ 仕上げ： ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・既製仕上げ			14.3 施 工	材料の総量放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ モルタル面及びプaster面の下地調整： ・RA種 ※RB種 ・RC種 コンクリート面の下地調整： ・RA種 ※RB種 ・RC種 せっこうボード及びその他ボード面の下地調整： ・RA種 ※RB種 ・RC種										
1 2. 畳敷き 種別： ・A種 ・B種 ・C種 ・D種（ ・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N）					1 5. モルタル塗り 既製目地： ・適用 ・不適用 既製目地の形状寸法等： ・図示 ・ 床の目地： ・設ける ・設けない 工法： ※押し目地 ・切り目地 ・									
1 3. せっこうボードその他ボード及び合板張り					1 6. タイル張り 伸縮調整目地の位置： ※@4m (縦・横共) ・図示 ・									
規格名称	種 類	記 号		厚さ (mm)	16.3 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り タイルの種類： ・図示 ・下表による ・									
13.2 材 料 13.3 工 法	木質系セメント板	・木毛セメント板 ・木片セメント板	・HW ・NW ・HF ・NF	・25・50 ・	⑦章 塗表改修工事	16.4 接着剤による陶磁器質タイル張り タイルの種類： ・図示 ・下表による ・	施工箇所	形式・形状寸法 (mm)	用途による 区分	耐凍害性 有 無	色 標準 特注	釉薬 施釉 無釉	備 考	
	せっこうボード製品	・せっこうボード ・シーリングせっこうボード ・強化せっこうボード ・せっこうスラブ ・化粧せっこうボード (トランシェン) ・化粧せっこうボード	GB-R GB-S GB-F GB-L GB-D	・9.5・12.5 ・9.5・12.5 ・12.5・15.0 ※9.5・7 ・9.5・12.5 ・9.5・12.5										
	繊維強化セメント板	・ケイ酸カルシウム板 (タイプ2)	・0.8FK ・1.0FK	・6・8・10 ・6・8・10										
	ハイテクボード 繊維板	・	・RS・VS ・DV・DO・DC											
	火山性ガラス質複層板 (VSLボード) ・													
	材料の総量放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ ◎合板													
	材 種	樹種など	厚さ (mm)	工法										
	・難燃合板	生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・ラワン ・ 不透明塗料塗りの場合 ・シ【 ・1級・2級】 ・	・4 ・5.5 ・6 ・	・A種 ※B種										
	・普通合板	・ラワン ・ ・シ	・1類 ・2類	・4 ・5.5 ・6 ・				・A種 ※B種						
	⑦章 塗表改修工事	1.3 材 料	◎タイルの役物 使用箇所： ・出隅 ・入隅 ・幅木 ・まぐさ ・窓台 製造方法： ・接着成型品 ・一体成型品 タイルの見本焼き： ・行う ・行わない タイルの試験張り： ・行う ・行わない 壁タイル張り工法： ・改良横上張り ・					⑦章 塗表改修工事	③ 鉄鋼面錆止め塗料塗り 亜鉛メッキ鋼面屋外： ※A種 ・B種 ・C種 亜鉛メッキ鋼面屋内： ※A種 ・B種 ・C種 亜鉛メッキ鋼面EPG塗装下地： ・A種 ・B種 ※C種 鉄鋼面見え隠れ部分新規塗り工法： ※A種 ・B種 ・C種 鉄鋼面見え隠れ部分新規塗り工法： ・A種 ※B種 ・C種 鉄鋼面塗替え部分工法： ・A種 ・B種 ※C種					
4. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 種別： ※1種 ・2種 木部の種別（新規外部）： ※A種 ・B種 木部の種別（新規内部）： ・A種 ※B種 木部の種別（多孔質広葉樹）： ・A種 ・B種 木部の種別（塗替え）： ・A種 ※B種 鉄鋼面の種別： ・A種 ※B種 亜鉛めっき鋼面の種別（塗替え）： ※A種 ・B種 亜鉛めっき鋼面の種別（新規）： ・A種 ※B種														
5. クリヤーラッカー塗り（CL） 種別： ・A種 ※B種														

原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 阪東橋ポンプ場（ポンプ機）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	建築仕様書く6）		
縮 尺	—	図面番号	A-7
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

章	項 目	特記事項	章	項 目	特記事項																																																																																																																																																
⑦章 塗装改修工事	7.2 塗料塗り	7. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD） 種別： ・A種 ※B種 ⑧ 耐候性塗料塗り（DP） 鉄鋼面の種別： ・A種 ・B種 ・C種 亜鉛めっき鋼面の種別： ①A種 ・B種 ・C種 コンクリート面の種別： ・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種 押出成形セメント板面の種別： ・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種 9. つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G） コンクリート面及びモルタル面の種別： ・A種 ※B種 ・C種 プラスター面の種別： ・A種 ※B種 ・C種 せっこうボード、及びその他のボード面の種別： ・A種 ※B種 ・C種 塗替えの場合のしめ止め： ・標準仕様書7.9.2(b)による ・図示 ・ 屋内木部の種別（新規）： ※A種 ・B種 ・C種 屋内木部の種別（多孔質広葉樹）： ・A種 ・B種 ・C種 屋内木部の種別（塗替え）： ・A種 ※B種 ・C種 屋内鉄鋼面の種別： ・A種 ※B種 ・C種 屋内亜鉛めっき鋼面の種別： ・A種 ※B種 ・C種 ⑩. 合成樹脂エマルションペイント塗り（EP） 種別： ・A種 ※B種 ・C種 塗替えの場合のしめ止め： ①標準仕様書7.13.2(b)による ・図示 ・ 11. 合成樹脂エマルション模様塗料塗り（EP-T） コンクリート面及びモルタル面の種別： ・A種 ※B種 ・C-1種 ・C-2種 ・C-3種 プラスター面の種別： ・A種 ※B種 ・C-1種 ・C-2種 ・C-3種 せっこうボード等面の種別： ・A種 ※B種 ・C-1種 ・C-2種 ・C-3種 12. ウレタン樹脂ワニス塗り（UC） 種別： ・A種 ※B種 13. ラッカーエナメル塗り（LE） 種別： ・A種 ※B種 15. 木材保護塗料塗り（WP） 種別： ・A種 ※B種	⑧章 耐震改修工事	1.4 コンクリートの品質	スランブ： ※18cm ・図示 ・ コンクリート部材の許容差及び測定方法： ①標準仕様書8.1.4(d)(1)による ・ 打放し仕上げの種別（合板せき板を用いる場合） <table><tr><th>施工部位</th><th>種別</th><th>備 考</th></tr><tr><td>①化粧打放し部</td><td>A種</td><td></td></tr><tr><td>①打放し補修下地部</td><td>B種</td><td></td></tr><tr><td>・基礎部</td><td>C種</td><td></td></tr></table> コンクリートの仕上りの平坦さ： ・標準仕様書 表8.1.4による ・ 製作工場のグレードは下記同等以上で大臣認定された工場とする： ・Sグレード ・Hグレード ・Mグレード ・Rグレード ・Jグレード 施工監理技術者： ・適用する ・適用しない ② 材 料 鉄筋の種類： ・SR295 ・SD295A ・SD295B ・SD345 ・SD390 ①図示 ・ 溶接金網の寸法、径： ・φ6x150x150 ・φ6x100x100 ・φ4.5x50x50 ・図示 ・ あと施工アンカーの種類： ・金属系アンカー ・接着系アンカー ①図示 ・ ◎金属系アンカー 引張耐力： ・図示 ・ せん断耐力： ・図示 ・ アンカー本体の径： ・図示 ・ アンカー本体の埋込深さ： ・図示 ・ アンカー本体のセット方式： ・図示 ※本体打込み式改良型 ・ 接合筋の径及び長さ： ・図示 ・ ◎接着系アンカー 引張耐力： ①図示 ・ せん断耐力： ①図示 ・ アンカーの種類： ①図示 ・「カ」型 ・ アンカー筋の径： ①図示 ・ アンカー筋の埋込深さ： ①図示 ・ アンカー筋の種類： ①図示 ※異形棒鋼 ・ アンカー筋の新設壁内への定着長さ： ①図示 ※標準仕様書8.2.4(c)(6)による あと施工アンカーの性能確認試験： ①行う ・行わない ・ セメントの種類： ※普通ポルトランドセメント ※混合セメントA種 ・高炉セメント ・フライッシュセメント フェロニッケルスラグ細骨材の使用： ・使用する ・使用しない 骨材のアルカリシリカ反応性による区分： ※A ・B 鋼スラグ細骨材の使用： ・使用する ・使用しない 電気炉酸化スラグ細骨材の使用： ・使用する ・使用しない 混和剤： ・AE剤 ・AE減水剤 ・高性能AE減水剤 ・ 混和材： ・フライッシュ ・高炉スラグ微粉末 ・膨張剤 ・ モルタルの圧縮強度： ①図示 ・18N/mm2 ・ モルタルのフロー値： ①図示 ・180mm未満 ・180mm以上240mm未満 ・240mm以上 型枠の材料等： ・下表による ・図示 ・ <table><tr><th>種類</th><th>種別・厚さ</th><th>材質</th></tr><tr><td>①合板</td><td>※「コンクリート型枠用合板のJAS」・12mm</td><td>※複 合</td></tr><tr><td></td><td>・「コンクリート型枠用合板のJAS」・15mm</td><td>※南洋材</td></tr><tr><td>・床型枠用鋼製デッキプレート</td><td></td><td>・針葉材</td></tr></table> スリーブ： ※標準仕様書8.2.6(i, ii)による ・図示 ・硬質塩化ビニル管 ・溶融亜鉛めっき鋼管・鋼管 ・つば付き鋼管 ・つば付き鋼管 ・紙チューブ 鋼材の材質： ・下表による ・図示 ・ <table><tr><th>施工部位</th><th>材質（種類の記号）</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・構造躯体</td><td>SS400 SSC400</td><td></td></tr><tr><td>・構造躯体（ 階～ 階）</td><td>SM490A</td><td></td></tr><tr><td>・構造躯体（ 階～ 階）</td><td>STKR400</td><td></td></tr><tr><td></td><td>BCR295</td><td></td></tr><tr><td></td><td>SN400C SN400A</td><td></td></tr></table> 鋼材の形状及び寸法： ・図示 ・	施工部位	種別	備 考	①化粧打放し部	A種		①打放し補修下地部	B種		・基礎部	C種		種類	種別・厚さ	材質	①合板	※「コンクリート型枠用合板のJAS」・12mm	※複 合		・「コンクリート型枠用合板のJAS」・15mm	※南洋材	・床型枠用鋼製デッキプレート		・針葉材	施工部位	材質（種類の記号）	備 考	・構造躯体	SS400 SSC400		・構造躯体（ 階～ 階）	SM490A		・構造躯体（ 階～ 階）	STKR400			BCR295			SN400C SN400A		⑧章 耐震改修工事	2.9 高力ボルト	種類： ・トルネ型高力ボルト2種（S10T） ・JISの高力ボルト2種（F10T） ・溶融亜鉛めっき高力ボルト1種（F8T相当） 高力ボルトの径： ・図示 ・ 溶接棒等（標準仕様書表8.2.7）及びガス以外の溶接材料： ・図示 ・ モルタルの種類： ・図示 ・無収縮モルタル ・ 無収縮モルタルの割合： ※標準仕様書8.2.10(b)(1)～(4)による ・図示 ・ 材料： ・図示 ・ 工法： ・図示 ・ 引張強度、ヤング係数等： ・図示 ・ 引張りを受ける鋼板の試験： ・適用する ・適用しない ・図示 ・ 杭の材料： ・構造特記仕様書による ・図示 ・ 杭の継手、工法等： ・構造特記仕様書による ・図示 ・ ③ 鉄筋の加工及び組立 継手の種類： ①重ね継手 ・ガス圧接継手 ・機械継手 ・図示 ・ 継手の位置： ①図示 ・ 主筋の重ね継手長さ： ※標準仕様書5.3.4(c)(1)による ・図示 ・ 耐力壁鉄筋の重ね継手長さ： ※標準仕様書5.3.4(c)(1)による ・図示 ・ 先組み工法等の継手の位置： ・図示 ・ 柱への梁引っ張り鉄筋の定着長さ： ※標準仕様書5.3.4(d)(1)による ・図示 ・ 土に接する柱、梁、スラブ及び壁の鉄筋のかぶり厚さ（軽量コンクリートの場合）： ・図示 ・40mm ・50mm ・60mm ・ 塩害を受ける恐れのある部分等の鉄筋のかぶり厚さ： ・図示 ・ 特殊な鉄筋継手のあき寸法： ・図示 ・ 壁の配筋： ①図示 ・ 開口部の補強筋： ・図示 ・ 抜取試験の方法： ※超音波探傷試験 ・引張試験 ・ 3.8 ガス圧接 4.2 機械式継手 機械式継手の種類： ・図示 ・ 機械式継手の工法及び品質の確認方法等： ・図示 ※標準仕様書8.4.2.(c)による 溶接継手の工法： ・図示 ・ 品質の確認方法： ・図示 ・ 不良継手部の修正方法： ・図示 ※標準仕様書8.4.3.(c)による ⑦ コンクリートの工事現場内運搬並びに打込み及び締固め 外部に面する打放し仕上げの増打厚さ： ・25mm ・20mm ・15mm ・ 型枠セパレーターとしてのシアコネクタの使用： ・適用する ①適用しない 9. 軽量コンクリート 土に接する軽量コンクリートの使用： ・使用する【使用箇所： ・図示 ・ 水に接する軽量コンクリートの使用： ・使用する【使用箇所： ・図示 ・ 軽量コンクリート種類： ・下表による ・図示 ・ <table><tr><th>施工部位</th><th>種類</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・屋上防水押え</td><td>・1種 ・2種</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・1種 ・2種</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・1種 ・2種</td><td></td></tr></table> 所要気乾単位容積重量： ・図示 ・ kN/m3 所要スランブ： ※21cm ・18cm ・ 10. 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S)： ※6 N/mm ・ 11. 無筋コンクリート 適用箇所： ※標準仕様書6.14.1(d)による ・下表による ・図示 <table><tr><th>施工部位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>スランブ</th></tr><tr><td></td><td>※18 ・21</td><td>※15以下 ※18以下</td></tr></table>	施工部位	種類	備 考	・屋上防水押え	・1種 ・2種			・1種 ・2種			・1種 ・2種		施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	スランブ		※18 ・21	※15以下 ※18以下																																																																																	
	施工部位	種別		備 考																																																																																																																																																	
	①化粧打放し部	A種																																																																																																																																																			
	①打放し補修下地部	B種																																																																																																																																																			
	・基礎部	C種																																																																																																																																																			
種類	種別・厚さ	材質																																																																																																																																																			
①合板	※「コンクリート型枠用合板のJAS」・12mm	※複 合																																																																																																																																																			
	・「コンクリート型枠用合板のJAS」・15mm	※南洋材																																																																																																																																																			
・床型枠用鋼製デッキプレート		・針葉材																																																																																																																																																			
施工部位	材質（種類の記号）	備 考																																																																																																																																																			
・構造躯体	SS400 SSC400																																																																																																																																																				
・構造躯体（ 階～ 階）	SM490A																																																																																																																																																				
・構造躯体（ 階～ 階）	STKR400																																																																																																																																																				
	BCR295																																																																																																																																																				
	SN400C SN400A																																																																																																																																																				
施工部位	種類	備 考																																																																																																																																																			
・屋上防水押え	・1種 ・2種																																																																																																																																																				
	・1種 ・2種																																																																																																																																																				
	・1種 ・2種																																																																																																																																																				
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	スランブ																																																																																																																																																			
	※18 ・21	※15以下 ※18以下																																																																																																																																																			
⑧章 耐震改修工事	1.★ コンクリート工事	① 一般事項 ◎本章の事項は構造特記仕様書による ◎本章の事項は構造特記仕様書による ◎本章の事項は構造特記仕様書による コンクリートの種別： ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 ・その他； 使用骨材による種類： ①普通コンクリート（下表による） ・図示 <table><tr><th>施工部位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・構造躯体（基礎～ 階）</td><td>30</td><td></td></tr><tr><td>・構造躯体（ 階～ 階）</td><td>24</td><td></td></tr><tr><td>①構造躯体（1階～2階）</td><td>21+3N</td><td></td></tr><tr><td>・捨てコンクリート</td><td>・18 ・21</td><td></td></tr></table> 使用骨材による種類： ・軽量コンクリート（下表による） ・図示 <table><tr><th>施工部位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>備 考</th></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr></table>	施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考	・構造躯体（基礎～ 階）	30		・構造躯体（ 階～ 階）	24		①構造躯体（1階～2階）	21+3N		・捨てコンクリート	・18 ・21		施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考		・18 ・21			・18 ・21			・18 ・21		⑨章 コンクリート工事	2.6 構造体用モルタルの材料及び調査	◎本章の事項は構造特記仕様書による ◎本章の事項は構造特記仕様書による ◎本章の事項は構造特記仕様書による コンクリートの種別： ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 ・その他； 使用骨材による種類： ①普通コンクリート（下表による） ・図示 <table><tr><th>施工部位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・構造躯体（基礎～ 階）</td><td>30</td><td></td></tr><tr><td>・構造躯体（ 階～ 階）</td><td>24</td><td></td></tr><tr><td>①構造躯体（1階～2階）</td><td>21+3N</td><td></td></tr><tr><td>・捨てコンクリート</td><td>・18 ・21</td><td></td></tr></table> 使用骨材による種類： ・軽量コンクリート（下表による） ・図示 <table><tr><th>施工部位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>備 考</th></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr></table>	施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考	・構造躯体（基礎～ 階）	30		・構造躯体（ 階～ 階）	24		①構造躯体（1階～2階）	21+3N		・捨てコンクリート	・18 ・21		施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考		・18 ・21			・18 ・21			・18 ・21		⑨章 コンクリート工事	2.7 型枠の材料	◎本章の事項は構造特記仕様書による ◎本章の事項は構造特記仕様書による ◎本章の事項は構造特記仕様書による コンクリートの種別： ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 ・その他； 使用骨材による種類： ①普通コンクリート（下表による） ・図示 <table><tr><th>施工部位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・構造躯体（基礎～ 階）</td><td>30</td><td></td></tr><tr><td>・構造躯体（ 階～ 階）</td><td>24</td><td></td></tr><tr><td>①構造躯体（1階～2階）</td><td>21+3N</td><td></td></tr><tr><td>・捨てコンクリート</td><td>・18 ・21</td><td></td></tr></table> 使用骨材による種類： ・軽量コンクリート（下表による） ・図示 <table><tr><th>施工部位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>備 考</th></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr></table>	施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考	・構造躯体（基礎～ 階）	30		・構造躯体（ 階～ 階）	24		①構造躯体（1階～2階）	21+3N		・捨てコンクリート	・18 ・21		施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考		・18 ・21			・18 ・21			・18 ・21		⑨章 コンクリート工事	2.8 鋼 材	◎本章の事項は構造特記仕様書による ◎本章の事項は構造特記仕様書による ◎本章の事項は構造特記仕様書による コンクリートの種別： ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 ・その他； 使用骨材による種類： ①普通コンクリート（下表による） ・図示 <table><tr><th>施工部位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・構造躯体（基礎～ 階）</td><td>30</td><td></td></tr><tr><td>・構造躯体（ 階～ 階）</td><td>24</td><td></td></tr><tr><td>①構造躯体（1階～2階）</td><td>21+3N</td><td></td></tr><tr><td>・捨てコンクリート</td><td>・18 ・21</td><td></td></tr></table> 使用骨材による種類： ・軽量コンクリート（下表による） ・図示 <table><tr><th>施工部位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>備 考</th></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr></table>	施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考	・構造躯体（基礎～ 階）	30		・構造躯体（ 階～ 階）	24		①構造躯体（1階～2階）	21+3N		・捨てコンクリート	・18 ・21		施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考		・18 ・21			・18 ・21			・18 ・21		⑨章 コンクリート工事	2.9 鋼 材	◎本章の事項は構造特記仕様書による ◎本章の事項は構造特記仕様書による ◎本章の事項は構造特記仕様書による コンクリートの種別： ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 ・その他； 使用骨材による種類： ①普通コンクリート（下表による） ・図示 <table><tr><th>施工部位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・構造躯体（基礎～ 階）</td><td>30</td><td></td></tr><tr><td>・構造躯体（ 階～ 階）</td><td>24</td><td></td></tr><tr><td>①構造躯体（1階～2階）</td><td>21+3N</td><td></td></tr><tr><td>・捨てコンクリート</td><td>・18 ・21</td><td></td></tr></table> 使用骨材による種類： ・軽量コンクリート（下表による） ・図示 <table><tr><th>施工部位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>備 考</th></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・18 ・21</td><td></td></tr></table>	施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考	・構造躯体（基礎～ 階）	30		・構造躯体（ 階～ 階）	24		①構造躯体（1階～2階）	21+3N		・捨てコンクリート	・18 ・21		施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考		・18 ・21			・18 ・21			・18 ・21	
	施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考																																																																																																																																																		
	・構造躯体（基礎～ 階）	30																																																																																																																																																			
	・構造躯体（ 階～ 階）	24																																																																																																																																																			
	①構造躯体（1階～2階）	21+3N																																																																																																																																																			
・捨てコンクリート	・18 ・21																																																																																																																																																				
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考																																																																																																																																																			
	・18 ・21																																																																																																																																																				
	・18 ・21																																																																																																																																																				
	・18 ・21																																																																																																																																																				
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考																																																																																																																																																			
・構造躯体（基礎～ 階）	30																																																																																																																																																				
・構造躯体（ 階～ 階）	24																																																																																																																																																				
①構造躯体（1階～2階）	21+3N																																																																																																																																																				
・捨てコンクリート	・18 ・21																																																																																																																																																				
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考																																																																																																																																																			
	・18 ・21																																																																																																																																																				
	・18 ・21																																																																																																																																																				
	・18 ・21																																																																																																																																																				
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考																																																																																																																																																			
・構造躯体（基礎～ 階）	30																																																																																																																																																				
・構造躯体（ 階～ 階）	24																																																																																																																																																				
①構造躯体（1階～2階）	21+3N																																																																																																																																																				
・捨てコンクリート	・18 ・21																																																																																																																																																				
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考																																																																																																																																																			
	・18 ・21																																																																																																																																																				
	・18 ・21																																																																																																																																																				
	・18 ・21																																																																																																																																																				
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考																																																																																																																																																			
・構造躯体（基礎～ 階）	30																																																																																																																																																				
・構造躯体（ 階～ 階）	24																																																																																																																																																				
①構造躯体（1階～2階）	21+3N																																																																																																																																																				
・捨てコンクリート	・18 ・21																																																																																																																																																				
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考																																																																																																																																																			
	・18 ・21																																																																																																																																																				
	・18 ・21																																																																																																																																																				
	・18 ・21																																																																																																																																																				
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考																																																																																																																																																			
・構造躯体（基礎～ 階）	30																																																																																																																																																				
・構造躯体（ 階～ 階）	24																																																																																																																																																				
①構造躯体（1階～2階）	21+3N																																																																																																																																																				
・捨てコンクリート	・18 ・21																																																																																																																																																				
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考																																																																																																																																																			
	・18 ・21																																																																																																																																																				
	・18 ・21																																																																																																																																																				
	・18 ・21																																																																																																																																																				

章	項 目	章	項 目	特記事項	章	項 目	特記事項
⑧章 耐震改修工事	12.2 穿 孔	⑧章 耐震改修工事	23.1 適用範囲	2 3. 柱補強工事 工法の種別： ・構造特記仕様書による ・溶接金網巻き工法 ・溶接閉鎖7-7 巻き工法 ・鋼板巻き工法 ・帯板巻き付け工法	⑧章 耐震改修工事	28.3 土工	◎埋戻し及び盛土 種別： ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・搬入まき土（砂礫等の混入のない良質なものとし、水締め、機器による締固めとする） ◎建設発生土の処理 ・現場説明書による ・構外搬出適切処理 ※構内指定場所堆積 ・構内指定場所敷均し ・他現場に搬入（ ） ・ ・指定処分地（ ） ◎山留めの撤去 ・撤去 ・存置 ・ ◎試験杭 試験杭の位置、本数、寸法： ・図示 ・ ◎載荷試験 載荷試験： ・水平試験 ・鉛直試験 ・ 試験杭の位置、本数、載荷荷重： ・図示 ・ 試験方法： ・図示 ・ 試験報告書の記載事項等： ・図示 ・ ◎地盤の載荷試験 載荷試験： ・平板載荷試験 ・ 試験の位置、載荷荷重： ・図示 ・ 試験方法： ・図示 ・ 試験報告書の記載事項等： ・図示 ・ ◎杭地業は「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」4章「地業工事」による。
	12.5 施工確認試験		23.5 溶接金網巻き工法 溶接閉鎖7-7 巻き工法	23.6 鋼板巻き工法及び 帯板巻き付け工法		●公4章 地業工事	●公3. 既製コンクリート杭地業
	13.10 仮 組		23.6 鋼板巻き工法及び 帯板巻き付け工法	23.7 仕上げ		公3.1 適用範囲	工法の適用： ・打込み工法(4.3.3) ・セメント工法(4.3.4) ・特定埋設杭工法(4.3.5) ・図示
	14.2 摩擦面の性能及び 処理		23.7 仕上げ	24.4 施 工		公3.2 材 料	材料の強度等による区分： ・ 杭の寸法、継ぎ手の箇所数、杭先端形状： ・図示 ・ 杭の設計支持力： ・図示 ・ 施工法の種類： ・図示 ・
	14.7 締付け		24.4 施 工	25.2 施 工		公3.3 打込み工法	プレボーリングの掘削深さ及び径： ・図示 ・深さ： m 径： m 試験杭の推定支持力の算定方法： ・図示 ・ 杭の支持地盤への根入れ深さ： ・図示 ・ 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ・
	15.3 技能資格		25.2 施 工	26.7 支承材・減衰材		公3.3 打込み工法	支持地盤の位置、種類： ・図示 ・ アースオーガーの支持地盤への掘削深さ： ・図示 ・ 杭の支持地盤への根入れ深さ： ・図示 ・ 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ・
	15.4 材料準備		26.7 支承材・減衰材	26.10 支承材又は 減衰材の設置		公3.5 特定埋設杭工法	施工法の種類： ・図示 ・ 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ・ 支持地盤の位置、種類： ・図示 ・ 杭の継手の工法： ・7-7溶接 ・無溶接継手（工法； ） 杭頭の処理法： ・図示 ・
	15.7 溶接施工		26.10 支承材又は 減衰材の設置	26.13 仕上げ		公4.1 適用範囲	4. 鋼杭地業 工法の適用： ・打込み工法(4.4.3) ・特定埋設杭工法(4.4.4) ・図示
	15.11 溶接部の試験		26.13 仕上げ	26.14 耐火被覆		公4.2 材 料	材料の種類： ・SKK400 ・SKK490 ・SHK400 ・SHK490M ・図示 杭の現場継手の工法： ・自動7-7溶接 ・半自動7-7溶接 ・
	17.3 塗料の種類		26.14 耐火被覆	26.15 免震ジョイント等		公5.1 適用範囲	5. 現場打ちコンクリート杭地業 工法の適用： ・7-7スリット工法(4.5.4) ・リバー工法(4.5.4) ・オールケーシング工法(4.5.4) ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法(4.5.5) ・拡底杭工法(4.5.5) ・図示
18.2 種別及び性能	26.15 免震ジョイント等	26.16 検 査	公5.3 材料その他	帯筋の加工、組立： ・図示 ・ 鉄筋の最小かぶり厚さ： ・図示 ・60mm ・ mm セメントの種類： ・普通ポルトランドセメント 高炉セメントB種 ・混合セメント ・図示 ・ コンクリートの設計基準強度： ・ $F_c=21\text{N/mm}^2$ ・ $F_c=24\text{N/mm}^2$ ・図示 コンクリートの種別： ・A種 ・B種 ・図示 コンクリートの構造体強度補正值(S)： ・図示 ※3N/mm ・			
20.4 溶融亜鉛めっき 高力ボルト接合	26.16 検 査	27.2 既存部分の撤去等					
21.2 既存部分の撤去等	27.2 既存部分の撤去等	27.4 減衰材					
21.3 既存部分の処理	27.4 減衰材	27.6 減衰材の設置					
21.6 鉄筋の加工、組立	27.6 減衰材の設置	27.8 仕上げ					
21.8 コンクリートの打込み	27.8 仕上げ	27.9 検 査					
21.9 既存との取合い	27.9 検 査						
21.10 仕上げ							
22.7 既存との取合い		28.2 既存杭の撤去等					
22.9 仕上げ							

原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 阪東橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	建築仕様書（8）		
縮 尺	—	図面番号	A-9
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

⑧章 耐震改修工事	項 目	特記事項	章	項 目	特記事項	章	項 目	特記事項																									
	部 位	メーカー・品名・品種・品番	備 考	指定メーカー等リスト	部 位	メーカー・品名・品種・品番	備 考	指定工事／業者等リスト	項 目	業者名・連絡先	備 考																						
公5.4 打設工法、バース工法、オールド工法	支持地盤の位置、種類： ・図示 ・ 杭孔壁の超音波測定： ・行わない ・行う（ 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ・ 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ・	◎砂利、砂、捨てコンクリート地業等は 「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」 4 章 [地業工事] による。 砂利及び砂地業の厚さ： ・図示 ※60mm ・100mm ・120mm ・150mm ・ 捨てコンクリートの厚さ： ・図示 ※50mm ・ mm ・120mm ・150mm ・ 床下防湿層の適用： ・適用しない ・適用する ・図示 床下防湿層の範囲： ・図示 ・	9 章 環境配慮改修工事		5.3 現場吹付発砲断熱材	材料： ・吹付け硬質ウレタンフォーム ・ 種類： ・A種1 ・ 難燃材： ・1級 ・2級 ・3級 吹付け厚さ(mm) ・図示 ・25 ・30 ・20	6. 屋上緑化改修工事 芝の種類： ・コライシバ ・バシバ ・ 地被類の樹種／芽立数／コンテナ径／コンテナ数： ・図示 ・ 緑材、舗装材、水抜き管、マルチング材等： ・図示 ・ 建設省告示第1458号に対応した工法： ・ 灌水装置の設置／種類： ・設置しない ・設置する【種類： ・図示 ・】 既存保護層等の撤去： ・撤去しない ・撤去する 新植芝、地被類の枯保証期間： ・1年 ・半年 ・		7. 透水性アスファルト舗装改修工事 既存舗装の撤去： ・撤去しない ・撤去する【範囲等： ・図示 ・改修部分全面】 既存舗装の再利用： ・再利用しない ・再利用する【範囲等： ・図示 ・改修部分全面】 凍上抑制層の適用： ・適用しない ・適用する 厚さ： ・車道部 mm ・歩道部 mm 透水性舗装のフィルター層の適用： ・適用しない ・適用する 厚さ： 車道部【・150mm ・ mm】 歩道部【・50mm ・ mm】 路床安定処理の適用： ・適用しない ・適用する 路床安定処理の方法： ・添加材料による処理 ・図示 ・ 処理内容：【厚さ： ・300mm ・】 【目標CBR： ・5以上 ・】 盛土の種類： ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 フィルター層の材料： ・砂 ・図示 ・ 砂の品質： ・75μmふるい通過量10%以下 ・ 路床安定処理用添加材料： ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライッシュセメント ・生石灰【・特号 ・1号】 ・消石灰【・特号 ・1号】 ジオテキスタイルの適用： ・適用しない ・適用する； 路床土のCBR試験： ・行わない ・行う【・乱した土 ・乱さない土】 路床締固め度試験： ・行う ・行わない 車道部の路盤の厚さ： ・図示 ・150mm ・ 歩道部の路盤の厚さ： ・図示 ・100mm ・ 路盤の材料： ※砕石【※クラッシュラン ・粒度調整砕石】 ※再生材【※クラッシュラン ※クラッシュラン鉄鋼スラグ ・粒度調整砕石】 舗装の厚さ(mm)：車道部【・50mm ・ mm】 歩道部【・30mm ・ mm】 舗装の平坦性： ・図示 ※標準仕様書による ・ アスファルトの種類（車道部）： ・図示 ※リマー改質アスファルトⅠ型 ・ポリマー改質アスファルトⅡ型 ・ アスファルトの種類（歩道部）： ・図示 ※ストリートアスファルト アスファルトの抽出試験： ・行う ・行わない	6.2 材 料	6.3 工 法	6.4 枯補償	7.2 既存舗装の撤去及び再利用	7.3 路 床	7.4 路 盤	7.5 舗装の構成及び仕上り	7.9 試 験																
公5.5 場所打鋼管コンクリート杭工法、拡張杭工法																																	
公6.3 砂利及び砂地業																																	
公6.4 捨てコンクリート地業																																	
公6.5 床下防湿層																																	
1.1 一般事項	1. アスベスト含有建材の除去工事 封じ込め処理： ・適用しない ・適用する【処理方法： ・図示 ・】 囲い込み処理： ・適用しない ・適用する【処理方法： ・図示 ・】 アスベスト含有建材撤去後の仕上げ： ・図示 ・ 分析によるアスベスト含有の調査： ・JIS A 1481-2 ・JIS A 1481-3 アスベスト調査建材 外部： 内部： 合計 アスベスト粉塵濃度測定： ・行わない ・行う ・図示 ・																																
1.3 アスベスト含有吹付け材の除去	除去工法： ※標準仕様書9.1.3(b)(1)による ・図示 ・ 除去物の処理： ※密封処理 ・セメント固化 ・図示 ・																																
2.3 改修工法の種類及び工程	2. 断熱アスファルト防水改修工事 <table><tr><th>施工部位</th><th>工法／種別</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・PHR階屋上</td><td>・PIBI／・BI-1 ・BI-2</td><td>断熱材：t=</td></tr><tr><td>・R階屋上</td><td>・P2AI／・AI-1 ・AI-2</td><td>断熱材：t=</td></tr><tr><td></td><td>・P0DI／・DI-1 ・DI-2</td><td>断熱材：t=</td></tr><tr><td></td><td>・T1BI／・BI-1 ・BI-2</td><td>断熱材：t=</td></tr><tr><td></td><td>・M3DI／・DI-1 ・DI-2</td><td>断熱材：t=</td></tr><tr><td></td><td>・M4DI／・DI-1 ・DI-2</td><td>断熱材：t=</td></tr></table>	施工部位	工法／種別		備 考	・PHR階屋上	・PIBI／・BI-1 ・BI-2		断熱材：t=	・R階屋上	・P2AI／・AI-1 ・AI-2	断熱材：t=		・P0DI／・DI-1 ・DI-2	断熱材：t=		・T1BI／・BI-1 ・BI-2	断熱材：t=		・M3DI／・DI-1 ・DI-2	断熱材：t=		・M4DI／・DI-1 ・DI-2	断熱材：t=									
施工部位	工法／種別	備 考																															
・PHR階屋上	・PIBI／・BI-1 ・BI-2	断熱材：t=																															
・R階屋上	・P2AI／・AI-1 ・AI-2	断熱材：t=																															
	・P0DI／・DI-1 ・DI-2	断熱材：t=																															
	・T1BI／・BI-1 ・BI-2	断熱材：t=																															
	・M3DI／・DI-1 ・DI-2	断熱材：t=																															
	・M4DI／・DI-1 ・DI-2	断熱材：t=																															
3.2 材 料	3. 外断熱改修工事 断熱材の種類及び厚さ： ・図示 ・ 外装材の種類及び防火性能： ・図示 ・																																
3.3 既存外壁の処置	既存外壁仕上げ材の撤去： ・図示 ・全面撤去 ・部分撤去 ・ 既存外壁下地面の清掃： ・図示 ・ 既存外壁下地欠損部の改修方法： ・図示 ・																																
3.4 工 法	断熱材の施工方法： ※メーカー仕様による ・図示 ・ 外装材の施工： ・図示 ・																																
4.2 材 料	4. ガラス改修工事 複層ガラスの種類・組合せ・厚さ： ・図示 ・ 複層ガラスの断熱性・日射遮蔽性区分： ※U3-1 ・U3-2																																
5.2 断熱材打込工法	5. 断熱・防露改修工事 <table><tr><th>種 類</th><th>種 別</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td>・ビーズ法[※] リスレンフォーム</td><td>・</td><td>・25 ・</td></tr><tr><td>・押出法[※] リスレンフォーム</td><td>・3種：土間コンクリート下端</td><td>・25 ・50</td></tr><tr><td>・硬質ウレタンフォーム</td><td>・A種 ・</td><td>・</td></tr><tr><td>・フェノールフォーム</td><td>・</td><td>・</td></tr></table> 接着剤の [※] M7 [※] ヒド [※] 放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・	種 類	種 別	厚さ (mm)	・ビーズ法 [※] リスレンフォーム	・	・25 ・	・押出法 [※] リスレンフォーム	・3種：土間コンクリート下端	・25 ・50	・硬質ウレタンフォーム	・A種 ・	・	・フェノールフォーム	・	・																	
種 類	種 別	厚さ (mm)																															
・ビーズ法 [※] リスレンフォーム	・	・25 ・																															
・押出法 [※] リスレンフォーム	・3種：土間コンクリート下端	・25 ・50																															
・硬質ウレタンフォーム	・A種 ・	・																															
・フェノールフォーム	・	・																															

原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	建築仕様書〈9〉		
縮 尺	—	図面番号	A-10
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）仕 上 表											
共 通 事 項		略 号		外部付属物及び詳細番号				内部付属物及び詳細番号			
1. 外部仕上表及び内、外部付属物の適用分類、詳細番号は、・印○ついたものを適用する。 2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、（例）1－02－3は建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）を示し、（例）A－02－3は下水道施設標準図（詳細）（日本下水道事業団編著）を示す。 3. 特記以外の木、鉄部の塗装はSOPとする。但し、和室回りは除く。 4. 付属物のうち、室名札、床点検口、掲示板、案内板、ピクトグラフ、階段表示板等は、平面図による。 5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。 6. 改修後のPFB板、木毛板等打込み箇所は、別図による。 7. 改修後の内壁の見え掛りとなるPFB板打込み部分は、GB厚12、5直張り（継目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。 8. 改修後の壁のボード張りは水平方向に継手は設けない。 9. 改修後の天井仕上ボード張りのうち、GB（T）及びRB（下地GB共）は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。 10. 改修後の直接地業工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚0.15の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。 11. 改修後の打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。		C CB W S GB-R GB（T） GB（W） GB-S ケイカル板 DR DR（凹凸） PFB板 HW TB 外装薄塗材（E） 内装薄塗材（Si） 内装薄塗材（E） 複層塗材（Si） C（B） C（C） M 軽量吹付	コンクリート下地 コンクリートブロック下地 木造下地 軽量鉄骨下地 せっこうボード 化粧せっこうボード（トラバーチン） 木目化粧せっこうボード シージングせっこうボード けい酸カルシウム板（タイプ2） ロックウール化粧吸音板 トラバーチン模様 ロックウール化粧吸音板 凹凸模様 押出法ポリスチレンフォーム保温材 木質系セメント板 テラゾーブロック 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 内装薄塗材（Si） 内装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 内装薄塗材（E） けい酸系複層仕上塗材 コンクリート下地（打放シB） コンクリート下地（打放シC） モルタル 軽量吹付	複層塗材（CE） 複層塗材（E） 複層塗材（RE） 複層塗材（RS） CL FE VE AE 2－UE 2－ASE 2－FUE EP-G EP EP-M EP-T UC OS SOP GP AC GW	ポリマーセメント系複層仕上塗材 合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材 反応硬化形成合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材 合成樹脂溶液系複層仕上塗材 クリヤラック塗り フタル酸樹脂エナメル塗り 塩化ビニル樹脂エナメル塗り アクリル樹脂エナメル塗り 2液形ポリウレタンエナメル塗り アクリルシリコン樹脂エナメル塗り 常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り 合成樹脂エマルジョンペイント塗り 多彩模様塗料塗り 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り ウレタン樹脂ワニス塗り オイルステイン塗り 合成樹脂調合ペイント塗り グラフアイトペイント塗り アクリル樹脂ワニス塗り（アクリル樹脂クリヤ塗り） グラスウール吸音材	・屋上点検口 ・屋上管類貫通部 ・クーリングタワー基礎 テレビアンテナ基礎 ・屋上換気塔 ・煙 突 ・タラップ ・と い ・ルーフドレン ・トップライト ・EXP、J金物 ・笠木兼用避雷導体 ・手すり ・ステンレス（図示） ・スチール（図示） ・図 示 ・H-21-1・2・3 ・8-21-1・2・3	・足洗い場 ・グレーチング ・電気用ハンドホール蓋 ・文字板 ・庁名板 ・郵便受 ・目地 ・8-23-1 ・8-23-2 ・A-04-1・2・3 ・A・B・C-（ ） ・図 示 ・図 示 ・H-18- ・図 示 ・図 示 ・図 示	・流し台 ・フード ・コンロ台 ・流し上部水切り ・つり戸だな ・水切りだな ・脱衣箱 ・天井点検口 ・床点検口 ・便所へだて ・躯体不自由者用便所 ・便所手すり ・トラフ ・くつふきマット ・タラップ ・フック ・グレーチング受枠 ・浴室まわり ・F-01-1 ・F-01-2 ・F-01-1 ・F-01-3 ・F-01-4 ・6-11-5 ・6-32-1 ・3-42-2 ・既製品 ・6-22 ・6-23-1・2 ・6-27-1・2・3・4・5 ・1-21- ・A-03- ・H-19- ・8-21- ・H-15-1 ・8-31- ・青もたれ付 H-15-2 ・図 示 ・H-15-1 ・U型H-17-1 ・釣針型H-16-2 ・図 示 ・6-31- ・図 示 ・図 示 ・図 示	・カーテンボックス ・ブラインドボックス ・鋳 製・3-31-1、2 ・3-32-5・6・7 ・アルミ製 ・3-31-3 ・C-01-1 ・C-01-2 ・屋内掲示板 ・手すり ・既製品 ・アルミ ・H-11-1 ・H-12- ・H-13-1 ・図 示 ・階段手すり ・アルミ ・H-11-1 ・図 示 ・H-12-2 ・B-02- ・B-03-1 ・7-01-1・7-01-2 ・6-46-1 ・S-14-1・図 示 ・図 示 ・図 示 ・マンホール蓋 ・図 示 ・室名札 ・ピクトグラフ ・庁舎案内板、各階案内板 ・下足箱		

外 部 仕 上 表																																						
	床				腰				外 壁（改修壁部分のみ）				屋 根				パラペット				バルコニー床				庇上端				庇はな				庇軒天				備 考	
	下地	仕 上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	詳細番号	改修内容						
改修前									M	モルタル押えの上 リソ吹付	2-02-12	㊦																										
改修後									M	モルタル押えの上 外装薄塗材（E）	2-02-12	㊧																										

内 部 仕 上 表																																	
階	室 名		床				巾 木				腰 壁				壁						天 井						備 考						
			下地	仕 上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	高さ	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	高さ	詳細番号	改修内容	柱型仕上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	高さ	詳細番号	改修内容	梁型仕上	詳細番号		改修内容					
1F	ホール	改修前	M	人造石貼	1-01-9	Ⓑ										M	モルタル押え ゾラコート吹付	2-02-12	A					W	DR(12) 下地 GB-R(9.5)	3450	3-01-3	Ⓑ					
		改修後	M	人造石貼	1-01-9	Ⓒ										M	モルタル押えの上 E P	2-02-12	a					W	DR(12) 下地 GB-R(9.5)	3450	3-01-3	Ⓒ					
																C	コンクリート打放し(B)の上 E P	2-02-7	b														
	ホール内階段部	改修前	M	アスタイル	1-01-2	Ⓑ										M	モルタル押え ゾラコート吹付	2-02-12	Ⓑ	モルタル押え ゾラコート吹付	2-02-12	Ⓑ	M	段裏 モルタルの上 S O P	—	3-01-10	Ⓓ			ノンスリップ (SUS ゴムタイヤ) ①通りの復旧に関する部分のみ	Ⓓ		
		改修後	M	ビニル床タイル	1-01-2	Ⓑ										C	コンクリート打放し(B)の上 E P	2-02-7	b	モルタル押えの上 E P	2-02-7	Ⓑ	M	段裏 モルタル押えの上 E P	—	3-01-10	Ⓑ			ノンスリップ (SUS ゴムタイヤ) ①通りの復旧に関する部分のみ	Ⓓ		
	便所、物入	改修前	C	セライト貼 軽量コンクリート(300)	1-01-6	Ⓑ										M	1 0 0 角タイル貼	2-01-1	Ⓑ	100角タイル貼	2-01-1	Ⓑ	W	耐水ベニヤ S O P	2600	3-01-5	Ⓑ						
		改修後	C	セライト貼 無筋コンクリート (300)	1-01-6	Ⓒ										M	1 0 0 角タイル貼	2-01-1	Ⓒ	100角タイル貼	2-01-1	Ⓒ	W	耐水ベニヤ S O P	2600	3-01-5	Ⓒ						
	電気室	改修前	C	無筋コンクリートの上(300) モルタル押え 塗床仕上	1-01-1	Ⓑ	M	モルタル磨キ	100	2-11-7	Ⓑ	M	モルタル押え V P	2280	—	Ⓑ	C	モルタル押え V P (外壁側 木毛セメント板 S O P)	2-02-12	Ⓑ	コンクリート打放し化粧仕上	2-02-12	A	C	木毛セメント板 S O P	スラブ下	3-01-11	A	コンクリート打放し(C)	3-01-11	A		
		改修後	C	無筋コンクリートの上(300) モルタル押え 塗床仕上	1-01-1	Ⓒ	M	モルタル押え	100	2-11-7	Ⓒ	C	—	—	—	Ⓑ	C	コンクリート打放し(C)	2-01-7	Ⓑ	コンクリート打放し(C)	2-01-7	a	C	木毛セメント板 S O P	スラブ下	3-01-11	a	コンクリート打放し(C)	3-01-11	a		
	ポンプ室	改修前	C	無筋コンクリートの上(300) モルタル押え 塗床仕上	1-01-1	Ⓑ	M	モルタル磨キ	100	2-11-7	Ⓑ	C	木毛セメント板 S O P	2280	—	Ⓑ	C	木毛セメント板 S O P	2-02-12	Ⓑ	コンクリート打放し化粧仕上	2-02-12	A	C	木毛セメント板 S O P	スラブ下	3-01-11	A	コンクリート打放し(C)	3-01-11	A		
改修後		C	無筋コンクリートの上(300) モルタル押え 塗床仕上	1-01-1	Ⓒ	M	モルタル押え	100	2-11-7	Ⓒ	C	—	—	—	Ⓑ	C	コンクリート打放し(C)	2-01-7	Ⓑ	コンクリート打放し(C)	2-01-7	a	C	木毛セメント板 S O P	スラブ下	3-01-11	a	コンクリート打放し(C)	3-01-11	a			

特記なき限り													原図：A3												
改修後の仕上材料の厚さ	材 料 名	種別	壁（m/m）	天井（m/m）	備 考	材 料 名	種別	壁（m/m）	天井（m/m）	備 考	工事区分略号	<	>	C	： 土木工事	改修内容凡例	改 修 前		改 修 後						
	GB-R	仕上	12.5	12.5	NM-8619	けい酸カルシウム板（タイプ2）		12	10	NM-8578		<	>	AM	： 建築機械設備工事		A：既存のまま B：図示の下地共撤去 C：図示の下地共一時撤去 D：図示の仕上撤去 O：今回工事	a：既存のまま b：図示の下地共新設 c：図示の下地共復旧 d：図示の仕上の新設 e：図示の下地共再取付け f：図示の下地新設、仕上復旧 O：今回工事							
		下地	12.5		QM-9828	押出法ポリスチレンフォーム保温材		25	25			<	>	AE	： 建築電気設備工事										
	GB（N）	下地		9.5	NM-1864	壁 紙						<	>	PM	： プラント機械設備工事										
	GB（NT）			9.5								<	>	PE	： プラント電気設備工事										
	GB（W）			12.5	NM-0127																				
	DR			12	NM-8599																				
																	※ 復旧・・・既設の状態に戻すこと。（前と同じ仕上げ） ※ 新設・・・前と別の仕上げになること。又は、新しく設けること。								
工事区分略号																						原図：A3			

内部仕上表

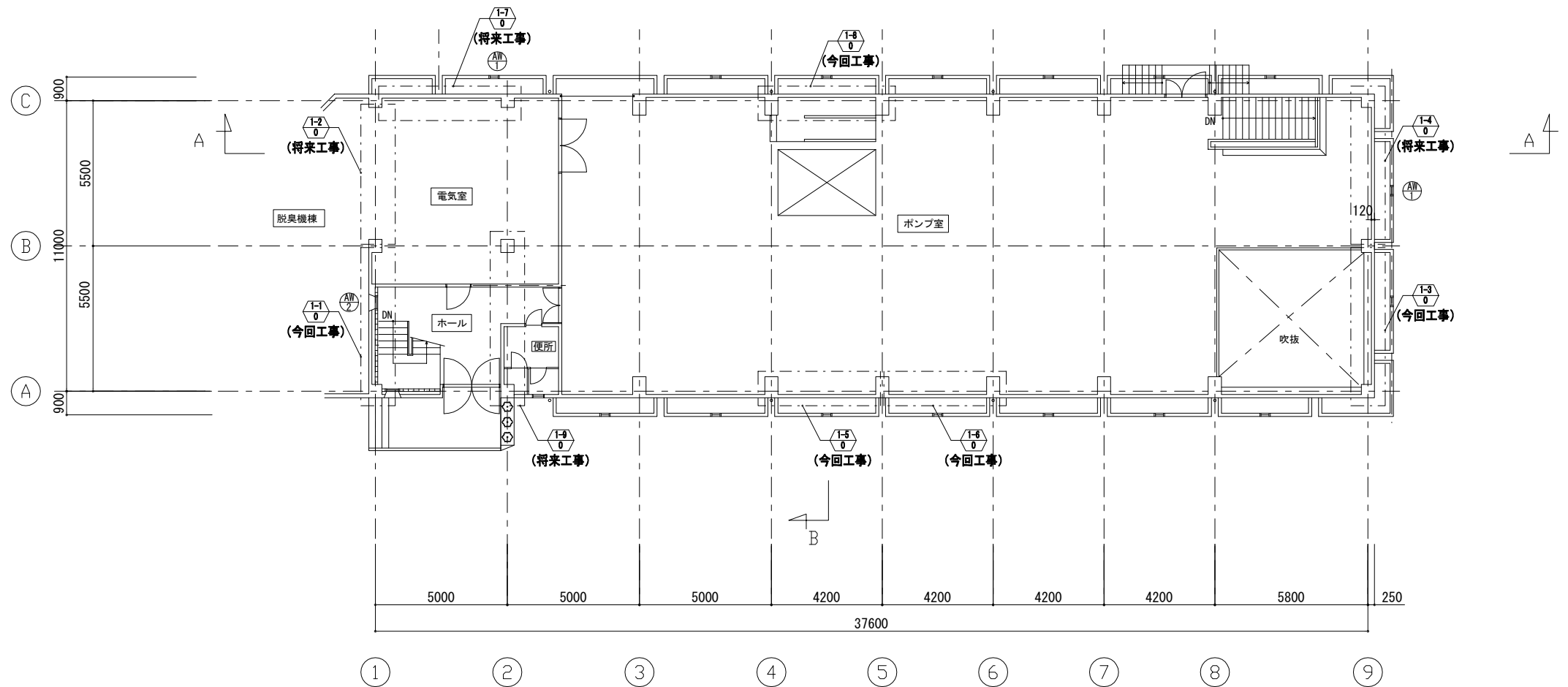
[illegible]

特記なき限り

改修後の仕上材料の厚さ	材 料 名	種別	量 (㎡)	天井 (㎡)	備 考	材 料 名	種別	量 (㎡)	天井 (㎡)	備 考	工事区分略号	改修内容凡例	改 修 前		改 修 後		工 事 名	平成30年度「地方分権第1号」 阪東橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事							
	GB-R	仕上	12.5	12.5	NM-8619	けい酸カルシウム板（タイプ2）		12	10	NM-8578			<	>	C	:		土木工事	A	:	既存のまま	津市東丸之内地内			
		下地	12.5		QM-9828	押出法ポリスチレンフォーム保温材		25	25				<	>	AM	:		建築機械設備工事	B	:	図示の下地共新設				
	GB（N）	下地		9.5	NM-1864	壁 紙							<	>	AE	:		建築電気設備工事	C	:	図示の下地共復旧	図面の種類	仕上表（2）		
	GB（NT）			9.5									<	>	PM	:		プラント機械設備工事	D	:	図示の仕上の新設		縮 尺	—	図面番号
	GB（W）			12.5	NM-0127								<	>	PE	:		プラント電気設備工事	E	:	図示の下地共再取付け	事業所名		津市下水道局下水道施設課	
	DR			12	NM-8599															O	:		今回工事		

原因：A3

工 事 名	平成30年度下水道汚物補第1号 飯奈橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	仕上表（2）		
縮 尺	—	図面番号	A-12
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



凡例

--- 改修工事範囲

○ 撤去建具

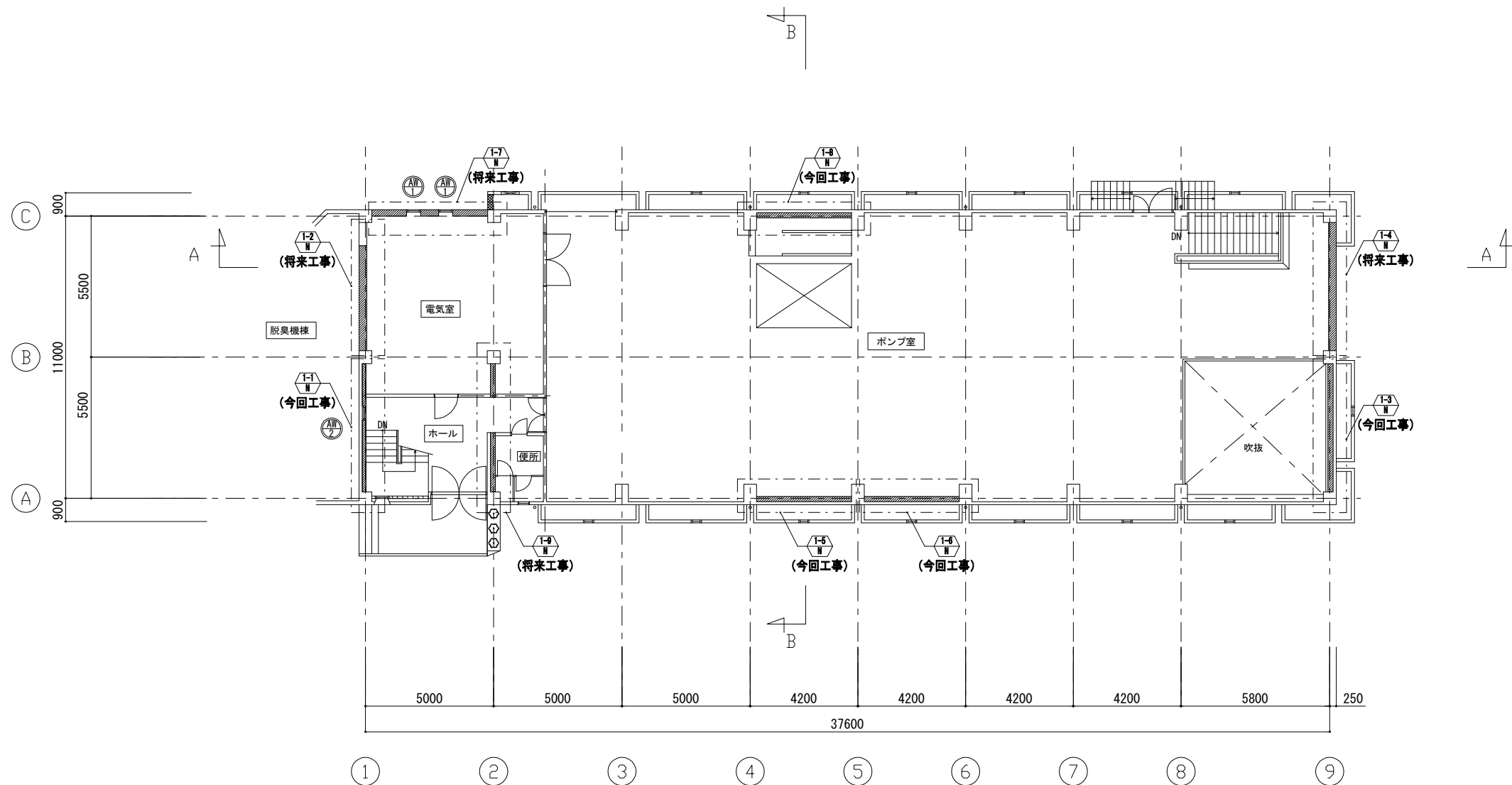
○ 新設建具

階数 改修部位番号

0 : 改修前、N : 改修後

改修前 1階平面図 1/200

原図 : A3			
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修前 1階平面図		
縮 尺	1/200	図面番号	A-13
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

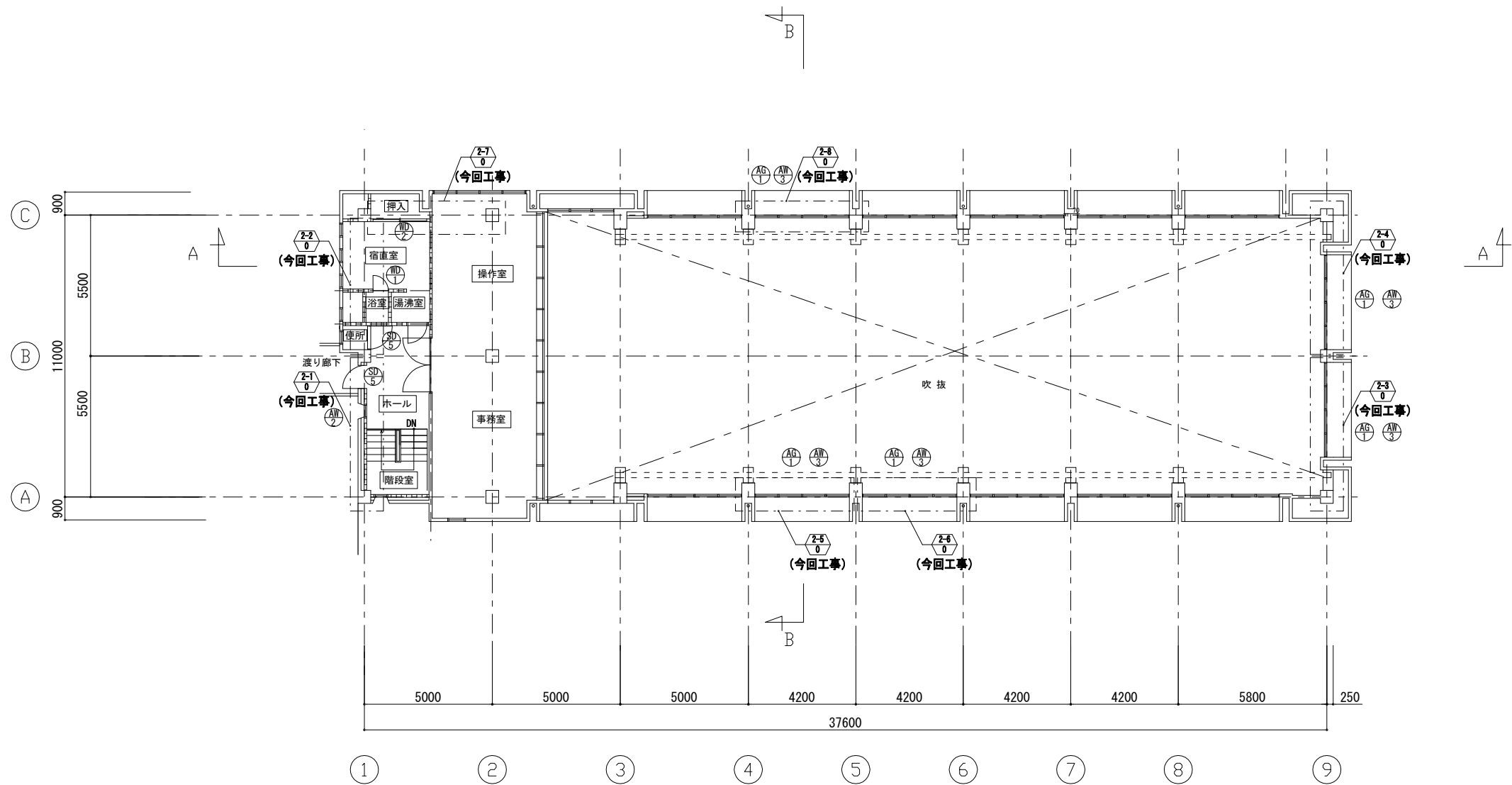


改修後 1階平面図 1/200

凡例	
	改修工事範囲
	階数
	改修部位番号
	0: 改修前、N: 改修後
	撤去建具
	新設建具
	新設耐震壁
	袖壁新設

原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修後 1階平面図		
縮 尺	1/200	図面番号	A-14
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

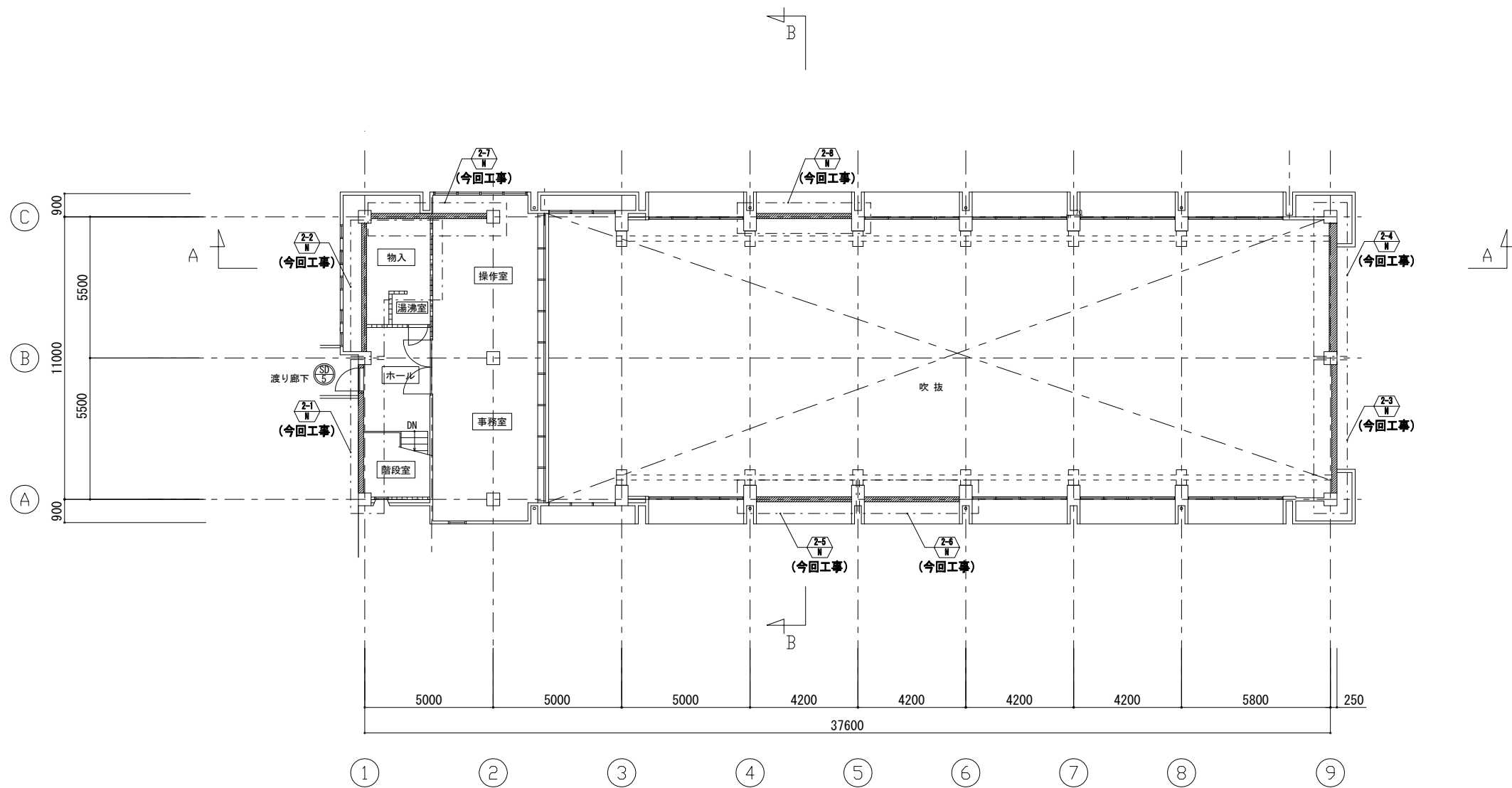


改修前 2階平面図 1/200

凡例			
改修工事範囲		撤去建具	
改修部位番号		新設建具	
階数	改修部位番号	0 : 改修前、N : 改修後	

原図：A3

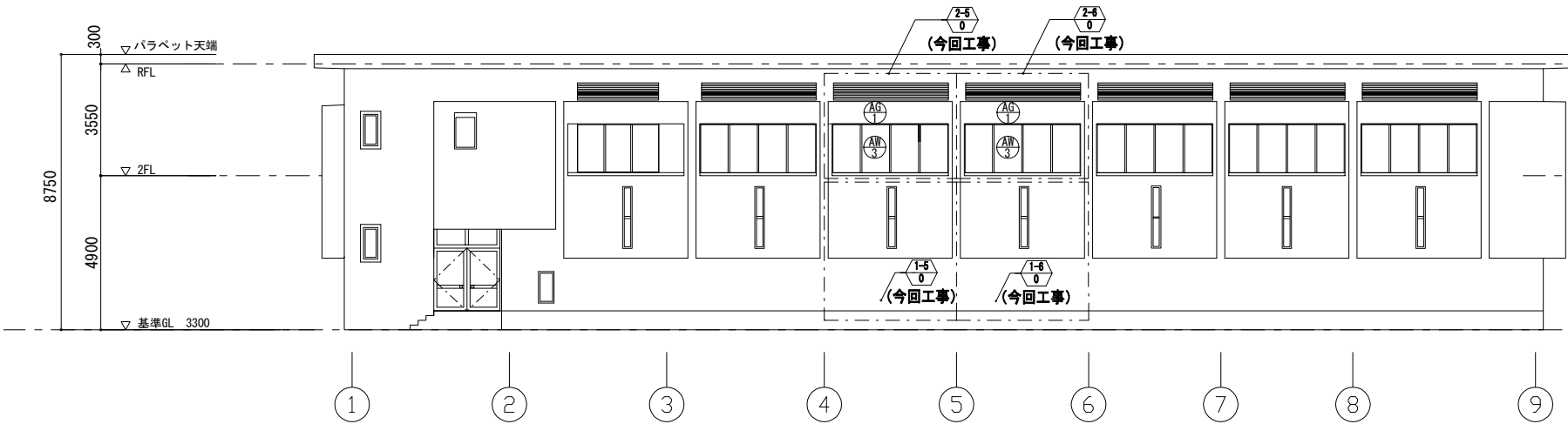
工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修前 2階平面図		
縮 尺	1/200	図面番号	A-15
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



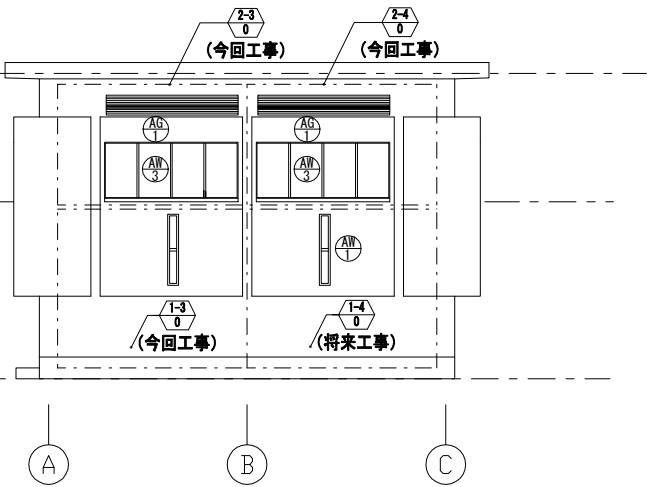
凡例	
	改修工事範囲
	階数 改修部位番号 0: 改修前、N: 改修後
	撤去建具
	新設建具
	新設耐震壁

改修後 2階平面図 1/200

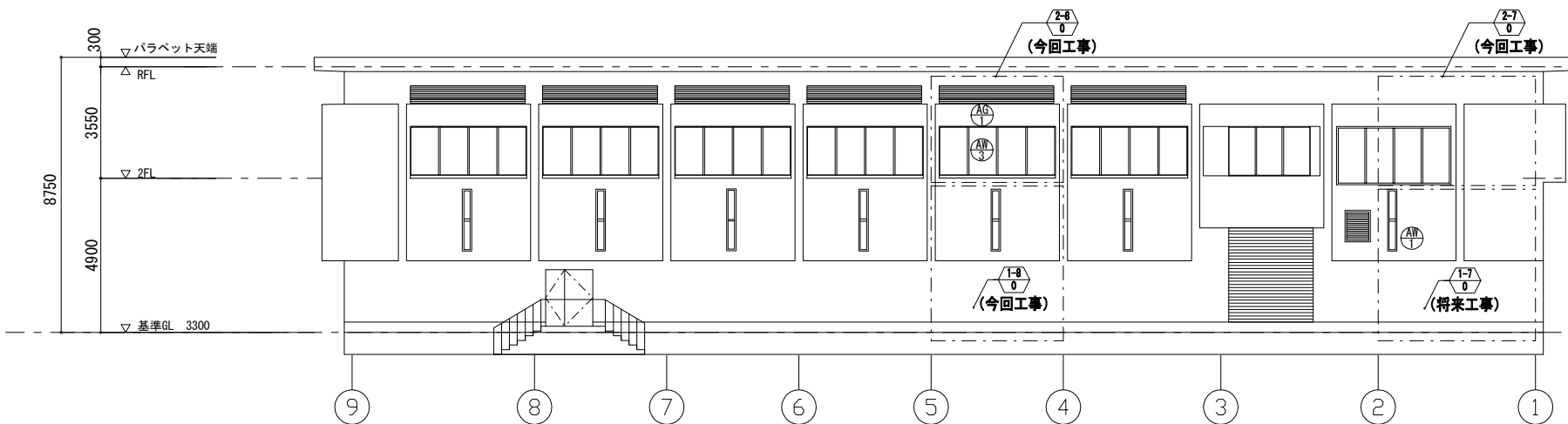
原図：A3			
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修後 2階平面図		
縮 尺	1/200	図面番号	A-16
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



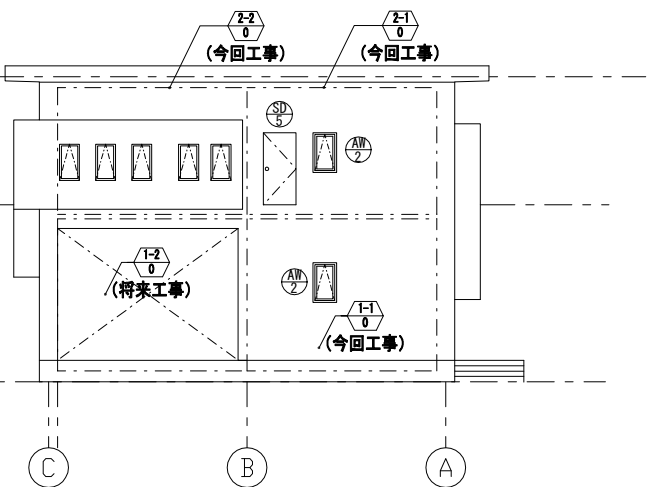
改修前 南立面図 1/200



改修前 東立面図 1/200



改修前 北立面図 1/200



改修前 西立面図 1/200

凡例

改修工事範囲

階数

0-0

0

改修部位番号

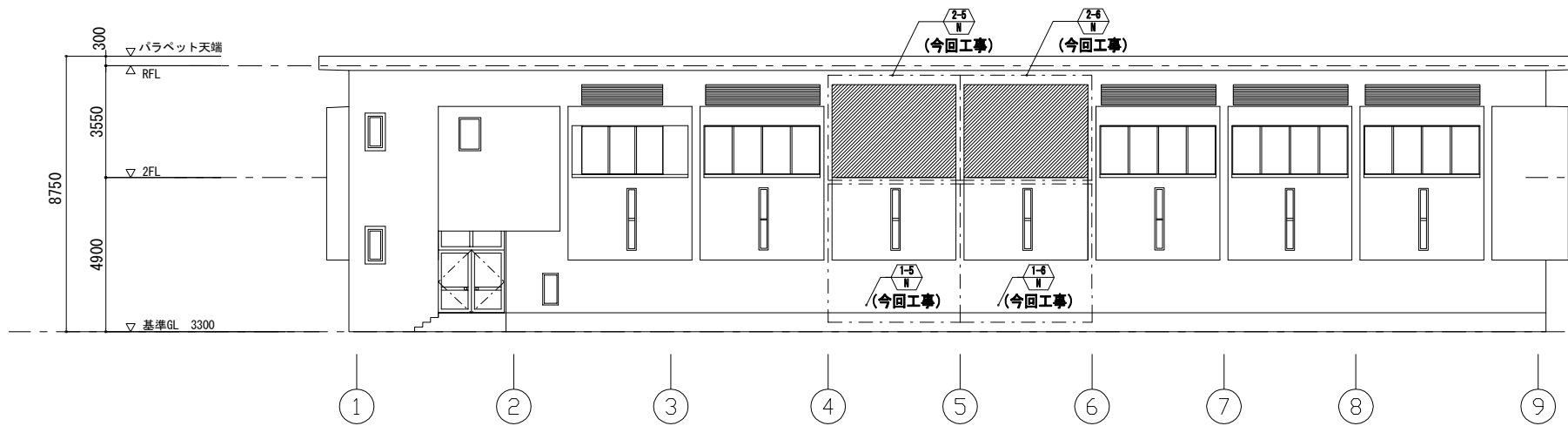
0 : 改修前、N : 改修後

撤去建具

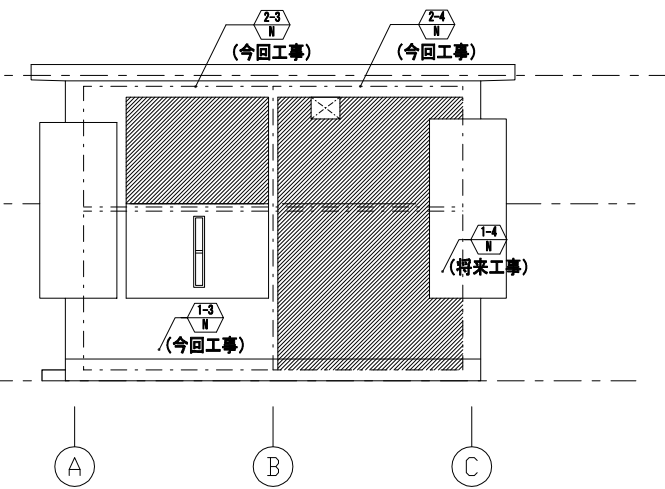
新設建具

原図：A3

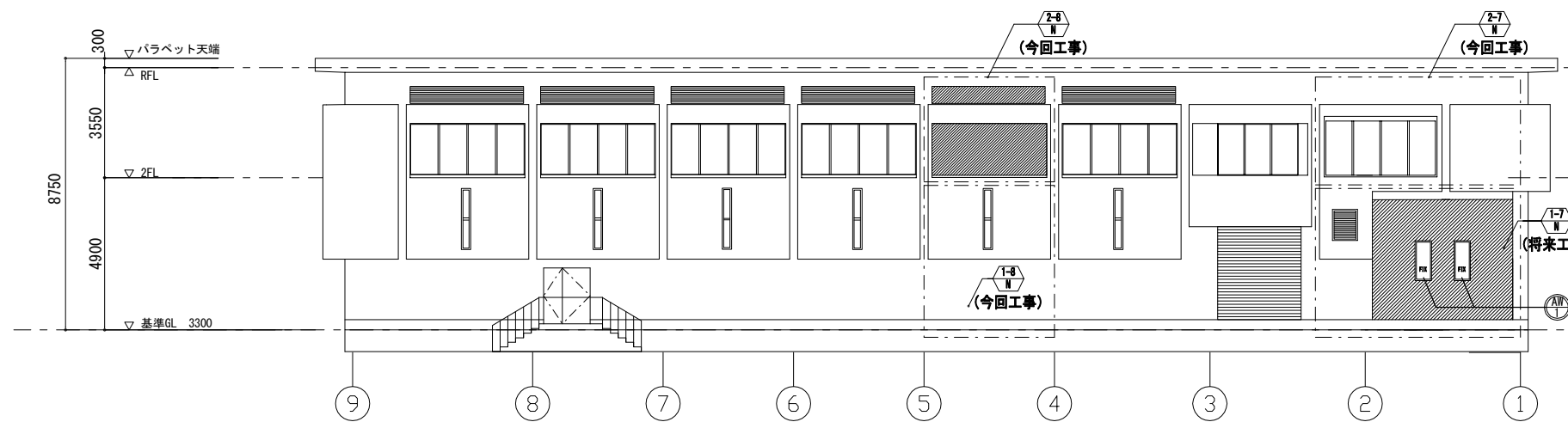
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修前 立面図		
縮 尺	1/200	図面番号	A-17
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



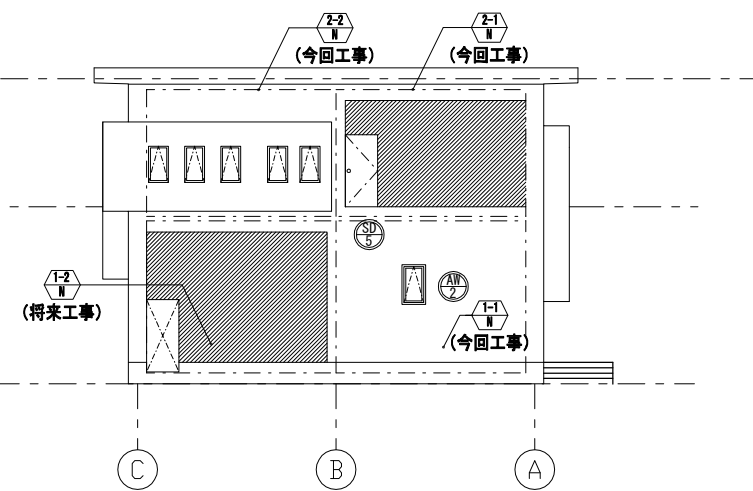
改修後 南立面図 1/200



改修後 東立面図 1/200



改修後 北立面図 1/200



改修後 西立面図 1/200

凡例

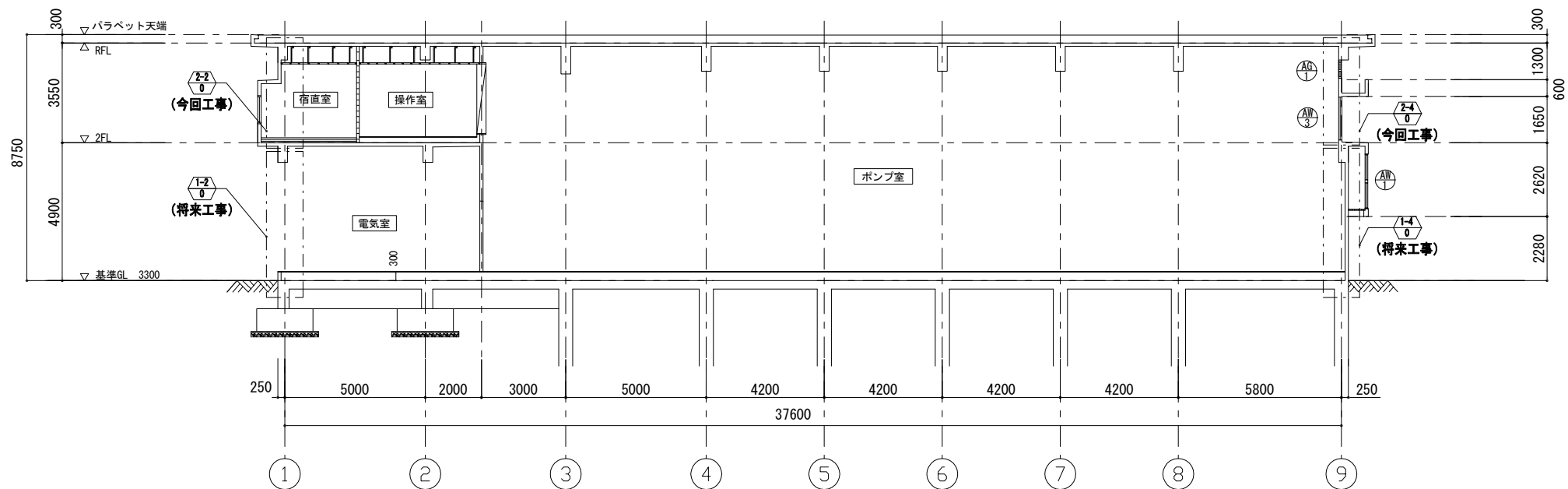
○ 撤去建具
○ 新設建具
■ 新設耐震壁

改修工事範囲

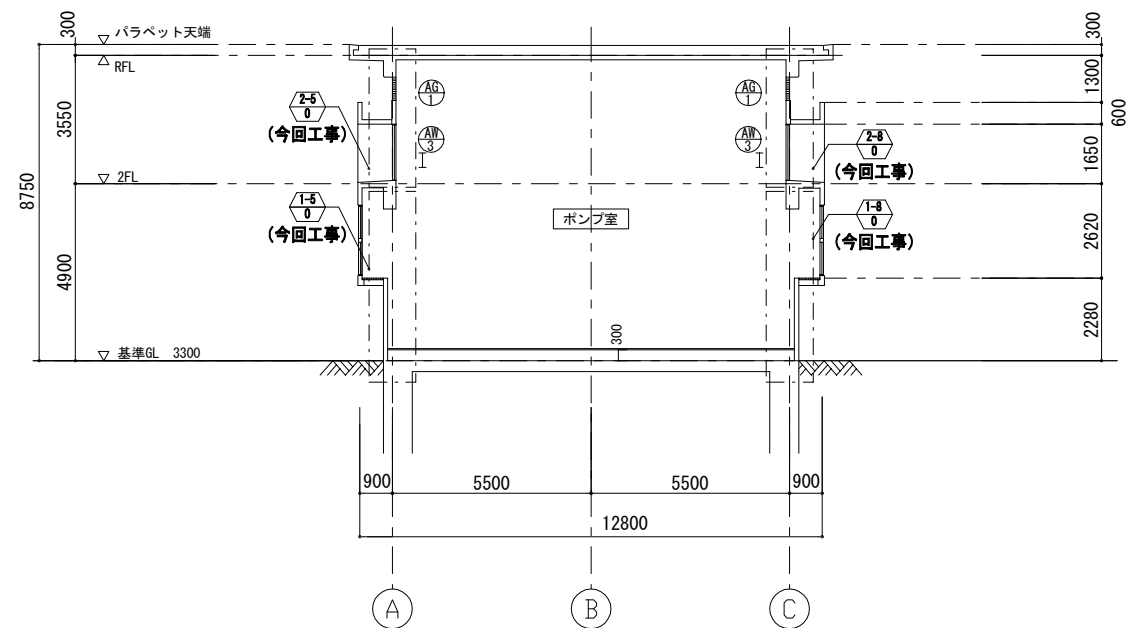
階数 改修部位番号
0 : 改修前、N : 改修後

原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修後 立面図		
縮 尺	1/200	図面番号	A-18
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



改修前 A-A 断面図 1/200



改修前 B-B 断面図 1/200

凡例

改修工事範囲

階数

改修部位番号

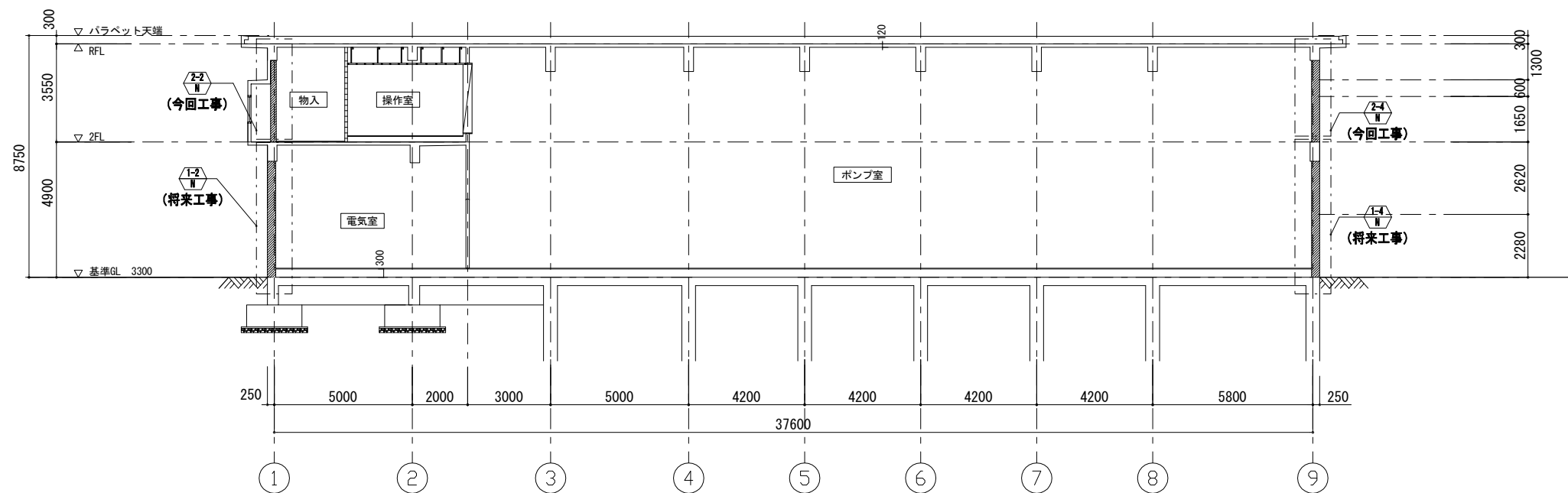
0: 改修前、N: 改修後

撤去建具

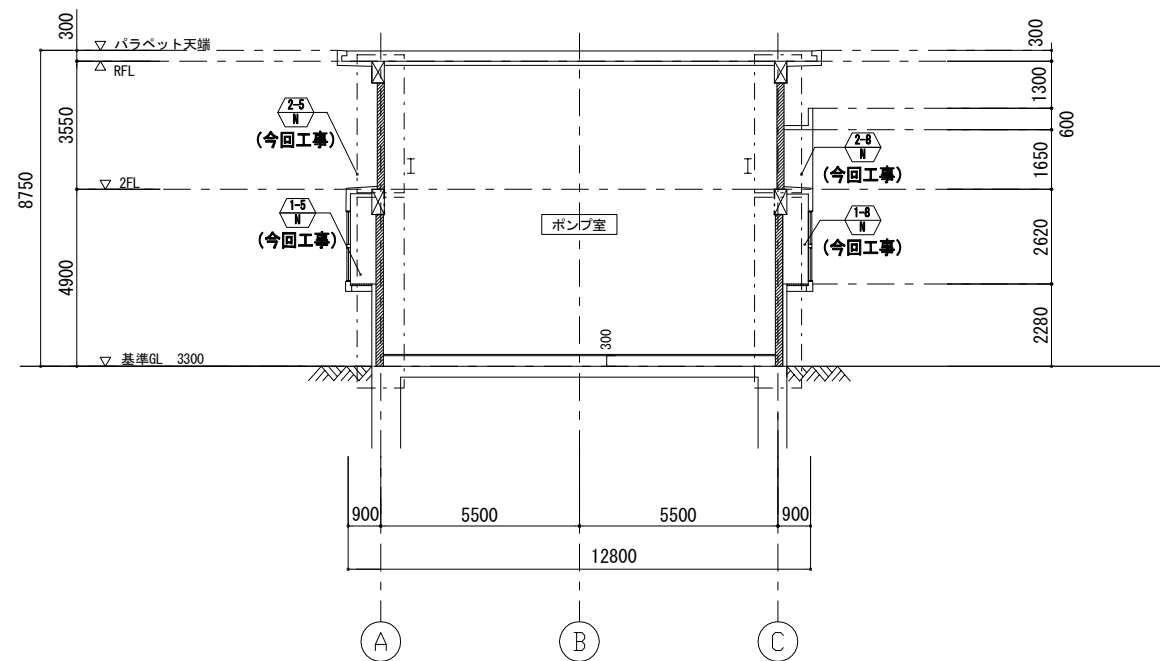
新設建具

原図: A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修前 断面図		
縮 尺	1/200	図面番号	A-19
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



改修後 A-A 断面図 1/200

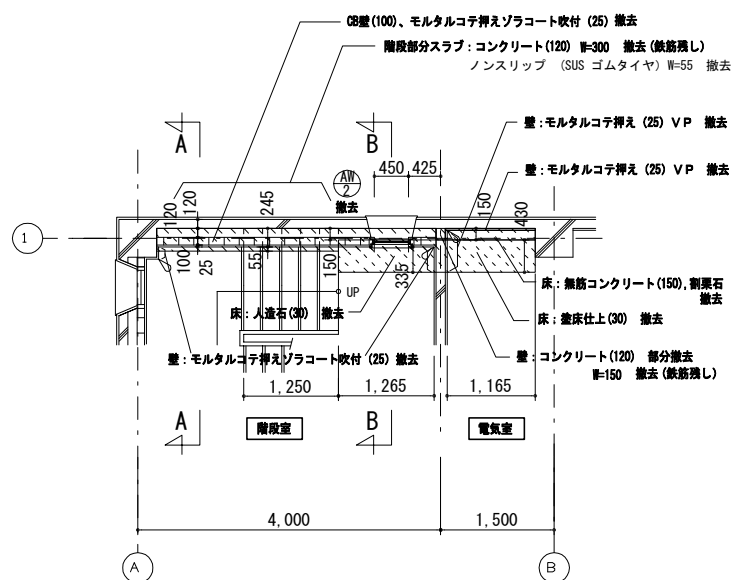


改修後 B-B 断面図 1/200

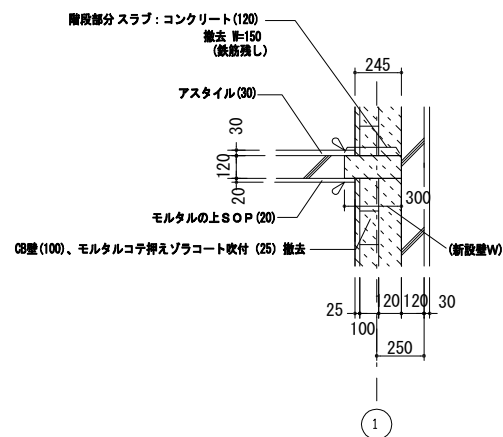
凡例	
	改修工事範囲
	階数
	改修部位番号
	0 : 改修前、N : 改修後
	撤去建具
	新設建具
	新設耐震壁

原図：A3

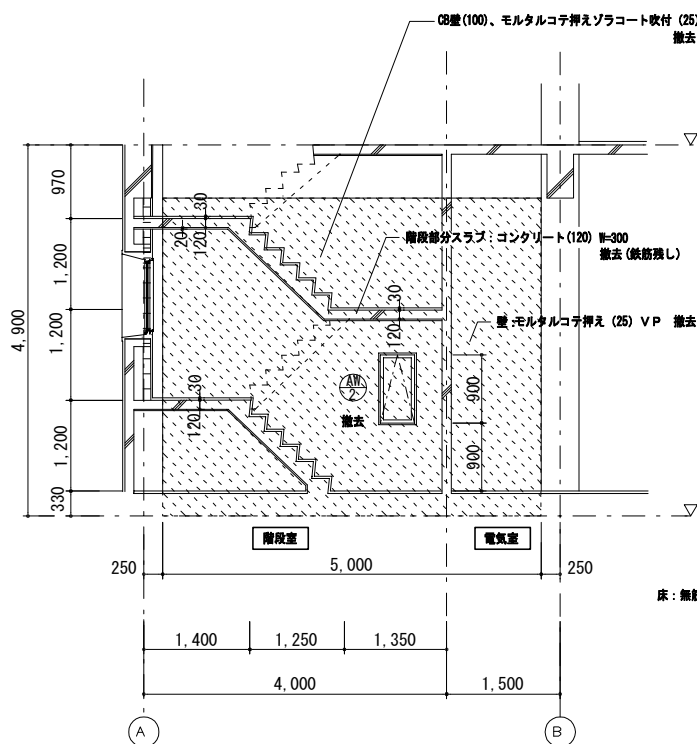
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修後 断面図		
縮 尺	1/200	図面番号	A-20
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



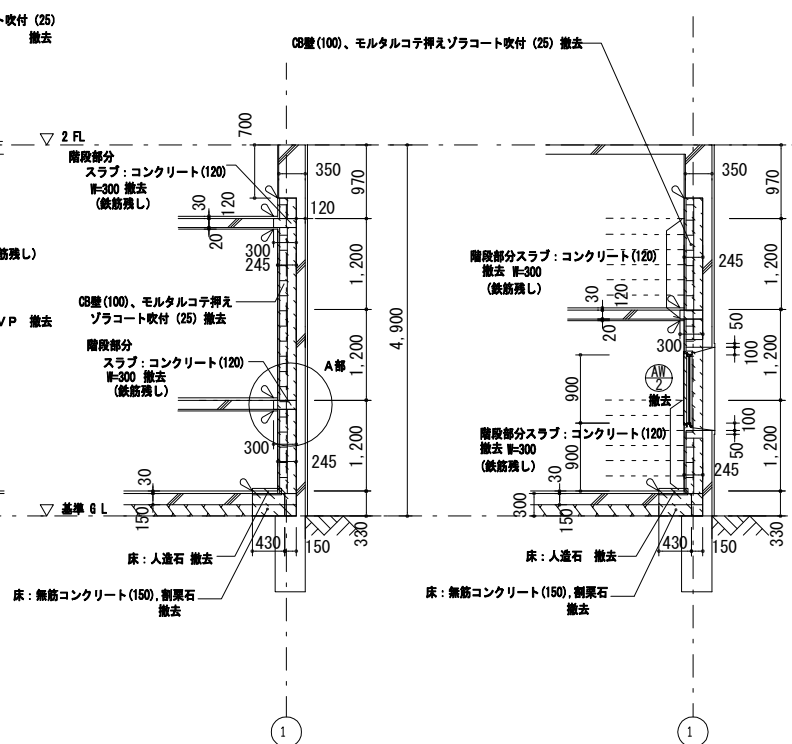
平面图 1/100



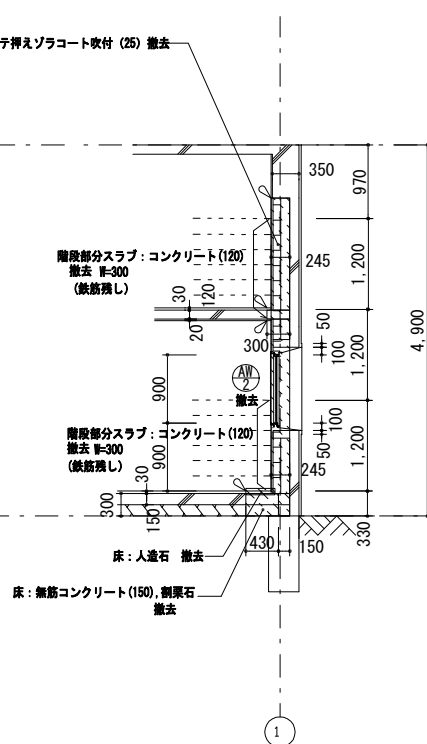
A部 詳細図 1/40



立断面图 1/100



A-A断面图 1/100



B-B断面图 1/100

※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

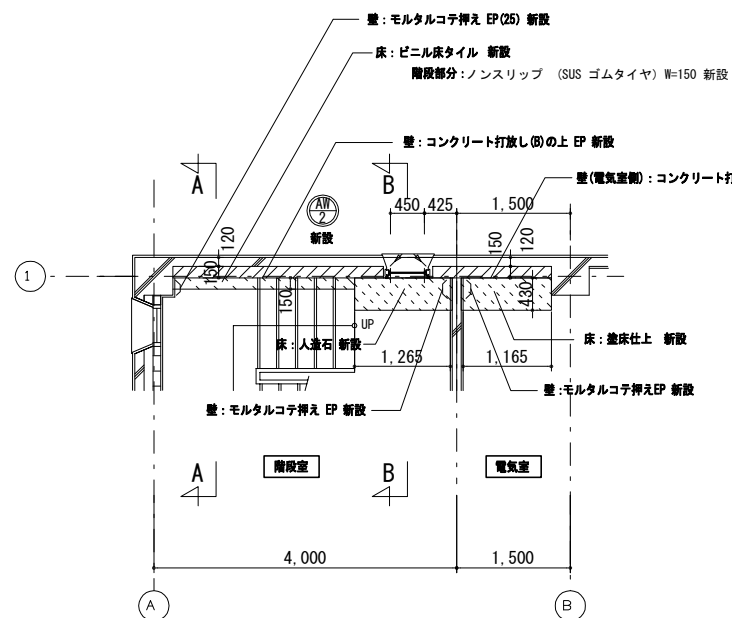
(改修前 凡例)



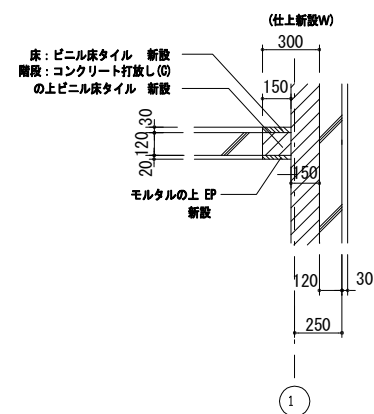
撤去範囲を示す



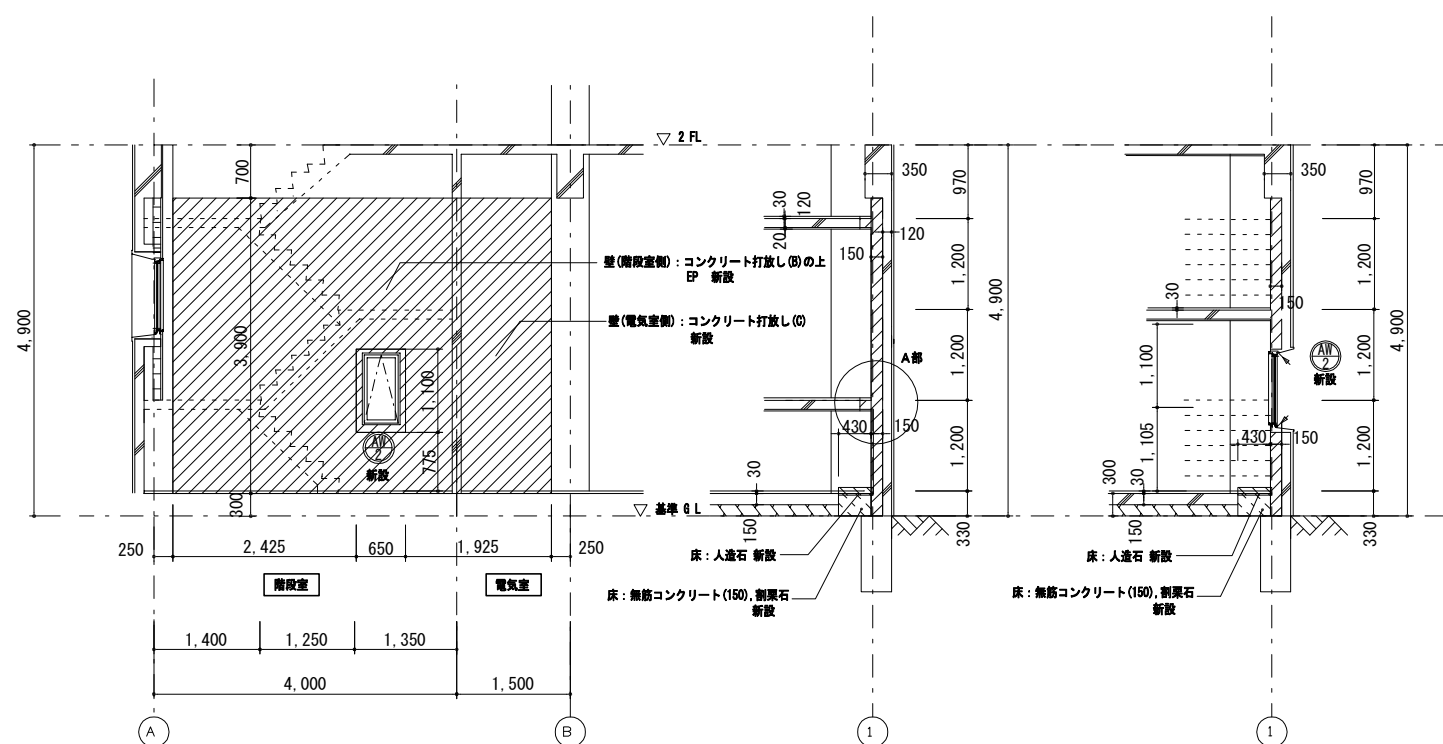
カッター入れを示す



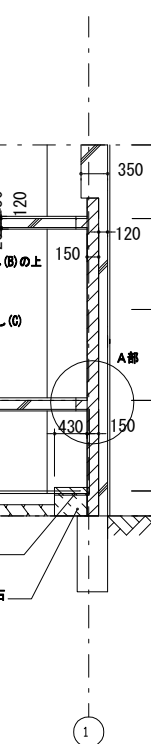
平面图 1/100



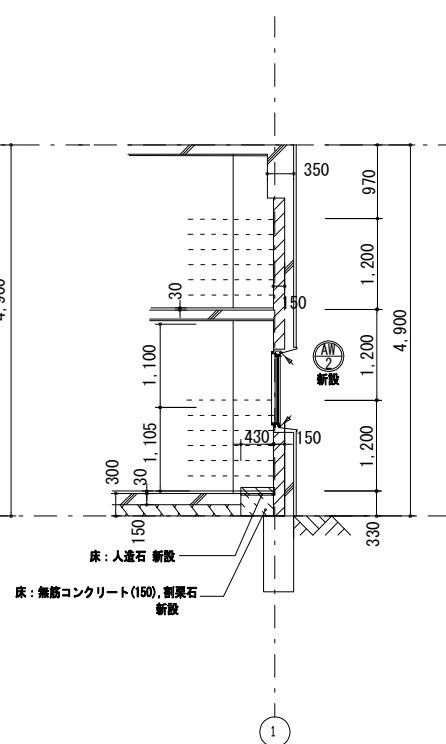
A部 詳細図 1/40



立断面图 1/100



A-A断面图 1/100



B-B断面图 1/100

(改修後 凡例)



補修範囲を示す



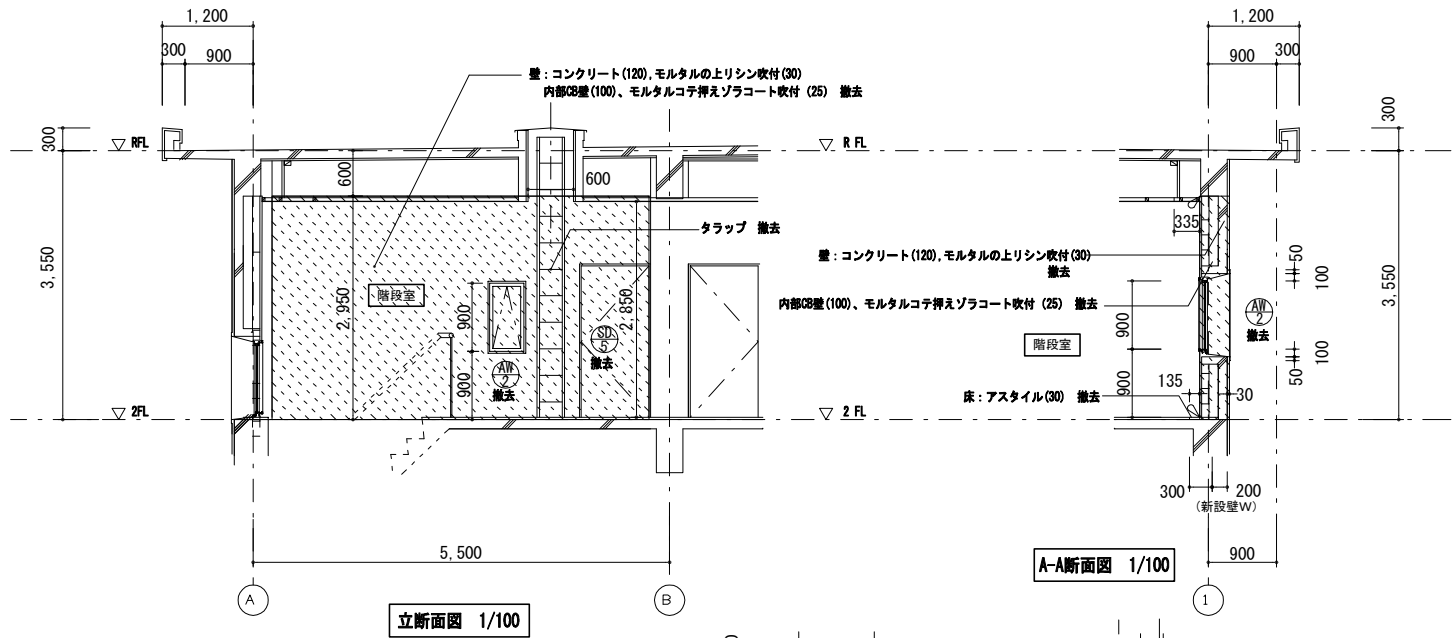
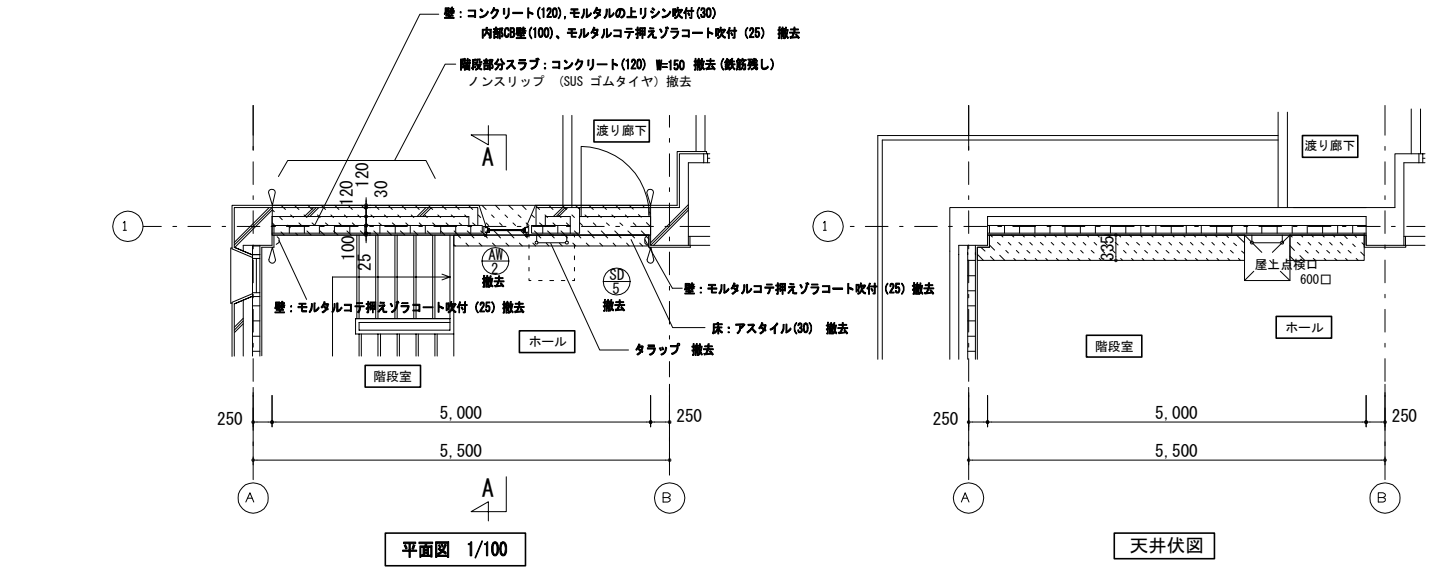
新設壁を示す



シーリングを示す

原図：A3

工 事 名	平成30年度下汚劣補第1号 極東橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図（1）		
縮 尺	1/100 1/40	図面番号	A-21
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

タラップ 撤去 詳細図 1/40

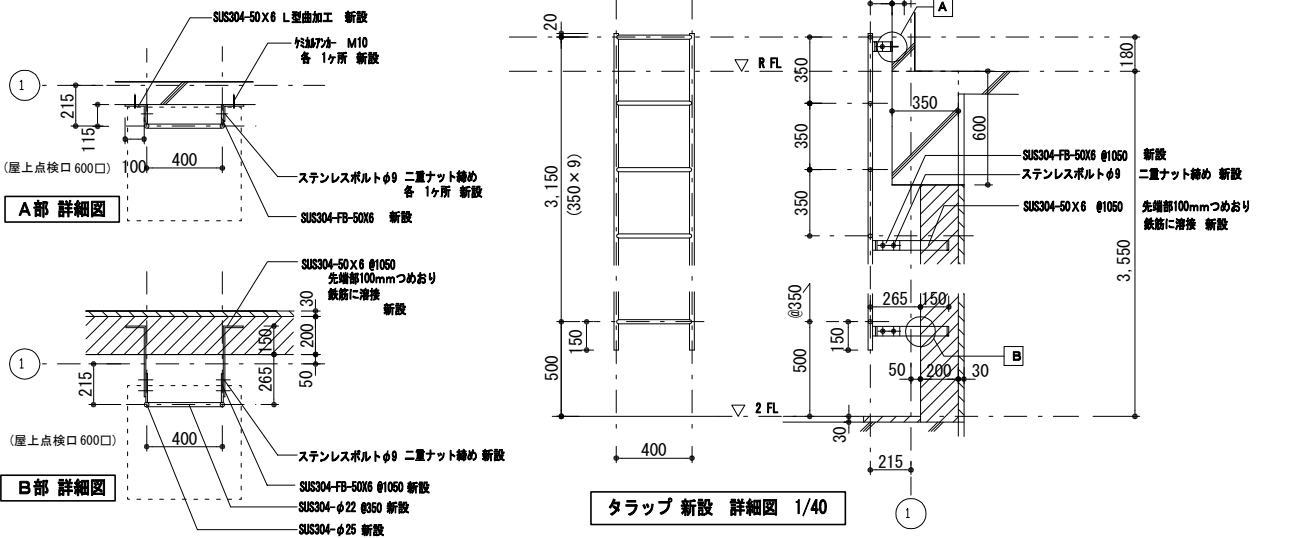
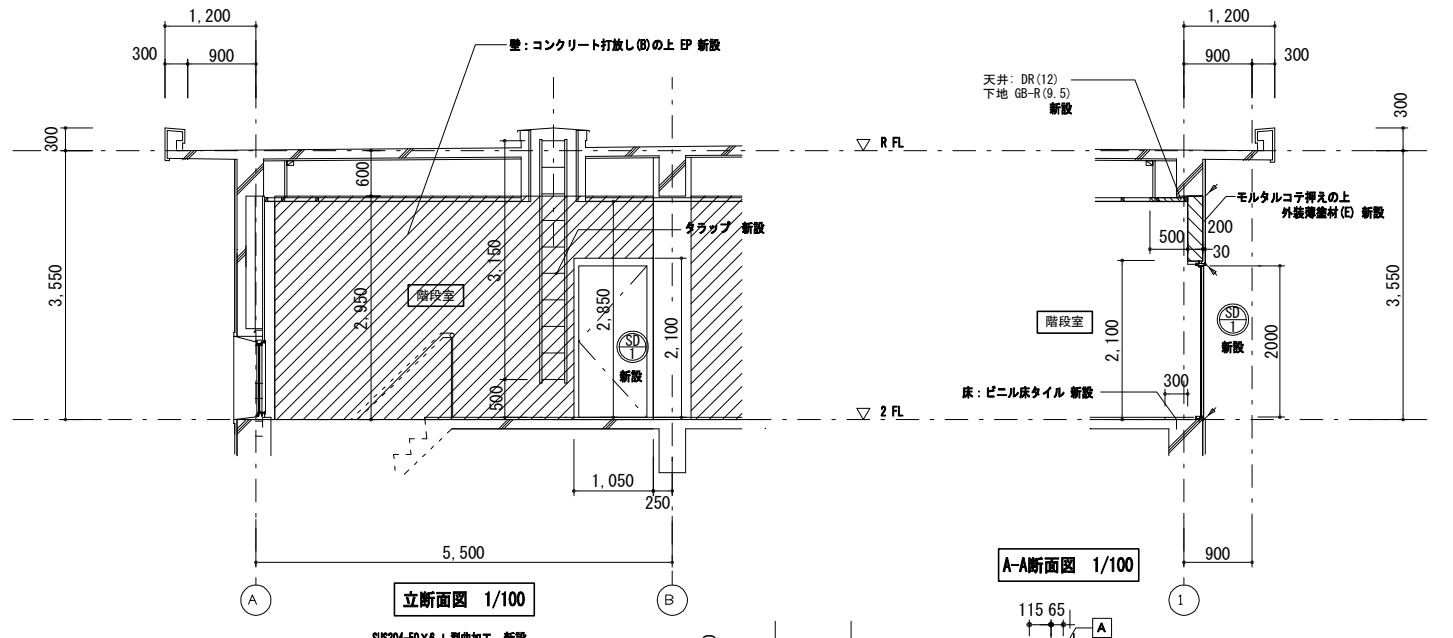
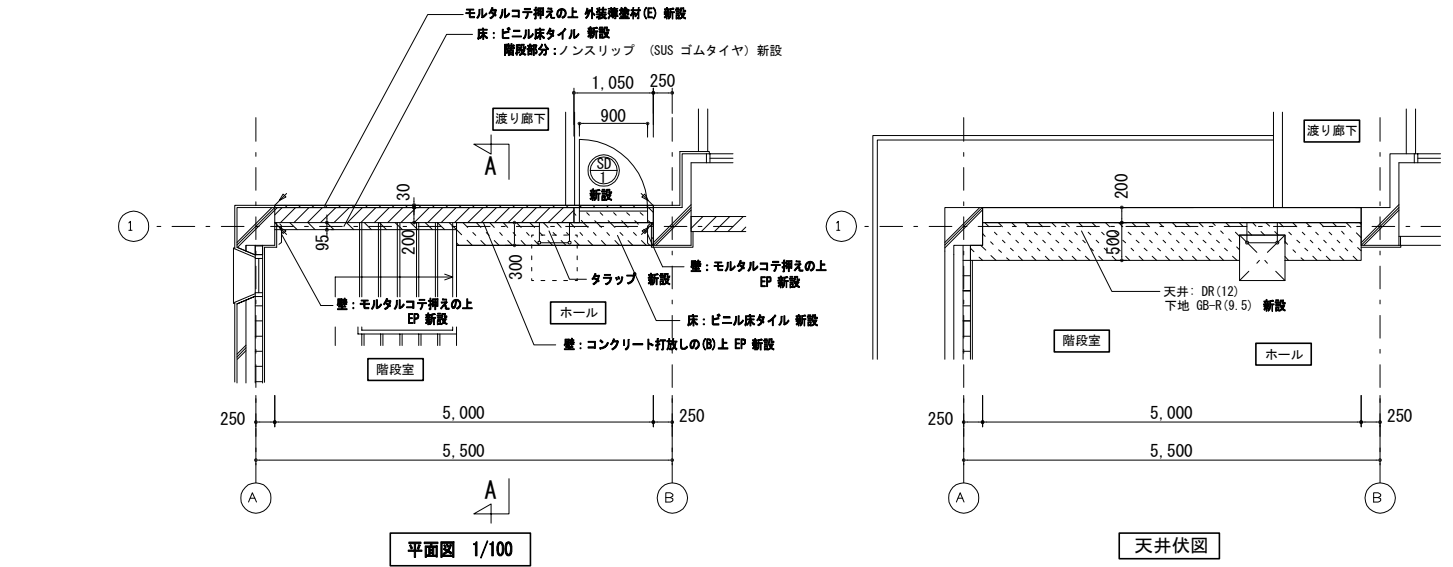
(改修前 凡例)



撤去範囲を示す



カッター入れを示す



(改修後 凡例)



補修範囲を示す



新設壁を示す



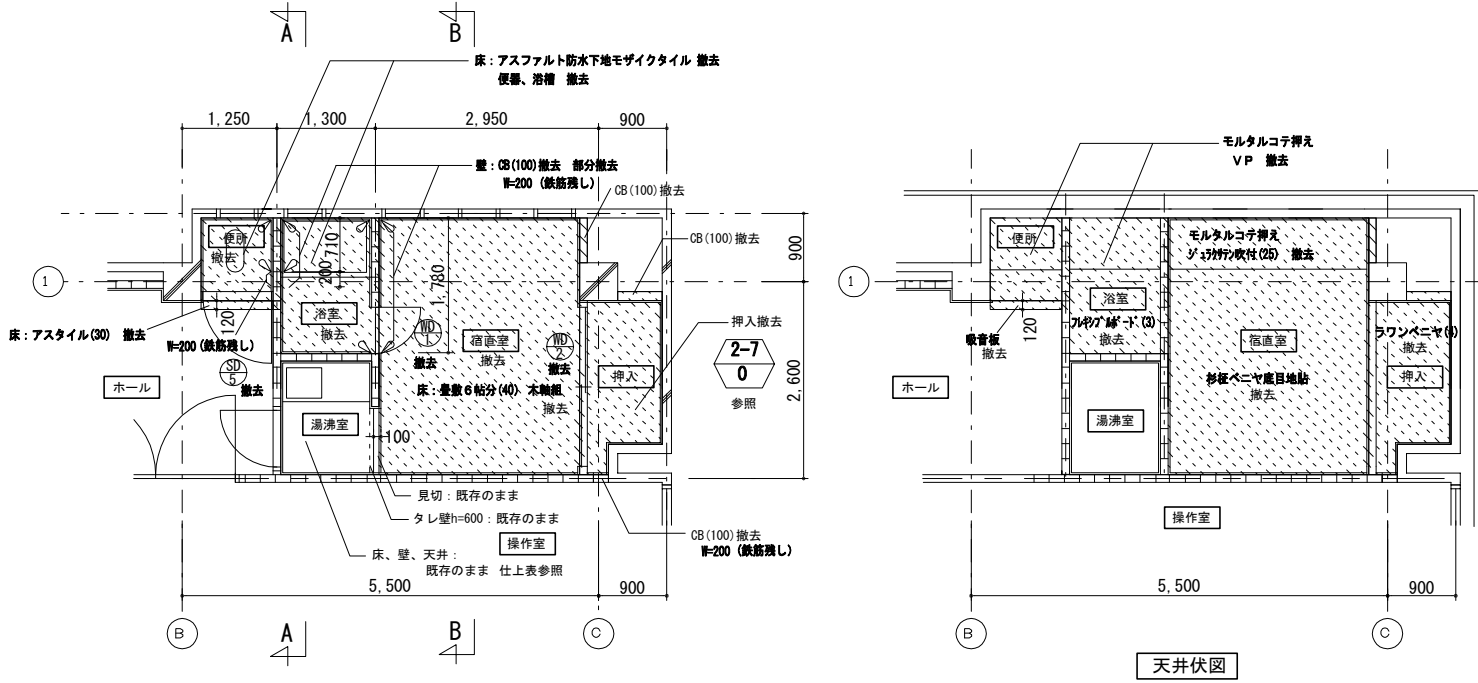
シーリングを示す

原図: A3

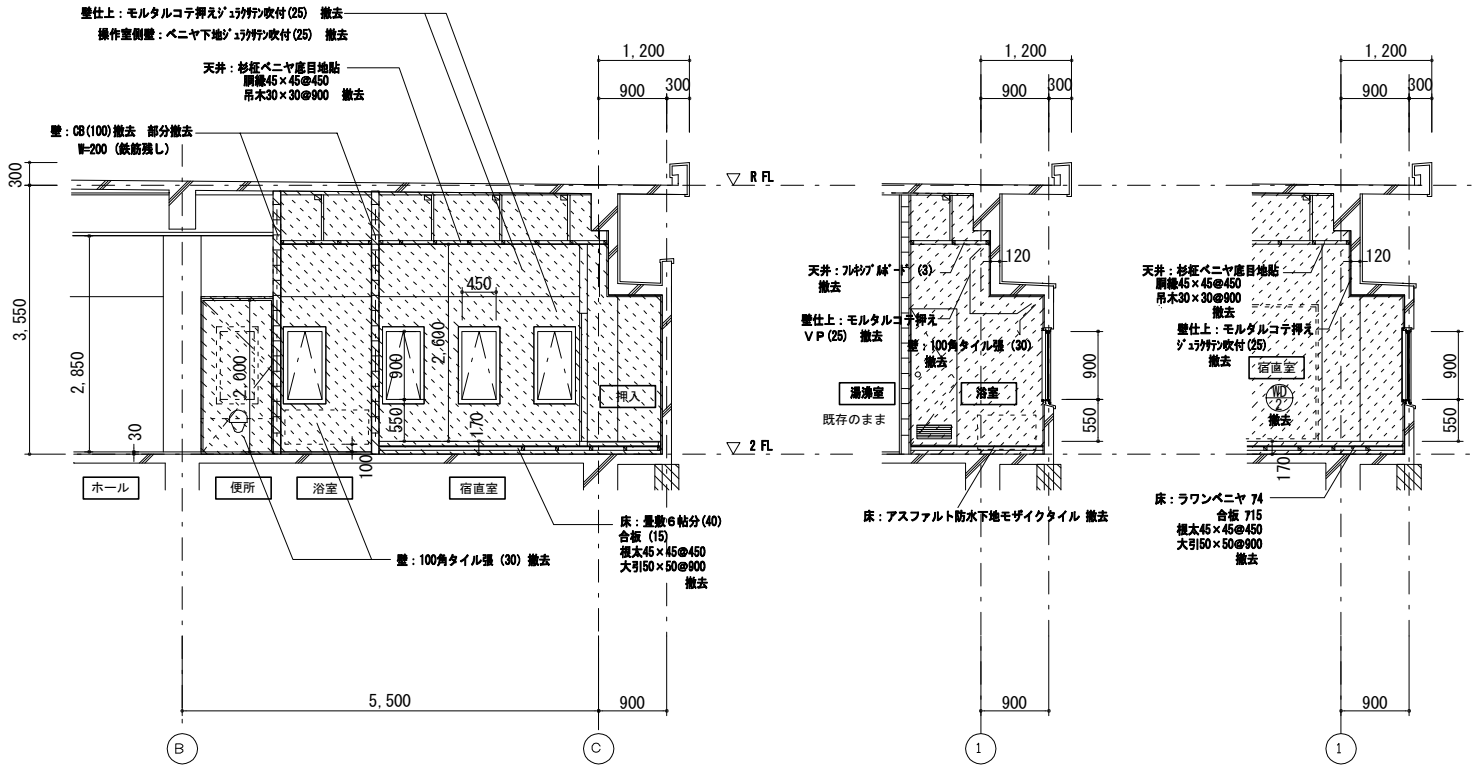
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場(ポンプ棟)耐震補強工事
施工箇所名	津市東丸之内地内
図面の種類	改修詳細図(2)
縮 尺	1/100 1/40 図面番号
事業所名	津市下水道局下水道施設課

2-2
0

1 通り ② ～ ③ 間 (2階) 新設壁補強前 (今回工事)



平面図 1/100



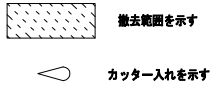
立面図 1/100

A-A断面図 1/50

B-B断面図 1/50

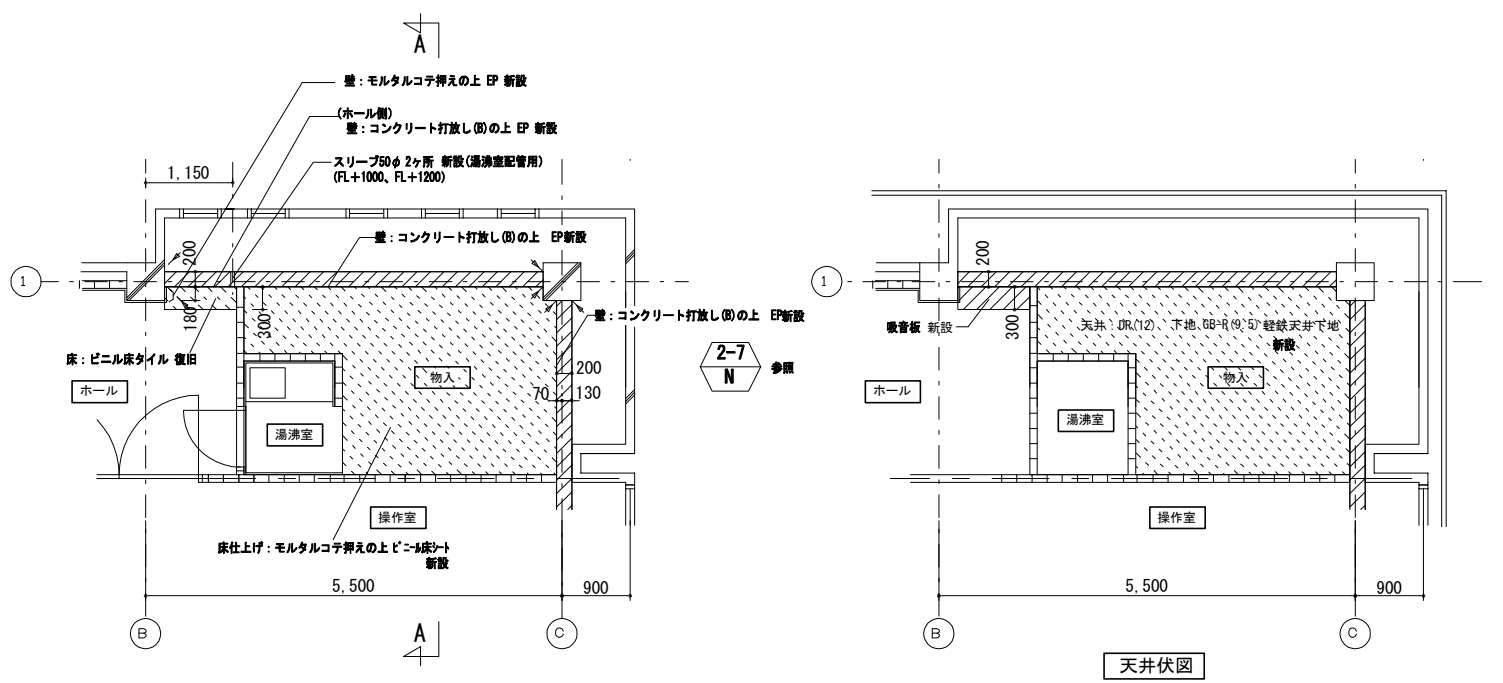
※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

(改修前 凡例)

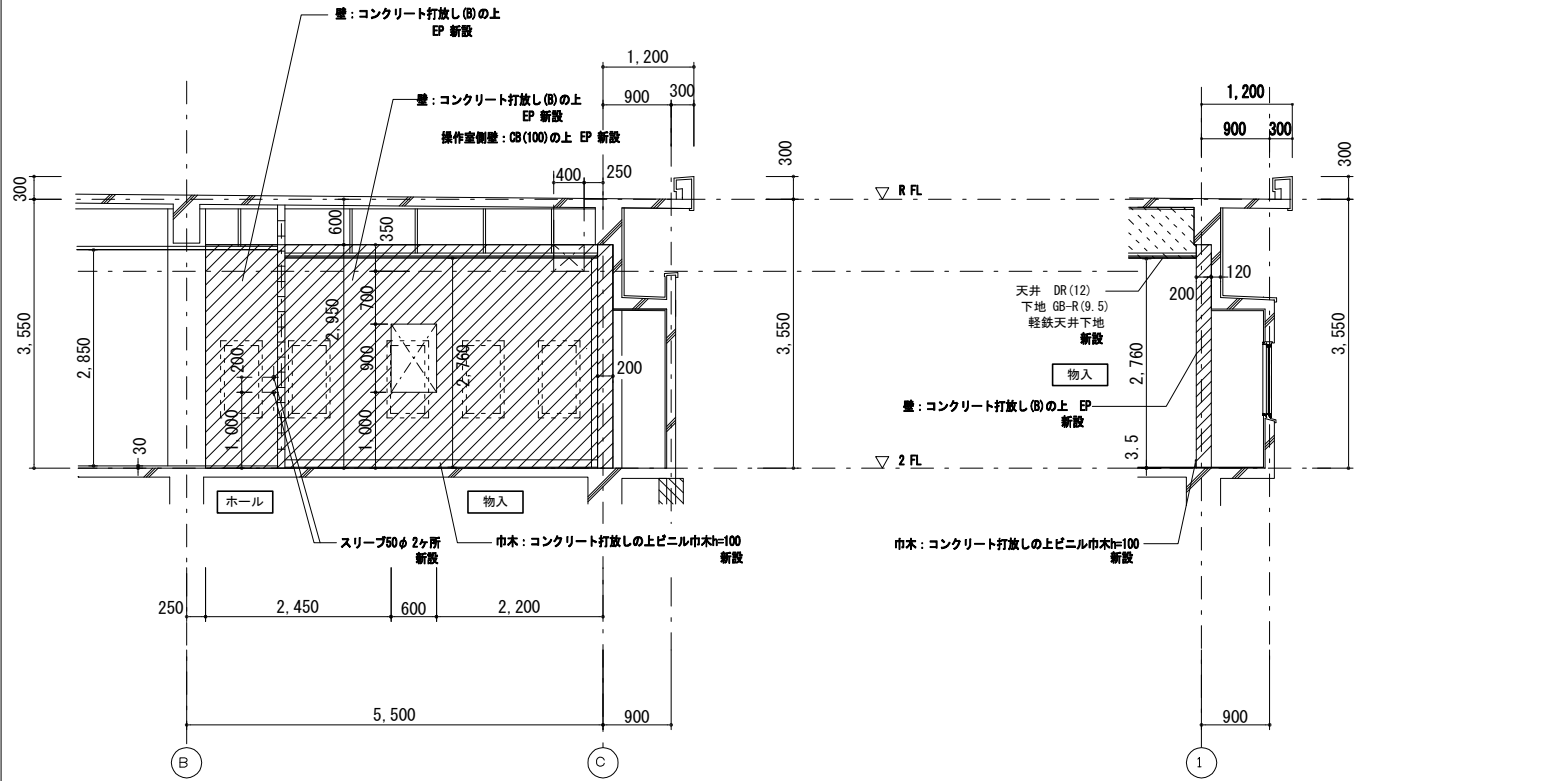


2-2
N

1 通り ② ～ ③ 間 (2階) 新設壁補強後 (今回工事)



平面図 1/100

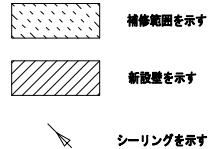


立面図 1/100

A-A断面図 1/100

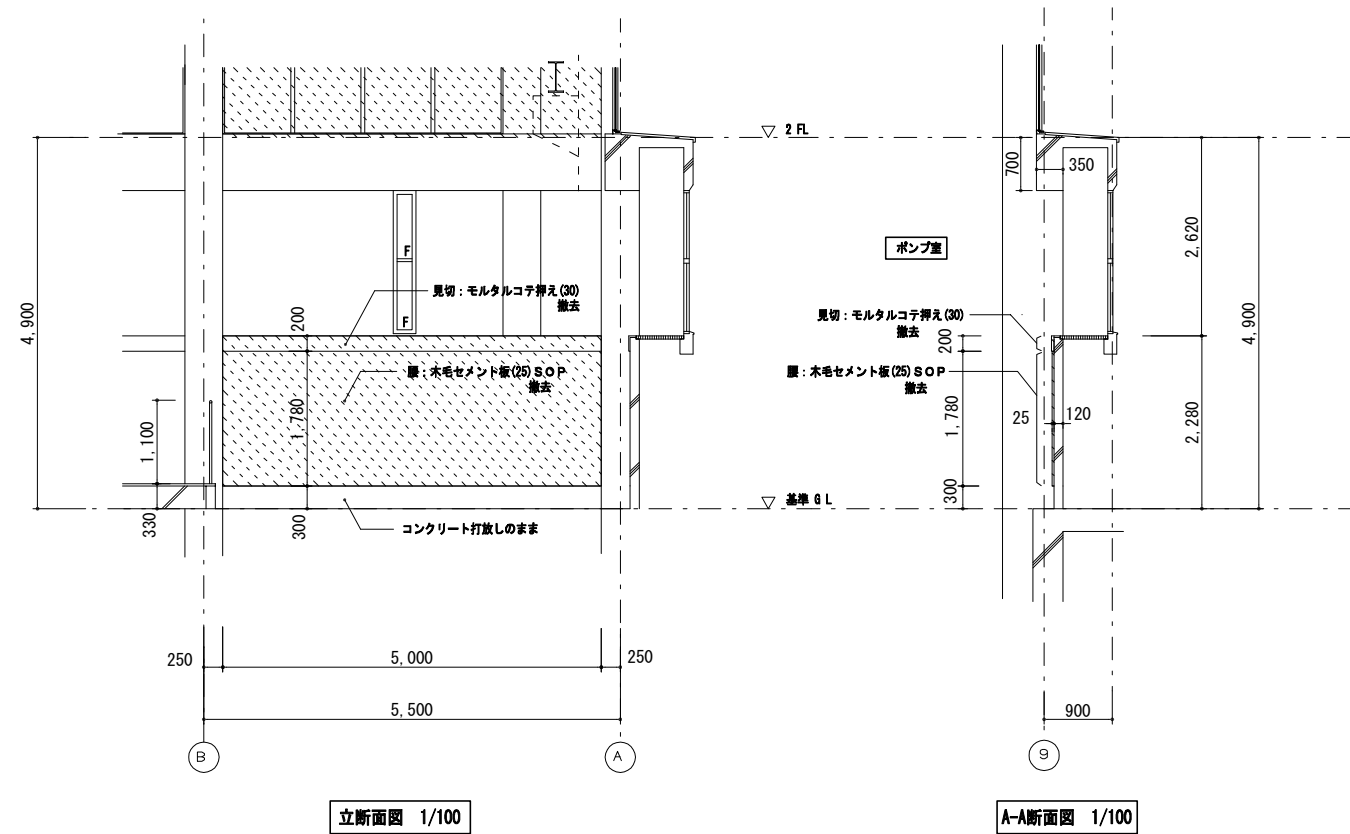
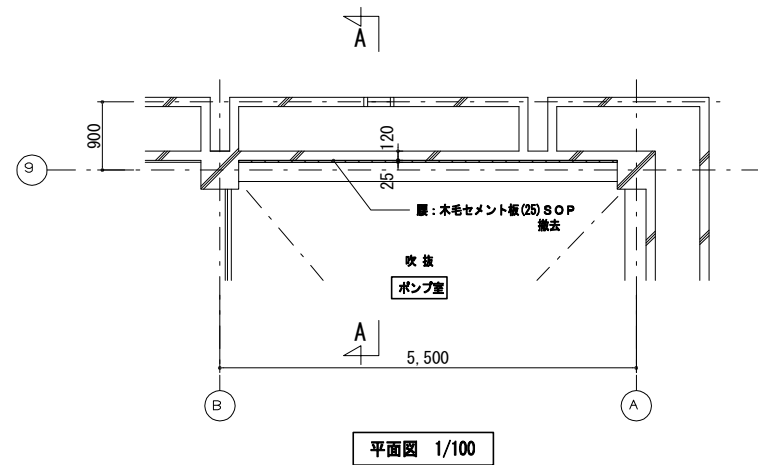
※ 床、壁共に下地調整RA種

(改修後 凡例)



原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図（4）		
縮 尺	1/100	図面番号	A-24
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

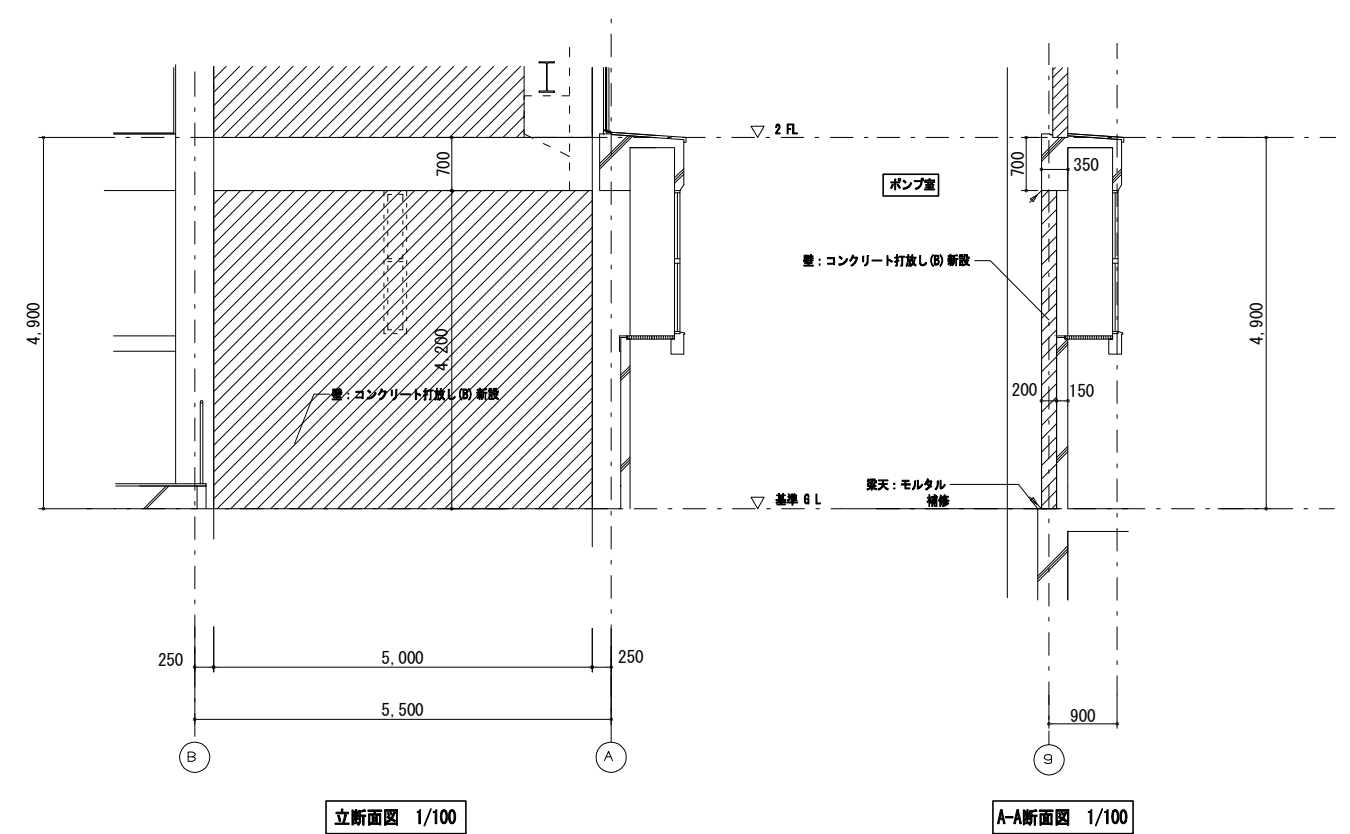
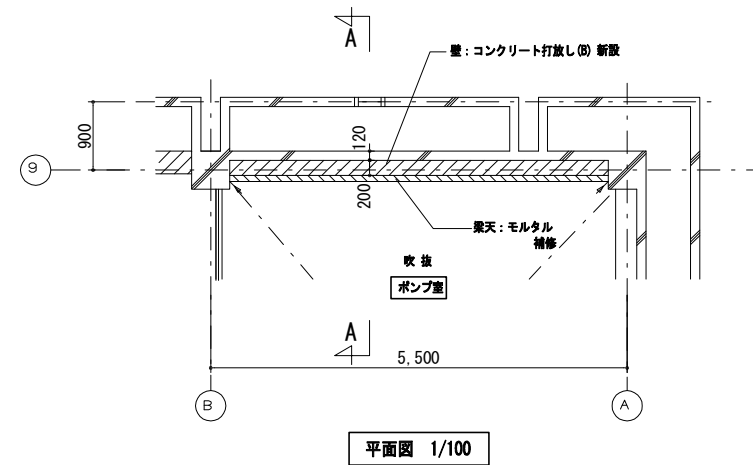
(改修前 凡例)



撤去範囲を示す



カッター入れを示す



(改修後 凡例)



補修範囲を示す



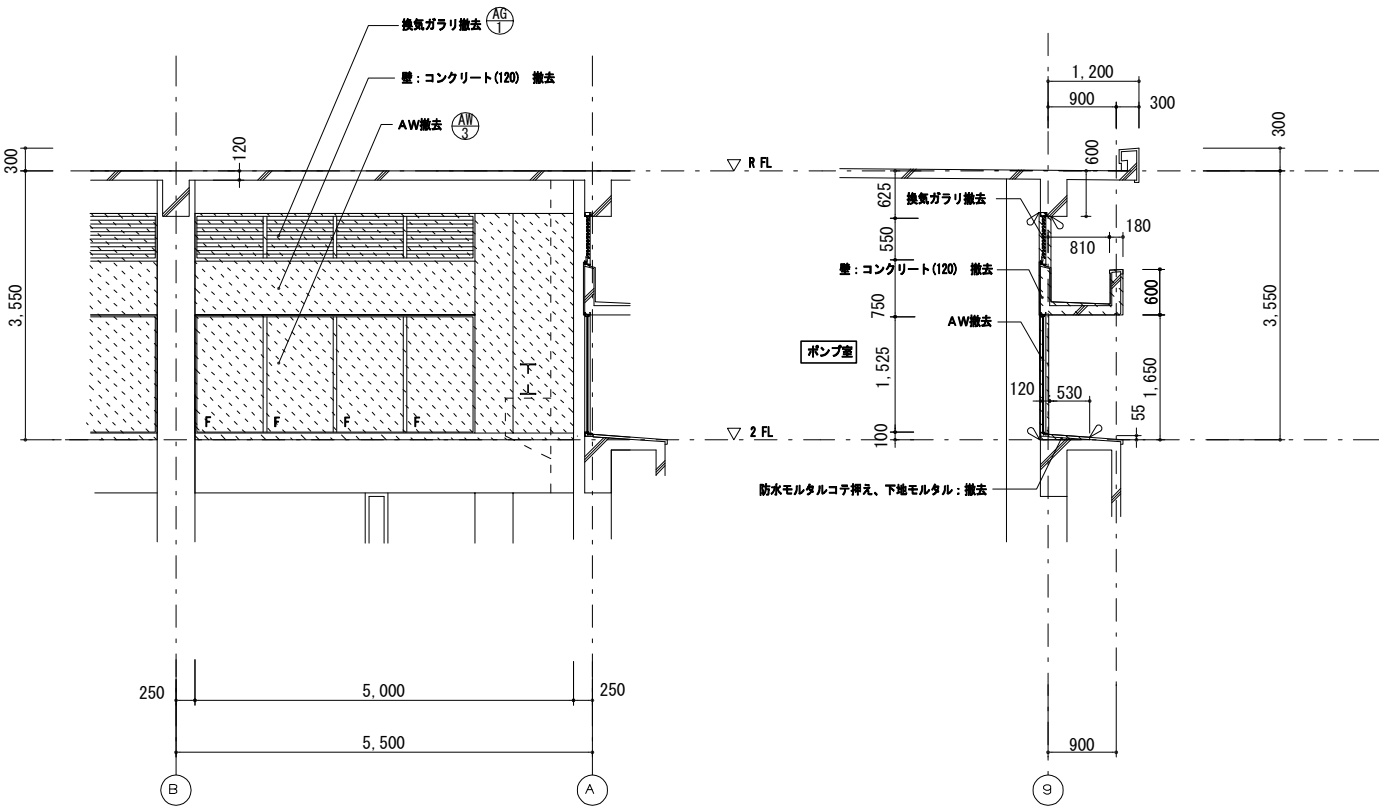
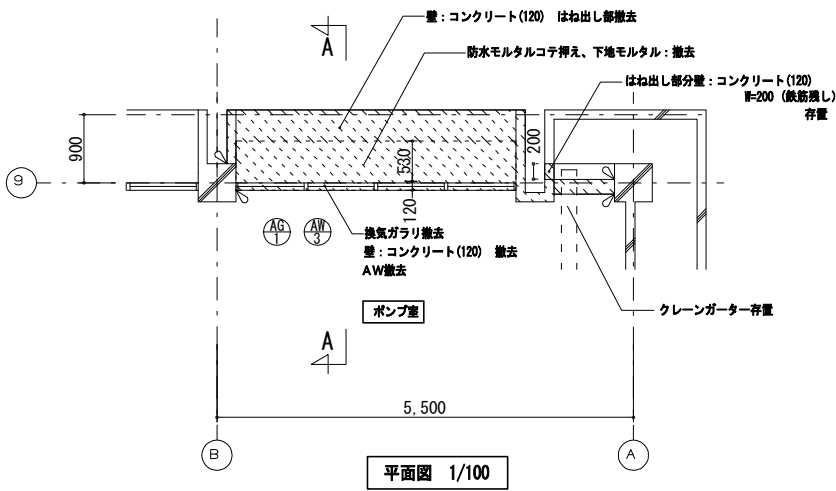
新設壁を示す



シーリングを示す

原図：A3

工 事 名	平成30年度下流汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図（5）		
縮 尺	1/100	図面番号	A-25
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

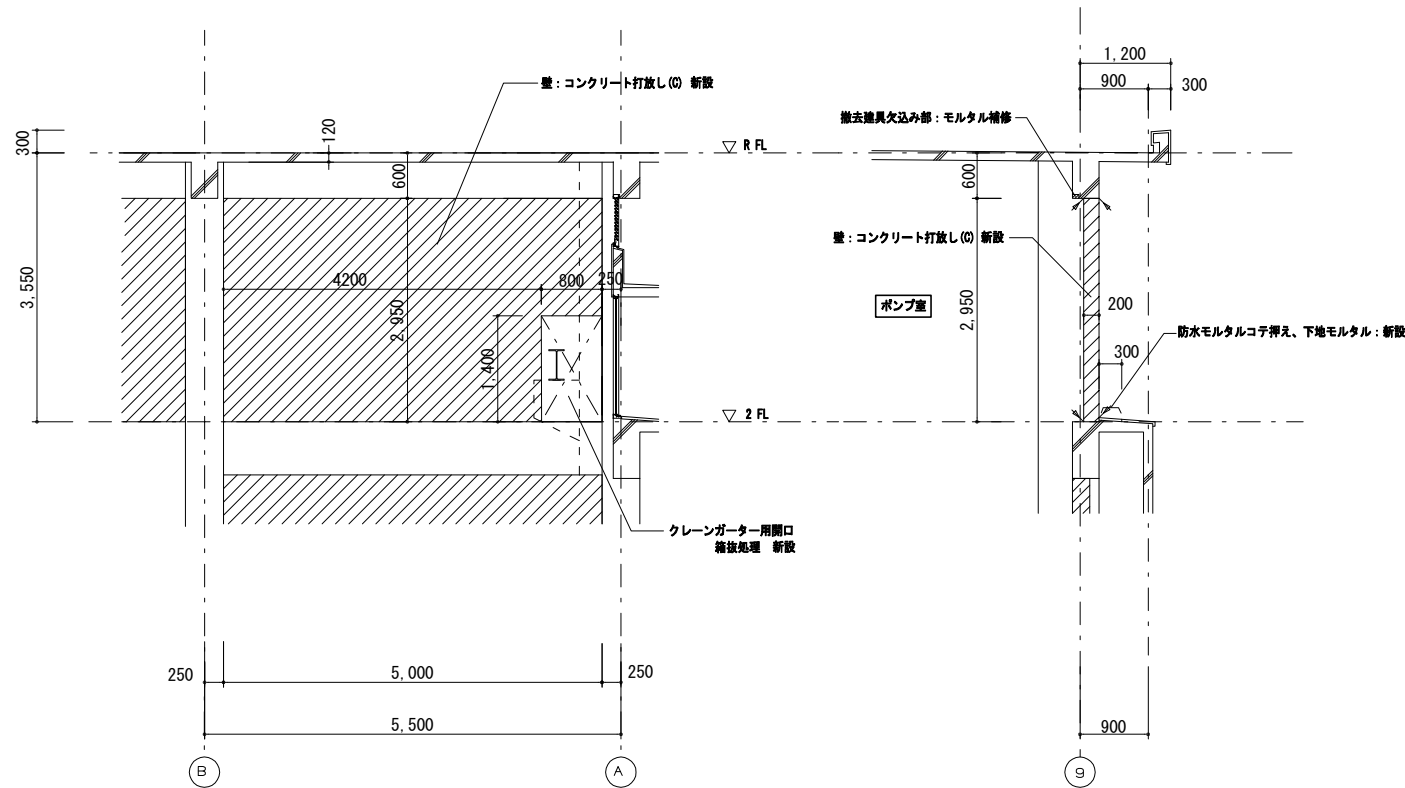
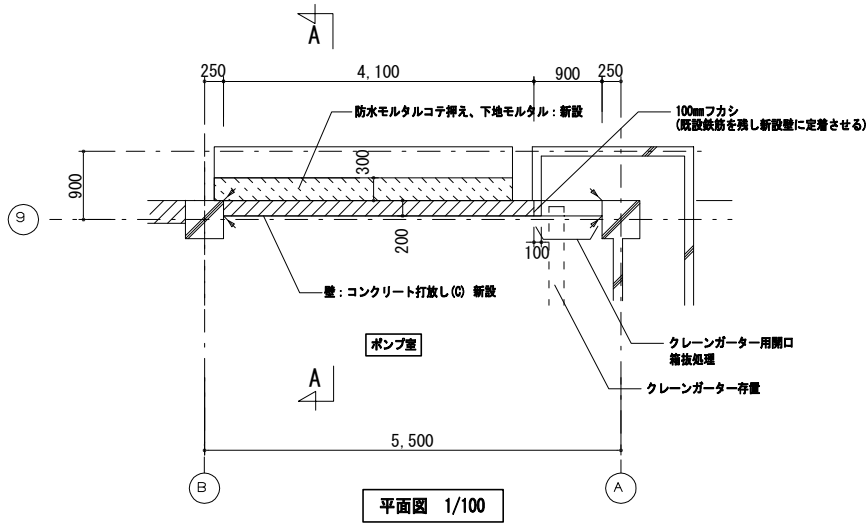


A-A断面図 1/100

※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

(改修前 凡例)

撤去範囲を示す
カッター入れを示す



A-A断面図 1/100

(改修後 凡例)

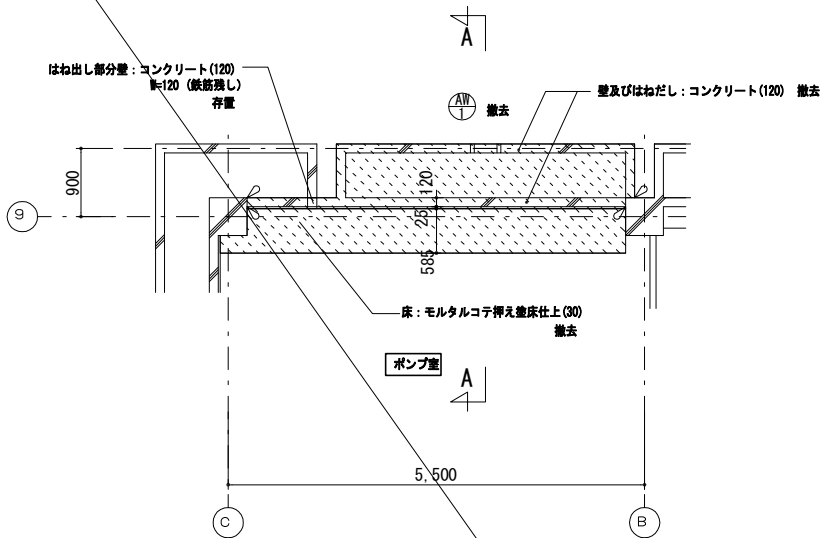
補修範囲を示す
新設壁を示す
シーリングを示す

原図: A3

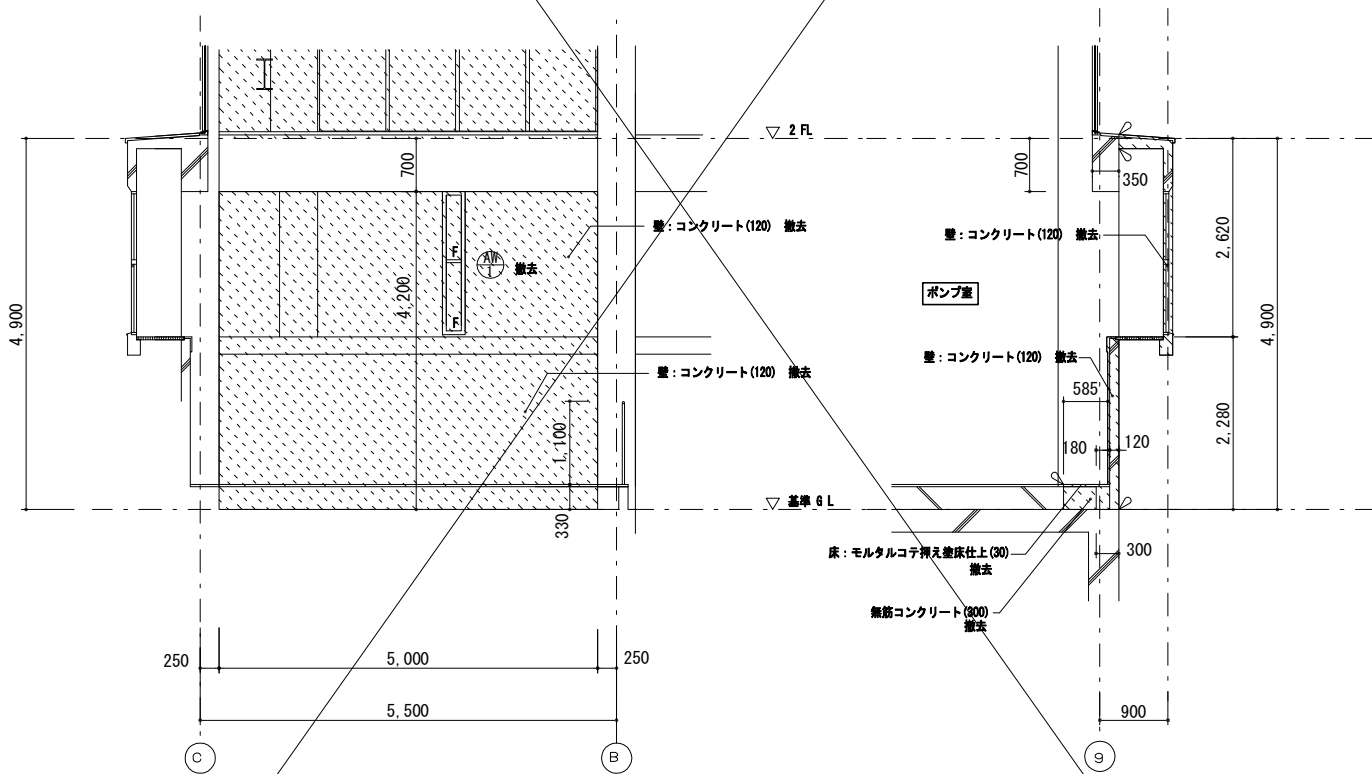
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場(ポンプ棟)耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図(6)		
縮 尺	1/100	図面番号	A-26
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

1-4
0

9通り(B)～(C)間 (1階)新設壁補強前 (将来工事)



平面図 1/100



立面図 1/100

A-A断面図 1/100

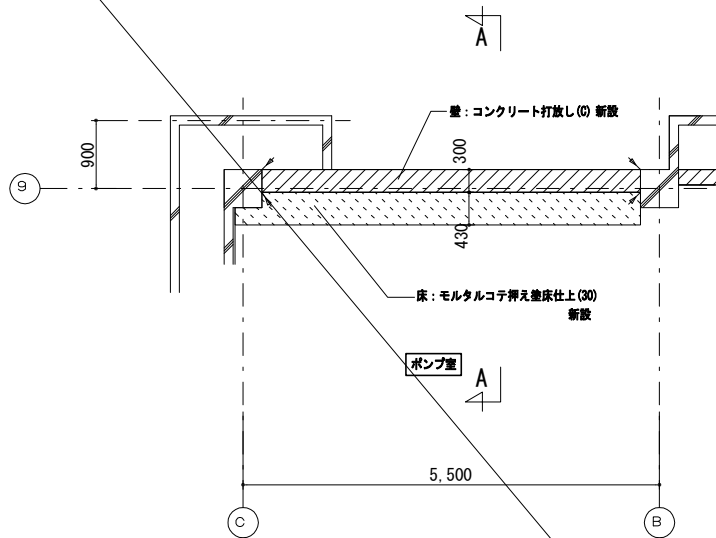
※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

(改修前 凡例)

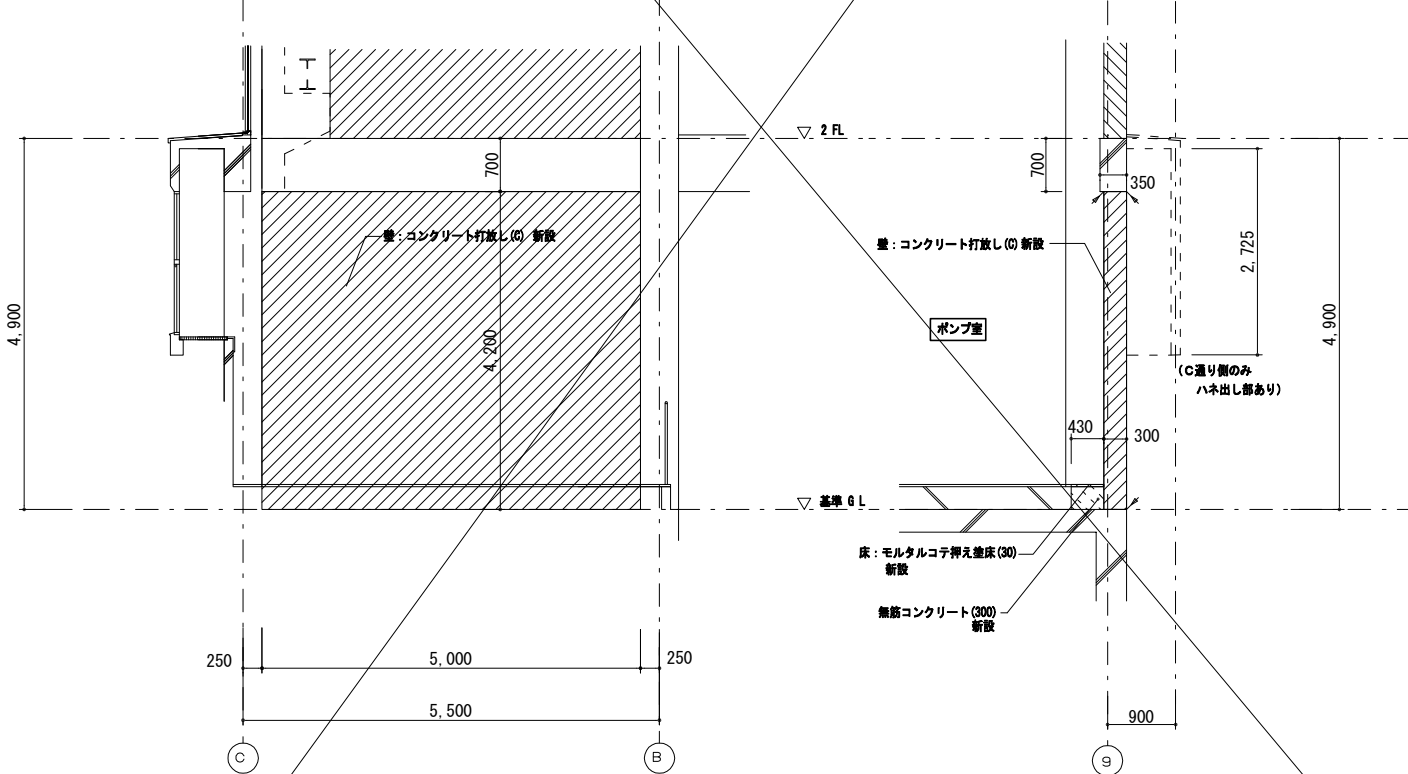
- 撤去範囲を示す
- カッター入れを示す

1-4
N

9通り(B)～(C)間 (1階)新設壁補強後 (将来工事)



平面図 1/100



立面図 1/100

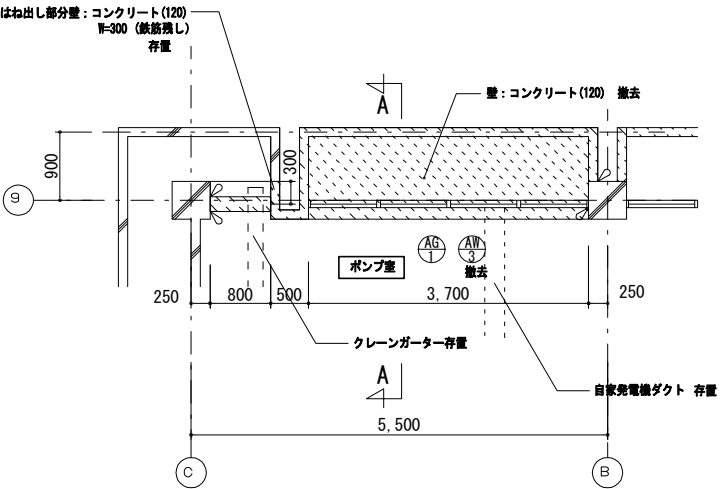
A-A断面図 1/100

(改修後 凡例)

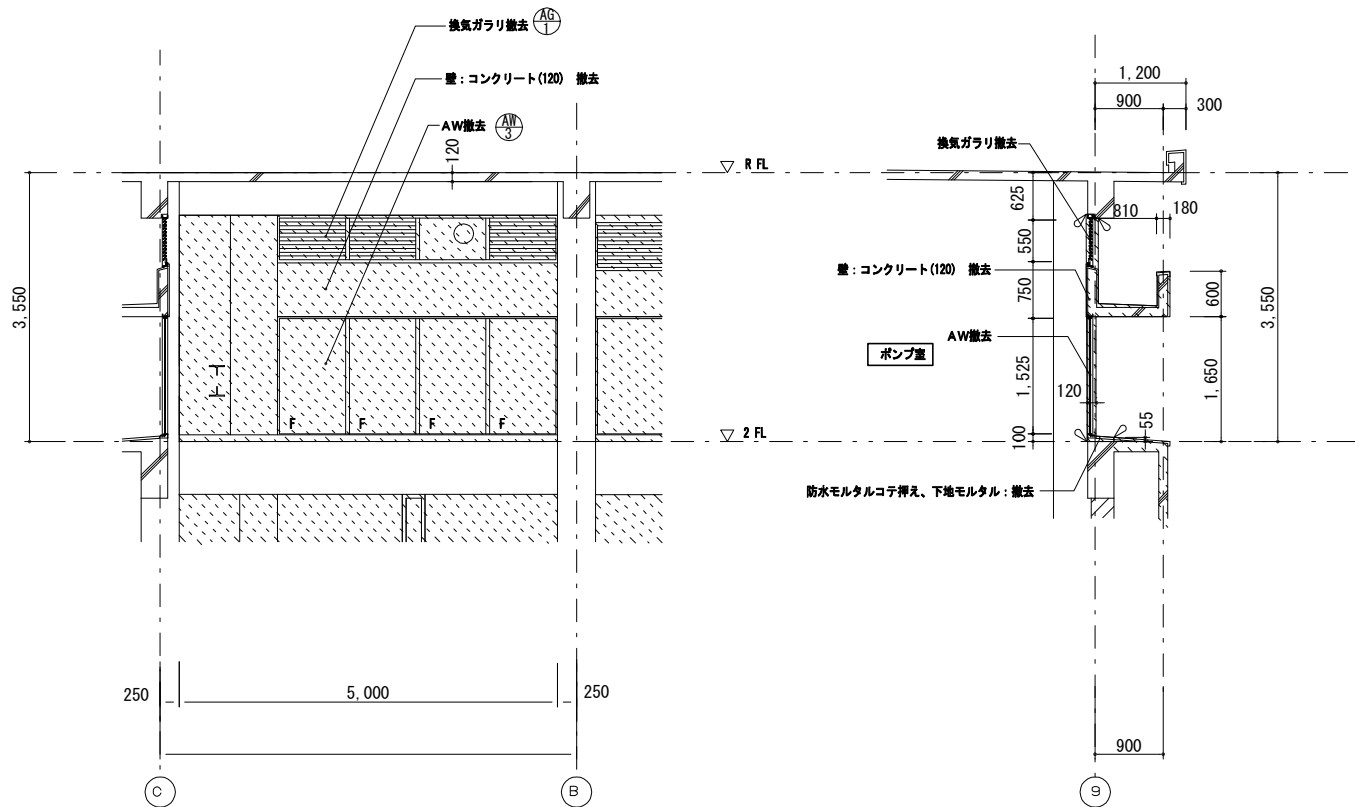
- 補修範囲を示す
- 新設壁を示す
- シーリングを示す

原図:A3

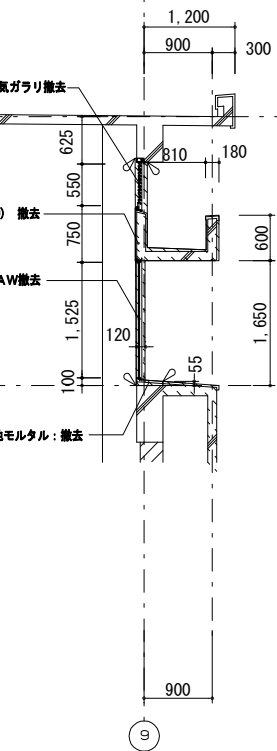
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場(ポンプ棟)耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図(7)		
縮 尺	1/100	図面番号	A-27
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



平面図 1/100





立断面図 1/100

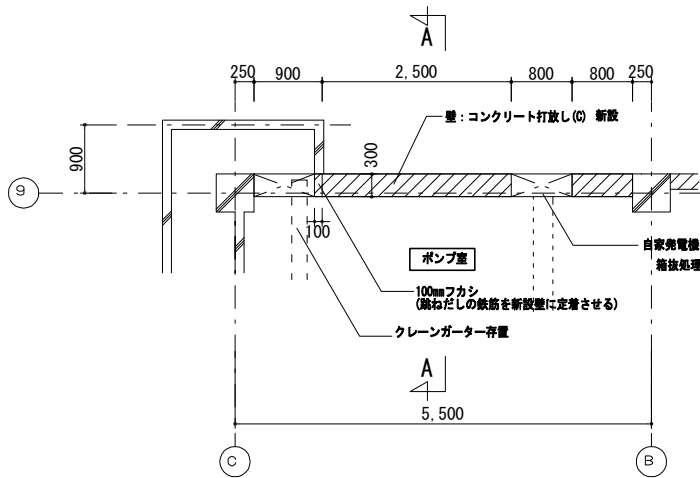


A-A断面図 1/100

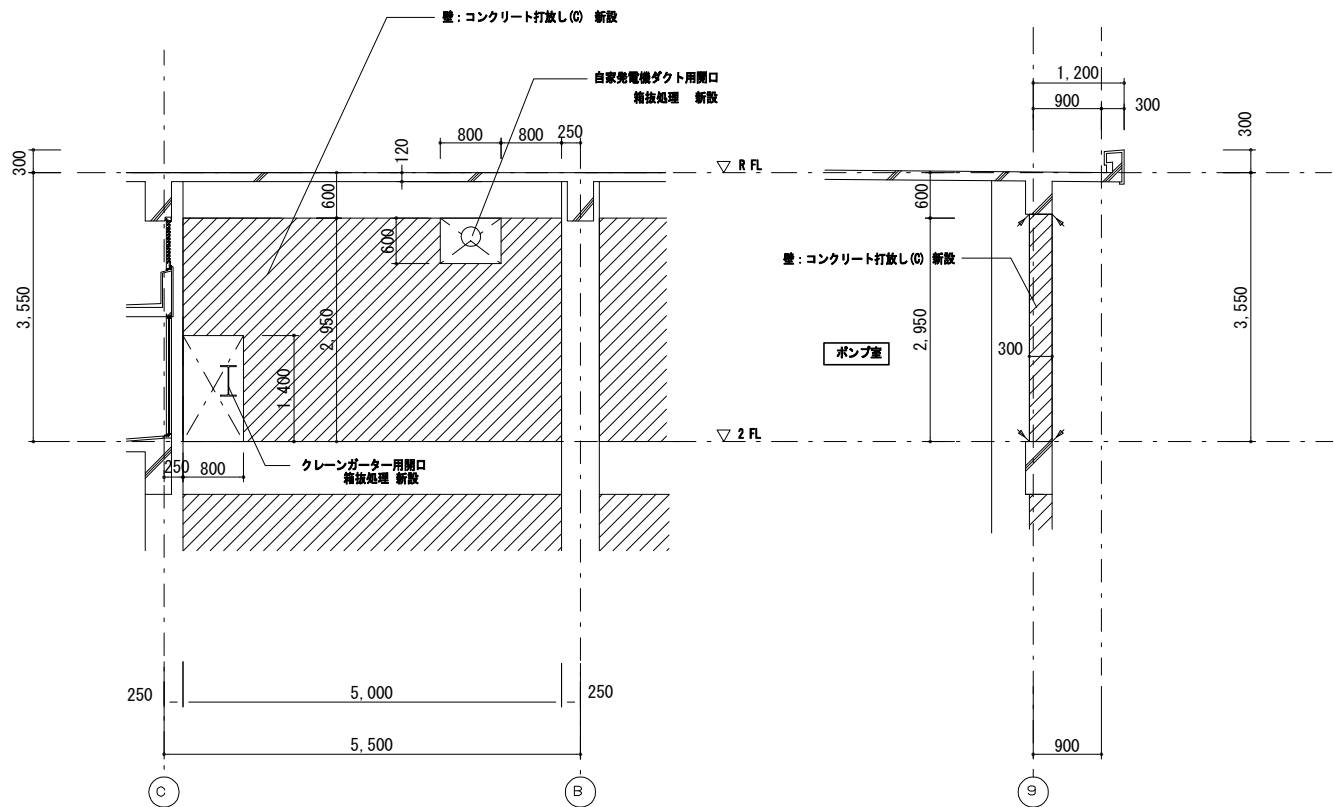
※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

(改修前 凡例)

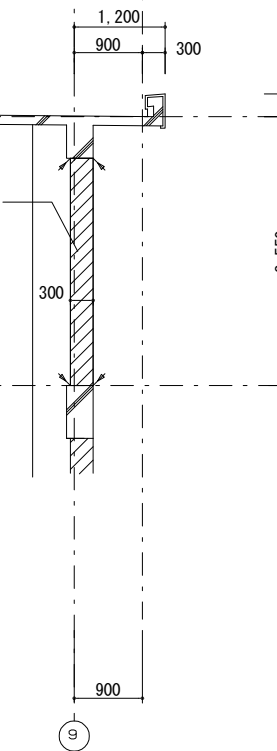
-  撤去範囲を示す
-  カッター入れを示す



平面図 1/100






立断面図 1/100



A-A断面図 1/100

(改修後 凡例)

-  補修範囲を示す
-  新設壁を示す
-  シーリングを示す

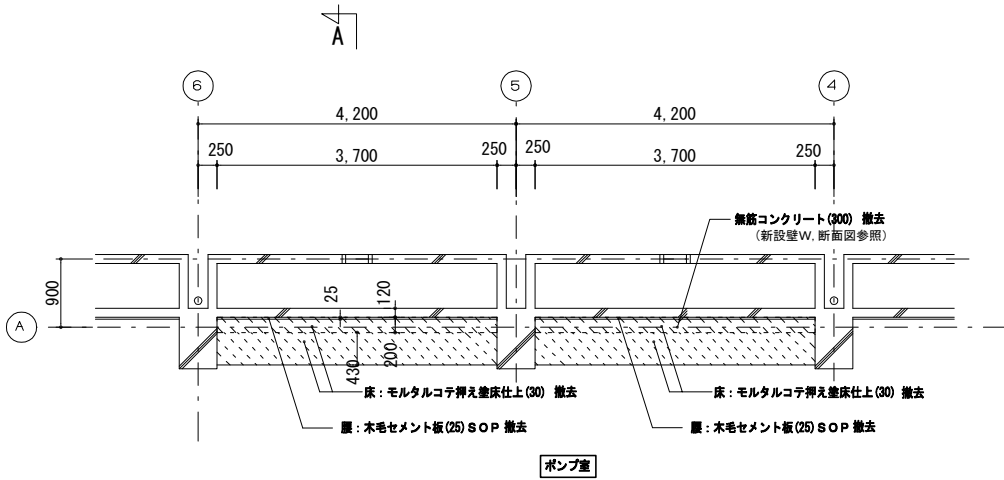
原図: A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場(ポンプ棟)耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図(8)		
縮 尺	1/100	図面番号	A-28
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

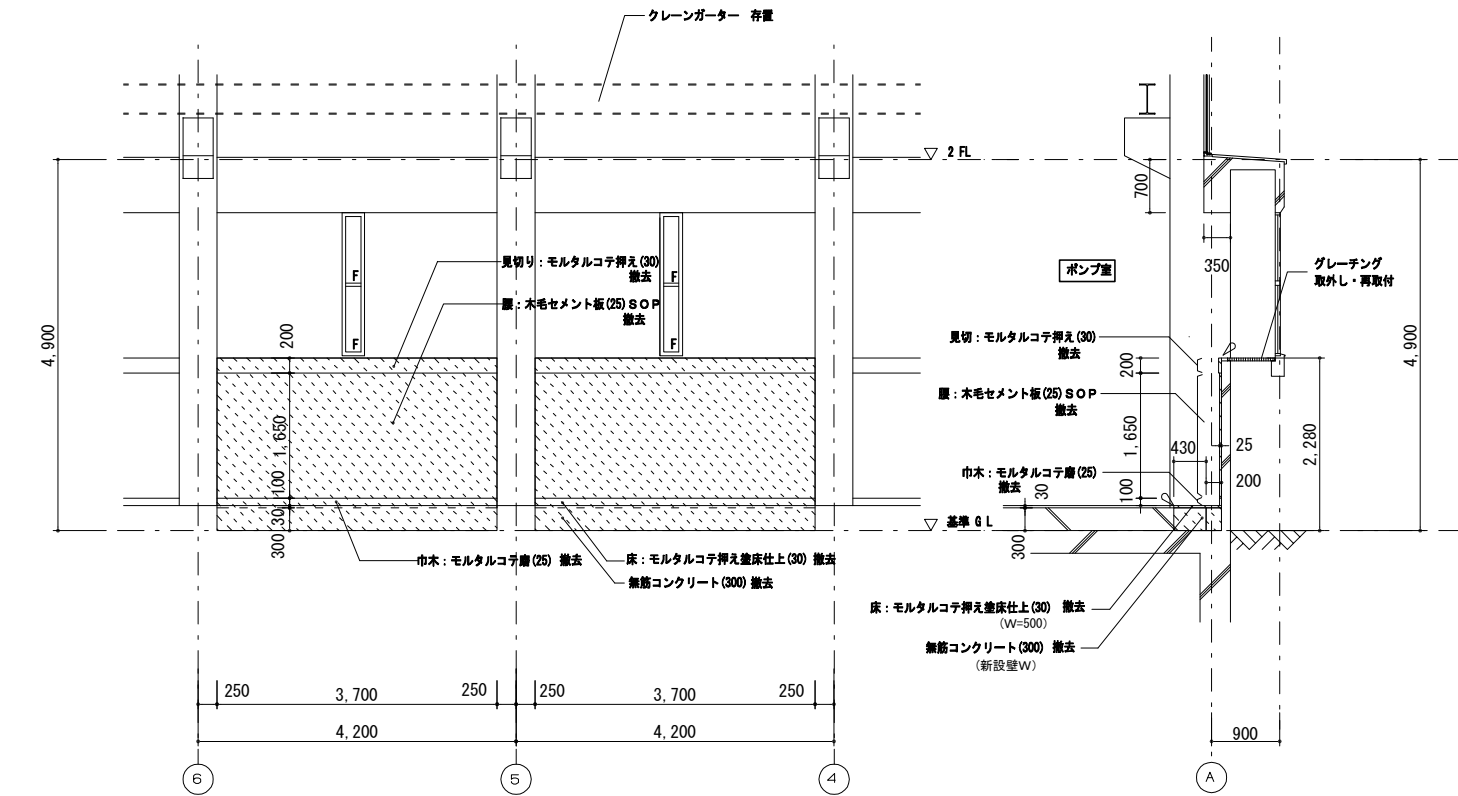
1-5
0

1-6
0

A通り ④ ～ ⑤ 間及び ⑤ ～ ⑥ 間 (1階) 壁増し打ち補強前 (今回工事)



平面図 1/100



立面図 1/100

A-A断面図 1/50

※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

(改修前 凡例)



撤去範囲を示す

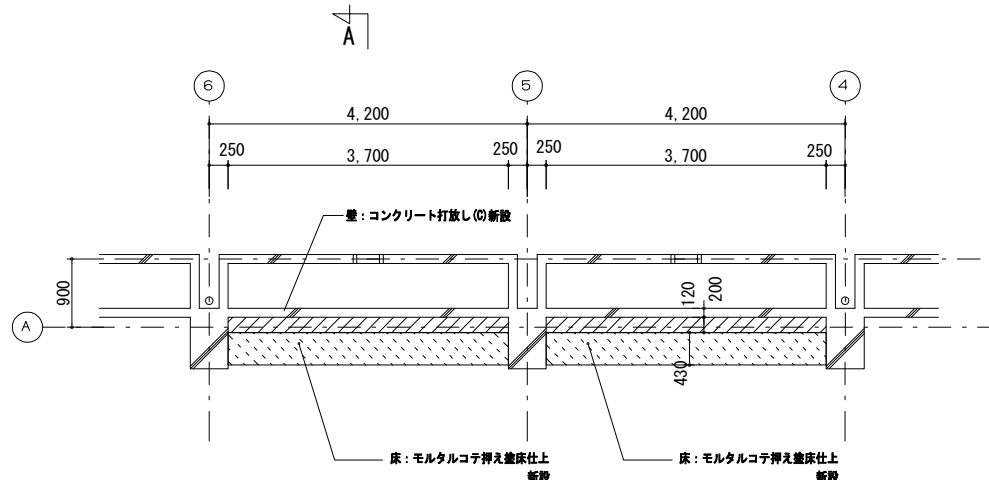


カッター入れを示す

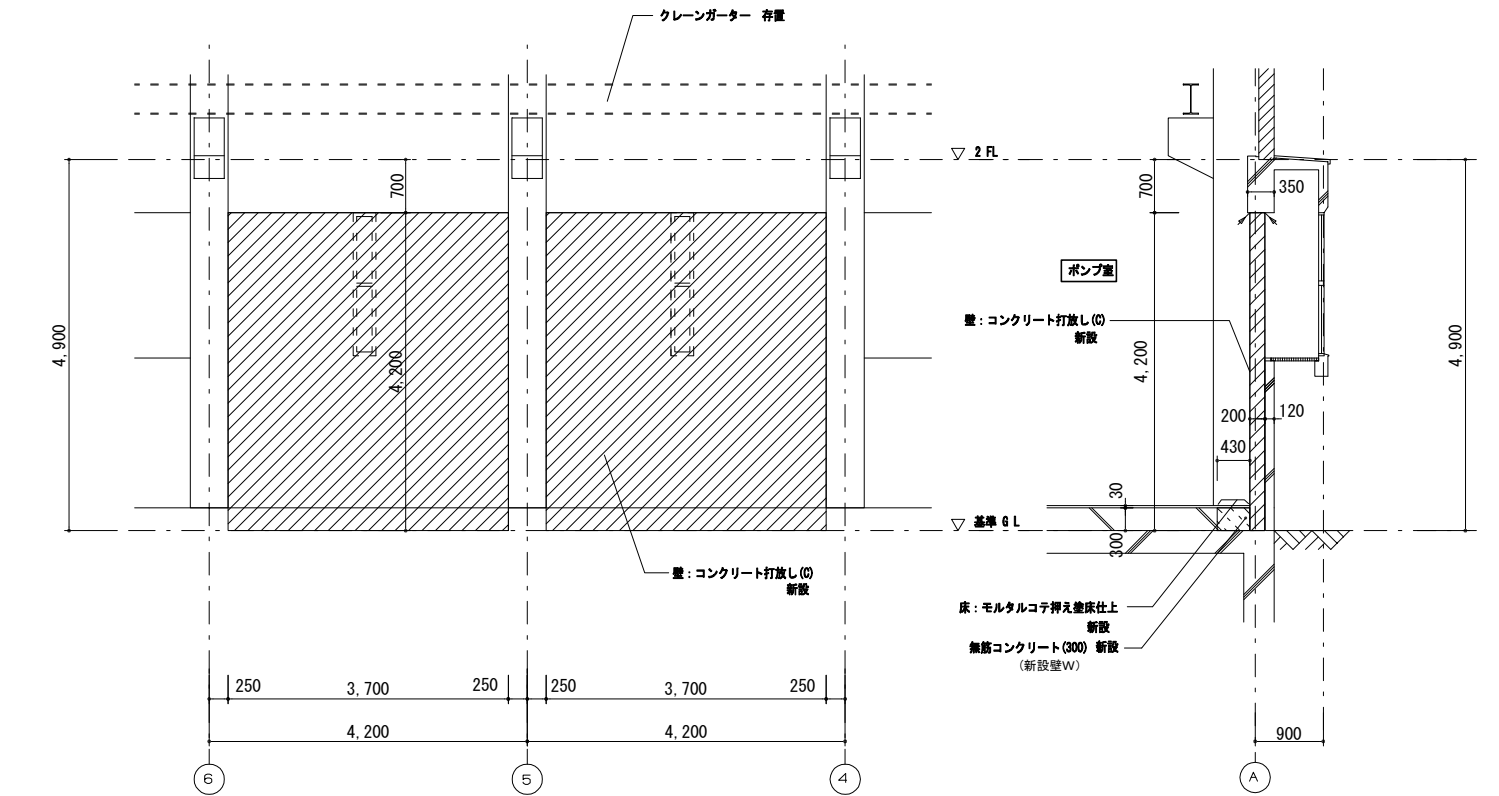
1-5
N

1-6
N

A通り ④ ～ ⑤ 間及び ⑤ ～ ⑥ 間 (1階) 壁増し打ち補強後 (今回工事)



平面図 1/100



立面図 1/100

A-A断面図 1/100

(改修後 凡例)



補修範囲を示す



新設壁を示す



シーリングを示す

原図: A3

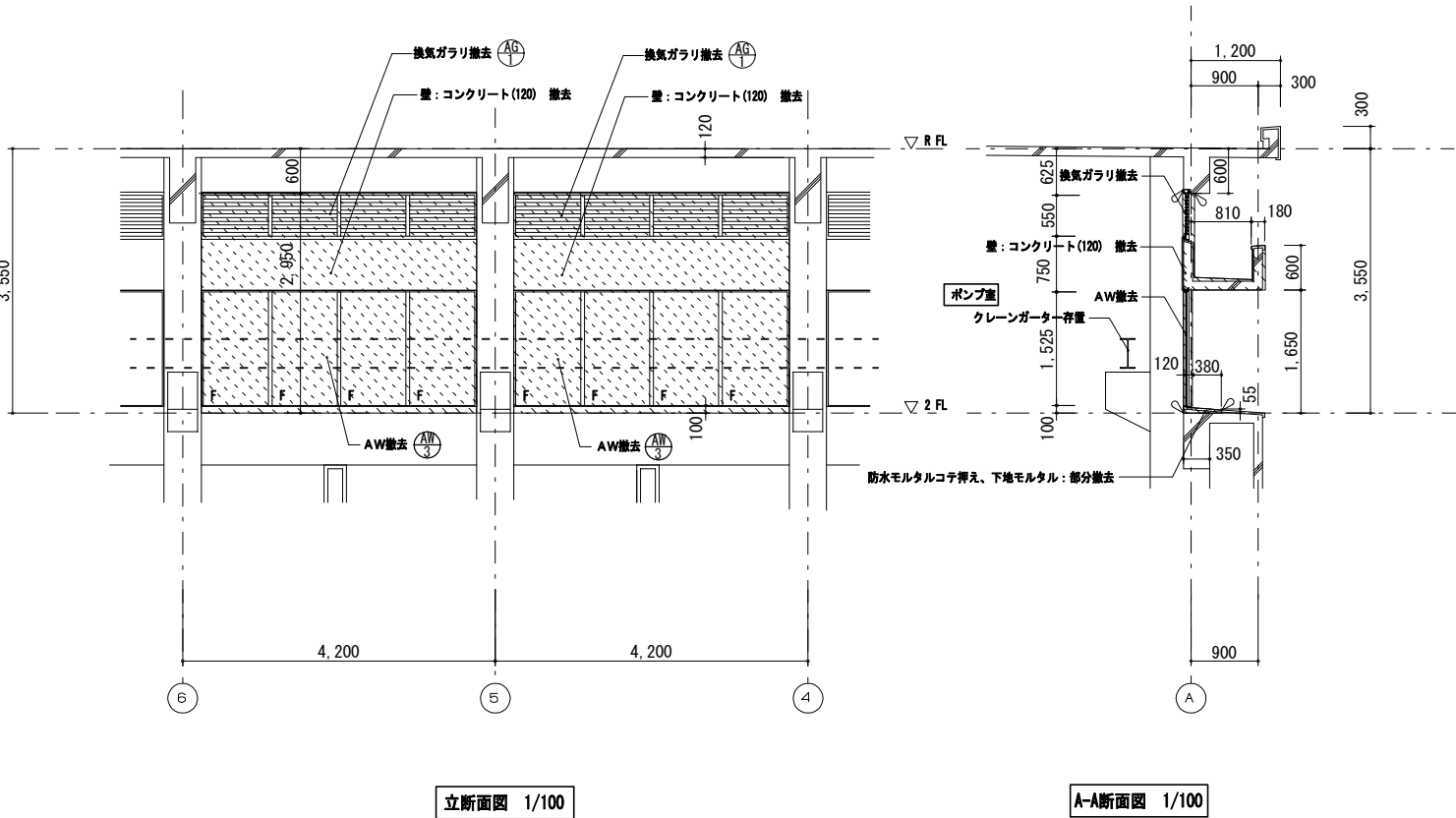
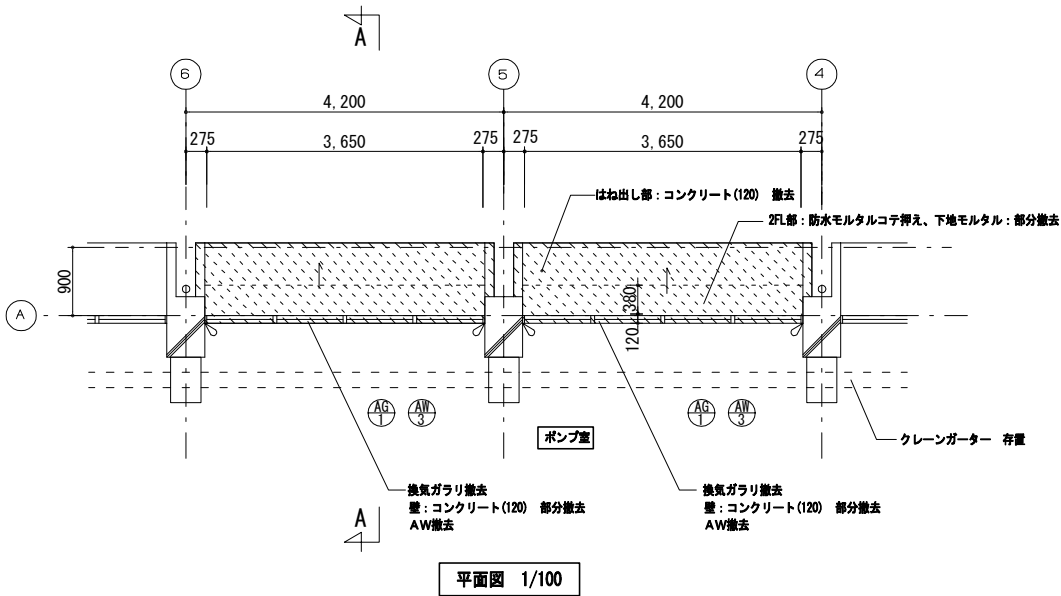
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場(ポンプ棟)耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図(9)		
縮 尺	1/100	図面番号	A-29
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

2-5
0

2-6
0

A通り ④ ～ ⑤ 間及び ⑤ ～ ⑥ 間 (2階) 新設壁補強前

(今回工事)



※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

(改修前 凡例)



撤去範囲を示す



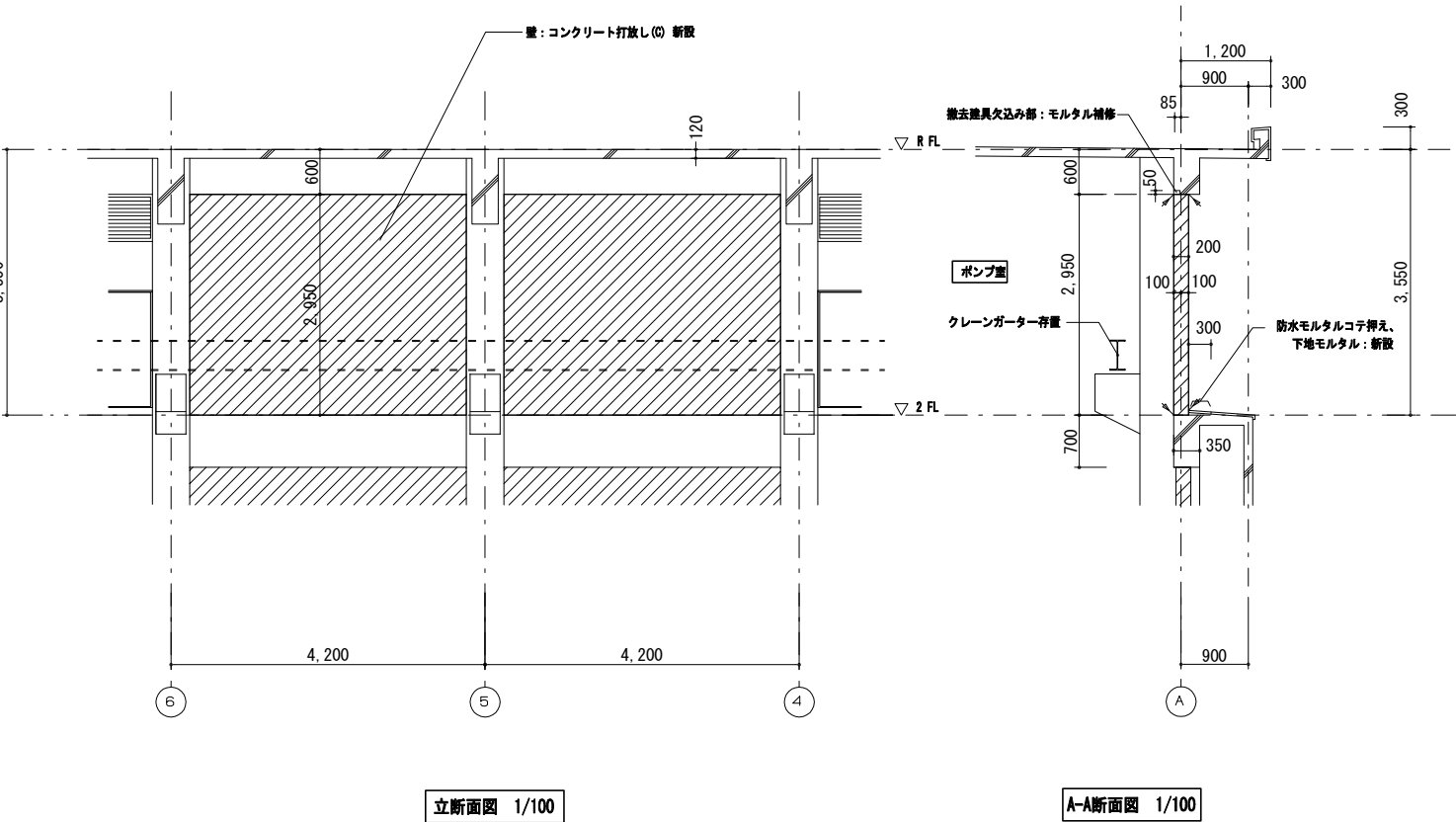
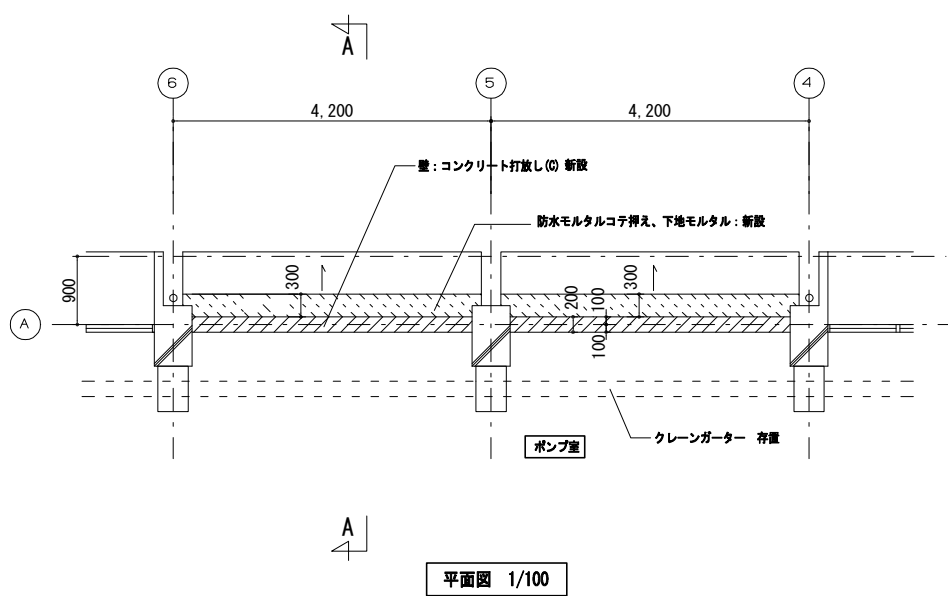
カッター入れを示す

2-5
N

2-6
N

A通り ④ ～ ⑤ 間及び ⑤ ～ ⑥ 間 (2階) 新設壁補強後

(今回工事)



原図: A3

(改修後 凡例)



補修範囲を示す



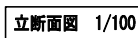
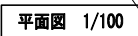
新設壁を示す



シーリングを示す

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場(ポンプ棟)耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図(10)		
縮 尺	1/100	図面番号	A-30
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

C通り ① ~ ② 間 (1階) 新設壁補強前 (将来工事)

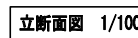
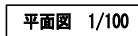


(改修前 凡例)

カッター入れを示す

撤去範囲を示す

C通り ① ~ ② 間 (1階) 新設壁補強後 (将来工事)



(改修後 凡例)

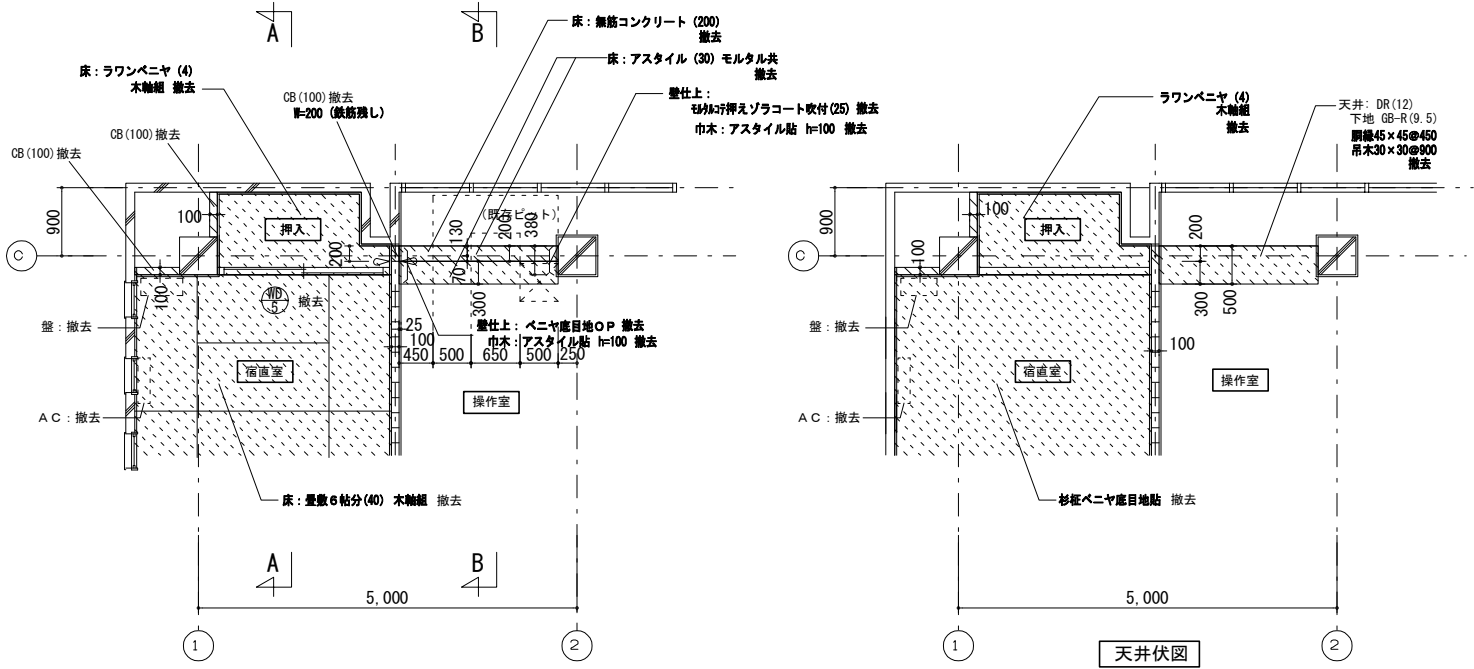
補修範囲を示す

新設壁を示す

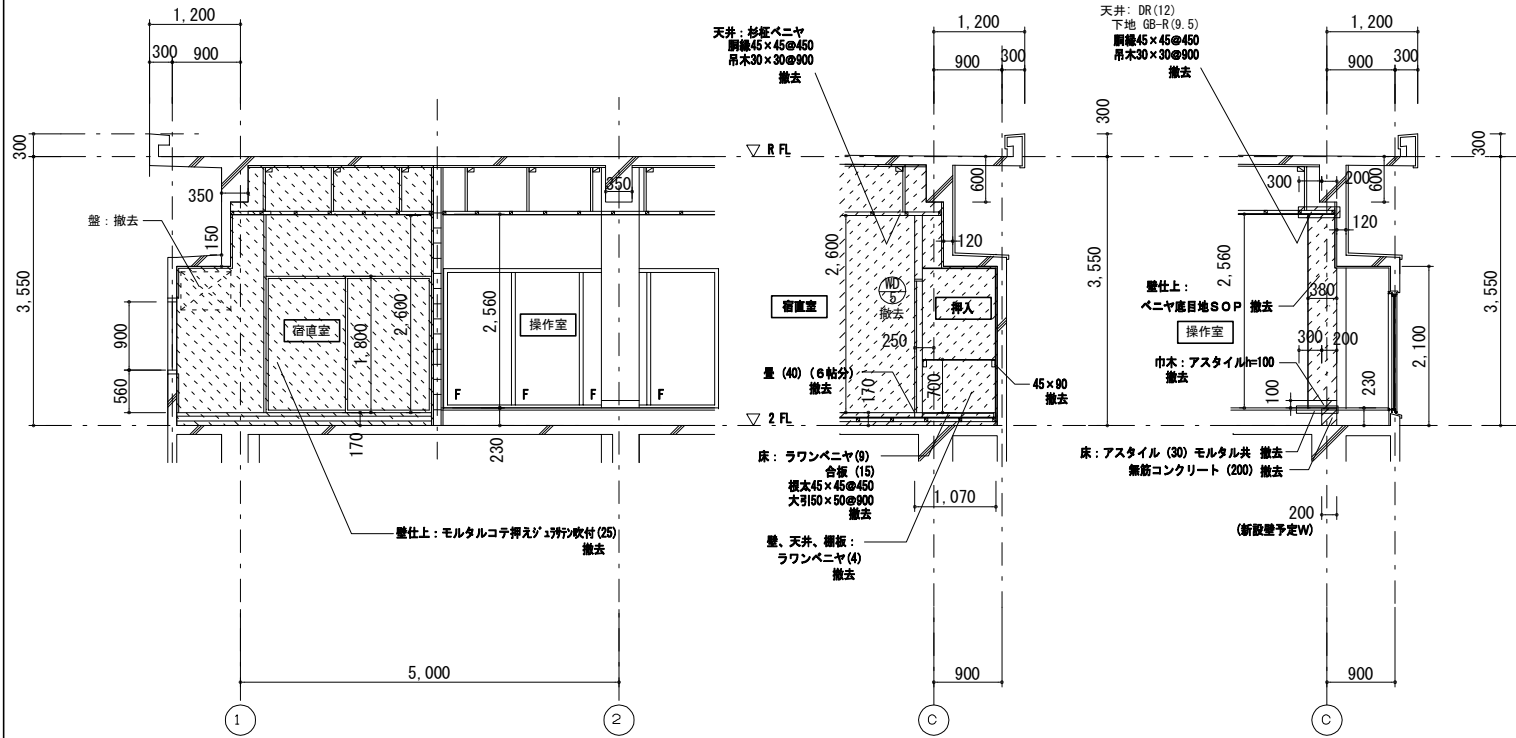
シーリングを示す

図 : A3

工 事 名	平成30年度下流汚水補第1号 堰衆橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図（11）		
縮 尺	1/100	図面番号	A-31
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



平面図 1/100



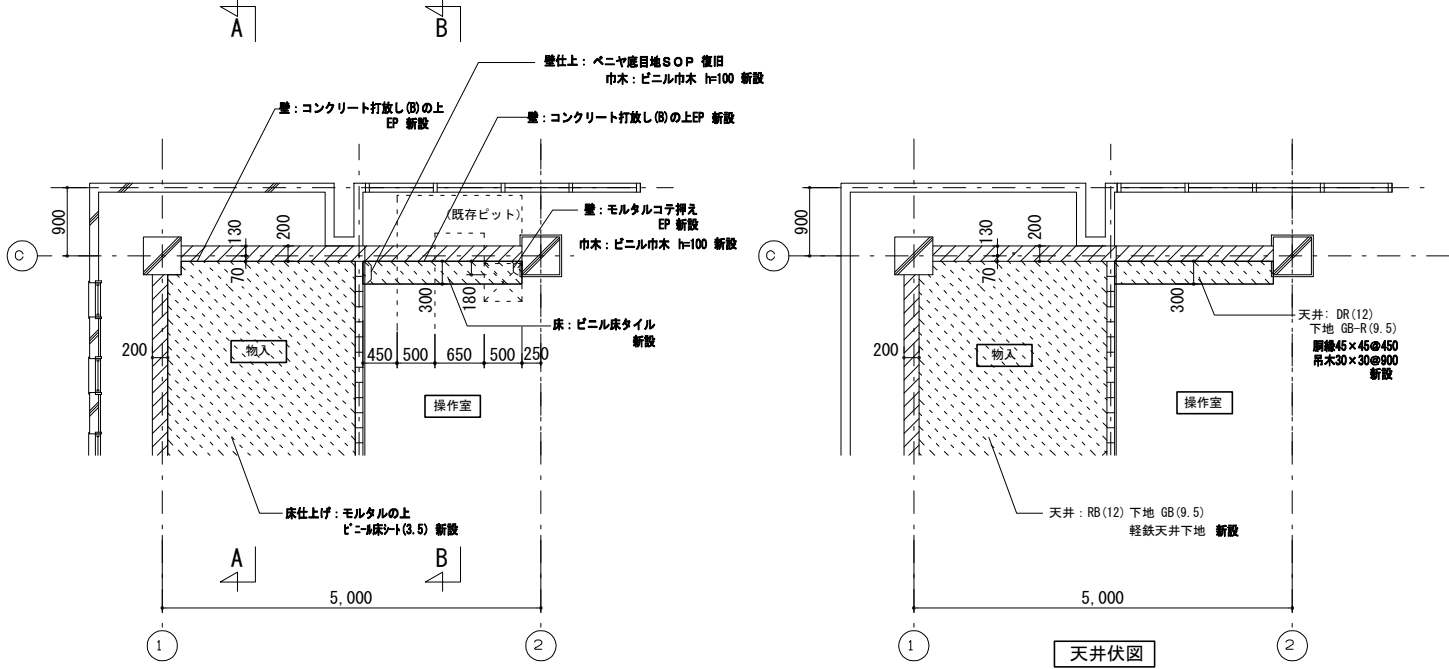
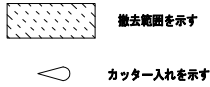
立断面図 1/100

A-A断面図 1/100

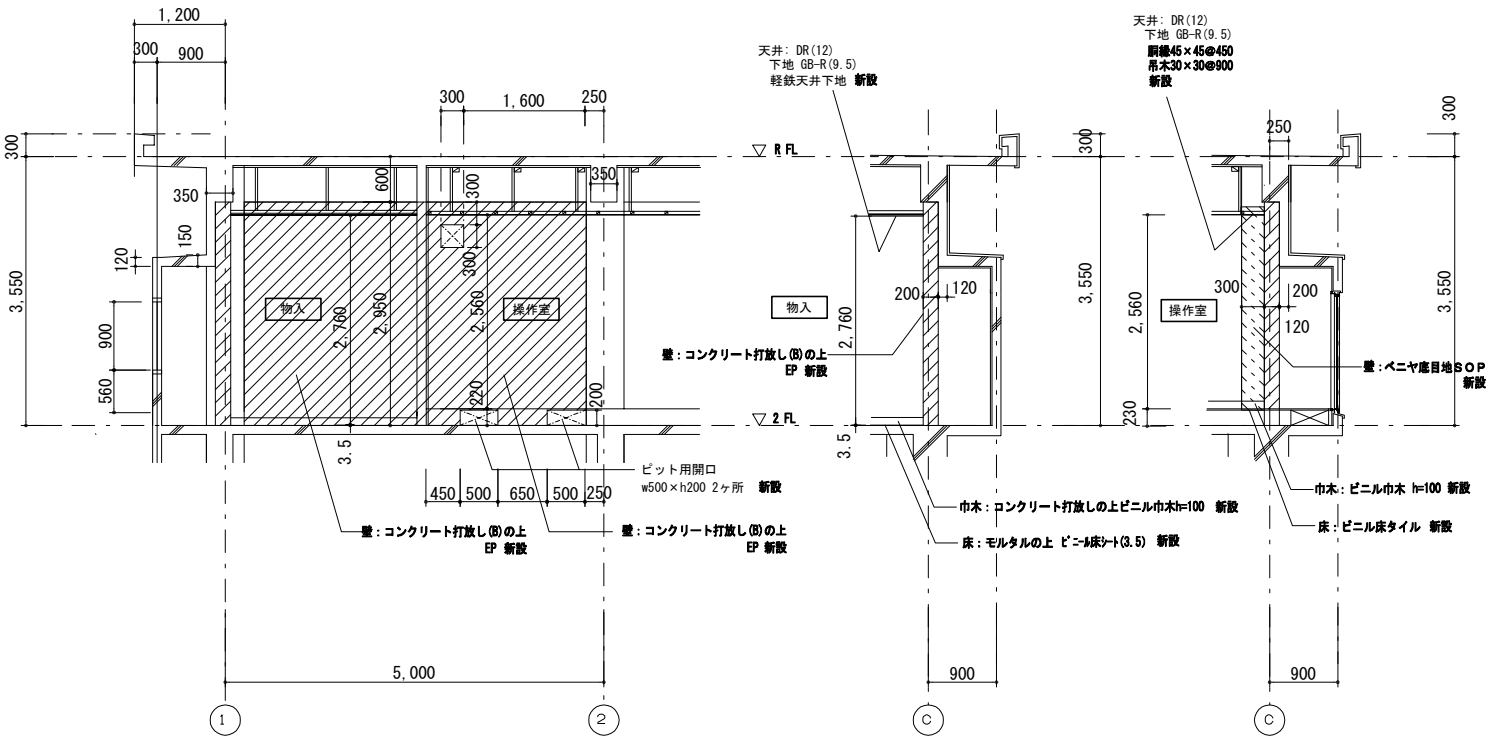
B-B断面図 1/100

※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

(改修前 凡例)



平面図 1/100

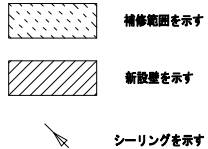


立断面図 1/100

A-A断面図 1/100

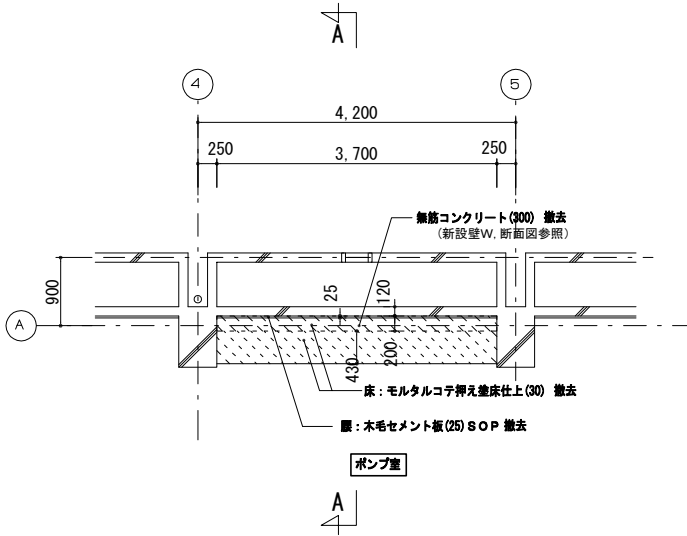
B-B断面図 1/100

(改修後 凡例)

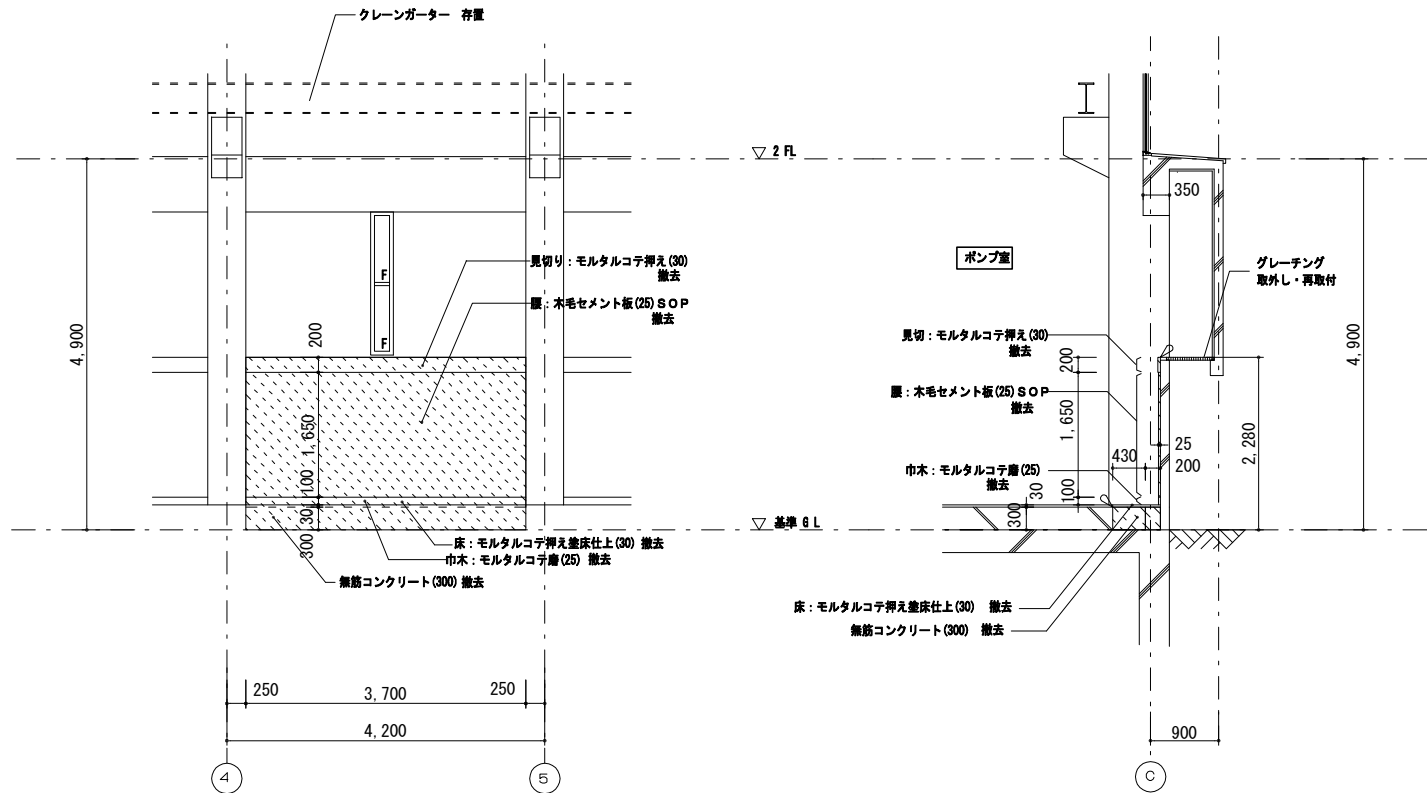


原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図（12）		
縮 尺	1/100	図面番号	A-32
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



平面図 1/100



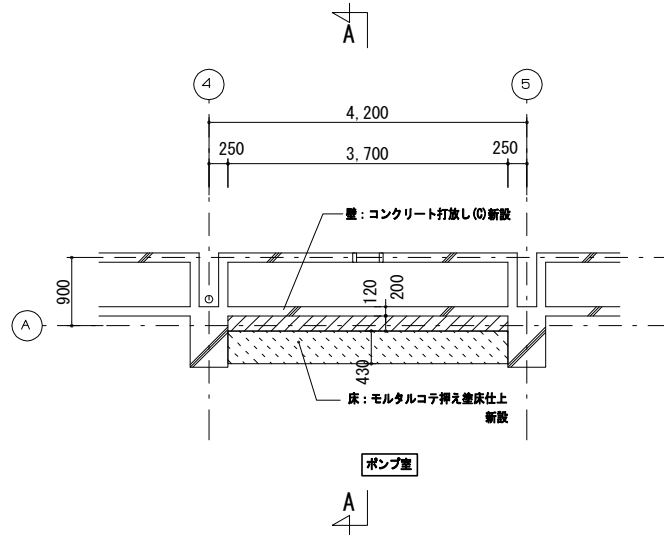
立断面図 1/100

A-A断面図 1/100

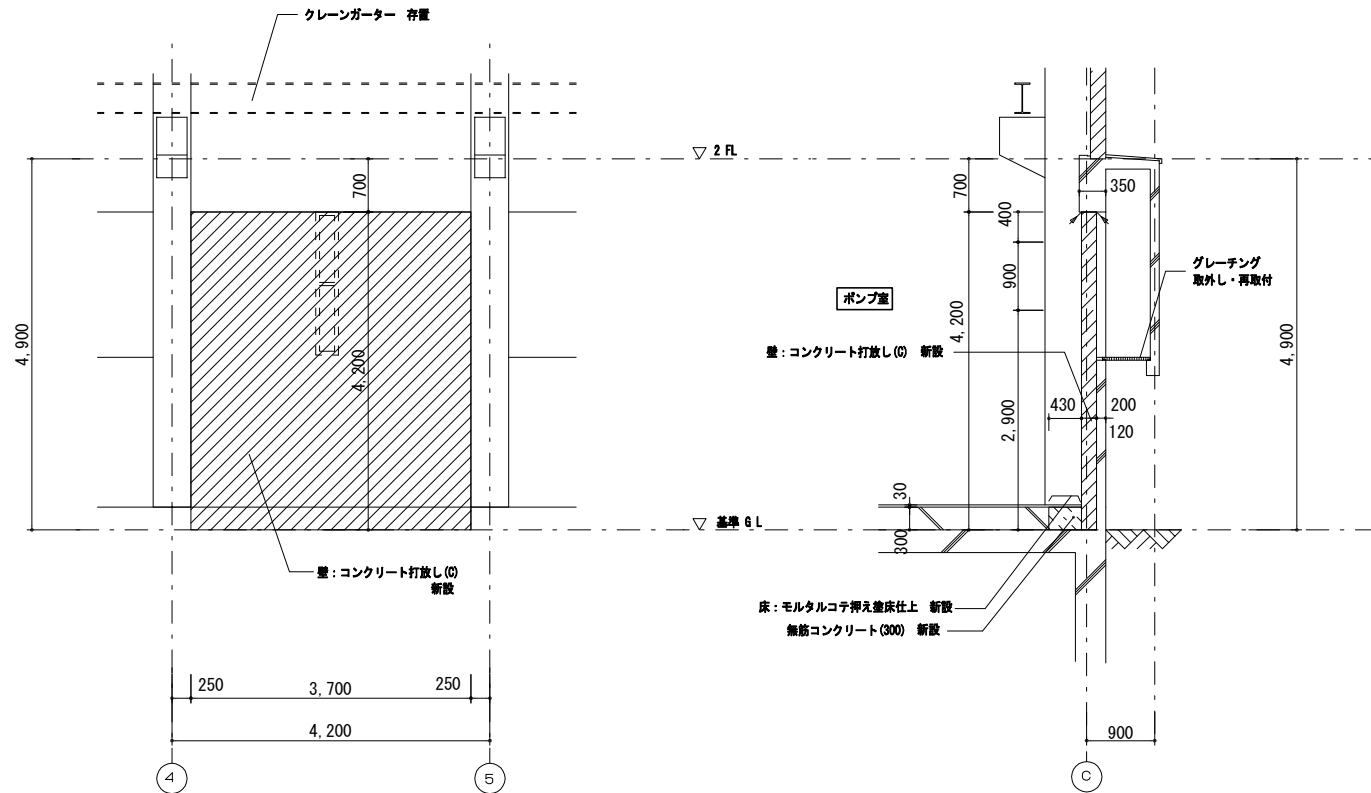
※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

(改修前 凡例)

- 撤去範囲を示す
- カッター入れを示す



平面図 1/100



立断面図 1/100

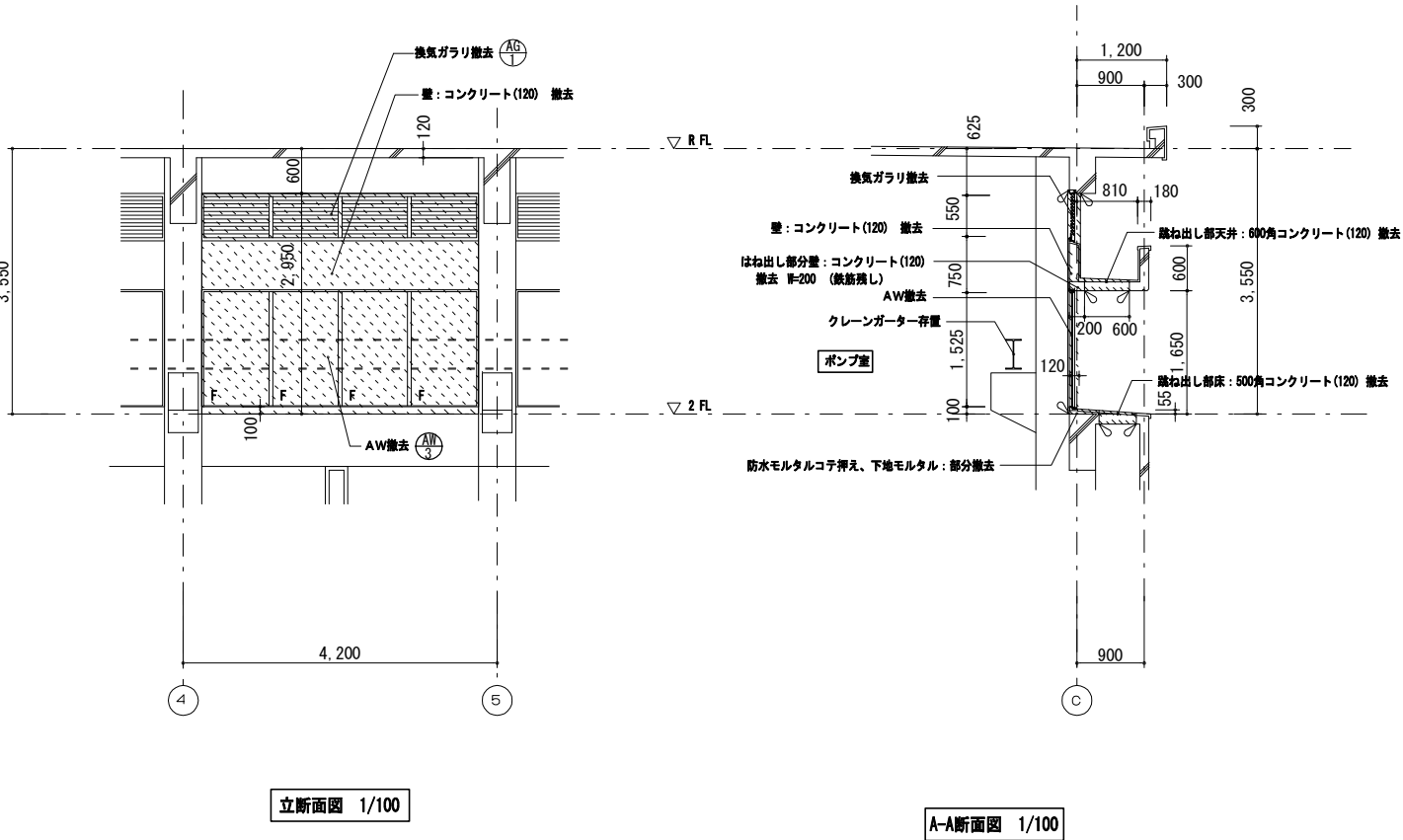
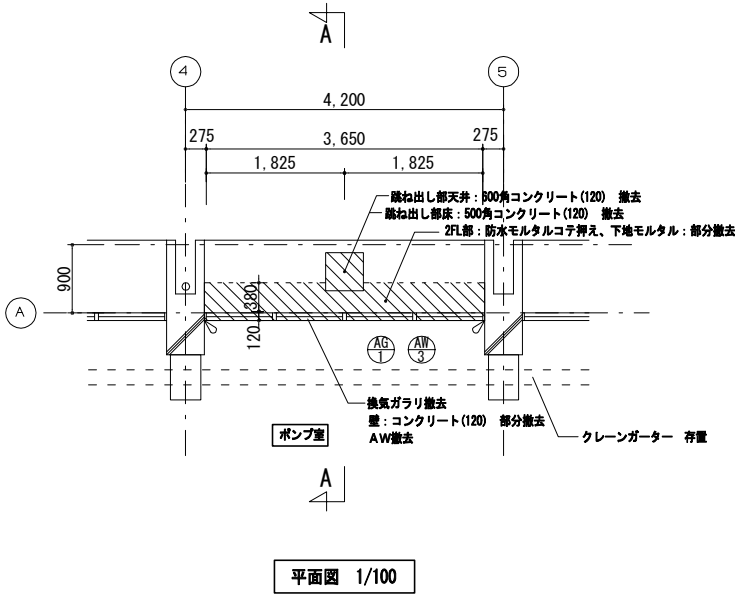
A-A断面図 1/100

(改修後 凡例)

- 補修範囲を示す
- 新設壁を示す
- シーリングを示す

原図: A3

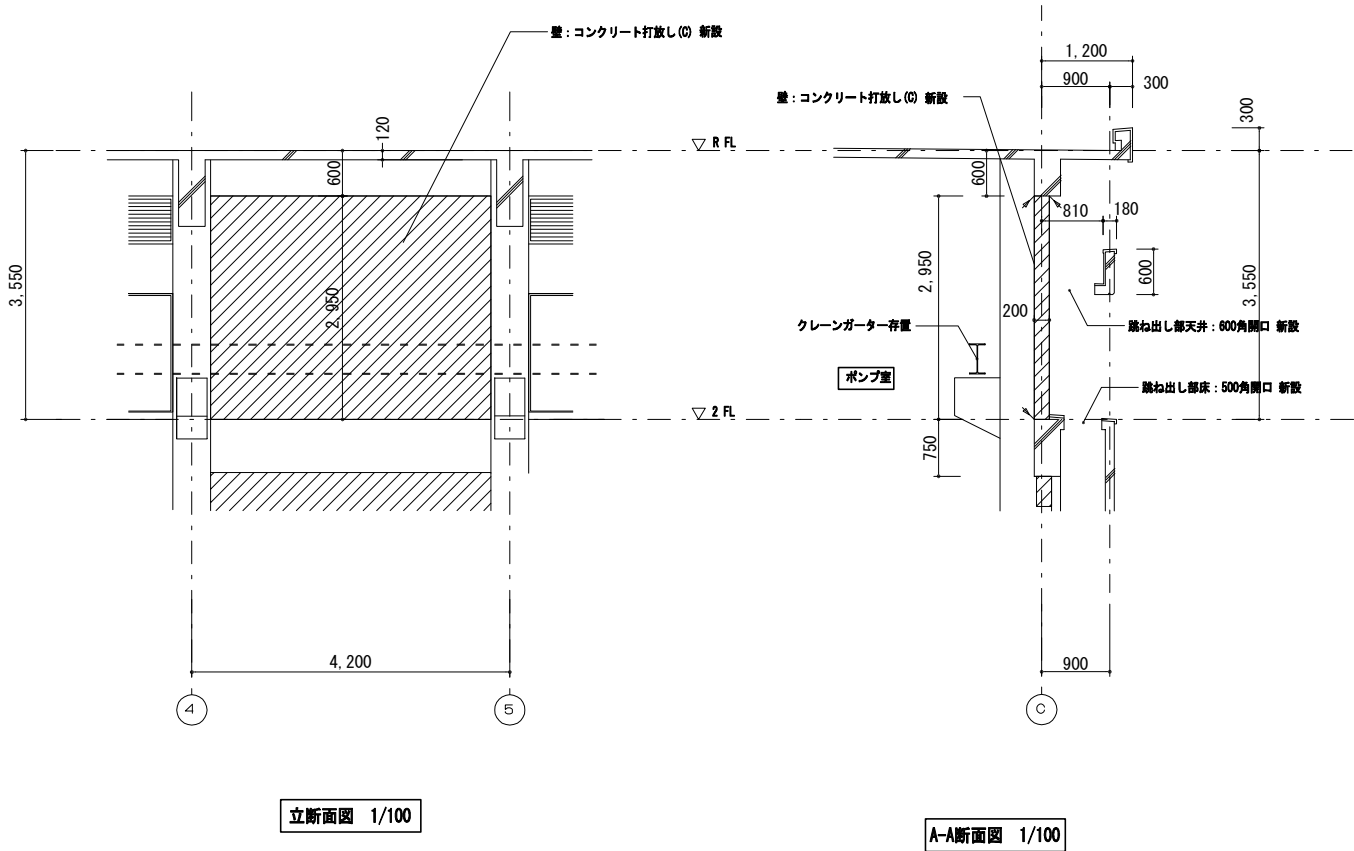
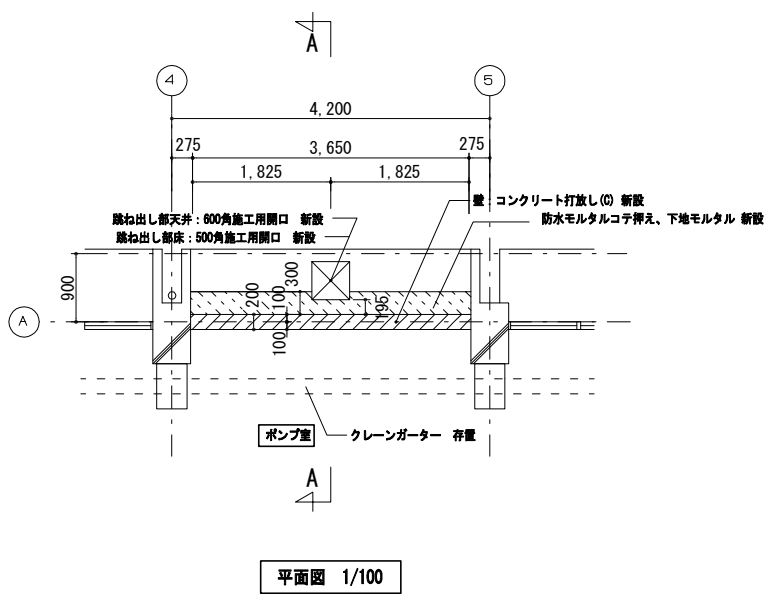
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場(ポンプ棟)耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図(13)		
縮 尺	1/100	図面番号	A-33
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



※ 仕上げについては、カッター入れの位置からさらに100mmの範囲を追加撤去する

(改修前 凡例)

- 撤去範囲を示す
- カッター入れを示す

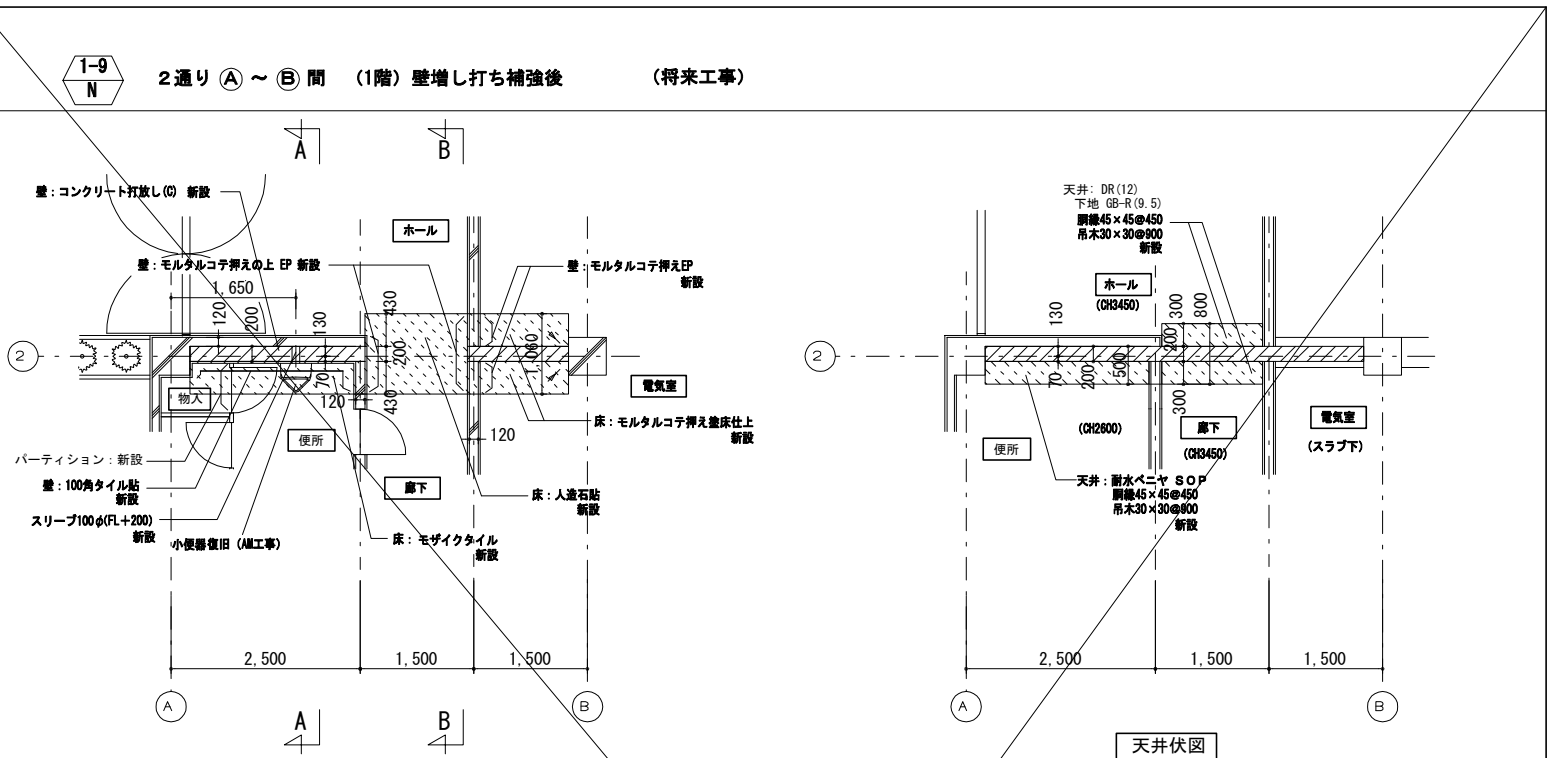


(改修後 凡例)

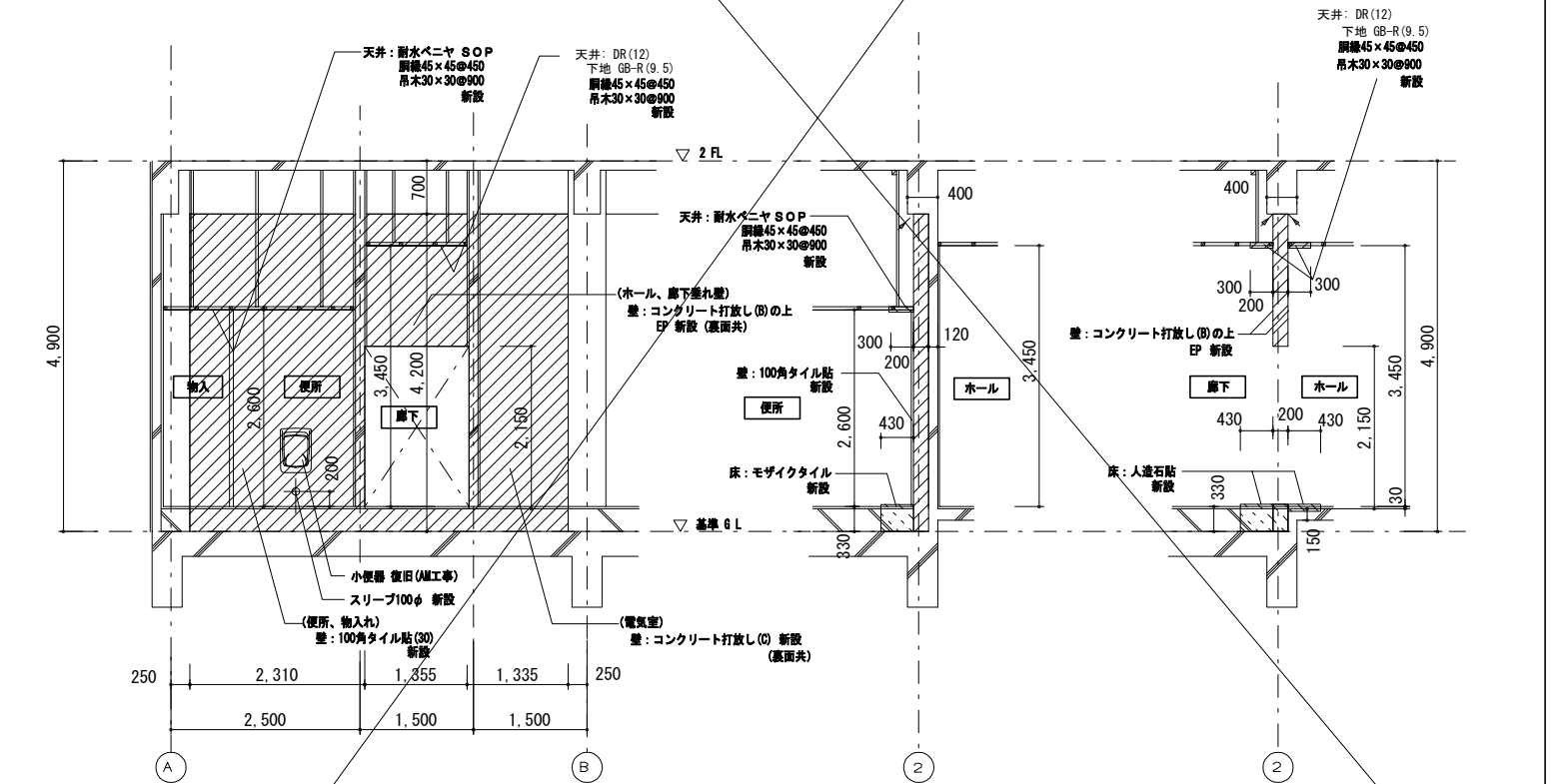
- 補修範囲を示す
- 新設壁を示す
- シーリングを示す

原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図（14）		
縮 尺	1/100	図面番号	A-34
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



平面图 1/100



R-R断面图 1/100

(改修後 凡例)








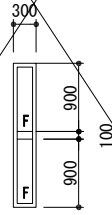
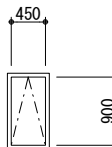
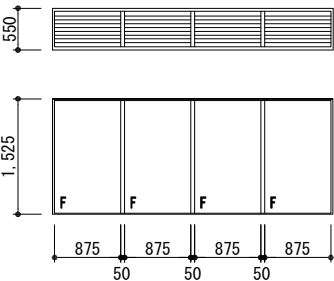
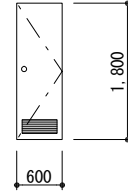
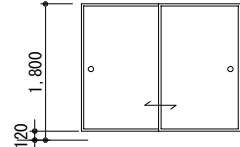
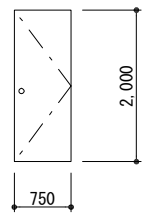
(改修後 凡例)




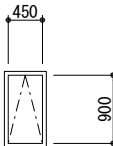
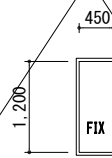
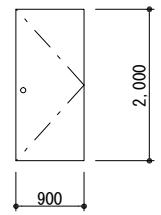
 補修範囲を示す

新設壁を示す

シーリングを示す

原図：A3			
工 事 名	平成30年度下施汚ポン浦第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修詳細図（15）		
縮 尺	1/100	図面番号	A-35
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

撤去建具リスト								
符号・名称・個数		 Fix窓 (将来工事) (外)－2－	 スペリ出シ窓 (今回工事) (外)－2－	  Fix窓 ガラリ窓 (今回工事)(外)－5－		 片開きフラッシュ戸ガラリ付 (今回工事)(内)－1－	 引違い戸襖 (今回工事) (内)－1－	 片開きスチールフラッシュ戸 (今回工事)(外)－2－
場所		1F ポンプ室	1F 2F 階段室	2F ポンプ室		2F 浴室	2F 宿直室	2F 便所、渡り廊下
仕上 (枠共)		表面処理	表面処理	表面処理		S O P		S O P
建具	見込	7 0	7 0	7 0		3 6	3 0	1 0 0
	硝子 (ランマ)	ラフワイヤー	透明75	ラフワイヤー				
ガラリ		――	――	――			――	――
建具枠		見込取合 査摺						
枠記号		査摺 (水切) 記号						
建具金物		付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式		丁番、アームストッパー		ドアチェック ユニロック錠、付属金物一式
その他						引手	引手	
形状・寸法								

新設建具リスト							
符号・名称・個数		 スペリ出シ窓 (今回工事) (外)－1－	 板め殺し窓 (将来工事) (外)－2－				 片開きスチールフラッシュ戸 (今回工事)(外)－1－
場所							2F 渡り廊下
仕上 (枠共)		B-1					D P
建具	見込	7 0					1 3 0
	建具	硝子 (ランマ)	P				
ガラリ							
建具枠		見込取合 査摺					
枠記号		査摺 (水切) 記号					
建具金物		付属金物一式	付属金物一式				ドアチェック、握り玉、シリリンダー箱錠、 ユニロック錠、付属金物一式
その他							
形状・寸法							

新設建具詳細図	1/20
---------	------



AW－1 詳細図 1/20



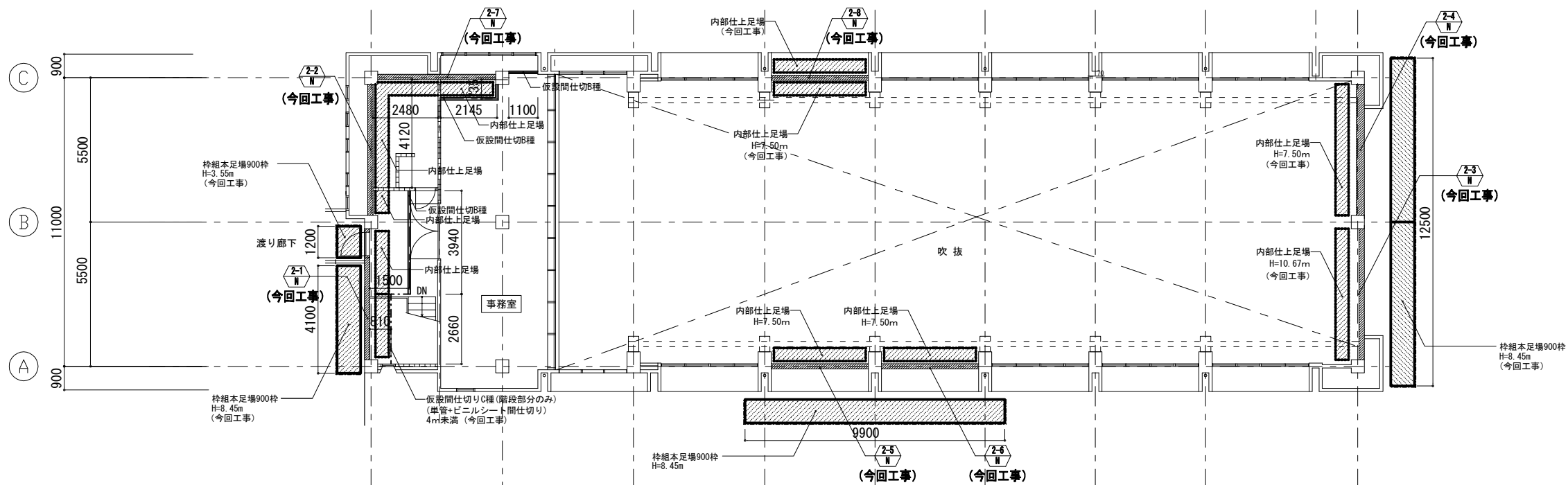
AW－2 詳細図 1/20



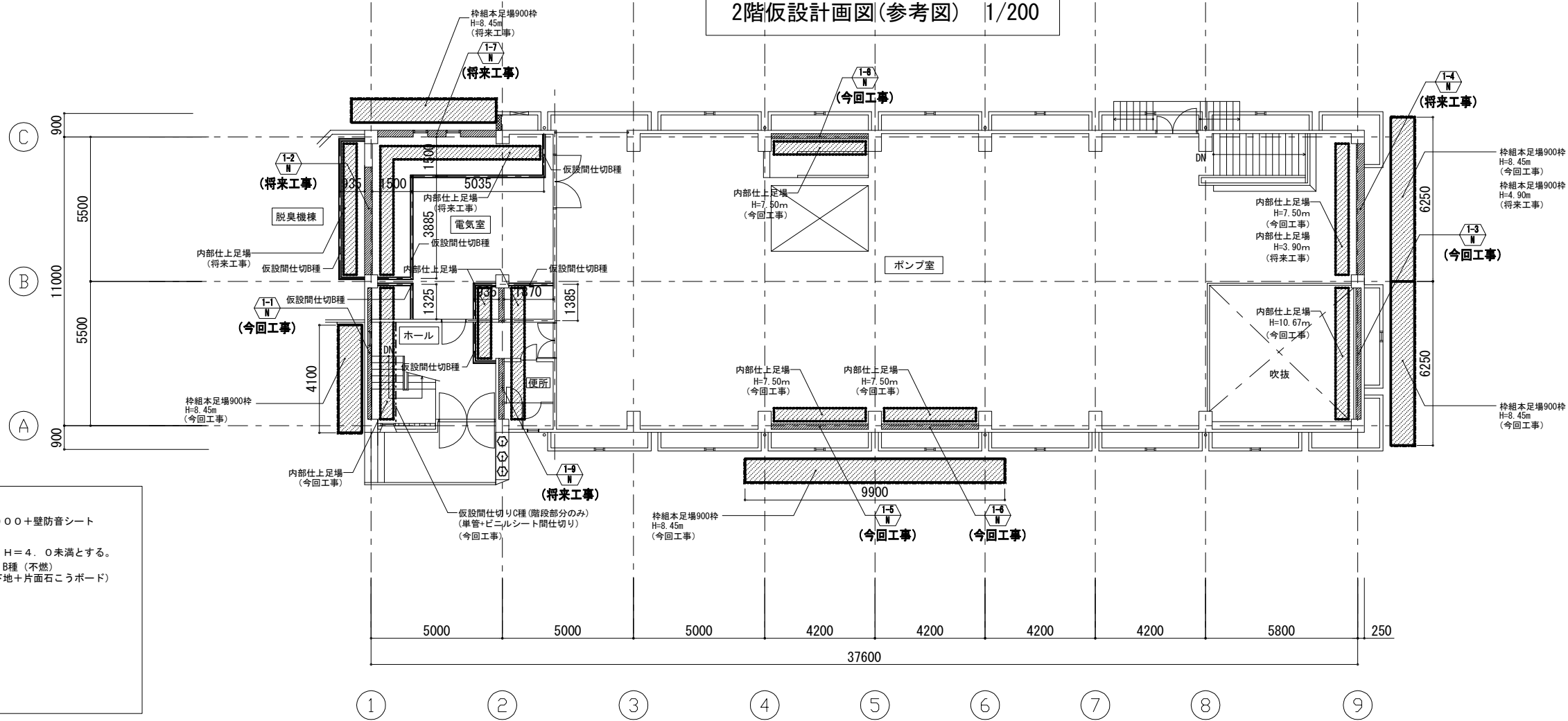
SD－5 詳細図 1/20

共通事項	1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。 但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。 2. バイパスベース、ダクトスペースの点検扉の錠はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。（内部サムターン付） 3. 便所等の施設を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。 4. A H、F Hを除きD Cの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。 壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。） 5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。 6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1, 5 0 0以内とする。 7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。	8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。 9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは4 0 mmとする。 10. 防火戸の位置は建具配置図による。 11. 特記なき限り気密扉・遮熱気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。 12. 階段室の施設を必要としない箇所は空錠とする。 13. 特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。 14. 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。	施 具 略 号	種 別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸		
				アルミニウム製	A D	A W	A G	A O D		A S	■ W			
				鋼 製	S D	S W	S G	S O D		S S				
				鋼 製 軽 量	L D					L S				
				ステンレス製	S S D	S S W	S S G			S S S				
木 製	W D	W W	W G		P	H								
ガラ ス 略 号	F 型板ガラス	H R 熱線反射ガラス		金 物 略 号	D C	ドアクローザー		A H	オートヒンジ		F H	フロアヒンジ	P H	ピボットヒンジ
	N フロート板ガラス													
	P 網入型板ガラス													
	N P 網入みがき板ガラス													

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事			
施工箇所名	津市東丸之内地内			
図面の種類	建具表			
縮 尺	1/100 1/20	図面番号	A-36	
事業所名	津市下水道局下水道施設課			



2階仮設計画図(参考図) 1/200



1階仮設計画図(参考図) 1/200

凡例

- 枠組本足場W900+壁防音シート
- 内部仕上足場
特記なき限り、H=4.0未満とする。
- 仮設間仕切壁 B種 (不燃)
(軽量鉄骨壁下地+片面石膏ボード)
- 新設耐震壁
- 袖壁新設
- 階数 改修部位番号
- N : 改修後

注記 仮設間仕切り、足場等は現場監督員と調整のこと。
仮設間仕切りは気密性を確保するため、縦目、床、天井部にテープを貼ること。
特記なき限り仮設間仕切内の設備機器等はシートにより養生のこと。
階段部分の間仕切りは、維持管理者が通れるよう調整のこと
今回工事、将来工事の工事区分に注意のこと

原図：A3			
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	仮設計画図（参考図）		
縮 尺	1/200	図面番号	A-37
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

6 鉄筋の継手及び定着

6. 1 継手及び定着

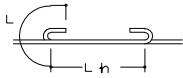
6. 1. 1 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手の長さは、6. 1表による。
- (2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40 d（軽量コンクリートの場合は50 d）と6. 1表の重ね継手長さのうち大きい値とする。

6. 1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_{1f} (フックなし)	L_{1h} (フックあり)
SD295A	21+3	40 d	30 d
	24 27	35 d	25 d
	30	35 d	25 d
SD345	21+3	45 d	30 d
	24 27	40 d	30 d
	30	35 d	25 d

- (注) 1. L_{1f} 、 L_{1h} ：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の L_{1h} は、6. 1図に示すようにフック部分 h を含まない。



6. 1図

6. 1. 2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力耐力の小さい位置に設ける。
- (2) 異径径の鉄筋をガス圧接する場合は、鉄筋径の直近の範囲内とする。

6. 1. 3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、6. 2表による。

柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さは、40 d（軽量コンクリートの場合は50 d）と6. 2表の定着の長さのうち大きい値とする。

6. 2表 鉄筋の定着の長さ

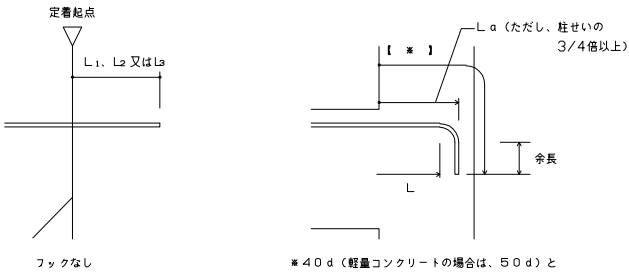
鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L_{1f}	L_{2f}	L_{3f}		L_{1h}	L_{2h}	L_{3h}	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295A	21+3	40 d	35 d	20 d	10 d かつ 150mm 以上	30 d	25 d	10 d	—
	24, 27	35 d	30 d			25 d	20 d		
	30	35 d	30 d			25 d	20 d		
SD345	21+3	45 d	35 d			30 d	25 d		
	24, 27	40 d	35 d			30 d	25 d		
	30	35 d	30 d			25 d	20 d		

6. 1. 4 定着の方法

定着の方法は6. 2図による。

なお、(ロ) 折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さ L が、6. 2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6. 2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8 d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを6. 3表に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3／4倍以上、小梁の場合は1／2以上）をのみ込ませる。

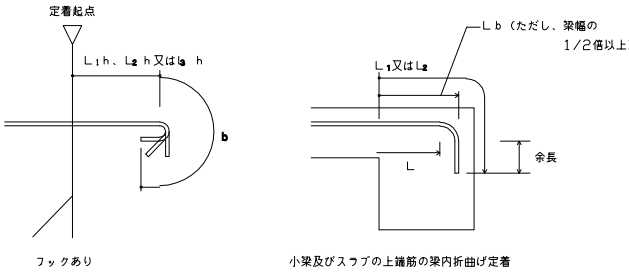
- (注) 1. L_a 、 L_b は、6. 3表の鉄筋の投影定着長さを示す。



フックなし

* 40 d（軽量コンクリートの場合は、50 d）と6. 2表のフックなし定着長さのうち大きい値とする

梁主筋の柱内曲げ定着



フックあり

小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着

(イ) 直線定着

(ロ) 折曲げ定着

6. 2図 定着の方法

6. 3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_a	L_b
SD295A	21+3	15 d	15 d
	24 27	15 d	15 d
	30	15 d	15 d
SD345	21+3	20 d	20 d
	24 27	20 d	15 d
	30	15 d	15 d

- (注) 1. L_a ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ

（基礎梁、片持ちスラブを含む。）

2. L_b ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）

6. 2 隣り合う継手の位置及び定着

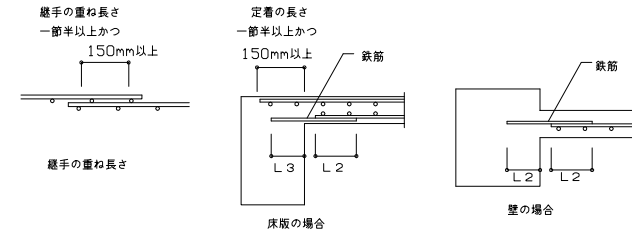
隣り合う継ぎ手の位置は、6. 4表により、a寸法を守ること。

ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

6. 4表 隣り合う継手の位置

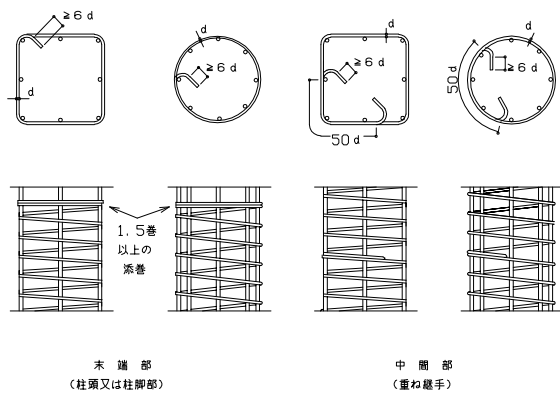
条 件		重ねる場合	離す場合
重ね継手	フック有りの場合		
	フックなしの場合		
圧接継手			

(1) 溶接金網の継手及び定着



6. 3図 溶接金網の継手及び定着要領

(2) スパイラル筋の継手及び定着



末端部 (柱頭又は柱脚部)

中間部 (重ね継手)

6. 4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

7 柱筋の継手位置

7. 1 継手及び圧接中心位置

- (1) 柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から50 c m以上、150 c m以下かつ3／4 h o（h oは柱の内法高さ）以下とする。

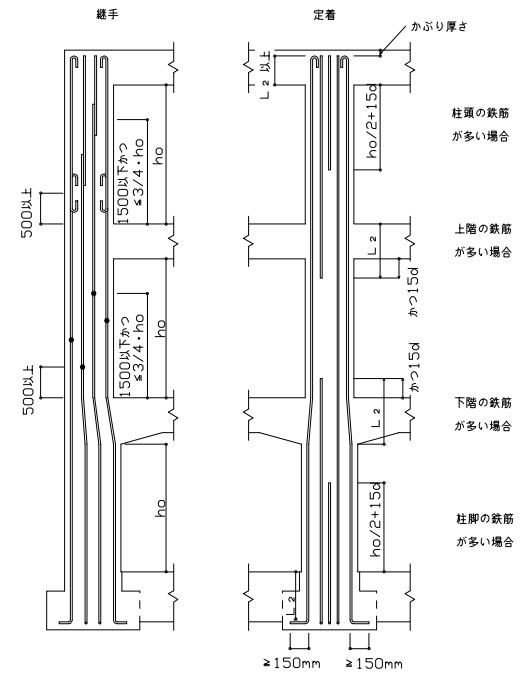
8 柱筋の継手及び定着

8. 1 一般事項

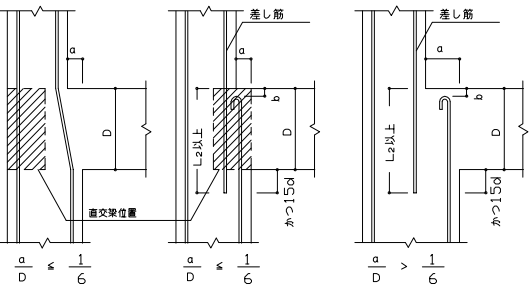
- (1) 継手長さは L とし、定着及び余長は、8. 1図による。

- (2) 柱頭定着長さ L が確保出来ない場合は、図面による。

- (3) 上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、8. 2図による。



8. 1図 柱主筋の継手、定着及び余長



a： 上下の柱幅の差く a ≤ 150)

b： かぶり厚さ

D： 梁のせい

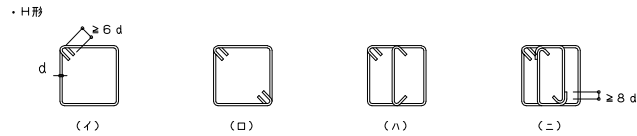
8. 2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

9 帯筋

9. 1 帯筋の形状

- (1) 帯筋の形状は、9. 1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。

- (a) H形とする。
- (b) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
- (c) 溶接する場合の溶接長さ L は、両面フレア溶接の場合は5 d以上、片面フレア溶接の場合は10 d以上とし、組立前に行う。
- (d) S P形において、柱頭及び柱脚の諸部は、1. 5巻以上の添着きを行う。



・H形

(イ)

(ロ)

(ハ)

(ニ)

・W-I形 (溶接を行う)

(イ)

(ロ)

(ハ)

・S P形 (スパイラル筋)

(イ)

(ロ)

・丸形

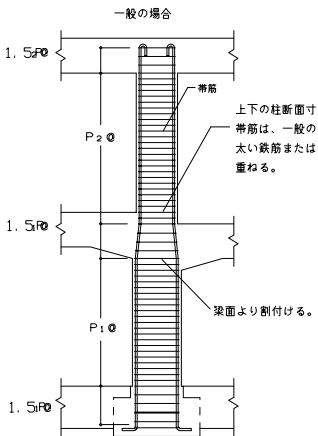
(イ)

(ロ)

9. 1図 帯筋組立の形

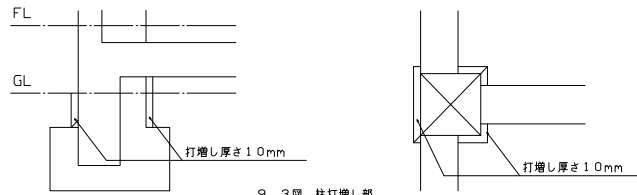
9. 2 帯筋の割付け

- (1) フック及び継手の位置は交互とし、位置を変える。
- (2) 帯筋の割付けは、9. 2図による。ただし、図面にある場合はそれによる。
- (3) 柱、梁の交差部（パネルゾーン）の帯筋のせん断補強比は、0. 2％以上を確保し、ピッチは1. 5倍とする。



9. 2図 帯筋の割付け

- (4) 土に接する柱周囲の打増しは9. 3図による。



9. 3図 柱打増し部

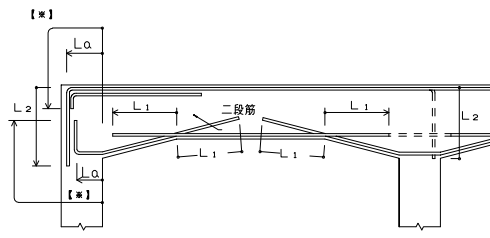
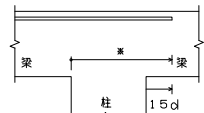
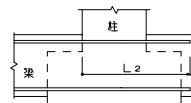
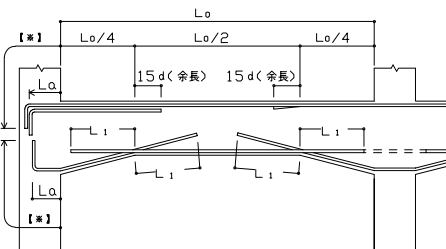
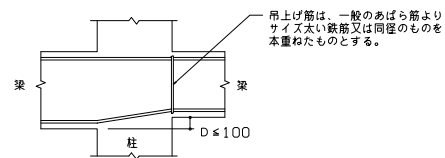
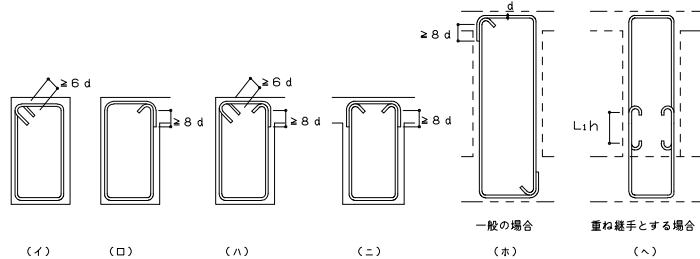
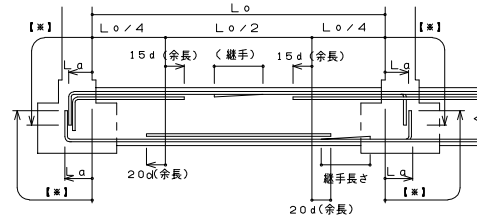
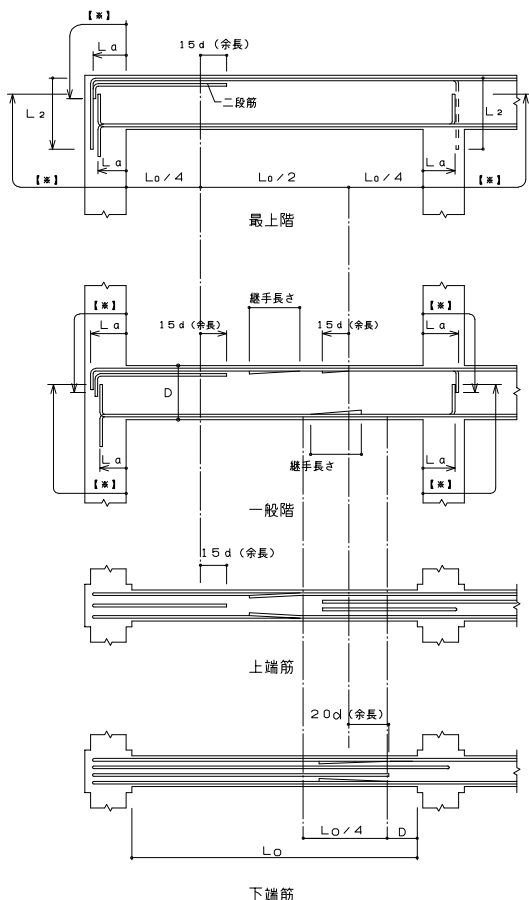
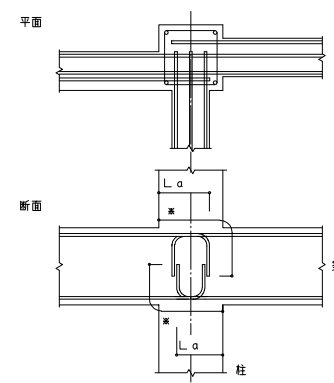
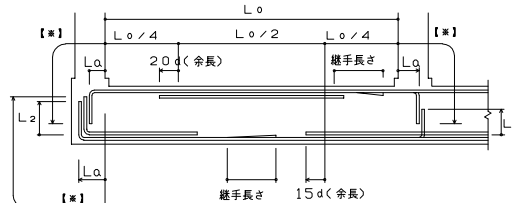
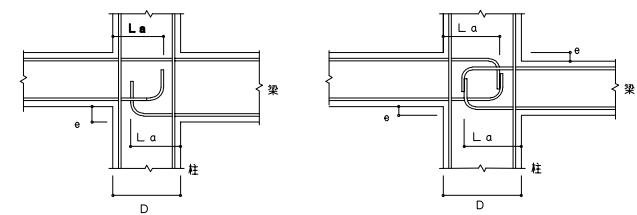
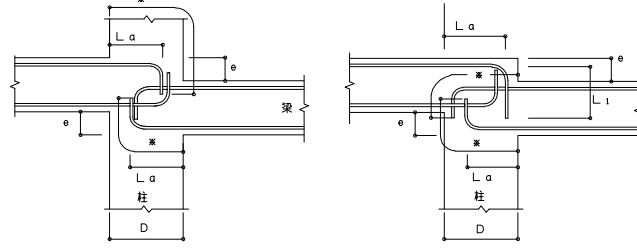
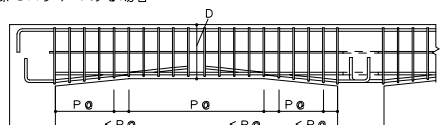
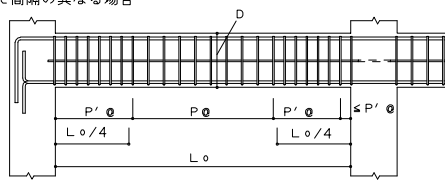
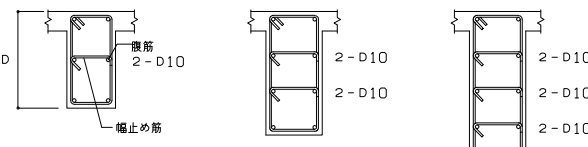
柱、梁の交差部の配筋例 (0. 2％確保)

柱幅< c m	パネルゾーン
≤ 45	D10 ②150
≤ 55	D10 ②125
≤ 70	D10 ②100
≤ 80	D13 ②150
≤ 100	D13 ②125
≤ 125	D13 ②100
≤ 130	D16 ②150
≤ 155	D16 ②125

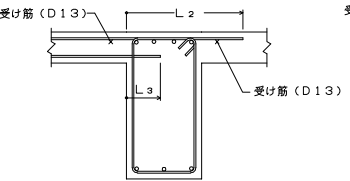
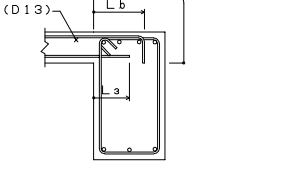
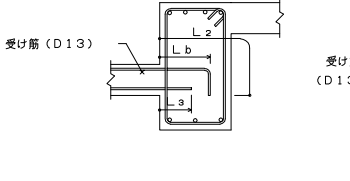
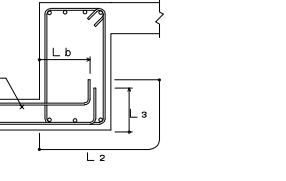
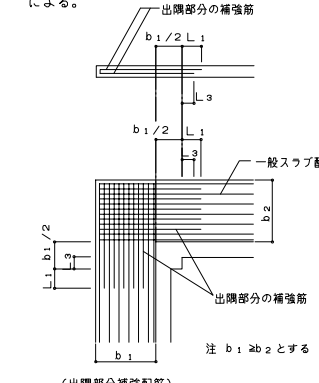
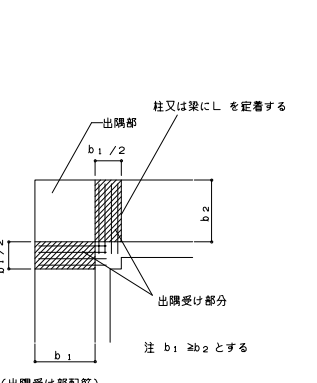
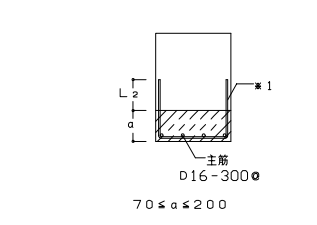
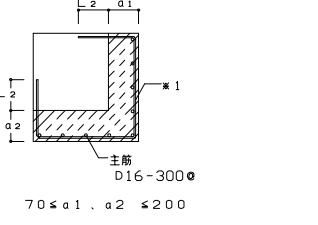
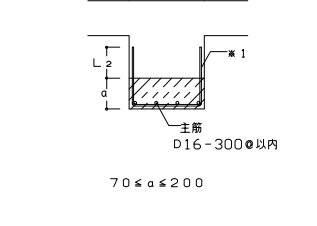
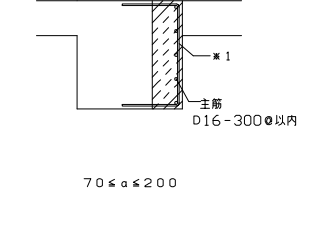

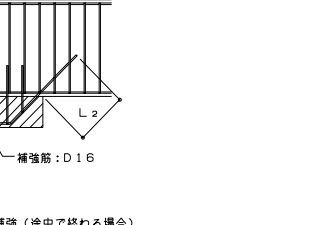
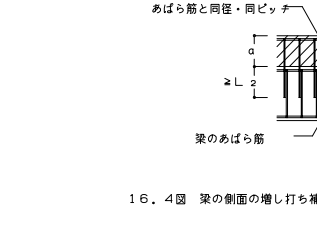
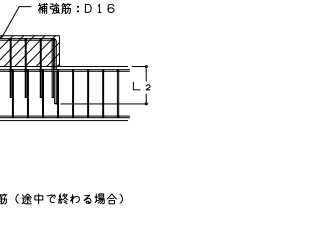
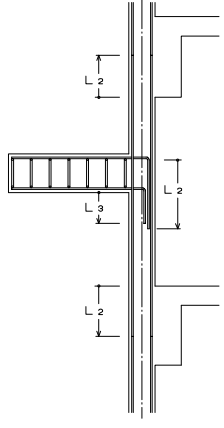
* P_1 、 P_2 ピッチは100以下とする。

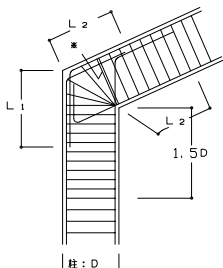
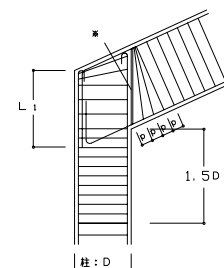
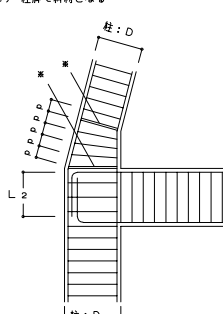
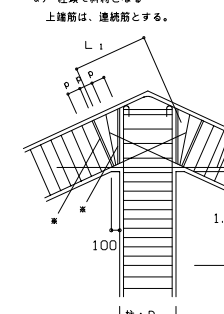
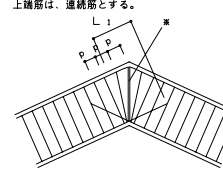
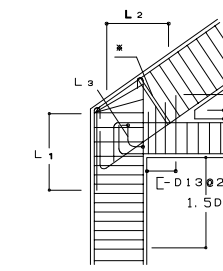
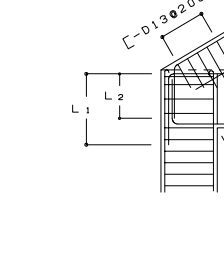
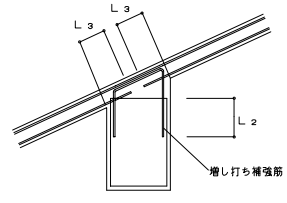
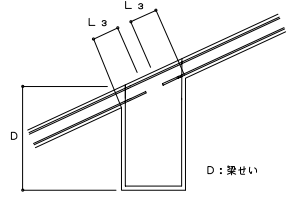
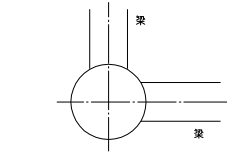
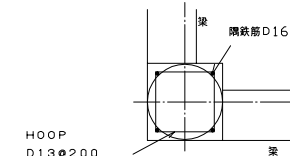
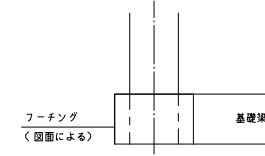

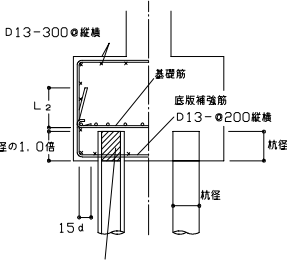
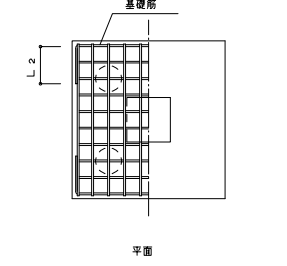
原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	構造詳細共通図（建築構造物）(2)		
縮 尺	—	図面番号	S-2
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

10大梁筋の継手及び定着	10.3ハンチのある場合	11梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋	12基礎梁及び底版の継手及び定着
10.1大梁（基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び余長	(1)最上階の場合	11.1一般事項	12.1基礎梁主筋の継手、定着及び余長
(1)大梁主筋の継手及び定着の一般事項	 <p>10.4図ハンチのある大梁の定着及び余長（最上階）</p>	(1)腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。 (2)壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは2Lとする。 (3)土圧、水圧を受ける梁は、図面による。 (4)幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10～1000mmピッチ程度とする。	(1)一般事項 (a)梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は12.1図のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。 (b)梁筋を柱内に定着する場合は10.1(1)bによる。
 <p>※40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と6.2表のフックなし直線定着長さのうち大きい値とする</p> <p>10.1図梁主筋の梁内定着</p>	(2)一般階の場合	11.2あばら筋組立の形及びフックの位置	 <p>12.1図梁筋の基礎梁内への定着</p>
b.梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。 なお、定着の方法は、6.1.4による。 上端筋：曲げ下ろす。 下端筋：原則として曲げ上げる。	 <p>10.5図ハンチのある大梁の定着及び余長（一般階）</p> <p>(注)1.異形鉄筋の末端部(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。 2.印は、継手及び余長を示す。 3.梁内定着の端部下端筋が接近するときは、＝＝＝のように引き通すことができる。 4.破線は、梁内定着の場合を示す。 ※40d（軽量コンクリートの場合50d）と6.2表のフックなし定着長さのうち大きい値とする</p>	(1)形は、11.1図(イ)を標準とする。 ただし、(イ)によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。 a.床版が片側に付く場合は、(ロ)又は(ハ) b.床版が両側に付く場合は、(ロ)～(ニ)	(2)独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長
c.段違い梁は10.2図による。	 <p>10.2図段違い梁</p>	 <p>11.1図あばら筋組立の形及びフックの位置</p>	 <p>(注)1.図示のない事項は、10.1による。 2.印は、継手及び余長位置を示す。 4.破線は、柱内定着の場合を示す。 ※40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と6.2表フックなし定着長さのうち大きい値とする。</p> <p>12.2図主筋の継手、定着及び余長（その1）</p>
10.2ハンチのない場合	(1)水平段差のある場合	11.3あばら筋の割付け	(3)連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長
 <p>10.3図大梁の重ね継手、定着及び余長</p> <p>(注)1.継手中心位置は次による。 上端筋：中央Lo/2以内 下端筋：柱面より梁せい(D)以上離し、Lo/4を加えた範囲以内 2.異形鉄筋の末端部(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。 3.印は、継手及び余長を示す。 4.破線は、柱内定着の場合を示す。 ※40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と6.2表フックなし定着長さのうち大きい値とする。</p>	 <p>10.6図大梁の定着及び余長（水平段差のある場合）</p>	(1)間隔が一樣でハンチのない場合	 <p>(注)1.図示のない事項は、10.1による。 2.印は、継手及び余長位置を示す。 4.破線は、柱内定着の場合を示す。 ※40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と6.2表フックなし定着長さのうち大きい値とする。</p> <p>12.3図主筋の継手、定着及び余長（その2）</p>
	(1)e/D≤1/6の場合	(1)1.あばら筋は、柱面の位置から割付ける。 2.図中のPΦは、特記されたあばら筋の間隔を示す。	
	 <p>定着の長さは、10.3図に準ずる</p> <p>10.7図鉛直段差梁（その1）</p>	11.2図あばら筋の割付け（その1）	
	(2)e/D>1/6の場合	(2)間隔が一樣でハンチのある場合	
	 <p>10.8図鉛直段差梁（その2）</p>	 <p>(注)1.あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。 2.図中のPΦは、特記されたあばら筋の間隔を示す。</p> <p>11.3図あばら筋の割付け（その2）</p>	
		(3)梁の端部で間隔の異なる場合	
		 <p>(注)1.あばら筋は、柱面の位置から割付ける。 2.図中のPΦ、P'Φは、特記されたあばら筋の間隔を示す。</p> <p>11.4図あばら筋の割付け（その3）</p>	
		11.4図腹筋及び幅止め筋	
		(1)一般の梁	
		a)腹筋及び幅止め筋	
		 <p>600≦D<900 900≦D<1,200 1200≦D≦1,500</p> <p>11.5図腹筋及び幅止め筋</p>	
		(2)特殊な梁	
		腹筋及び幅止め筋は、図面による。	

原図：A3			
工事名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	構造詳細共通図（建築構造物）（3）		
縮尺	－	図面番号	S-3
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

<div>15 床の配筋要領</div> <div>15.1 一般事項</div> <div>(1) 鉄筋の継手長さは、L_1 とする。</div> <div>(2) 定着長さ及び受け筋は、15.1図による。ただし、引き通すことができない場合は、15.2図、15.3図により梁内に定着する。</div> <div>(3) 基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。</div> <div><div></div><div></div></div> <div><div></div><div></div></div>	<div>15.3 出隅部の配筋方法</div> <div>(1) 補強の配筋は図面による。配筋方法は、15.6図による。 特記にない場合は、$D10 \text{ } \Phi 100$ダブルとする。</div> <div>(2) 出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面(幅は$b_1/2$とする)による。</div> <div><div></div><div></div></div> <div>15.6図 片持スラブ出隅部の補強配筋</div>	<div>16 柱及び梁の増し打ち要領</div> <div>16.1 柱</div> <div>(1) 増し打ちコンクリートの補強は、16.1図による。 ただし、$a < 70 \text{ mm}$の場合は補強は行わない。</div> <div><div></div><div></div></div> <div>16.1図 柱の増し打ち補強配筋</div> <div>(2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。</div> <div>(3) 増し打ち部分の帯筋の定着長さは、L_1 以上とする。</div> <div>(4) 増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。</div> <div>16.2 梁</div> <div>(1) 増し打ちコンクリートの補強は、16.2図による。ただし、$a < 70 \text{ mm}$の場合、補強は行わない。</div> <div><div></div><div></div></div> <div>16.2図 梁の増し打ち補強配筋</div> <div>(2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。</div> <div>(3) 増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、L_1 以上とする。</div> <div>(4) 増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。</div> <div>(5) 梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合</div> <div><div></div><div></div></div> <div>16.3図 梁の上下の増し打ち配筋補強（途中で終わる場合）</div> <div>(6) 梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合</div> <div><div></div><div></div></div> <div>16.4図 梁の側面の増し打ち補強配筋（途中で終わる場合）</div>	<div>18 階段の配筋要領</div> <div>18.1 階段の配筋要領</div> <div>(1) 壁配筋は、図面による。</div> <div>(2) 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ降ろす。</div> <div></div> <div>18.1図 片持スラブ形階段配筋の定着</div> <div>原図：A3</div> <table><tr><td>工 事 名</td><td colspan="3">平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事</td></tr><tr><td>施工箇所名</td><td colspan="3">津市東丸之内地内</td></tr><tr><td>図面の種類</td><td colspan="3">構造詳細共通図（建築構造物）（5）</td></tr><tr><td>縮 尺</td><td>-</td><td>図面番号</td><td>S-5</td></tr><tr><td>事業所名</td><td colspan="3">津市下水道局下水道施設課</td></tr></table>	工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事			施工箇所名	津市東丸之内地内			図面の種類	構造詳細共通図（建築構造物）（5）			縮 尺	-	図面番号	S-5	事業所名	津市下水道局下水道施設課		
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事																						
施工箇所名	津市東丸之内地内																						
図面の種類	構造詳細共通図（建築構造物）（5）																						
縮 尺	-	図面番号	S-5																				
事業所名	津市下水道局下水道施設課																						

19	勾配屋根の取り合い	19.2	梁と床版の取り合い	20.2	基礎接合部の補強配筋	21.2	基礎接合部の補強																						
19.1 斜め柱・斜め梁の取り合い		19.3 円柱の取り合い		21 杭基礎の補強																									
<p>(1) ※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。</p> <p>(2) 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとしφ100以下とする。</p> <p>(3) 柱の取合い部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔p以下とする。</p> <div><div><p>α) 柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一</p></div><div><p>β) 柱幅と斜材幅が異なる</p></div><div><p>γ) 柱脚で斜材となる</p></div><div><p>δ) 柱頭で斜材となる</p></div><div><p>ε) 梁が斜材となる</p></div><div><p>φ) 斜め大梁に小梁が接する場合</p></div><div><p>θ) 大梁に斜め小梁が接する場合</p></div></div> <p>19.1図 斜め柱・斜め梁の取り合い配筋</p>		<p>増し打ち補強要領は、16.2による。</p> <div><div></div><div></div></div> <p>Type A Type B</p> <p>19.2図 梁と床版の取り合い配筋</p>		<p>(1) 円柱と梁の取り合い</p> <div><div></div><div></div></div> <p>1) 柱頭部で柱芯に梁が取り付く場合 2) 柱頭部で柱外面に梁が取り付く場合</p> <div><div></div><div></div></div> <p>3) 柱脚部の円柱と基礎との取合い</p> <p>19.3図 円柱の取り合い配筋</p>		<p>(1) 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。</p> <p>(2) 既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。</p> <div><div></div><div></div></div> <p>21.1図 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法</p>		<p>基礎接合部の補強は、20.2による。</p> <p>原図：A3</p> <table><tr><td>工 事 名</td><td colspan="3">平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事</td></tr><tr><td>施工箇所名</td><td colspan="3">津市東丸之内地内</td></tr><tr><td>図面の種類</td><td colspan="3">構造詳細共通図（建築構造物）（6）</td></tr><tr><td>縮 尺</td><td>-</td><td>図面番号</td><td>S-6</td></tr><tr><td>事業所名</td><td colspan="3">津市下水道局下水道施設課</td></tr></table>		工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事			施工箇所名	津市東丸之内地内			図面の種類	構造詳細共通図（建築構造物）（6）			縮 尺	-	図面番号	S-6	事業所名	津市下水道局下水道施設課		
工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事																												
施工箇所名	津市東丸之内地内																												
図面の種類	構造詳細共通図（建築構造物）（6）																												
縮 尺	-	図面番号	S-6																										
事業所名	津市下水道局下水道施設課																												

あと施工アンカー

注記：平成13年国土交通省告示1204号により『あと施工アンカー・連続繊維補強設計・施工指針（平成18年4月10日国住指第79号及び平成18年5月8日国住指第501）』による。

（1）接着系アンカー（ナット付）

（ナットなし）

L：コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ
Le：アンカーの有効埋め込み長さ
Ld：アンカー筋の全長
Ln：有効定着長さ
Da：既存コンクリート躯体への穿孔径
da：アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

アンカー関係共通事項			
接着系アンカーの有効埋め込み長さ	一般部	Le=7da 開口補強筋：Le=10da	
接着系アンカーの有効定着長さ	一般部	Ln=20da 開口補強筋：Ln=L1 +5da (=補強筋との継手長さ+7777)	
アンカー筋形状	ナット付き異形棒鋼（開口補強筋用はナットなし）とし、ナットからねじ山が2山以上でること。 また、先端形状は45°カットとする。		

施工確認試験荷重			
アンカー筋呼び名(da)	荷重(kN)	アンカー筋呼び名(da)	荷重(kN)
D10<7da	12.35	D10<10da	14.02
D13<7da	24.93	D13<10da	24.98
D16<7da	36.01	D16<10da	39.14
D19<7da	49.11	D19<10da	66.01
D22<7da	64.25	D22<10da	89.01

（2）あと施工アンカーの位置と間隔

割裂補強筋配筋要領

1. 割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。

2. 割裂補強筋は、6φスパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は下記による。

3. 継手は、2巻以上の重ねとする。

壁厚	スパイラル径	割裂補強筋	備考
150	75φ	6φ@50	
180	100φ	6φ@50	
200	120φ	6φ@50	
250	150φ	6φ@50	
300	200φ	6φ@50	

新設・増設壁上部グラウト要領

1. 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。

鉄筋フレア溶接要領

1. 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。

2. 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点(La)及び、クレーター(Lb)を除いた部分の長さとする。但し、La 及び Lbは 2d以上とする。

3. 特記なき限り、片面フレア溶接とする

アンカー筋ピッチ標準

既存壁等撤去要領図

注記）特記なき壁等の撤去は下図による。
注記）△印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30とする。
注記）鉄筋切断部には、錆止め塗装を行う。
注記）鉄筋はつり出しは、特記による。

撤去壁－梁 取合部（撤去のみの場合）

撤去壁－スラブ 取合部

撤去壁－柱 取合部（撤去のみの場合）

撤去壁－直交壁 取合部

撤去庇－梁 取合部

新設壁開口配筋要領図

1. 床・壁にコア抜きにより先導孔を開ける。

2. 各開口寸法に合わせ、コンクリートカッター及び、はつり出しにより開口部を開ける。

3. 小開口部は切断面の補修（錆び止め塗装）を施す。
大開口部はあと施工アンカーにより、開口補強筋を設ける。
開口補強筋を取り付けた後、内型枠に合わせグラウト材を充填する。

○大開口部 ・適用は特記による。

○小開口部 ・適用は特記による。

その他 特記事項

1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。

2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm2 +3Nとする。

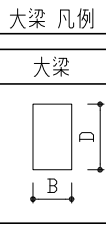
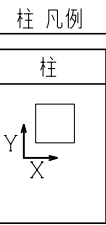
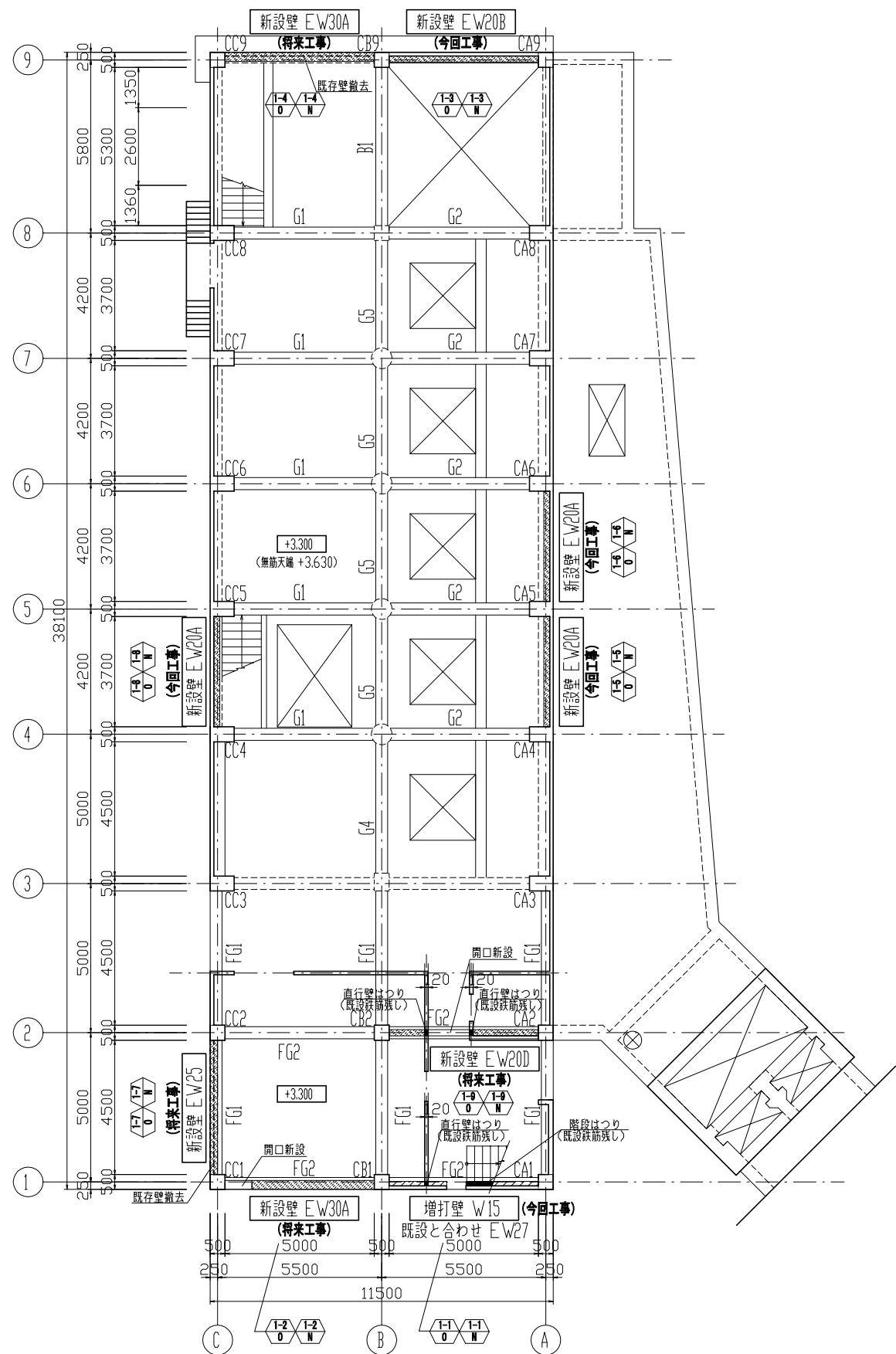
3. 鉄筋は、SD295A（D16以下）、SD345（D19以上）とする。

4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm2 とする。

原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	耐震改修標準詳細図		
縮 尺	-	図面番号	S-7
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

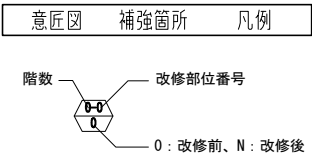
ポンプ棟 補強範囲図(1)



既設柱リスト							
階	符号	Dx × Dy		階	符号	Dx × Dy	
1	CA1	500 × 500		1	CB2	500 × 500	
1	CA2	500 × 500		1	CB9	500 × 500	
1	CA4	800 × 500		1	CC1	500 × 500	
1	CA5	800 × 500		1	CC2	500 × 500	
1	CA6	800 × 500		1	CC4	800 × 500	
1	CA9	500 × 500		1	CC5	800 × 500	
1	CB1	500 × 500		1	CC9	500 × 500	

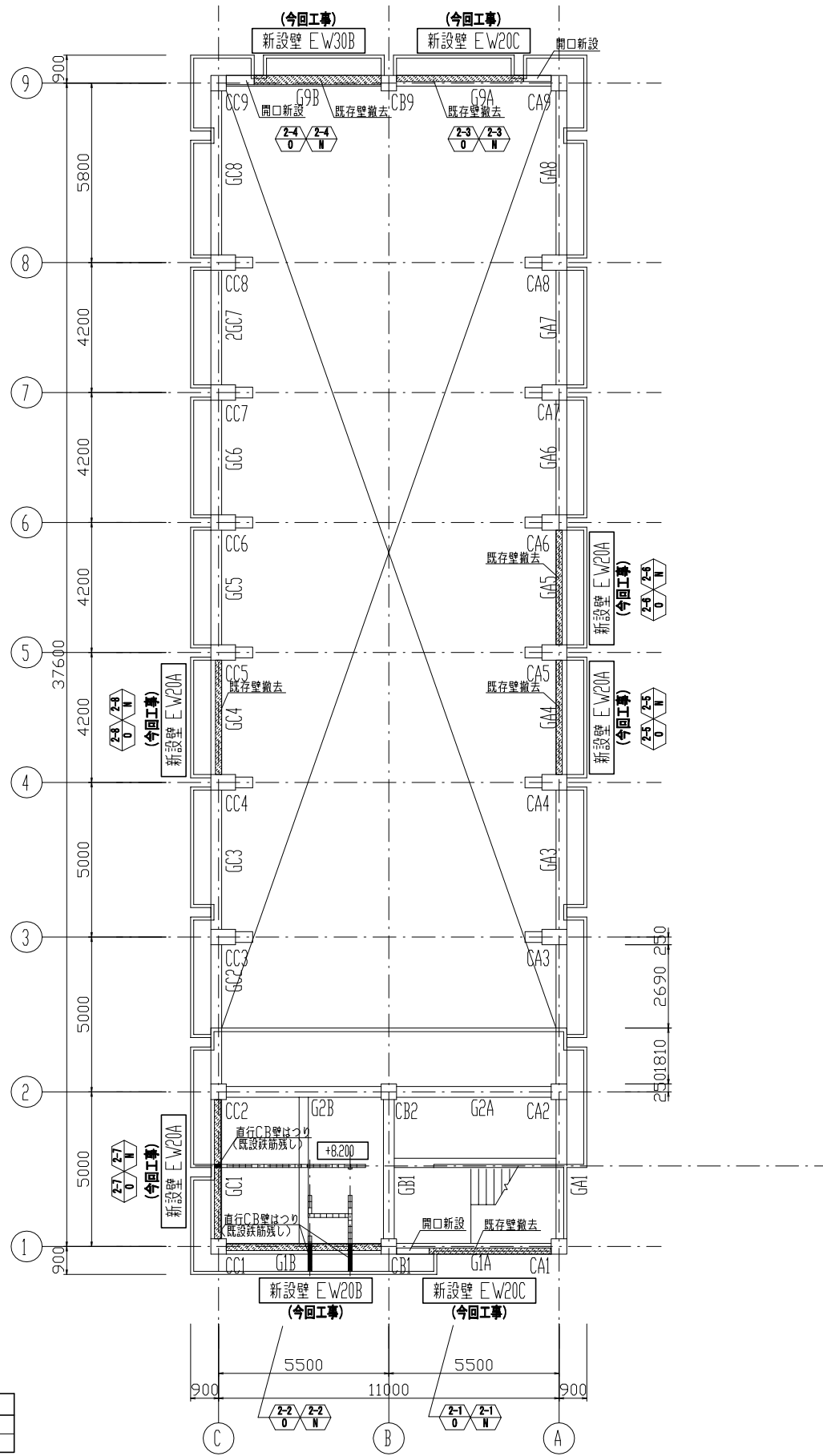
既設大梁リスト			
階	符号	B × D	
1	FG1	400 × 1000	
1	FG2	400 × 1000	

- 1階伏図 S=1/200
- 注) 特記なき限り
- 床レベルはSLを示す。
 - は、新設壁範囲を示す。
 - は、壁増打補強範囲を示す。
 - EW25,EW30Aは既設壁(=120)を撤去の上、新設のこと。

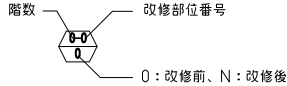


原図：A3			
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強範囲図(1)		
縮 尺	1/200	図面番号	S-8
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

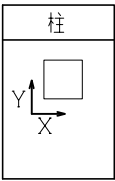
ポンプ棟 補強範囲図(2)



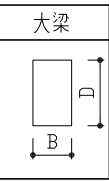
- 注) 特記なき限り
1. 床レベルはSLを示す。
2. 〰〰〰は、新設壁範囲を示す。
3. EW20A,EW20C,EW30Bは既設壁(t=120)を撤去の上、新設のこと。



柱 凡例



大梁 凡例



既設柱リスト

階	符号	Dx × Dy
2	CA1	500 × 500
2	CA4	800 × 500
2	CA5	800 × 500
2	CA6	800 × 500
2	CB1	500 × 500
2	CB9	500 × 500

階	符号	Dx × Dy
2	CA9	500 × 500
2	CC1	500 × 500
2	CC2	500 × 500
2	CC4	800 × 500
2	CC5	800 × 500
2	CC9	500 × 500

既設大梁リスト

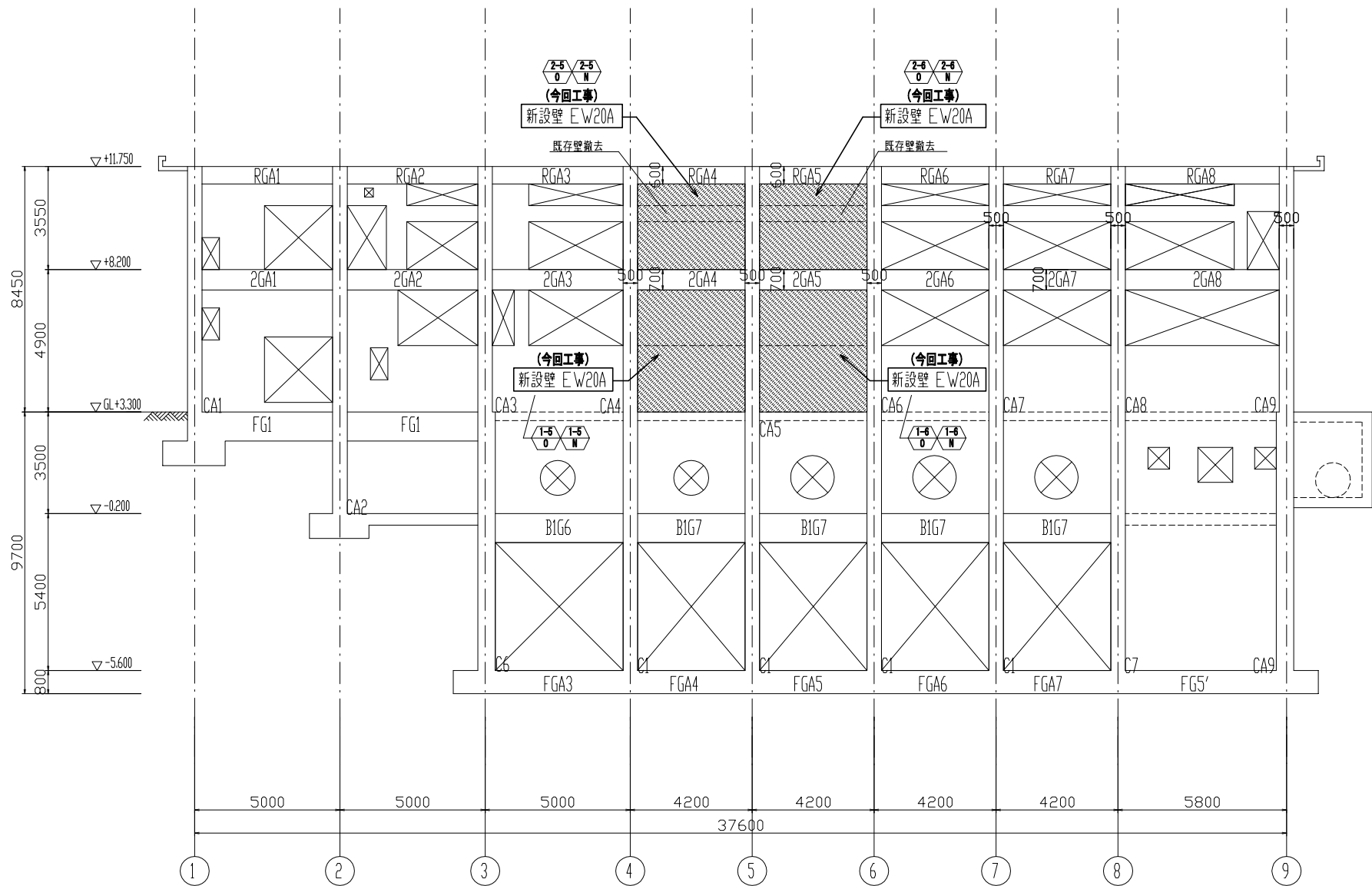
階	符号	B × D
2	GA1	350 × 700
2	GA9A	350 × 700
2	GA1B	350 × 700
2	GA9B	350 × 700
2	GA4	350 × 700
2	GA5	350 × 700

階	符号	B × D
2	GC1	350 × 700
2	GC4	350 × 700

原図：A3

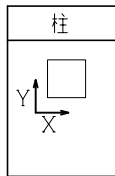
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強範囲図(2)		
縮 尺	1/200	図面番号	S-9
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 補強範囲軸組図(1)

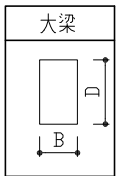


注) 特記なき限り
1. は、新設壁範囲を示す。

柱 凡例



大梁 凡例



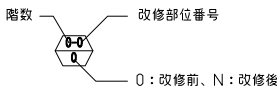
既設柱リスト

階	符号	Dx × Dy
1	CA4	800 × 500
1	CA5	800 × 500
1	CA6	800 × 500
2	CA4	800 × 500
2	CA5	800 × 500
2	CA6	800 × 500

既設大梁リスト

階	符号	B × D
2	GA4	350 × 700
2	GA5	350 × 700
R	GA4	350 × 600
R	GA5	350 × 600

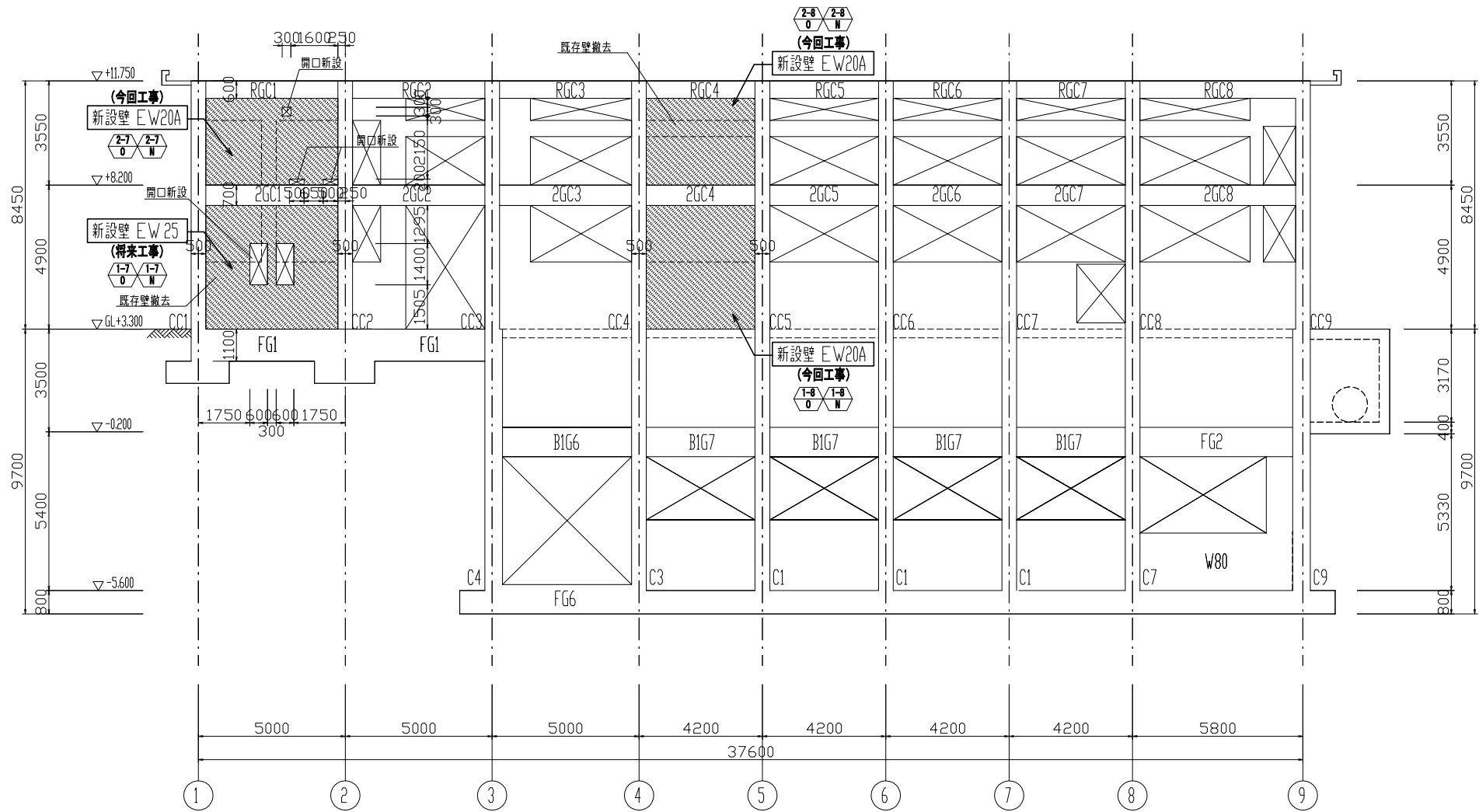
意匠図 補強箇所 凡例



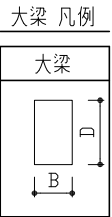
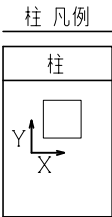
原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強範囲軸組立図(1)		
縮 尺	1/200	図面番号	S-10
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 補強範囲軸組図(2)



注) 特記なき限り
1. は、新設壁範囲を示す。

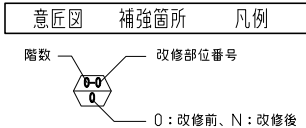


既設柱リスト

階	符号	Dx × Dy
1	CC1	500 × 500
1	CC2	500 × 500
1	CC3	800 × 500
1	CC4	800 × 500
2	CC1	500 × 500
2	CC2	500 × 500
2	CC4	800 × 500
2	CC5	800 × 500

既設大梁リスト

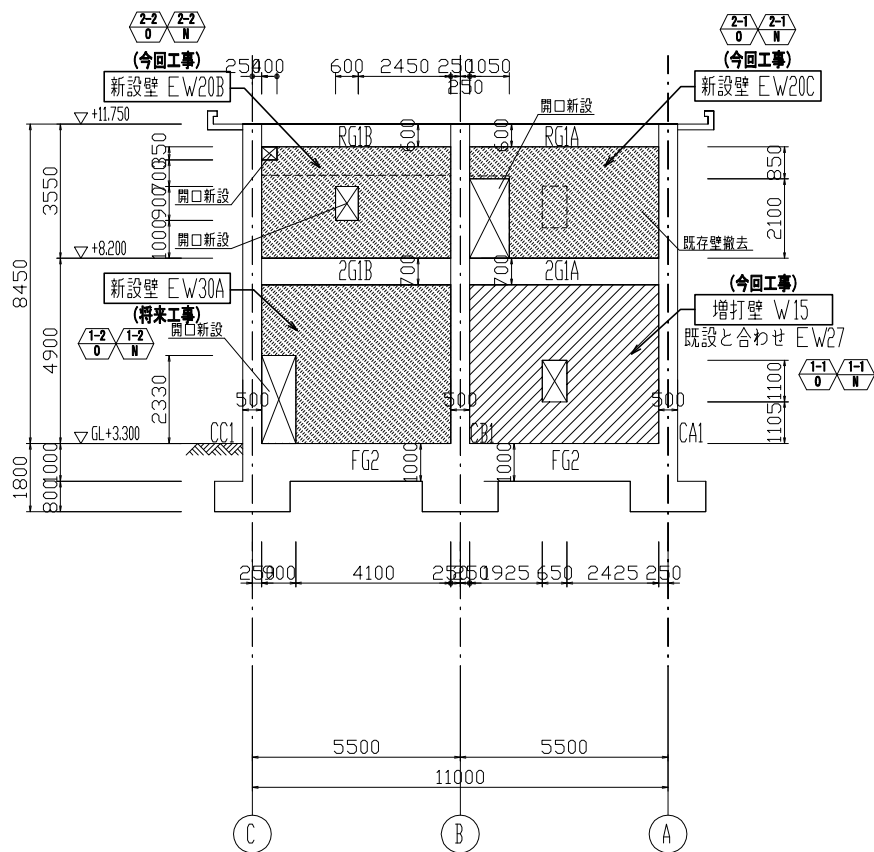
階	符号	B × D
1	FG1	400 × 1000
2	GC1	350 × 700
2	GC4	350 × 700
R	GC1	350 × 600
R	GC4	350 × 600



原図：A3

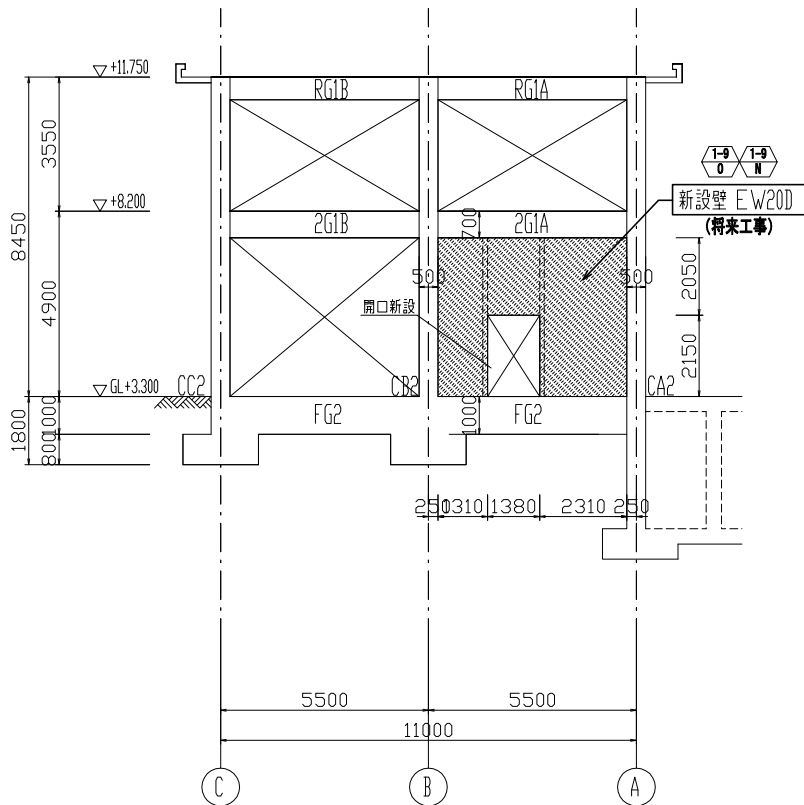
工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強範囲軸組立図(2)		
縮 尺	1/200	図面番号	S-11
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 補強範囲軸組図(3)



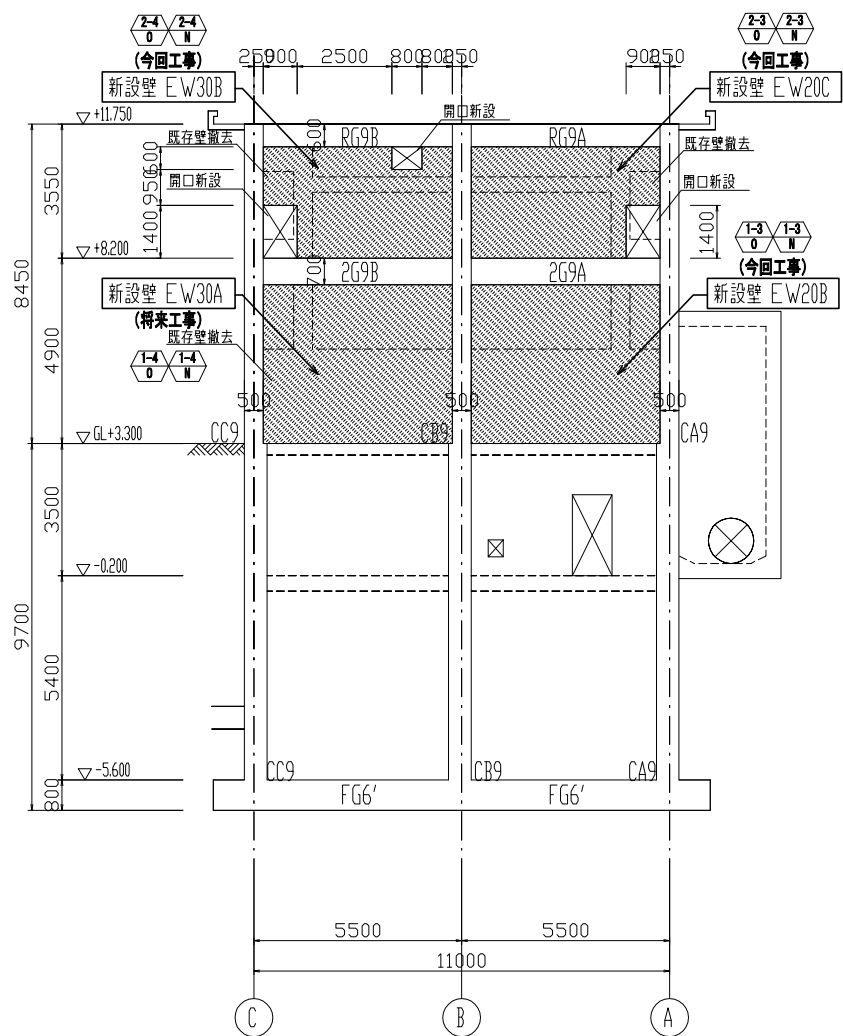
1通軸組図 S=1/200

- 注) 特記なき限り
1. は、新設壁範囲を示す。
 2. は、鉄筋コンクリート増打補強範囲を示す。



2通軸組図 S=1/200

- 注) 特記なき限り
1. は、新設壁範囲を示す。

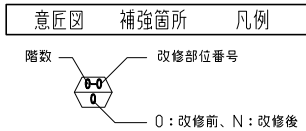


9通軸組図 S=1/200

- 注) 特記なき限り
1. は、新設壁範囲を示す。

柱 凡例		大梁 凡例	
柱		大梁	

既設柱リスト			既設大梁リスト		
階	符号	Dx × Dy	階	符号	B × D
1	CA1	500 × 500	2	CA1	500 × 500
1	CB1	500 × 500	2	CB1	500 × 500
1	CC1	500 × 500	2	CC1	500 × 500
1	CA2	500 × 500	2	CA2	500 × 500
1	CB2	500 × 500	2	CB2	500 × 500
1	CA9	500 × 500	2	CA9	500 × 500
1	CB9	500 × 500	2	CB9	500 × 500
1	CC9	500 × 500	2	CC9	500 × 500



原図 : A3			
工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場(ポンプ棟)耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強範囲軸組立図(3)		
縮 尺	1/200	図面番号	S-12
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 補強部材リスト

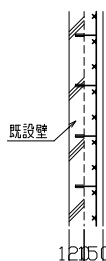

特記事項

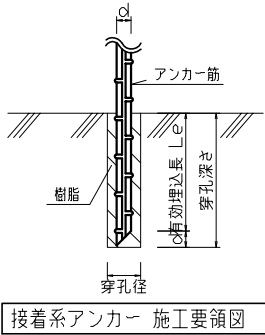
- 1。既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
- 2。コンクリートの設計基準強度は21N/mm2+3N以上 とする。
- 3。鉄筋は、SD295A（D16以下）、SD345(D19以上)とする。
- 4。無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm2 とする。
- 5。幅止筋を1m2当り、1本(D10)入れること。

補強部材リスト(壁新設) S=1/30

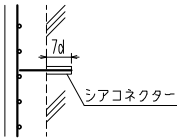
符 号	EW20A	EW20B	EW20C	EW20D	EW25	EW30A	EW30B
断 面							
縦 筋	D13 @ 200	D13 @ 200	D13 @ 200	D13 @ 200	D13 @ 200	D13 @ 100	D13 @ 200
横 筋	D13 @ 200	D13 @ 200	D13 @ 200	D13 @ 200	D13 @ 200	D13 @ 100	D13 @ 200
開口補強筋	縦	2 - D16	2 - D16	4 - D19	4 - D19	4 - D19	4 - D19
	横	2 - D16	2 - D16	4 - D19	4 - D19	4 - D19	4 - D19
	斜め	2 - D16	2 - D16	2 - D19	4 - D19	2 - D19	2 - D19
接合部接着系アンカー	D22@175シングル ナット付	D19@150シングル ナット付	D19@150シングル ナット付	D22@175シングル ナット付	D22@175シングル ナット付	D22@175シングル ナット付	D22@175シングル ナット付
開口補強筋用アンカー	2 - D16	2 - D16	3 - D22	3 - D22	-	4 - D19	4 - D19
スパイラル筋	φ6-径 120	φ6-径 120	φ6-径 120	φ6-径 120	φ6-径 150	φ6-径 200	φ6-径 200
意匠図 補強箇所符号							

補強部材リスト(壁増打) S=1/30

符 号		EW27
断 面		
縦 筋		D13 @ 200
横 筋		D13 @ 200
開口補強筋	縦	2 - D16
	横	2 - D16
	斜め	2 - D16
接合部接着系アンカー		D16@200シングル ナット付
開口補強筋用アンカー		-
スパイラル筋		φ6-径 75
シアコネクター		D10-400x400
意匠図 補強箇所符号		



接着系アンカー 施工要領図



シアコネクター要領図

- 注) 1. アンカーは接着系とする。
2. アンカー鉄筋の長さは増打厚さの半分以上とする。

あと施工アンカー(接着系)

一 般 仕 様

1. 使用鉄筋
異形棒鋼とし、D16以下をSD295、D19以上をSD345とする。
2. 使用コンクリート 設計基準強度
 $F_c = 21\text{N/mm}^2 + 3\text{N}$ 以上（普通コンクリート）スランブ18cm
3. モルタル設計基準強度（無収縮）
 $F_m = 30\text{N/mm}^2$ 以上
4. あと施工アンカー
本体：接着系アンカーとする。
5. 注意事項
 - 1) 増設部材と既存コンクリート躯体との接触面については
既存コンクリート躯体面を目標とし、コンクリート打設前に
充分な水湿しを行う。
 - 2) コンクリートの打設にはバイブレーターの使用、又はタタキにより
密実なコンクリートとなるように充分な施工計画を立てる。
 - 3) コンクリートは普通コンクリートとして計画施工する。
 - 4) 普通コンクリートはスラブ・梁下20cmまで打設し
壁頂部は無収縮モルタル圧入とする。
 - 5) コンクリートの強度発現期間内は充分な湿潤状態で養生する。
また養生期間中は振動等を与えないように注意する。
- 6) 接着系アンカーの施工
 - a) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、
既存部の損傷を極力避ける。
 - b) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には
穿孔内の切り粉等を除去する。
 - c) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、受材の取り付けに有効で、
かつ、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。
 - d) c) で使用しない孔は、セメントモルタル等を充填する。
 - e) 現場施工されたあとの施工アンカーは、全数の打音調査により、
その固着度を確認し監督職員に報告書を提出し承諾を受ける。
 - f) 引き抜き耐力の確認試験は、機械的簡易引抜試験機による
引張試験とする。
 - 1) 試験箇所数は、1日に施工されたものの各径ごとを1ロットとし、
この中から3本を行なうこととする。
 - 2) 引張試験は、設計用引張強度の2/3の荷重を試験荷重とし、
過大な変位を起こさずに耐えられるものを合格としすべての
試験箇所が合格すれば、そのロットを合格とする。
 - 3) 以上の試験において、一箇所でも不合格のものがあった場合には、
そのロット全数について2) の引張試験を行う。
 - 4) 不合格となったものは、切断等の処置を行いa) ～ d) により、
新たに施工し、更に2) による引張り試験を行う。
 - g) あと施工アンカーの埋込み長さは、図示による。

原図：A3

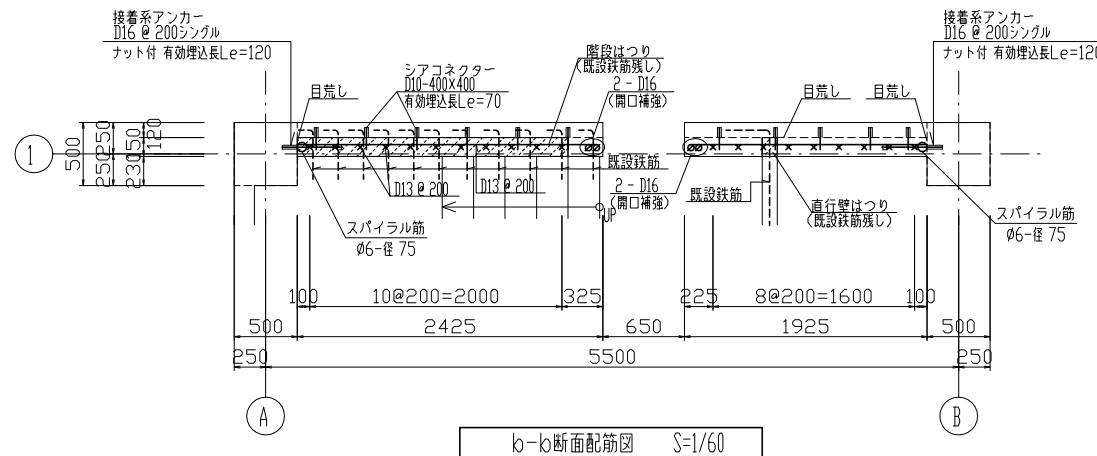
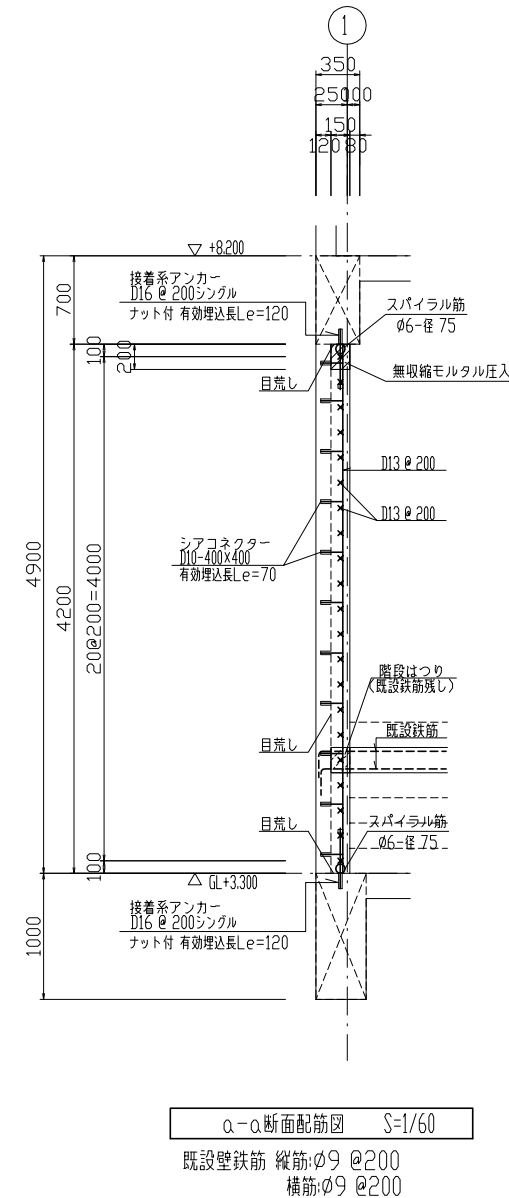
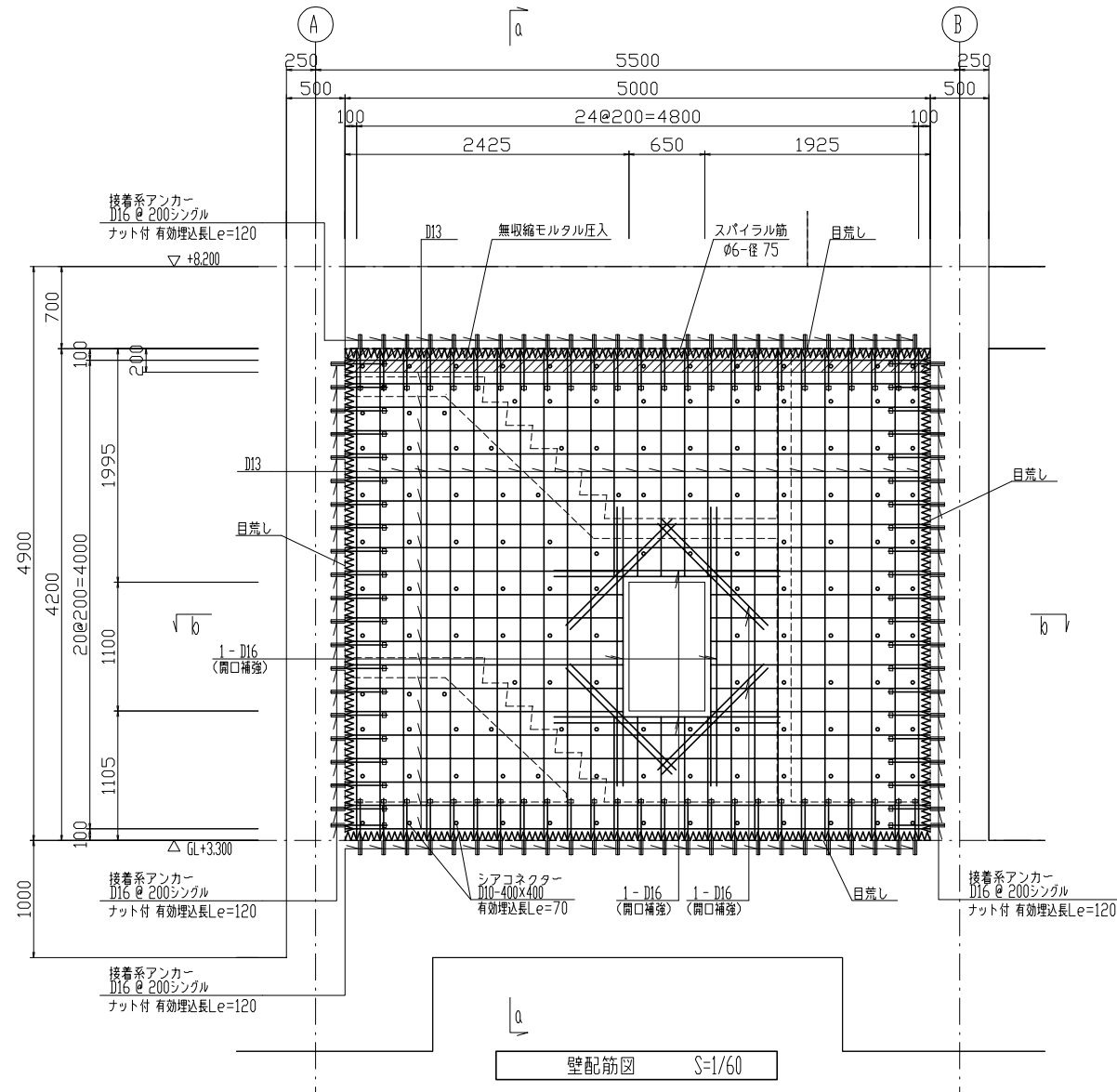
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強部材リスト		
縮 尺	1/60	図面番号	S-13
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 補強配筋図(1)

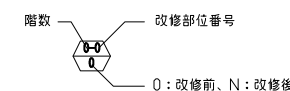
1階 1通/A-B通間 EW27

増打

- 特記事項
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
 2. コンクリートの設計基準強度は21N+3N/mm² とする。
 3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
 4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm² とする。



意匠図 補強箇所 凡例



原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強配筋図(1)		
縮 尺	1/60	図面番号	S-14
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 補強配筋図(2)

1階 1通/B-C通間 EW30A

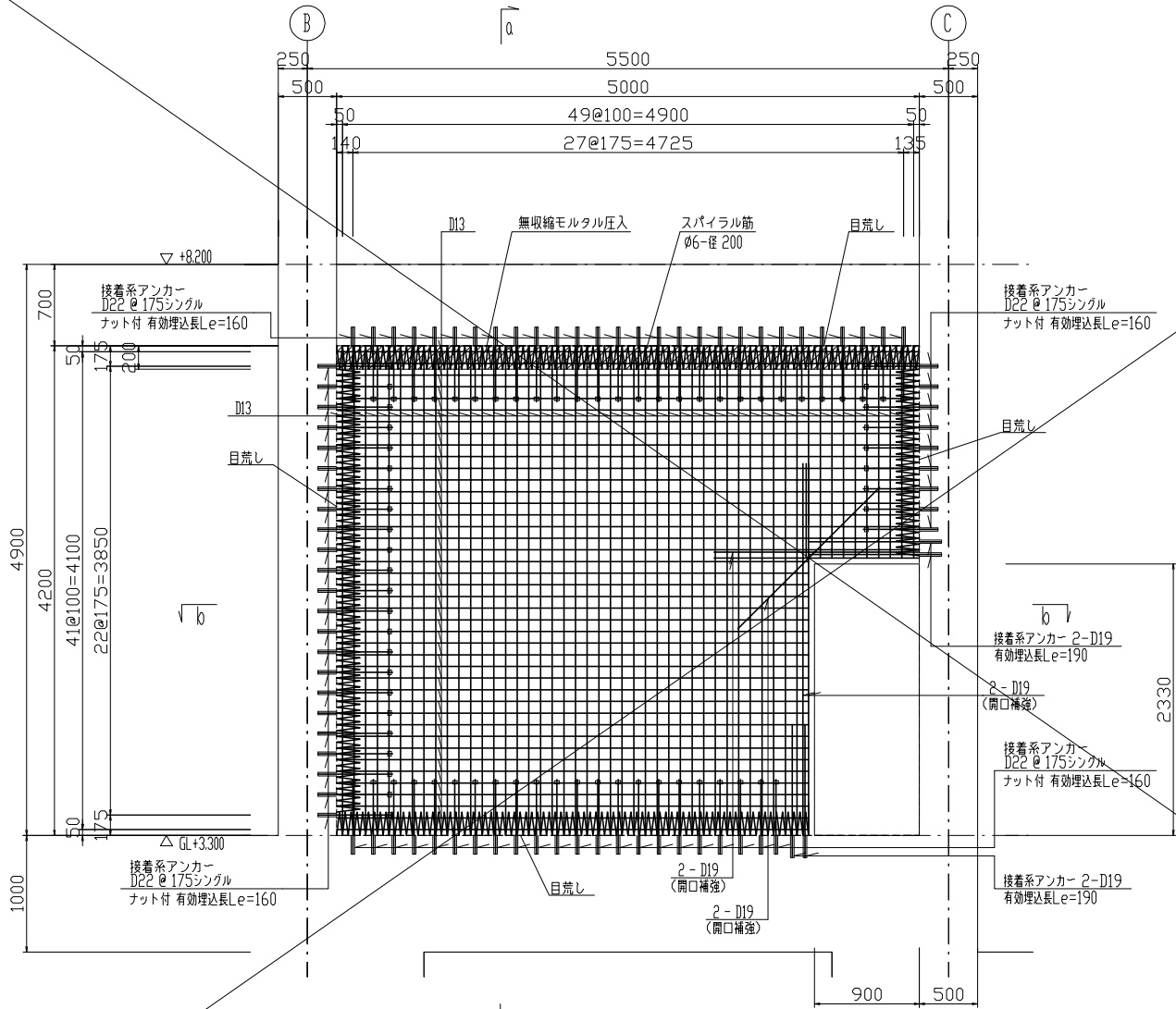
1-2
N

(1階 9通/B-C通間の配筋要領は、下図参照とする。)

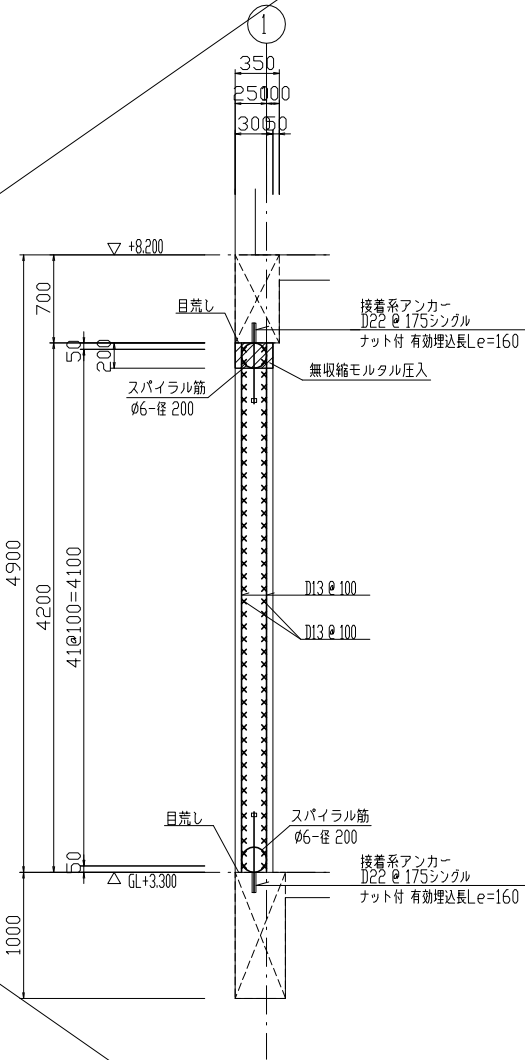
新設壁

特記事項

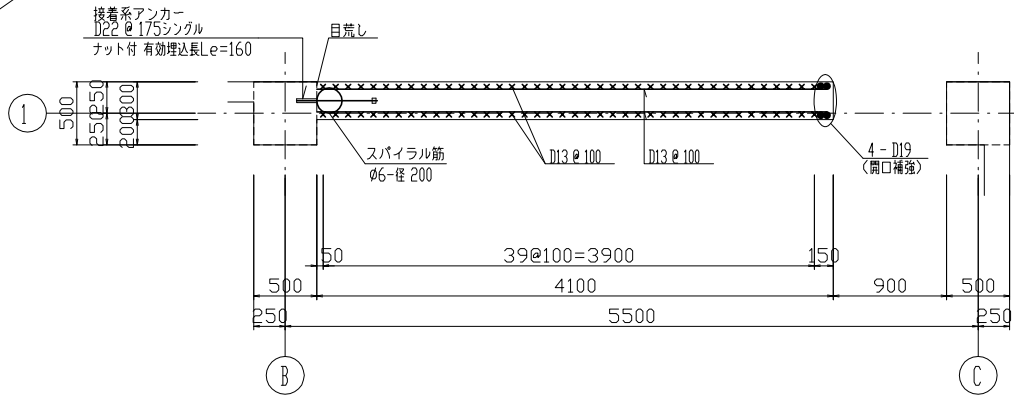
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. コンクリートの設計基準強度は21N+3N/mm² とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上) とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm² とする。
5. 幅止筋を1m2当り、1本(D10)入れること。



壁配筋図 S=1/60



a-a断面配筋図 S=1/60



b-b断面配筋図 S=1/60

意匠図 補強箇所 凡例

階数 改修部位番号
0: 改修前、N: 改修後

原図: A3

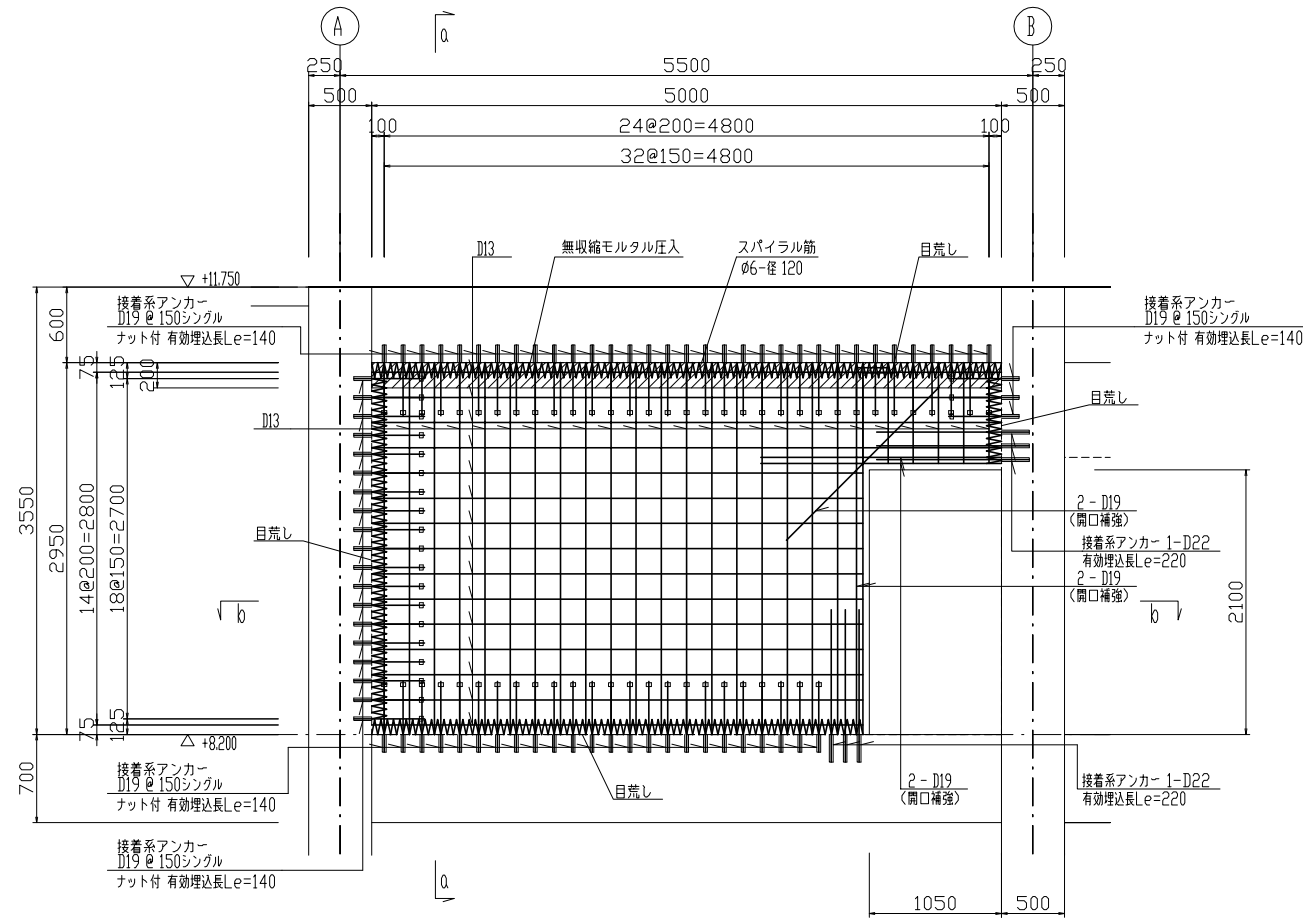
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場 (ポンプ棟) 耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強配筋図 (2)		
縮 尺	1/60	図面番号	S-15
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 補強配筋図(3)

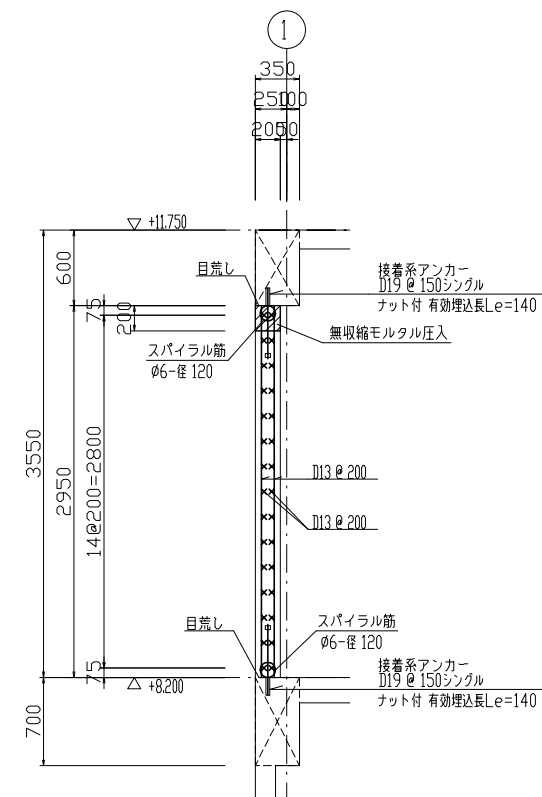
2階 1通/A-B通間 EW20C

2-1
N

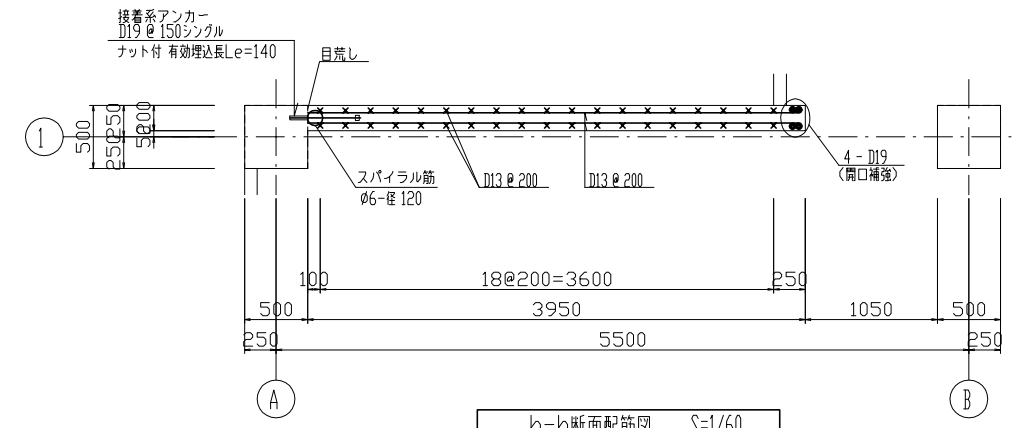
新設壁



壁配筋図 S=1/60



a-a断面配筋図 S=1/60



b-b断面配筋図 S=1/60

意匠図 補強箇所 凡例

階数 0 : 改修前、N : 改修後

- 特記事項
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
 2. コンクリートの設計基準強度は21N+3N/mm² とする。
 3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上) とする。
 4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm² とする。
 5. 幅止筋を1m2当り、1本(D10)入れること。

原図 : A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強配筋図 (3)		
縮 尺	1/60	図面番号	S-16
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

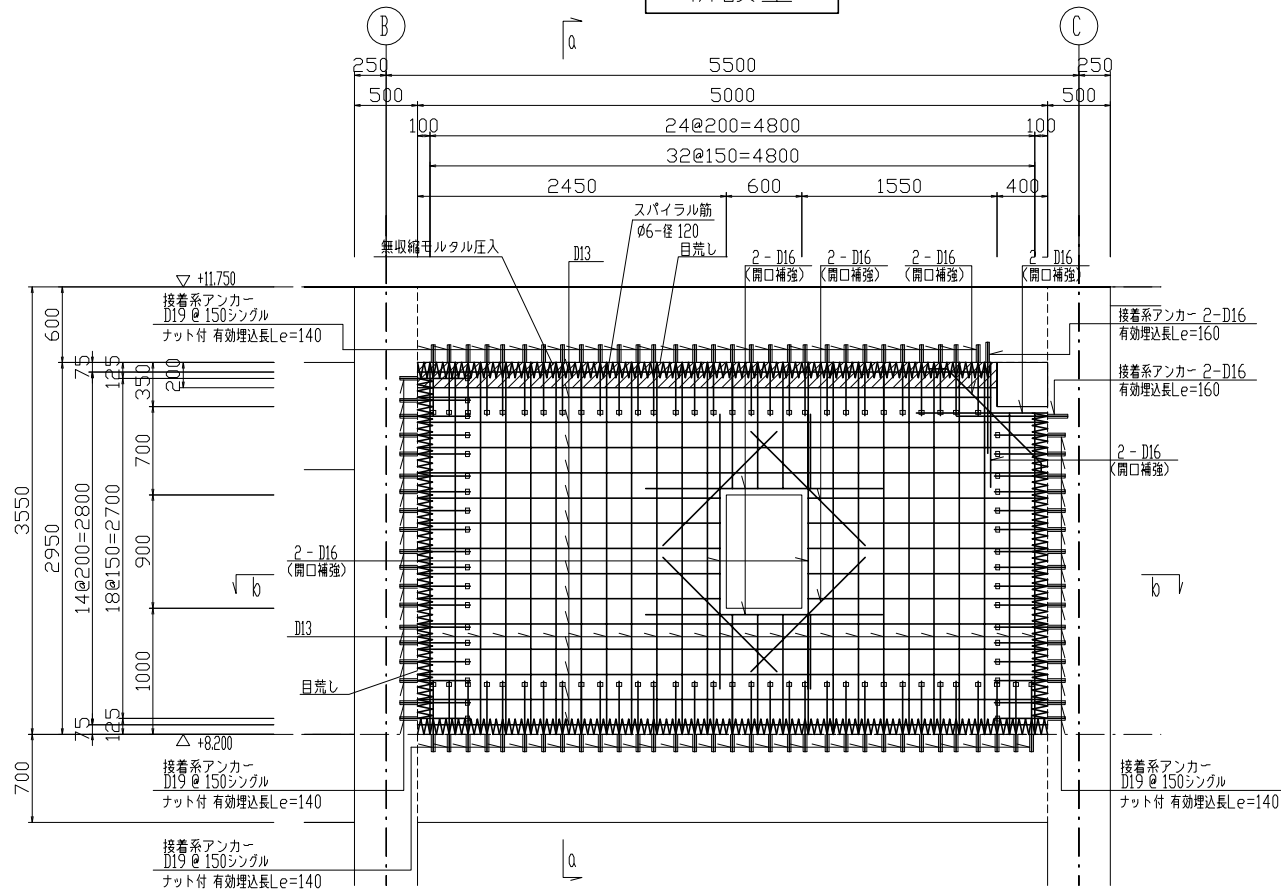
ポンプ棟 補強配筋図(4)

2階 1通/B-C通間 EW20B

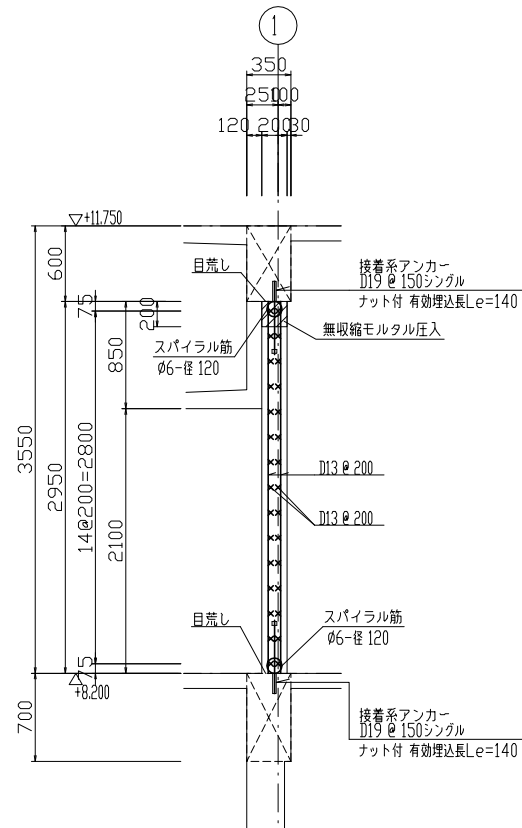
2-2
N

(1階 9通/A-B通間の配筋要領は、下図参照とする。)

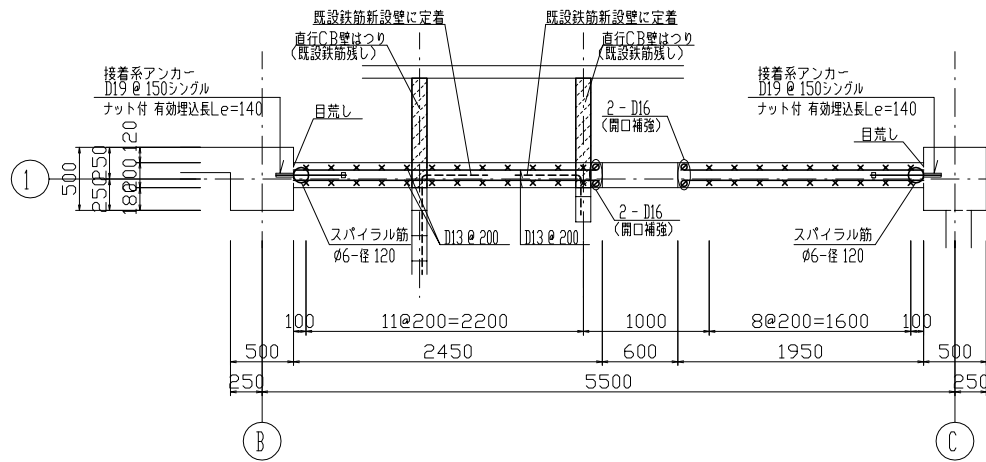
新設壁



壁配筋図 S=1/60



α-α断面配筋図 S=1/60



β-β断面配筋図 S=1/60

意匠図 補強箇所 凡例

階数 改修部位番号
0 : 改修前、N : 改修後

- 特記事項
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
 2. コンクリートの設計基準強度は21N+3N/mm² とする。
 3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
 4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm² とする。
 5. 幅止筋を1m2当り、1本(D10)入れること。

原図 : A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場 (ポンプ棟) 耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強配筋図 (4)		
縮 尺	1/60	図面番号	S-17
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

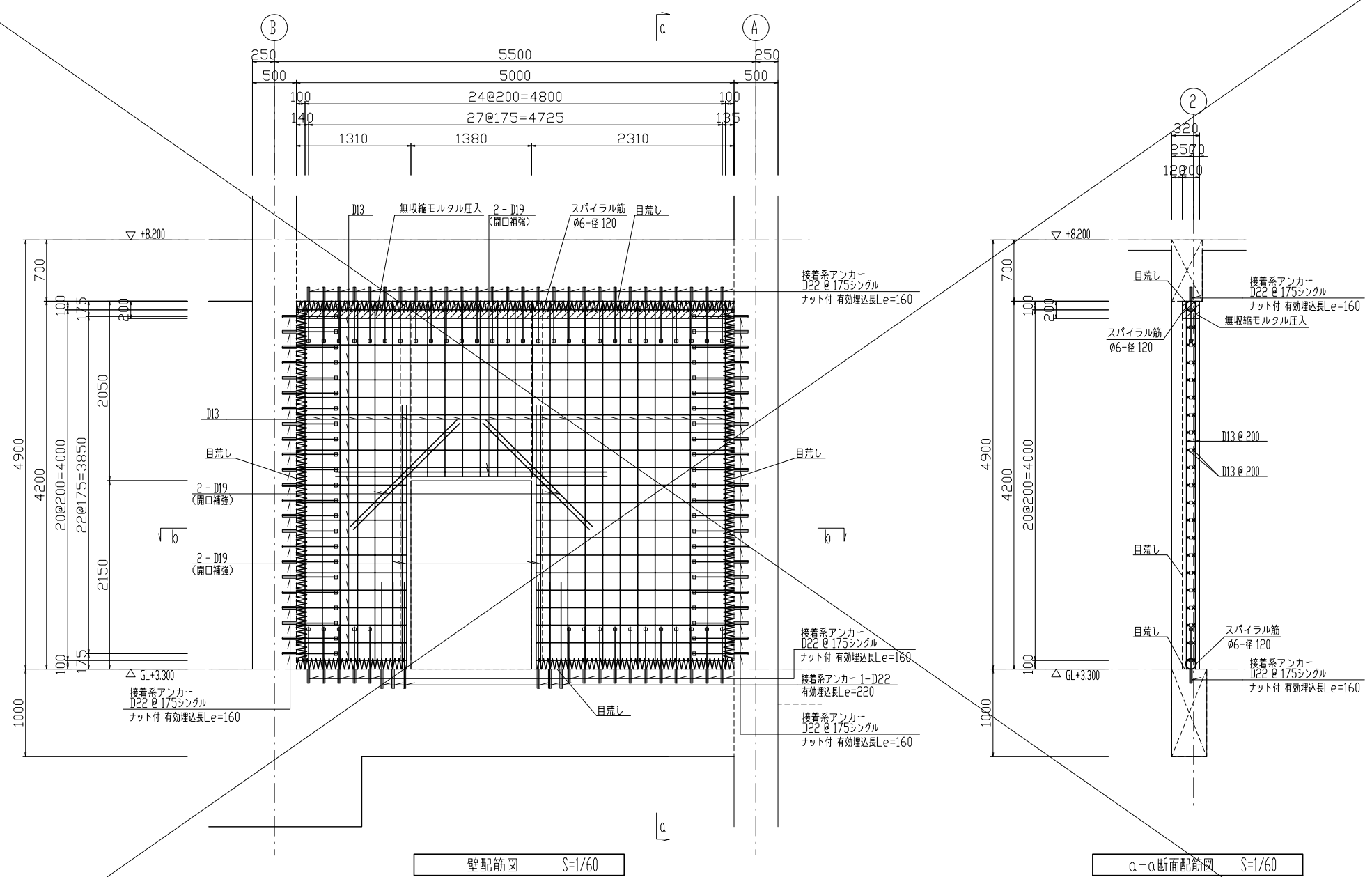
ポンプ棟 補強配筋図(5)

1階 2通/A-B通間 EW20D

1-9
N

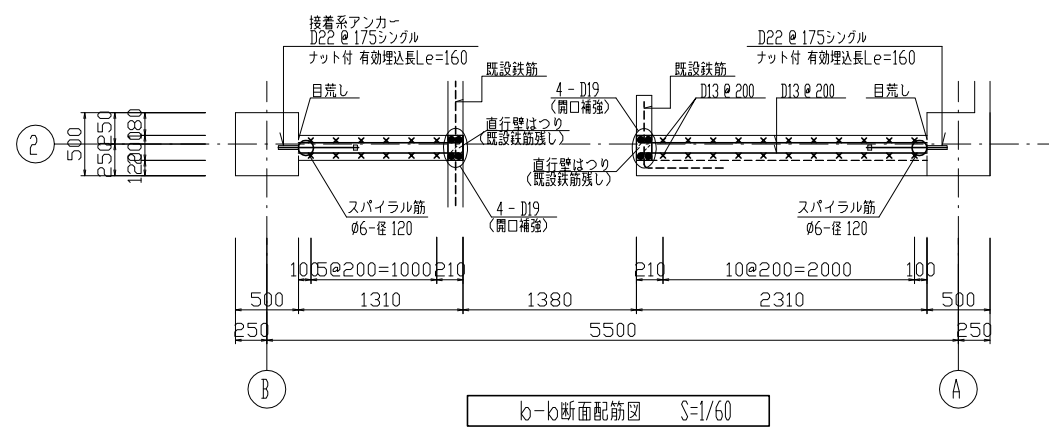
- 特記事項
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
 2. コンクリートの設計基準強度は21N+3N/mm² とする。
 3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345(D19以上)とする。
 4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm² とする。
 5. 幅止筋を1m2当り、1本(D10)入れること。

新設壁



壁配筋図 S=1/60

a-a断面配筋図 S=1/60



b-b断面配筋図 S=1/60

意匠図 補強箇所 凡例

階数

改修部位番号

0: 改修前、N: 改修後

原図: A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場(ポンプ棟)耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強配筋図(5)		
縮 尺	1/60	図面番号	S-18
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 補強配筋図(6)

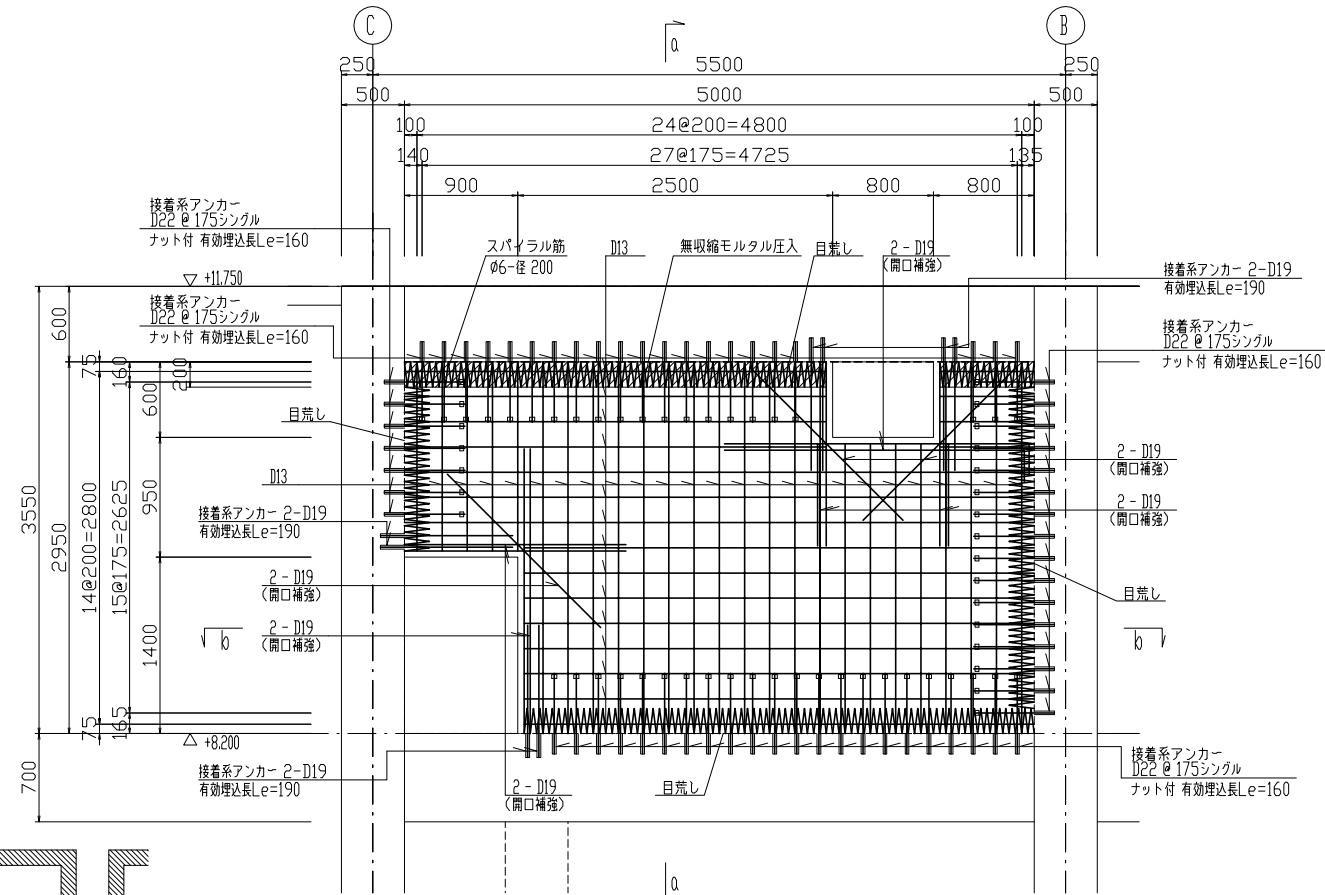
2階 9通/B-C通間 EW30B

2-4
N

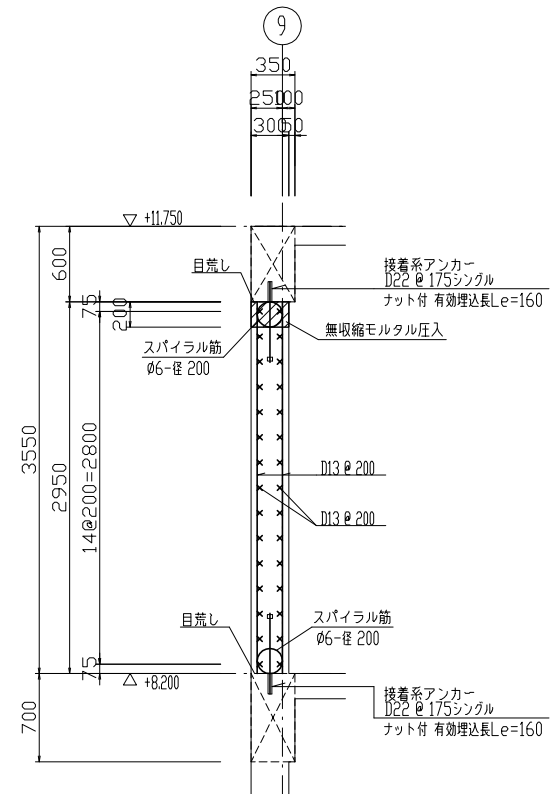
新設壁

特記事項

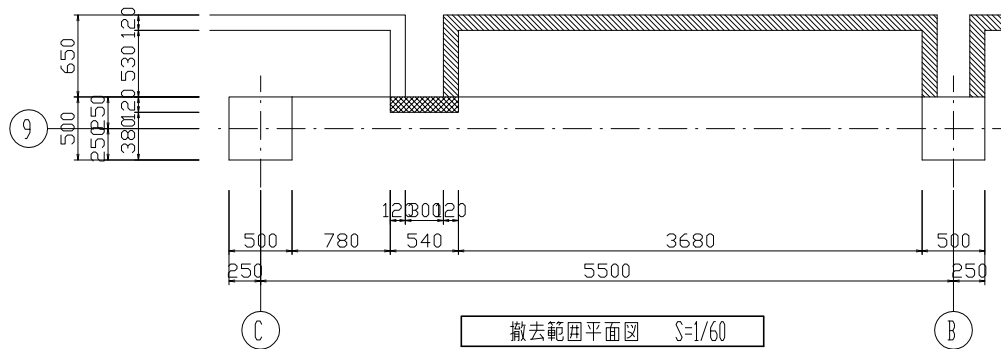
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. コンクリートの設計基準強度は21N+3N/mm² とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345(D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm² とする。
5. 幅止筋を1m²当り、1本(D10)入れること。



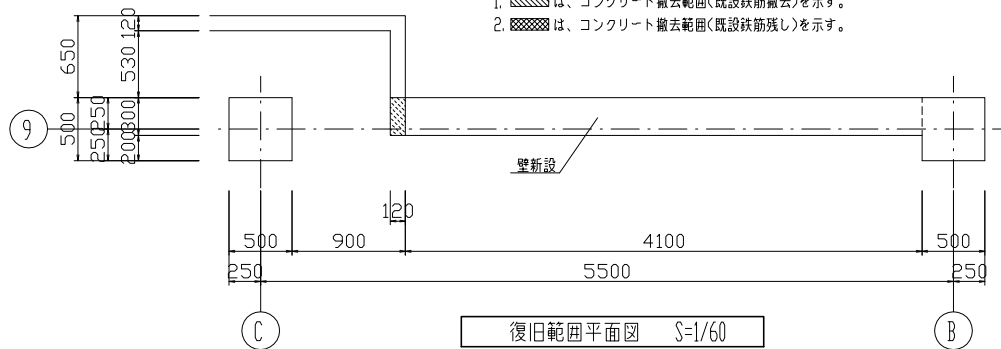
壁配筋図 S=1/60



a-a断面配筋図 S=1/60

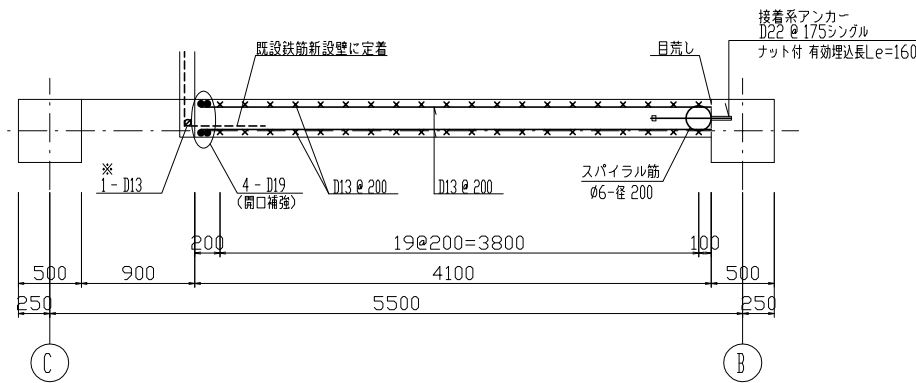


撤去範囲平面図 S=1/60



復旧範囲平面図 S=1/60

- 注) 特記なき限り
1. は、コンクリート撤去範囲(既設鉄筋撤去)を示す。
 2. は、コンクリート撤去範囲(既設鉄筋残し)を示す。



b-b断面配筋図 S=1/60

- ※上端部：新設壁に定着
下端部：接着系アンカーにより既設部材に定着(有効埋込長L=100)

意匠図 補強箇所 凡例

- 階数 改修部位番号
O : 改修前、N : 改修後

原図 : A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強配筋図 (6)		
縮 尺	1/60	図面番号	S-19
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 補強配筋図(7)

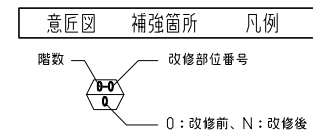
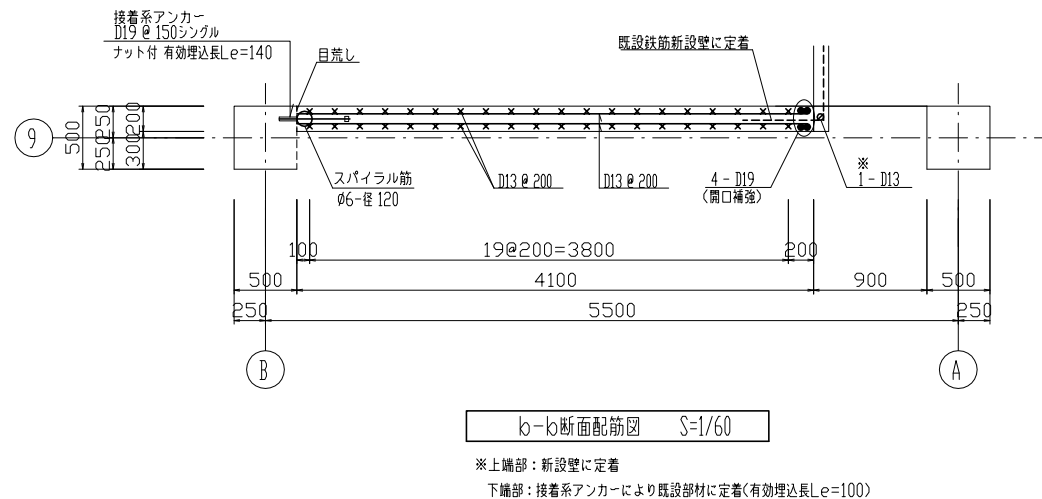
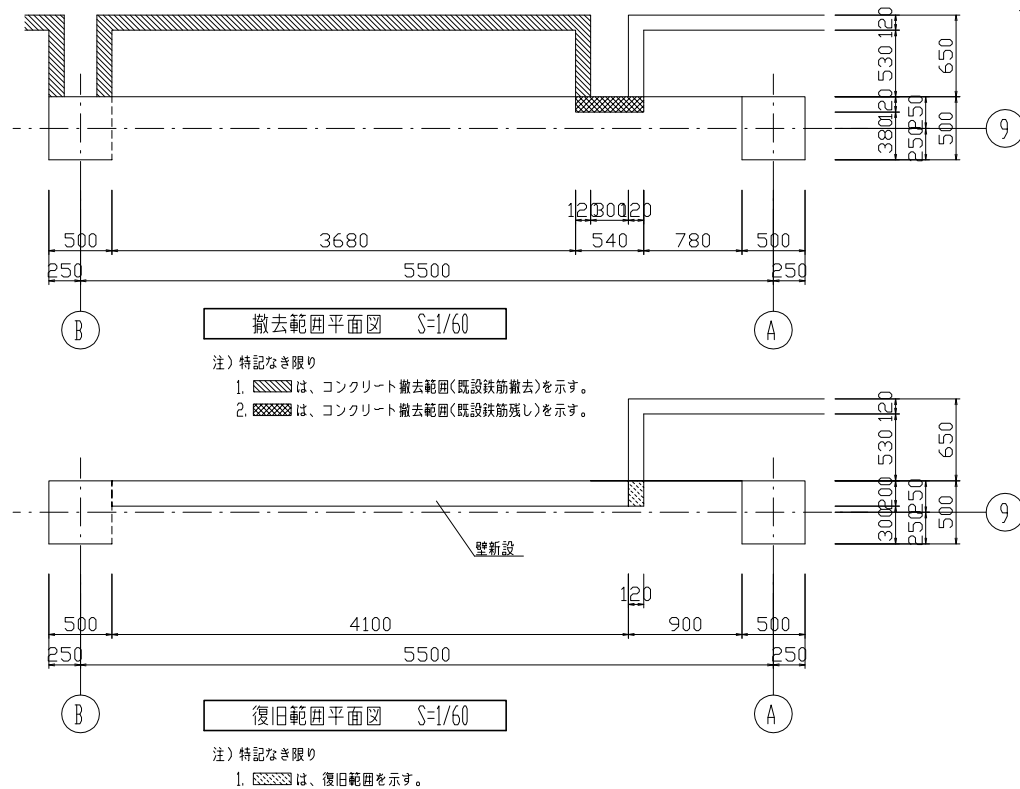
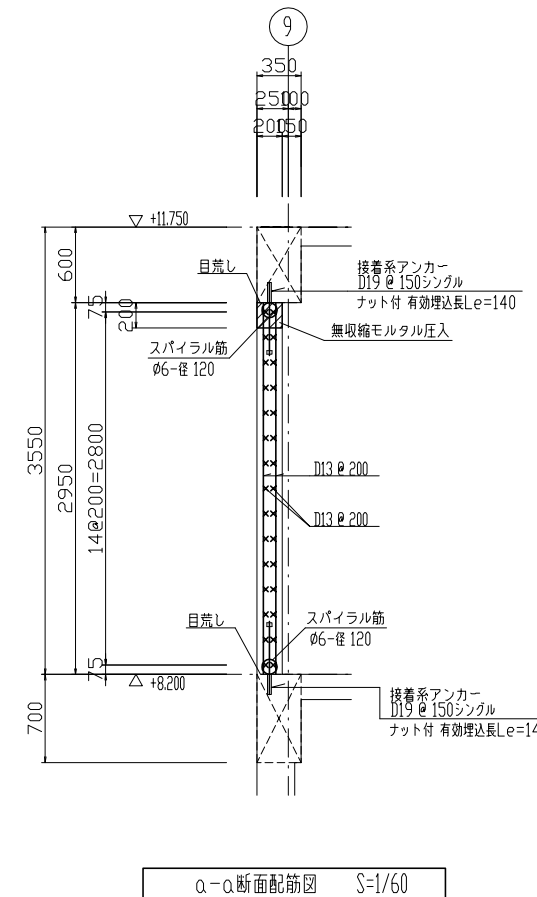
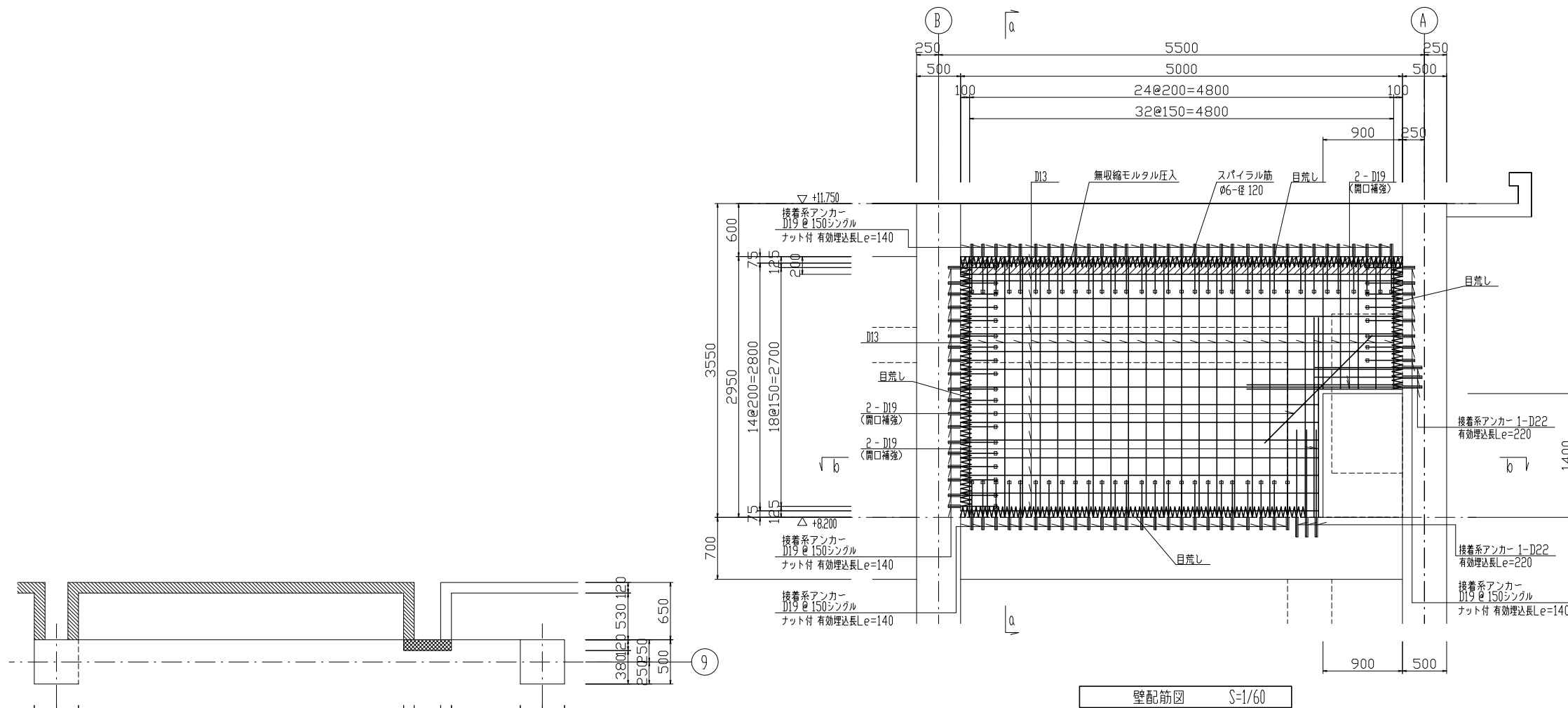
2階 9通/A-B通間 EW20C

2-3
N

新設壁

特記事項

1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. コンクリートの設計基準強度は21N+3N/mm² とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345(D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm² とする。
5. 幅止筋を1m²当り、1本(D10)入れること。



原図：A3

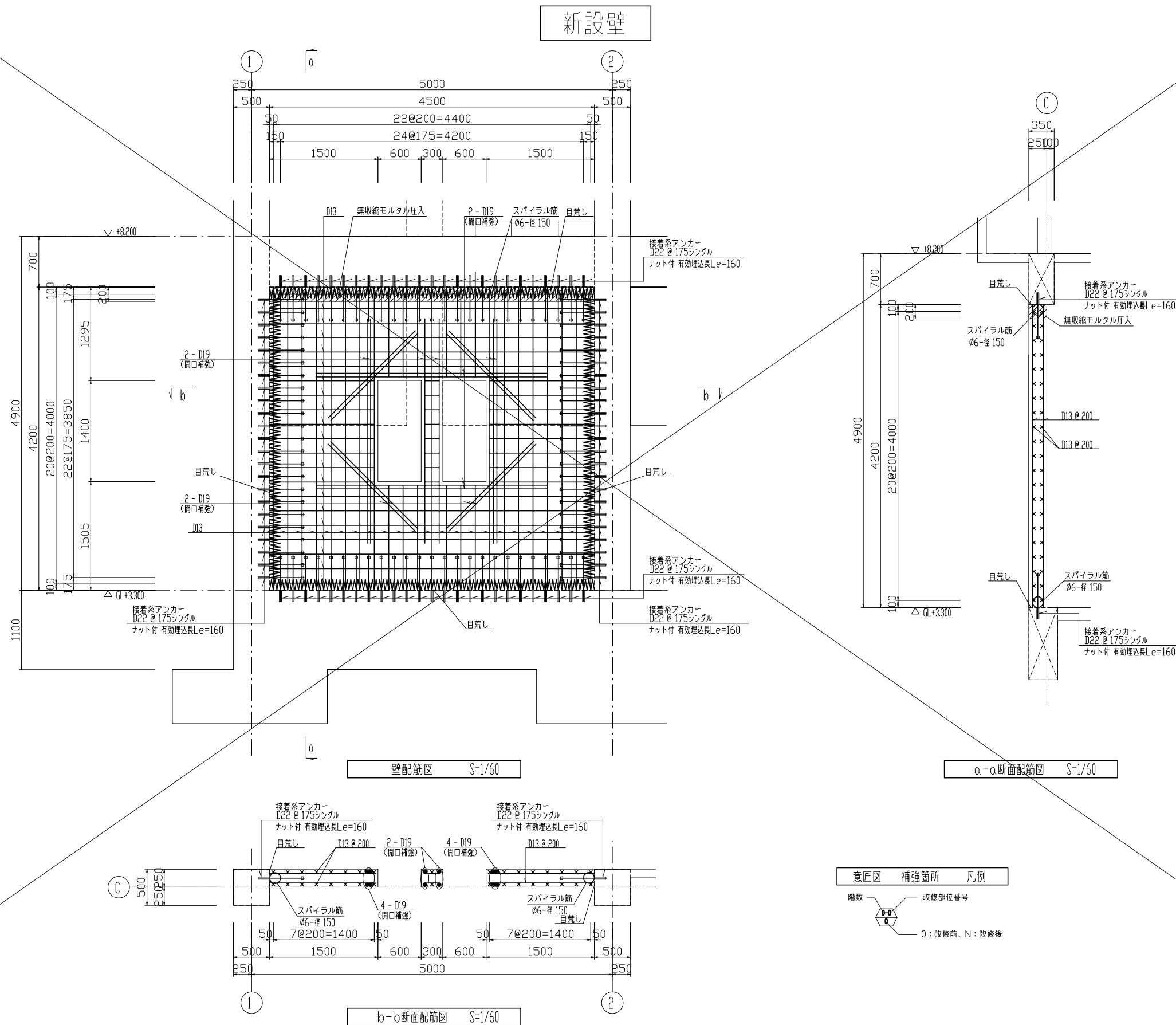
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 橋本橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強配筋図 (7)		
縮 尺	1/60	図面番号	S-20
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 補強配筋図(8)

1階 C通/1-2通間 EW25

1-7
N

- 特記事項
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
 2. コンクリートの設計基準強度は21N+3N/mm²とする。
 3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
 4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
 5. 幅止筋を1m²当り、1本(D10)入れること。



原図：A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強配筋図（8）		
縮 尺	1/60	図面番号	S-21
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 補強配筋図(9)

2階 C通/1-2通間 EW20A

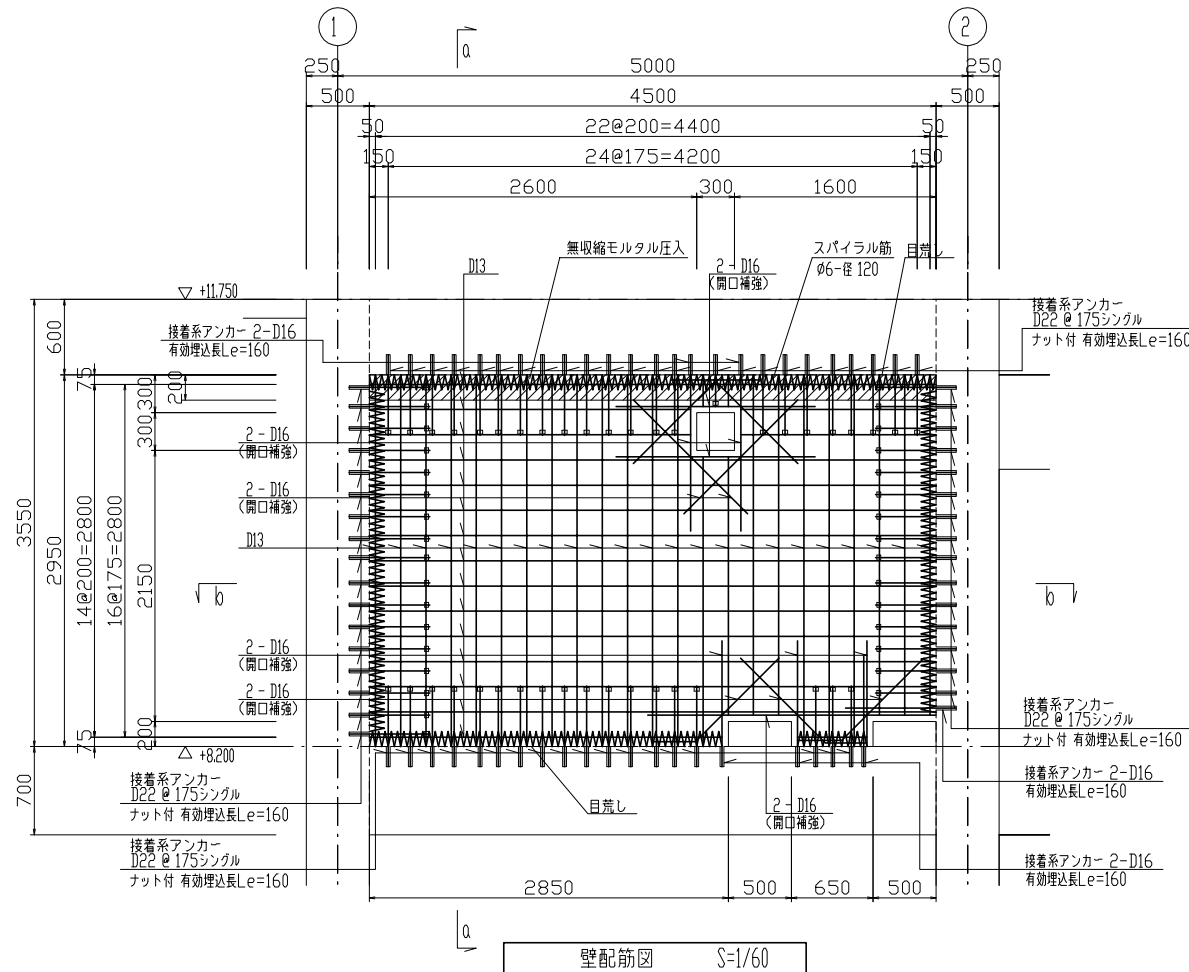
2-7
N

(他構面の壁EW20Aの配筋要領は、下図参照とする。)

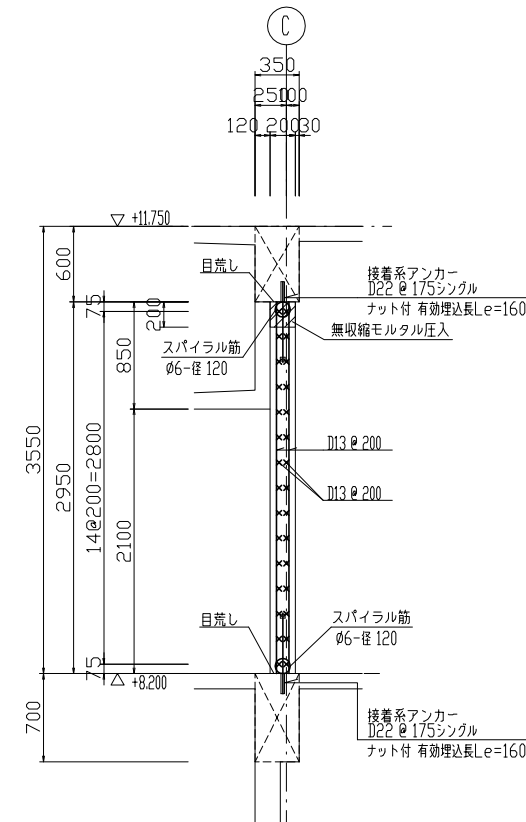
新設壁

特記事項

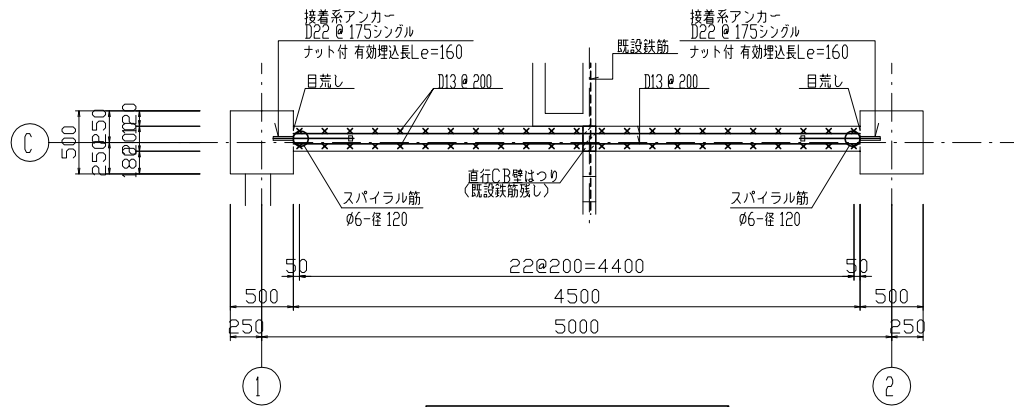
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. コンクリートの設計基準強度は21N+3N/mm² とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345(D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm² とする。
5. 幅止筋を1m²当り、1本(D10)入れること。



壁配筋図 S=1/60



C-C断面配筋図 S=1/60



b-b断面配筋図 S=1/60

意匠図 補強箇所 凡例

略数 改修部位番号
O : 改修前、N : 改修後

原図 : A3

工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強配筋図 (9)		
縮 尺	1/60	図面番号	S-22
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

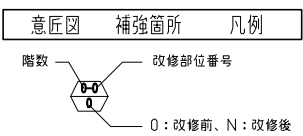
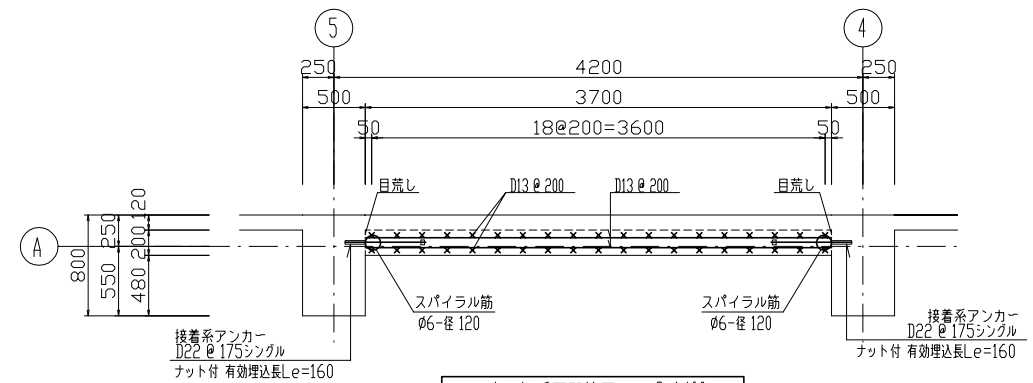
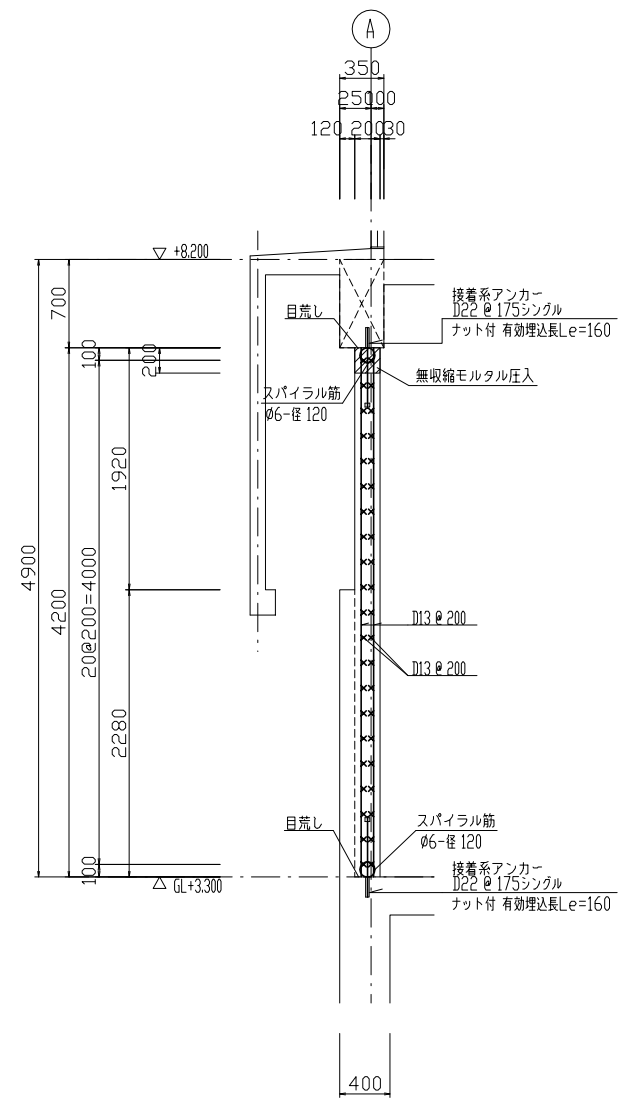
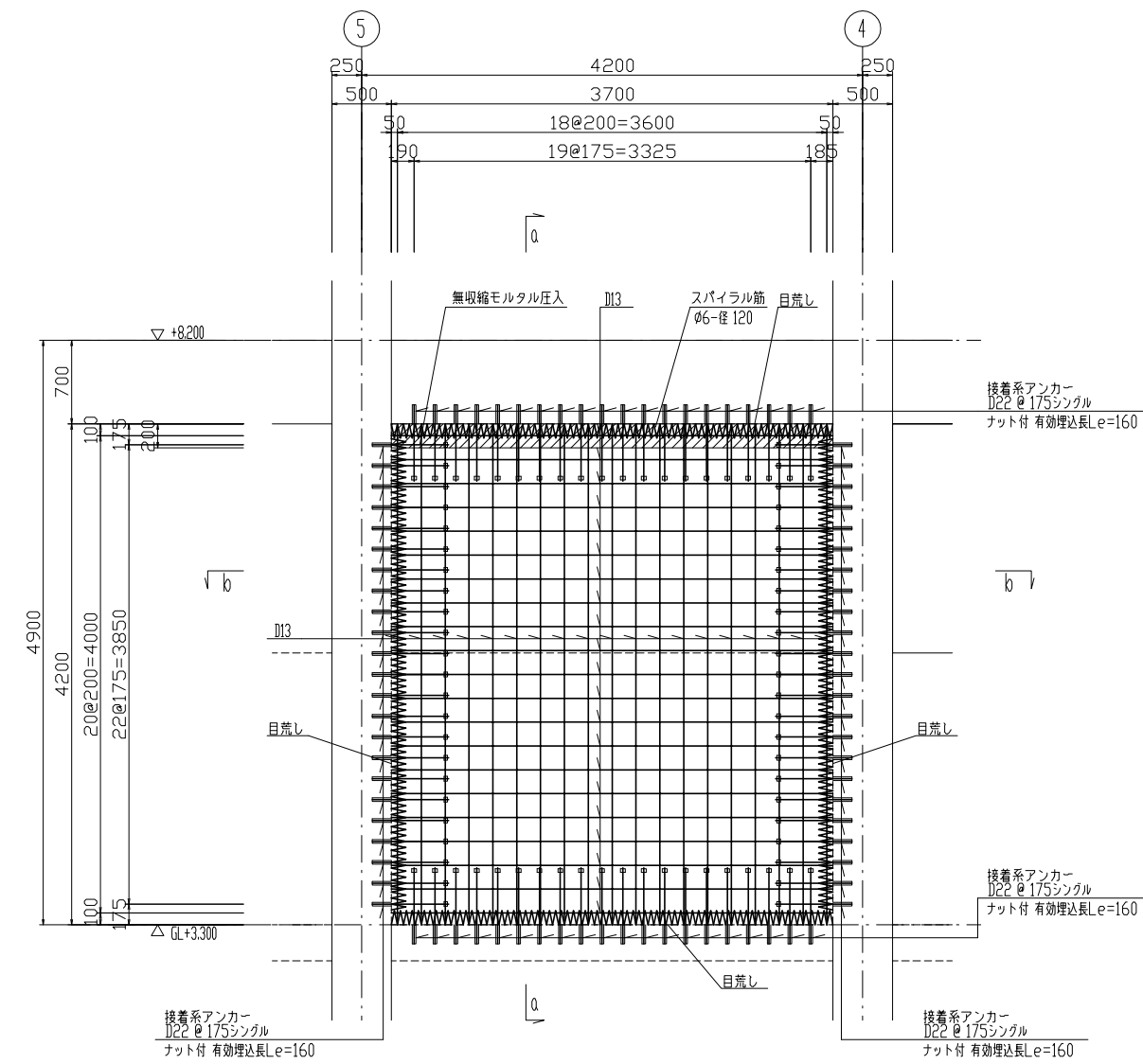
ポンプ棟 補強配筋図<10>

1階 A通/4-5通間 EW20A

1-5
N

新設壁

- 特記事項
- 1。既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
 - 2。コンクリートの設計基準強度は21N+3N/mm² とする。
 - 3。鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
 - 4。無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm² とする。
 - 5。幅止筋を1m2当り、1本 (D10) 入れること。



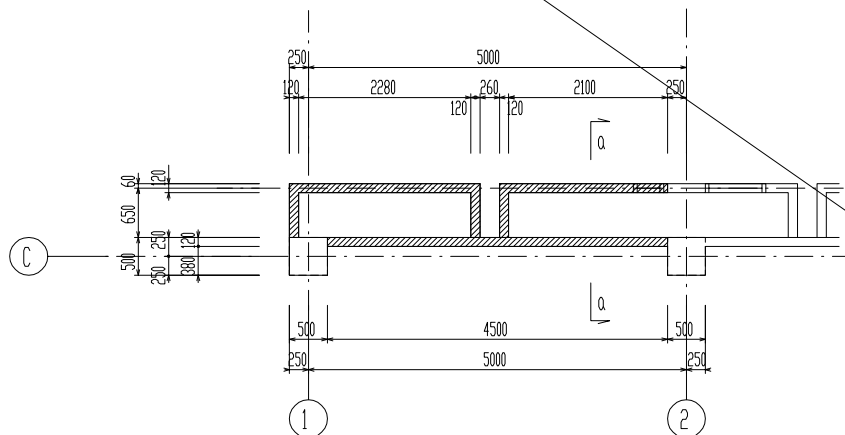
原図 : A3			
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場 (ポンプ棟) 耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	補強配筋図 (10)		
縮 尺	1/60	図面番号	S-23
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

ポンプ棟 改修図
1階 C通/1-2通間

1-7
N

- 特記事項
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
 2. コンクリートの設計基準強度は21N+3N/mm² とする。
 3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
 4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm² とする。
 5. 幅止筋を1m2当り、1本(D10)入れること。

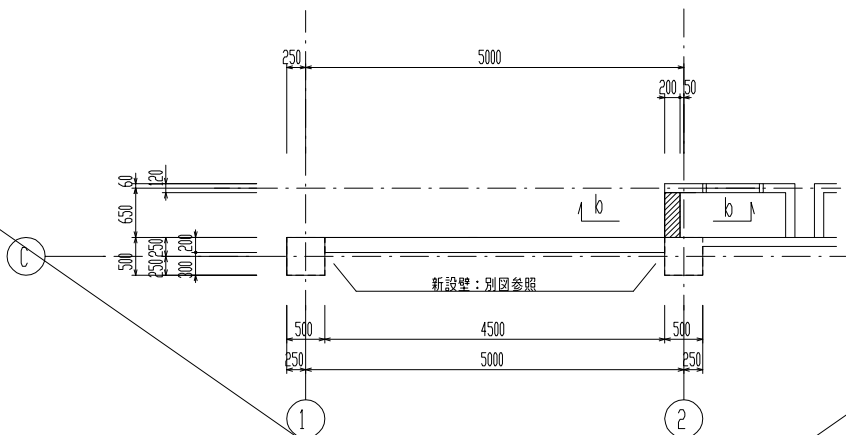
撤去範囲図



平面図 S=1/100

- 注) 特記なき限り
1. は、コンクリート撤去範囲を示す。
 2. は、コンクリート撤去範囲(鉄筋残し)を示す。

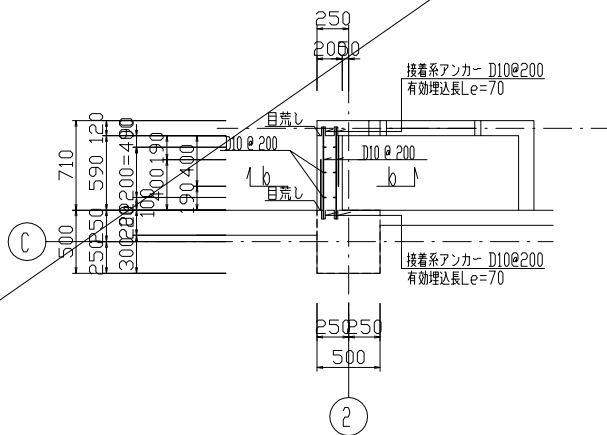
復旧範囲図



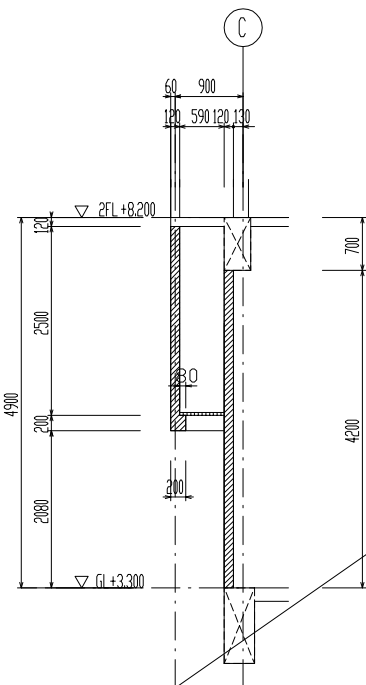
平面図 S=1/100

- 注) 特記なき限り
1. は、コンクリート復旧範囲を示す。

復旧配筋図

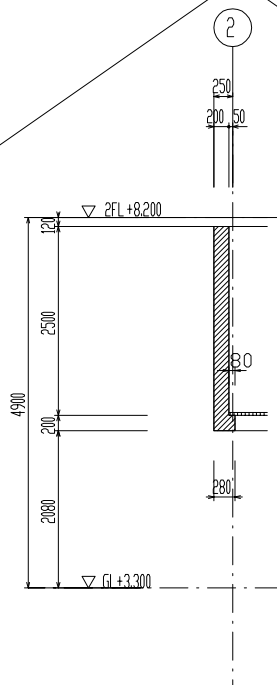


平面断面配筋図 S=1/60



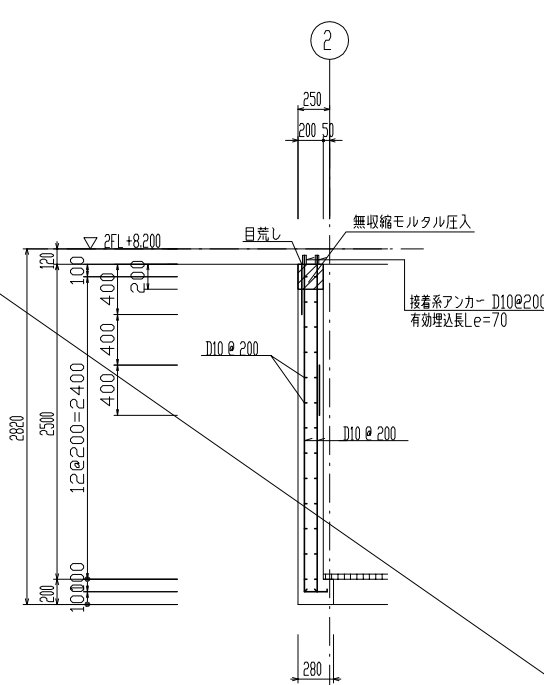
a-a断面図 S=1/100

- 注) 特記なき限り
1. は、コンクリート撤去範囲を示す。



b-b断面図 S=1/100

- 注) 特記なき限り
1. は、コンクリート復旧範囲を示す。

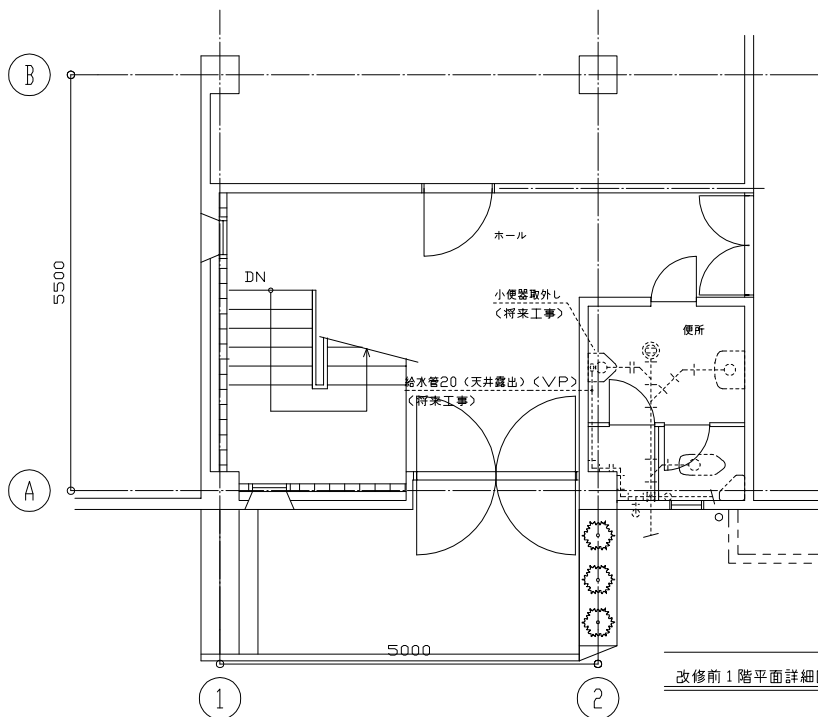
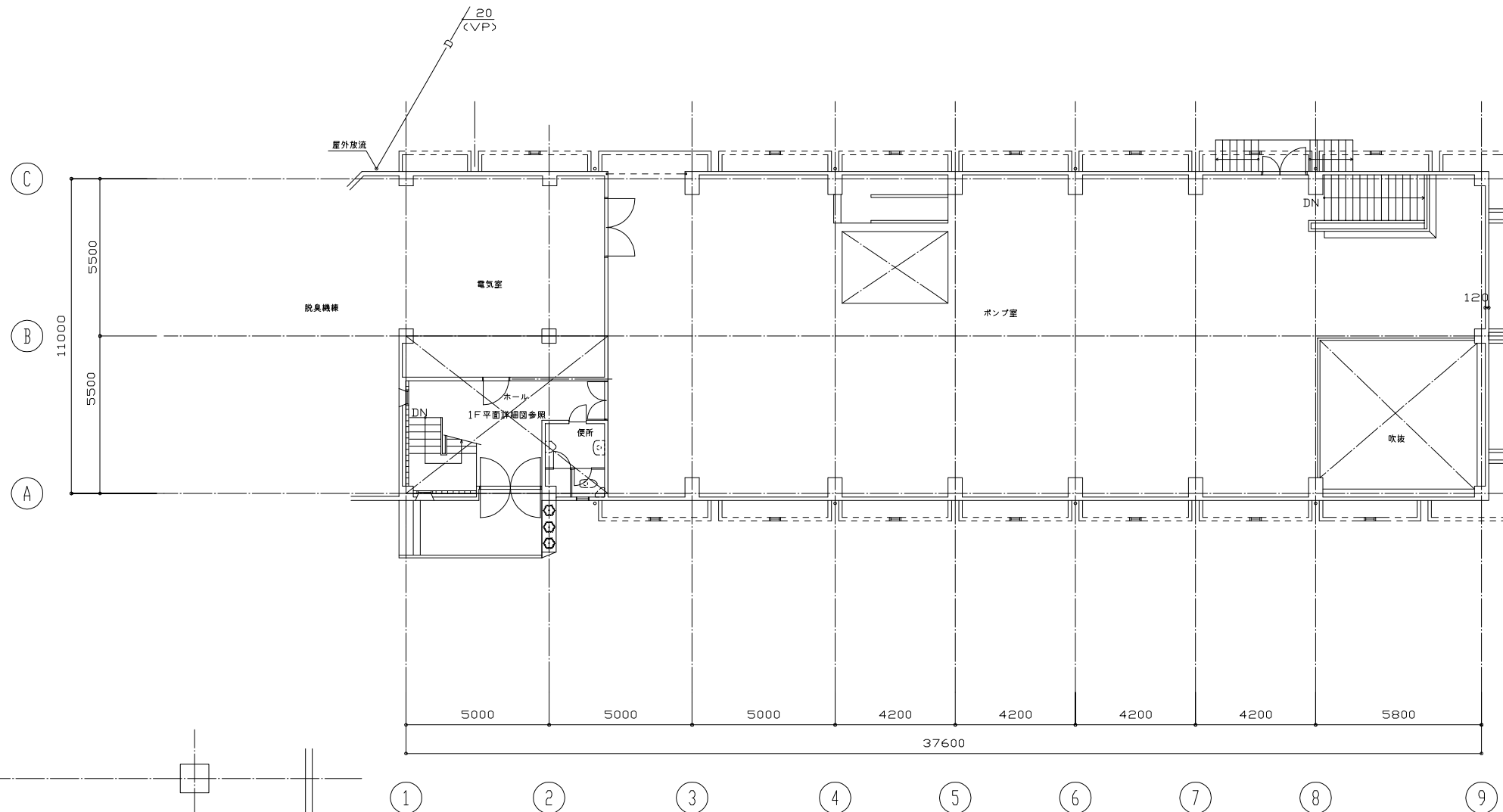


b-b断面配筋図 S=1/60

意匠図	補強箇所	凡例
階数	0-0	改修部位番号
	0	0: 改修前、N: 改修後

原図: A3	
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場(ポンプ棟)耐震補強工事
施工箇所名	津市東丸之内地内
図面の種類	改修図
縮 尺	1/100 1/60 図面番号 S-24
事業所名	津市下水道局下水道施設課

改修前



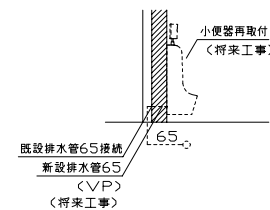
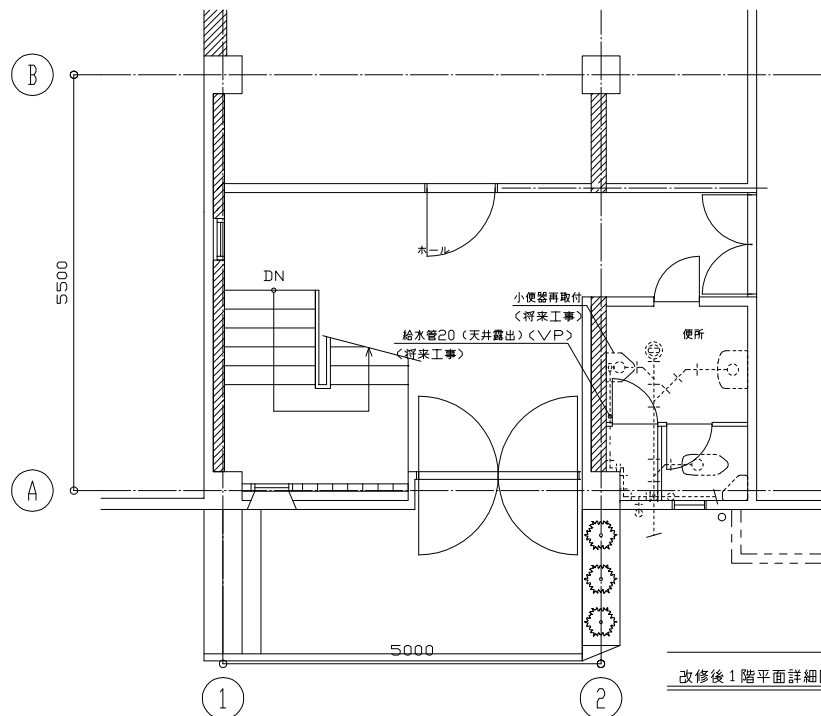
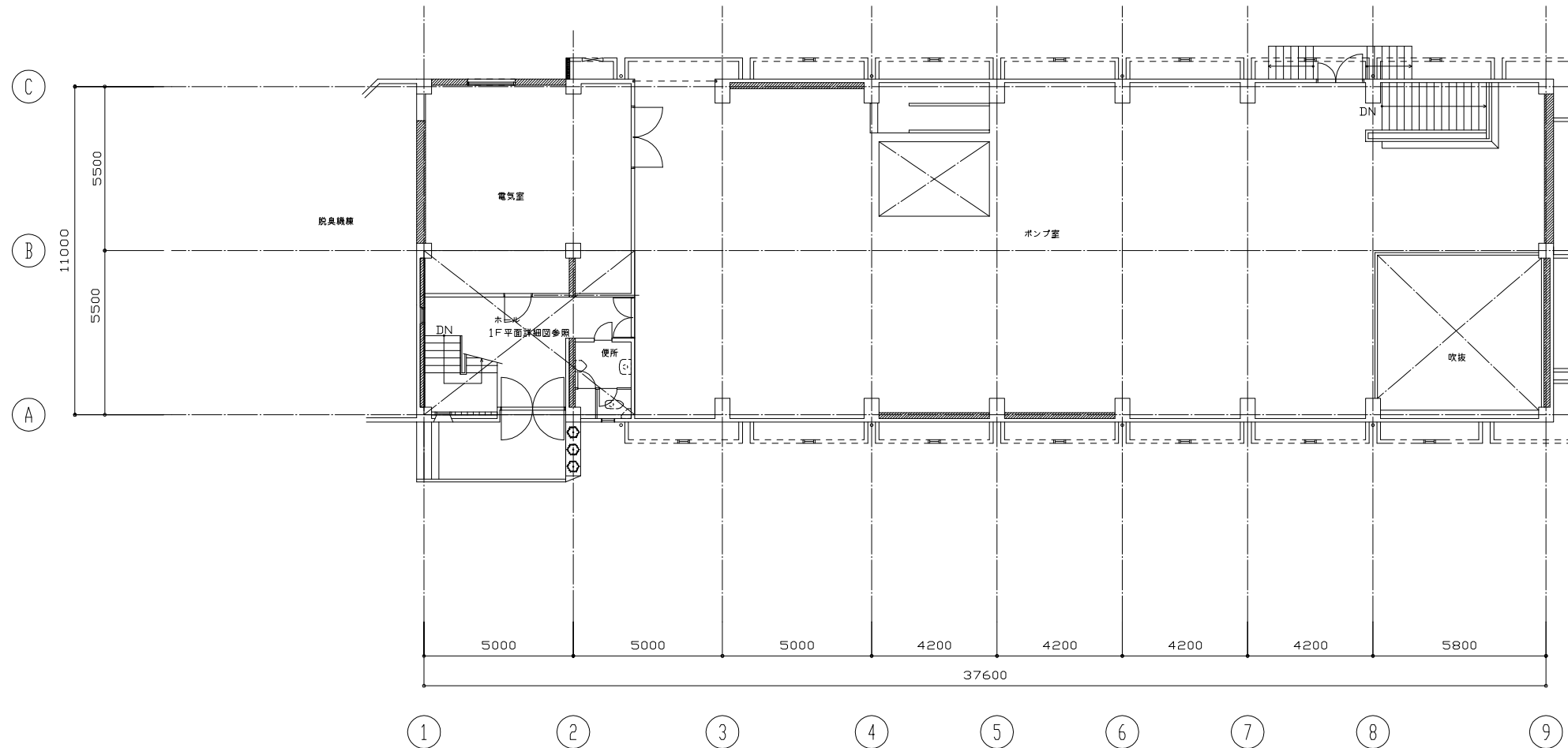
改修前1階平面図 S=1:200

改修前1階平面詳細図 S=1:100

※注記
..... 点線部分は既設配管、機器等を示す。
———— 実線部分は撤去配管、機器等を示す。

原図：A3			
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ機）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修前 1階平面図		
縮 尺	1/100 1/200	図面番号	AM-2
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

改修後



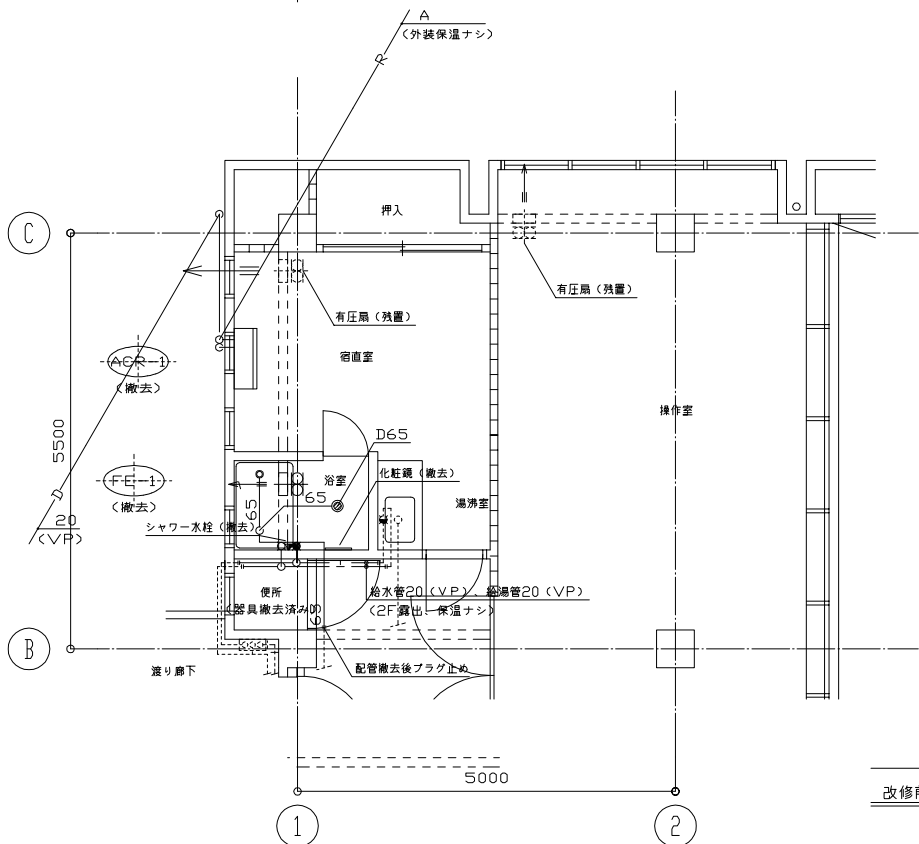
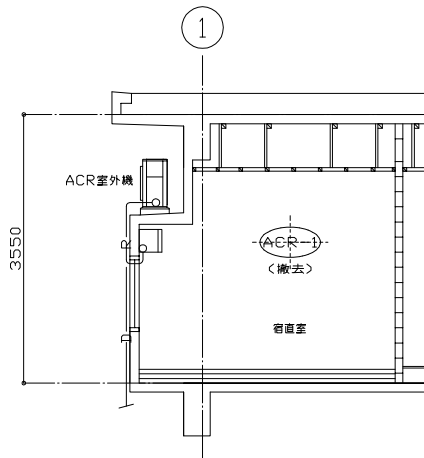
小便器取付詳細参考図 S=1:100

改修後1階平面図 S=1:200

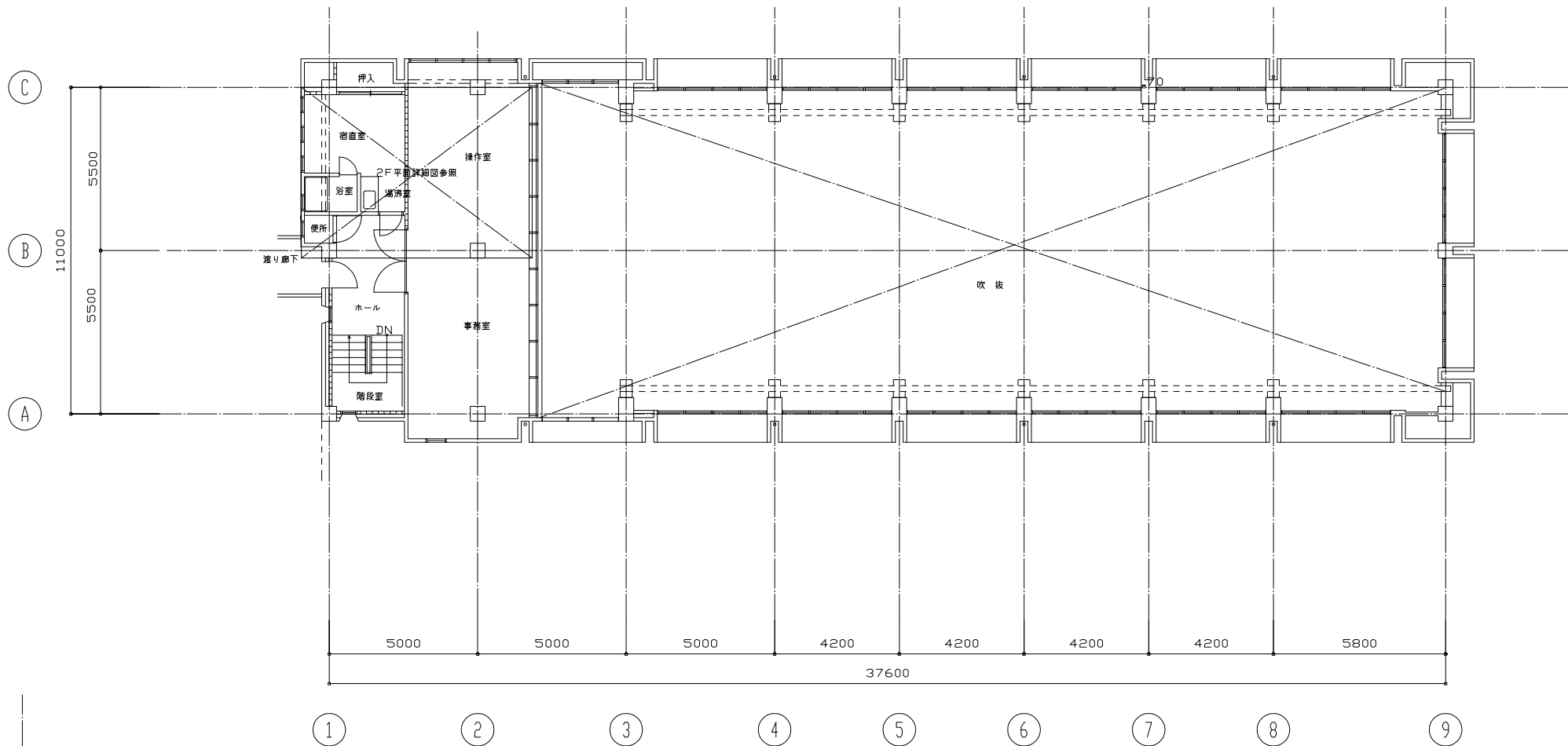
※注記
----- 点線部分は既設配管、機器等を示す。
————— 実線部分は新設配管、機器等を示す。

原図：A3			
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修後 1階平面図		
縮 尺	1/100 1/200	図面番号	AM-3
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

改修前



改修前2階平面詳細図 S=1:100



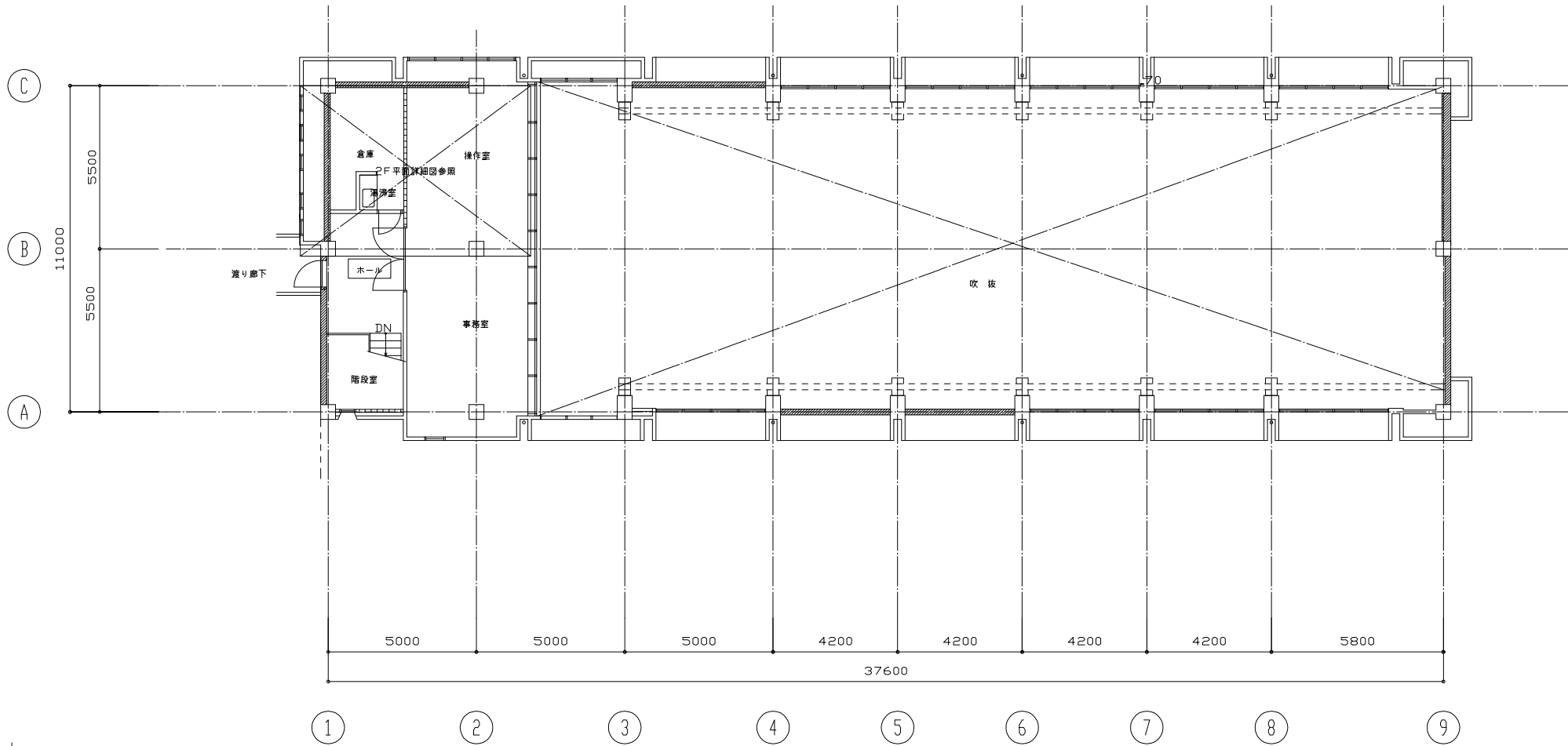
改修前2階平面図 S=1:200

記号	概要	備考
A	CU9.52φ-6.35φ,EM-EEF 2.0mm-2C	室内機-室外機 渡り線(冷媒管共巻き)

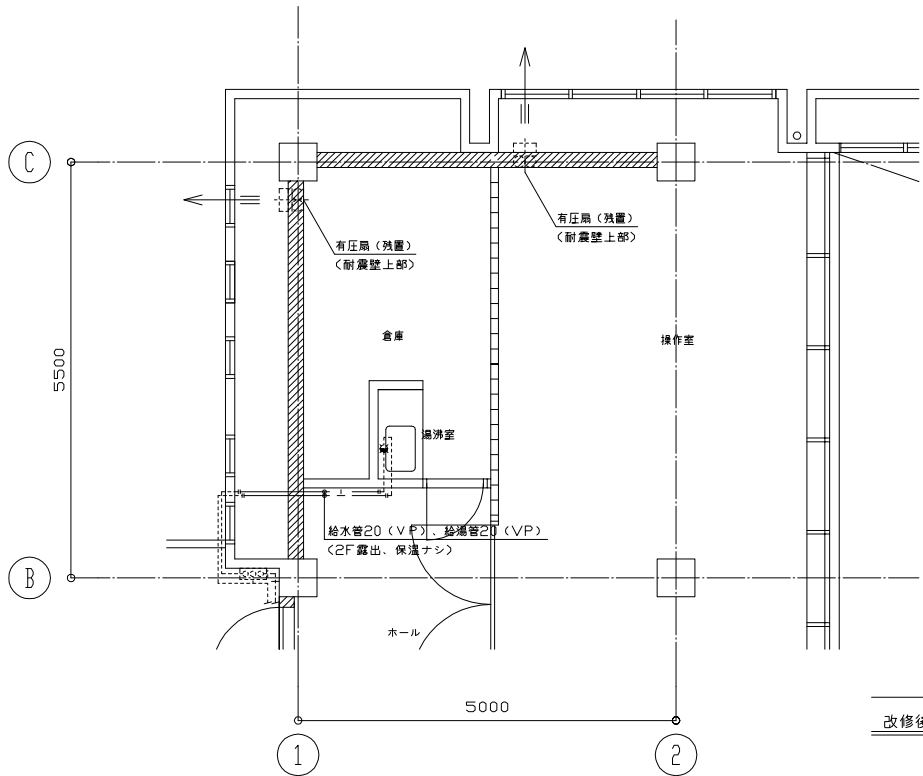
※注記
..... 点線部分は既設配管、機器等を示す。
———— 実線部分は撤去配管、機器等を示す。

原図：A3			
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場(ポンプ棟)耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修前 2階平面図		
縮 尺	1/100 1/200	図面番号	AM-4
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

改修後



改修後2階平面図 S=1:200



改修後2階平面詳細図 S=1:100

*注記
..... 点線部分は既設配管、機器等を示す。
———— 実線部分は新設配管、機器等を示す。

原図：A3			
工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	改修後 2階平面図		
縮 尺	1/100 1/200	図面番号	AM-5
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

撤去空調機器表

記号	機器名称	設置場所	機器仕様	数	外形寸法<約L×W×Hmm>	重量<約kg>	備考
ACR-1	ルームエアコン	2F 宿直室	壁掛形	1	800× 300× 300	10	
			冷房能力:2.2KW、暖房能力：2.5KW				
			他付属品共				
	同上室外機	屋外	冷房能力:2.2KW、暖房能力：2.5KW	1	800× 350× 650	30	R-410 抜き取り
			圧縮機:0.6kW、据付台、他付属品共				<充填冷媒量：2.2Kg>
FE-1	有圧換気扇（排気）	2F浴室	プラスチック製	1	300× 300× 200	5	
			25cm × 300m3/h ×30Pa				
			プラスチック製ウェザーカバー、他付属品共				

撤去衛生器具表

名称	仕様	1F	2F		数	寸法<mm>:L×W×H	重量<kg>	備考
		便所	浴室					
小便器	壁掛小便器、手動FV	1			1	650× 350× 350	35.0kg	移設再使用
<将来工事>								<将来工事>
化粧鏡	耐食性		1		1	350× 5× 450	1.5kg	
水栓類	シャワー水栓		1		1	300× 200× 150	0.5kg	
浴槽	FRP製		-		-			撤去（建築工事）

原図：A3

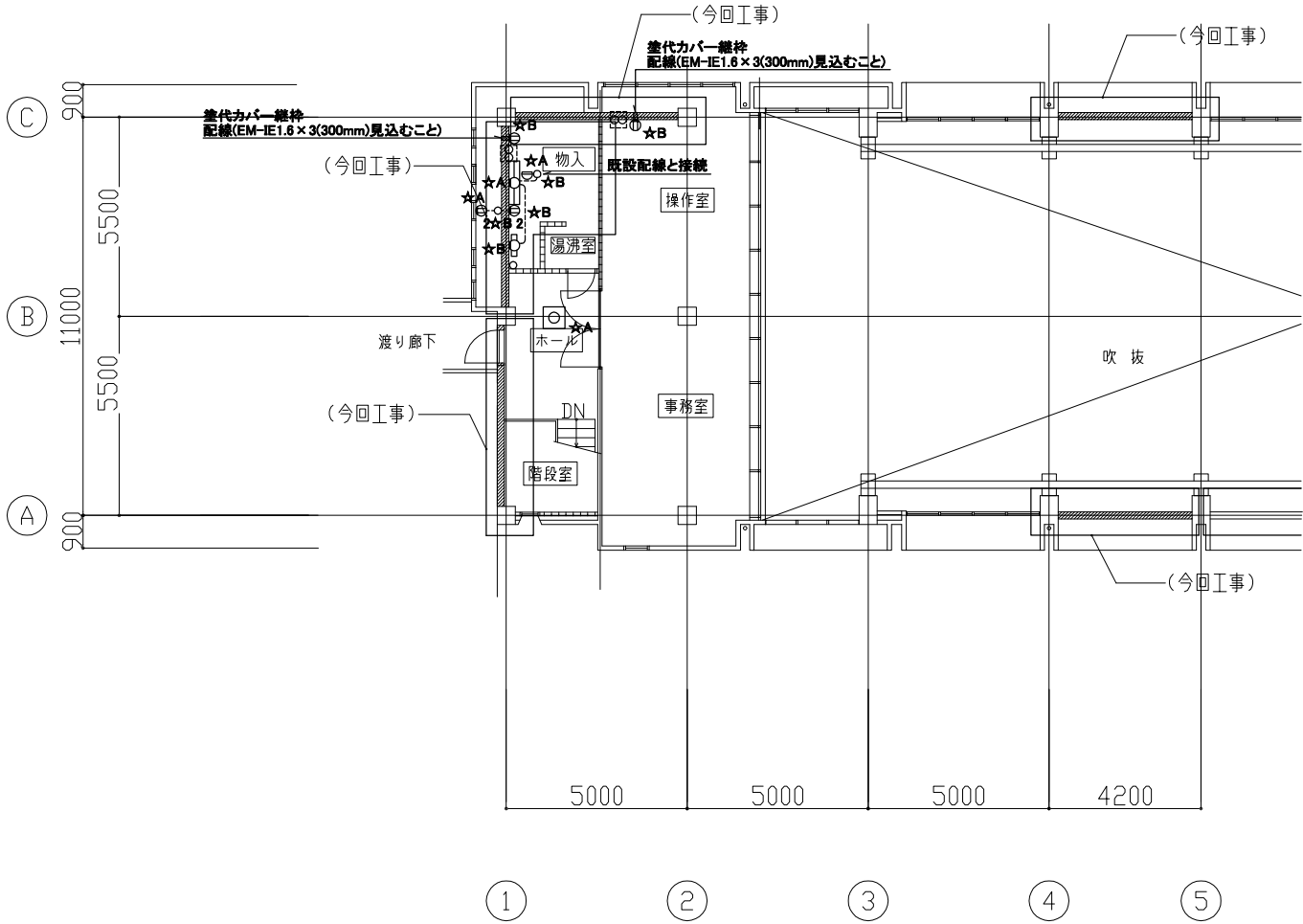
工 事 名	平成30年度下施汚ボ補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ機）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	機器撤去表		
縮 尺	-	図面番号	AM-6
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



電気設備 凡例		
記 号	名 称	摘 要
①	埋込コンセント	2P15A×1
①2	埋込コンセント	2P15A×2
⊖	差動式スポット型熱感知器	2種
⊖	差動式スポット型熱感知器	2種
○	丸形露出ボックスー方出	
⊞	換気扇	機械工事
-----	露出配管配線	

注記
1) 図中特記なき配管配線は下記とする。
----- EM-IE2.0×2 (E19) (露出)
----- H- HIV1.2×2 (E19) (露出)
2) ☆A印記載のシンボルは、取外し・再取付とする。
3) ☆B印記載のシンボルは、新設とする。

物入	
反射笠FL40W-2	× 1 取外し・再取付
LSS1-1550LM-2	× 1 新設
ホール	
埋込型FCL40W-1	× 1 取外し・再取付

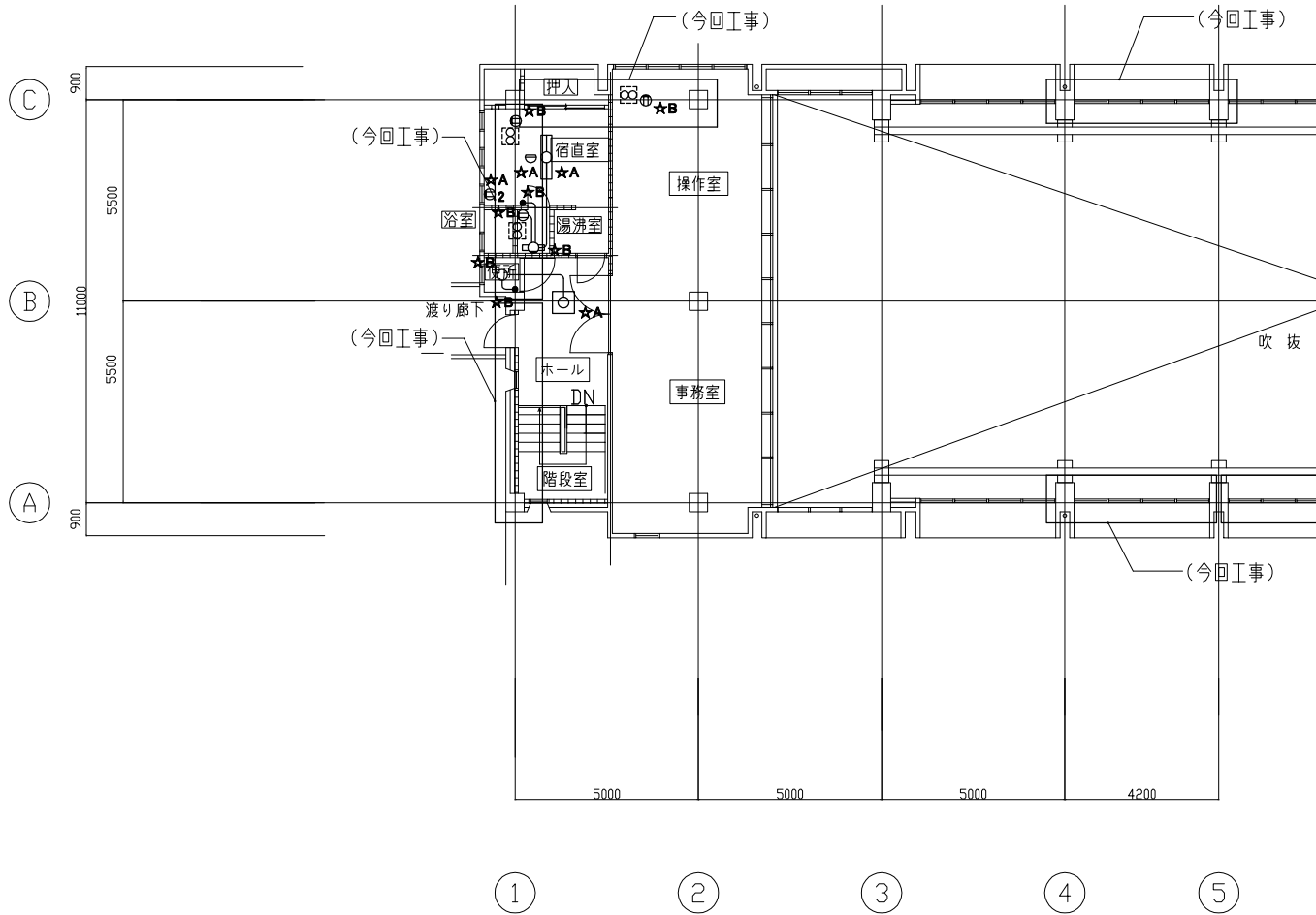


改修後 2階平面図 1/200

電気設備 凡例		
記 号	名 称	摘 要
●	埋込スイッチ	1P15A×1
①	埋込コンセント	2P15A×1
①2	埋込コンセント	2P15A×2
⊖	差動式スポット型熱感知器	2種
⊞	換気扇	機械工事
-----	露出配管配線	

注記
1) 図中特記なき配管配線は下記とする。
----- IV2.0×2 (19) (隠蔽)
----- H- HIV1.2×2 (19) (露出)
2) 打込配管は配線のみ撤去とする。
3) ☆A印記載のシンボルは、取外し・再取付とする。
4) ☆B印記載のシンボルは、撤去とする。

宿直室	
反射笠FL40W-2	× 1 取外し・再取付
浴室	
ブラケットFL20W-1	× 1 撤去
便所	
レセプタクルIL60W-1	× 1 撤去
ホール	
埋込型FCL40W-1	× 1 取外し・再取付



改修前 2階平面図 1/200

原図：A3

凡例



改修工事範囲

工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 板倉橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事		
施工箇所名	津市東丸之内地内		
図面の種類	電灯・自動火災報知設備 2階平面図		
縮 尺	1/200	図面番号	AE-2
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

特記仕様書																							
<p>耐震補強による壁新設に伴い、</p> <p>■ 雨水吸水井警報盤の再利用撤去および再据付を行う。</p> <p>雨水吸水井警報盤は、維持管理や工事に支障のない箇所に仮置きする。</p> <p>■ CVV-S 1.25-2C×1,CVV 1.25-3C×1,CVV 1.25-4C×1を再利用撤去および再据付を行う。なお、ケーブルおよび電線管は引き戻し点まで再利用撤去を行う。</p> <p>引き戻し点まで再利用撤去したケーブルは、維持管理や工事に支障のないように処置をして仮固定しておく。</p> <p>引き戻し点まで再利用撤去した電線管は、維持管理や工事に支障のない箇所に仮置きする。</p> <p>■ 雨水吸水井警報盤への電源供給を□FFにして作業を行う。</p>																							
C通り ① ～ ② 間 雨水吸水井警報盤 現況		C通り ① ～ ② 間 雨水吸水井警報盤 移設後																					
<div>原図：A3</div> <table><tr><td>工 事 名</td><td colspan="3">平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事</td></tr><tr><td>施工箇所名</td><td colspan="3">津市東丸之内地内</td></tr><tr><td>図面の種類</td><td colspan="3">雨水吸水井警報盤 撤去・再取付詳細図</td></tr><tr><td>縮 尺</td><td>1/100</td><td>図面番号</td><td>AE-3</td></tr><tr><td>事業所名</td><td colspan="3">津市下水道局下水道施設課</td></tr></table>				工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事			施工箇所名	津市東丸之内地内			図面の種類	雨水吸水井警報盤 撤去・再取付詳細図			縮 尺	1/100	図面番号	AE-3	事業所名	津市下水道局下水道施設課		
工 事 名	平成30年度下施汚水補第1号 極楽橋ポンプ場（ポンプ棟）耐震補強工事																						
施工箇所名	津市東丸之内地内																						
図面の種類	雨水吸水井警報盤 撤去・再取付詳細図																						
縮 尺	1/100	図面番号	AE-3																				
事業所名	津市下水道局下水道施設課																						